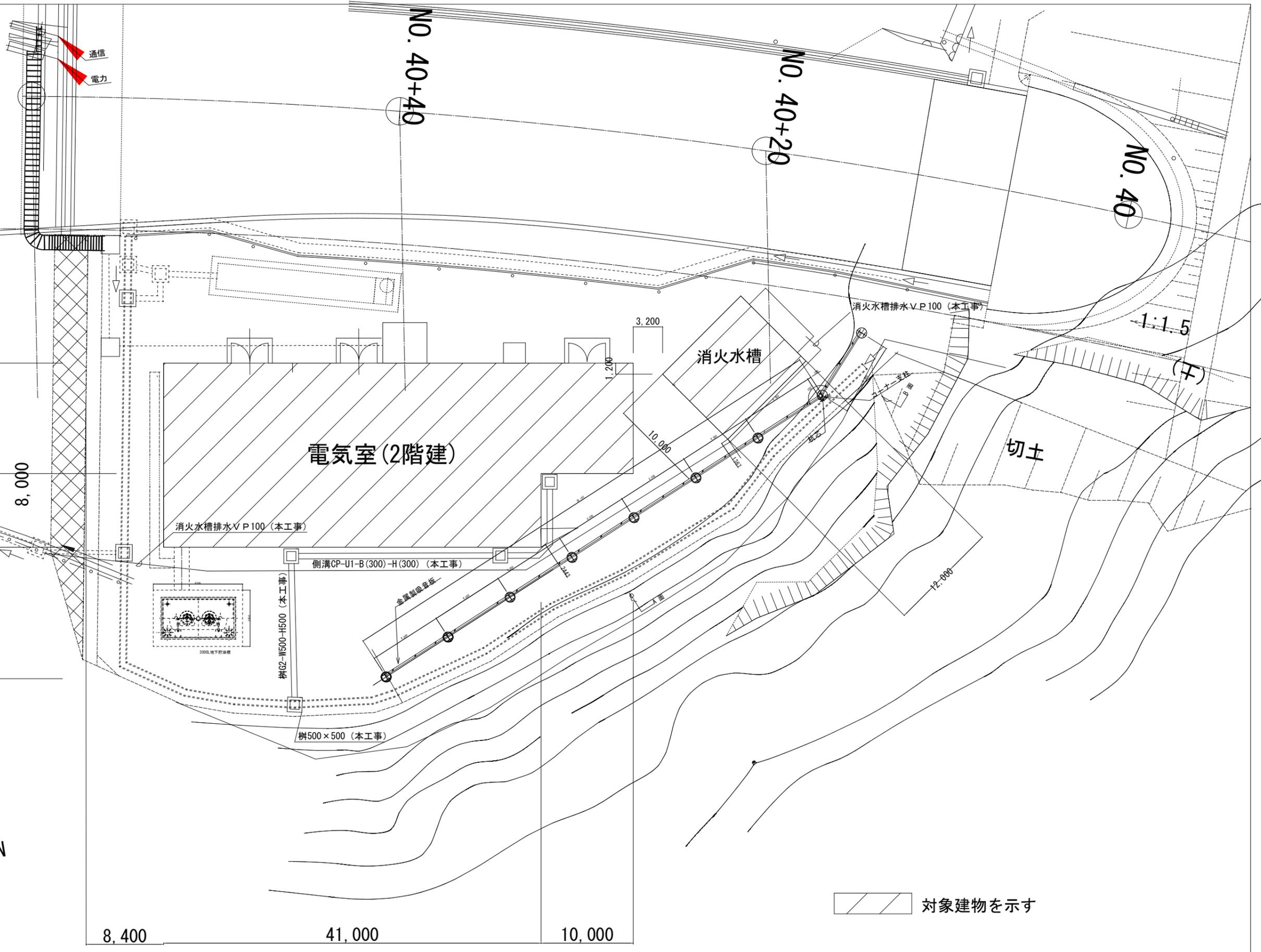


令和 6 年度			
工事名	広島高速5号線料金所等新築その他工事		
図面番号	縮尺	1:200	
図名	二葉の里 配置図・構内図	番号	A-20
路線名	高速5号線		
広島高速道路公社			



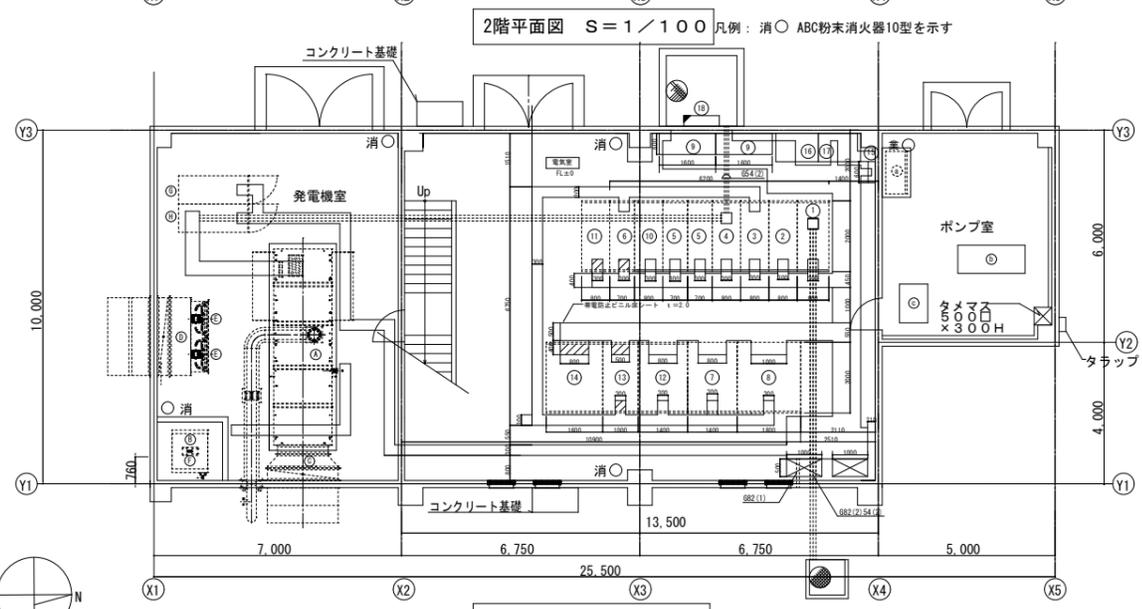
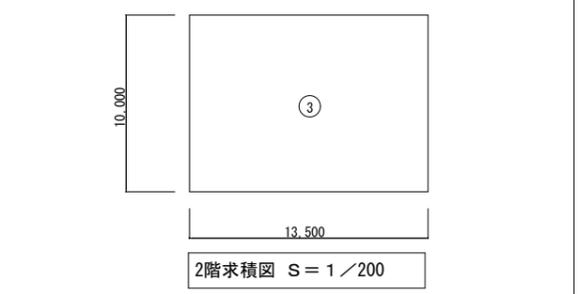
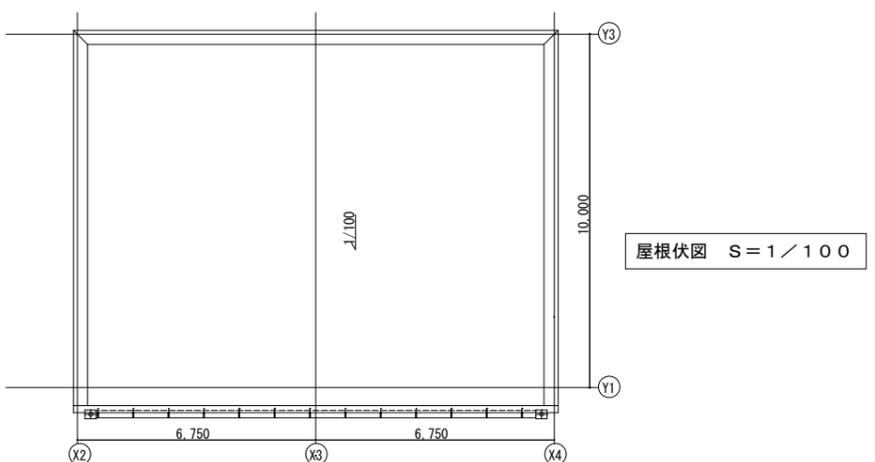
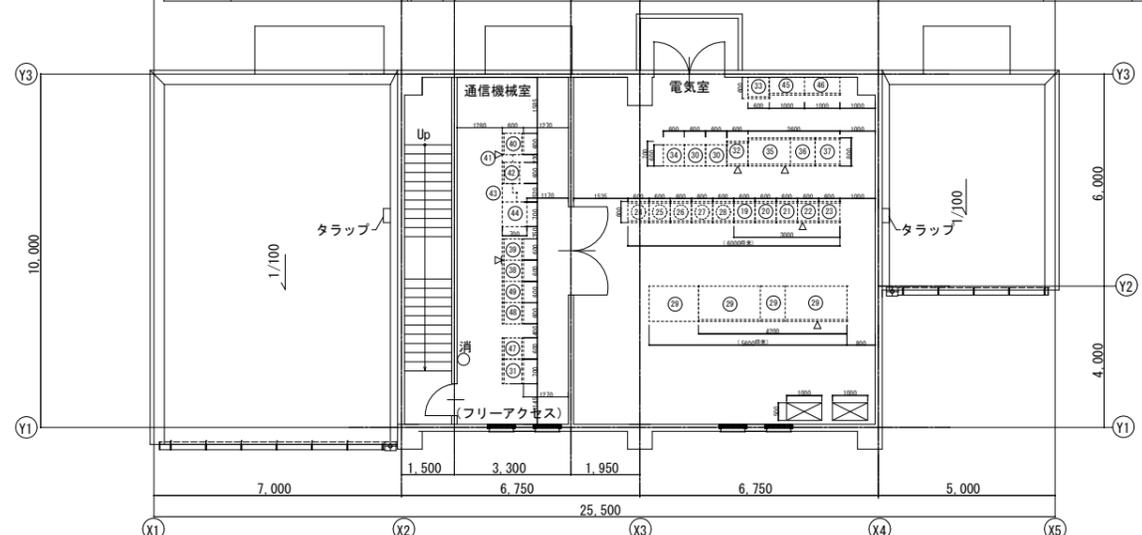
令和 6 年度			
工事名	広島高速 5 号線料金所等新築その他工事		
図面番号	縮尺	1:100, 1:200	
図名	二葉の里電気室 仕上表・平面図・求積図	番号	A-21
路線名	高速 5 号線		
広島高速道路公社			

外部仕上表 (電気室)

屋根	コンクリート直均し (水勾配1/100付) の上、屋根保護防水密着断熱工法 (A1-1) (断熱材: 押出法ポリスチレン保温板3種bスキン層付t=25) 押えコンクリート (溶接金網6φ×100×100敷込み) t=80直均し 成形伸縮目地材W=25
外壁	コンクリート打放し (B種) の上、複層塗材RE (耐候形1種) 水性反応硬化形アクリルシリコン樹脂エナメル
根廻り	コンクリート打放し (B種)
建具	搬入口: 鋼製扉 (SOP塗装 性能等級: 気密性A-3 水密性W-1)
土間 (搬入口部)	コンクリート直均し仕上

雑	・タラップ: ステンレス製タラップφ22 W=400 (既製品、H. H部) ・屋上点検用タラップ: ステンレス製 W=400 (既製品)
	・堅樫: 呼称100φが-VP (有塗装品) 2ヶ所・鉄製ルーフトレイン: 呼称100φ用2ヶ所・オーバーフロー管が-VP60φ (有塗装品)
	・ハンドホール: 鉄製マンホール蓋600φ簡易密閉型 (歩行用) 鎖付き
	・コンクリート基礎: 1300×700×150H

階数	室名	床	床高 (FL)	巾木	内 壁	外部に面する内壁	天 井	天井高	備 考
1階	電気室	下地	SL+300	ビニル巾木 H75	コンクリート打放し EP-G	コンクリート打放し EP-G	コンクリート打放し EP-G	直 天	・配線用ビット (W=300)
		仕上							
1階	発電機室	下地	SL+300	---	---	---	---	直 天	・配線用ビット (W=300) ・発電機用基礎 (FL+100) ・防油堤 (FL+500)
		仕上							
1階	ポンプ室	下地	±0	---	---	---	---	直 天	
		仕上							
2階	電気室	下地	SL+300	ビニル巾木 H75	コンクリート打放し EP-G	コンクリート打放し EP-G	コンクリート打放し EP-G	直 天	・配線用ビット (W=300)
		仕上							
2階	通信機械室	下地	SL+300	ビニル巾木 H75	コンクリート打放し EP-G	コンクリート打放し EP-G	コンクリート打放し EP-G	直 天	・配線用ビット (W=300)
		仕上							

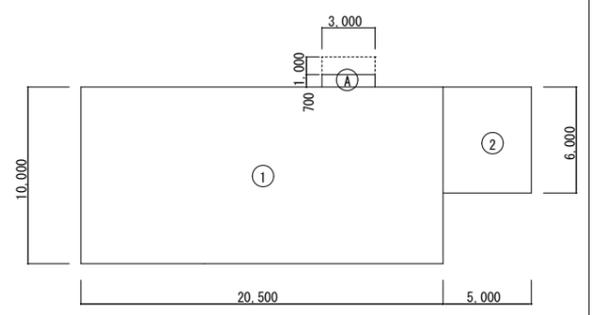


機器リスト (1階)

番号	名称	備考
①	引込盤	
②	受電盤	
③	照明変圧器一次盤	
④	発電機連絡盤	
⑤	コンデンサ盤 (1), (2)	
⑥	コンデンサ盤 (3)	
⑦	照明変圧器盤 150kVA	
⑧	所内変圧器盤 30kVA	
⑨	保守切換盤	
⑩	変圧器一次盤	
⑪	変圧器一次盤	
⑫	動力変圧器盤 75kVA	
⑬	照明変圧器盤 30kVA	
⑭	所内変圧器盤	
⑮	接地端子盤	
⑯	保守用変圧器盤200V系 75kVA	
⑰	保守用変圧器盤100V系 50kVA	
⑱	保守用接続箱	
A	ディーゼル発電装置 368kVA以上 60Hz 6600V	超低騒音型
B	燃料小出槽	950L
C	排気消音器	
D	給気消音器	
E	給気ファン	
F	燃料移送ポンプ	
G	自動給油盤	
H	発電機盤	
a	消火ポンプ制御盤	
b	消火ポンプ	
c	自動給水装置	

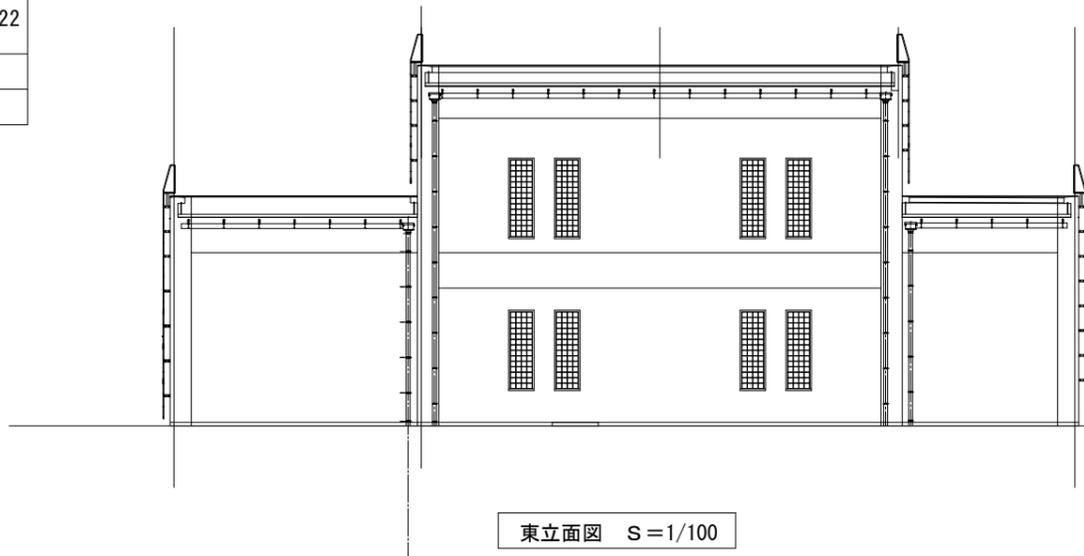
機器リスト (2階)

番号	名称	備考
⑲	照明制御盤	
⑳	照明コントロールセンタ (1)	
㉑	照明コントロールセンタ (2)	
㉒	照明コントロールセンタ (3)	
㉓	照明コントロールセンタ (4)	
㉔	照明制御盤	
㉕	照明コントロールセンタ (1)	
㉖	照明コントロールセンタ (2)	
㉗	照明コントロールセンタ (3)	
㉘	照明コントロールセンタ (4)	
㉙	無停電電源装置 20kVA	将来: 30kVA
㉚	換気コントロールセンタ	
㉛	監視制御盤 (情報板)	
㉜	計測盤	
㉝	洗濯警報計測盤	
㉞	排煙用換気制御盤	
㉟	防災受信盤	
㊱	遠端子局	
㊲	遠端子局	
㊳	AM送受信架	
㊴	F送受信架	
㊵	警報用無線架	
㊶	消防用無線架 (260MHz帯)	
㊷	共用器架	
㊸	管理用無線架	
㊹	直流電源装置 (管理用無線用)	
㊺	MDF	
㊻	MDF	
㊼	通信機器收容架	
㊽	拡声放送架	
㊾	拡声放送架	

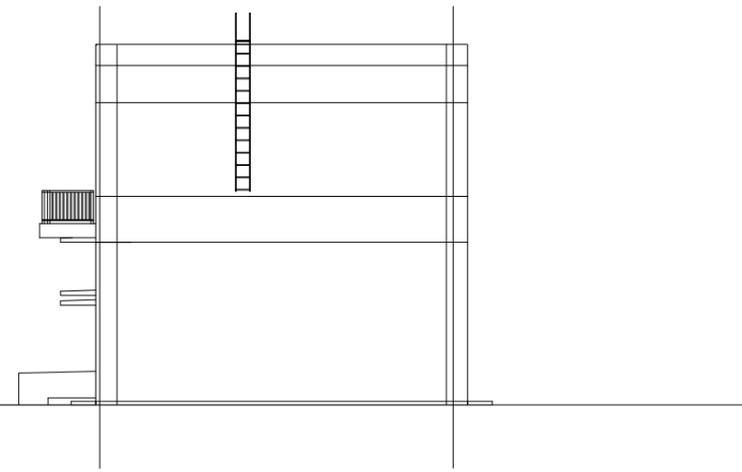


1階床面積	①	20.5 × 10 = 205	235.00m ²
	②	5.0 × 6.0 = 30	
2階床面積	③	13.5 × 10 = 135	135.00m ²
	④		
延床面積			370.00m ²
建築面積	A	3.5 × 0.7 = 2.45	237.45m ²
	①+②+A	205+30+2.45=237.45	

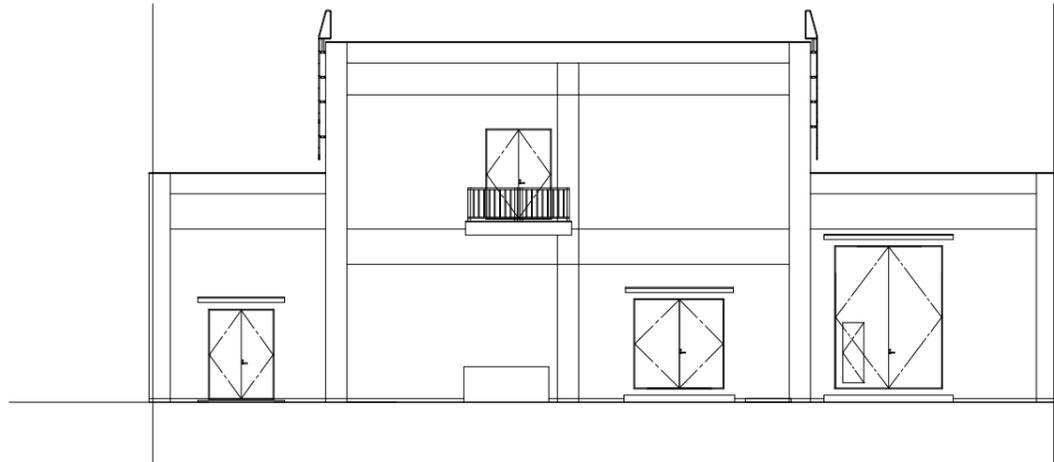
令和 6 年度			
工事名	広島高速 5 号線料金所等新築その他工事		
図面番号	縮尺	1:100	
図名	二葉の里電気室 立面図・断面図	番号	A-22
路線名	高速 5 号線		
広島高速道路公社			



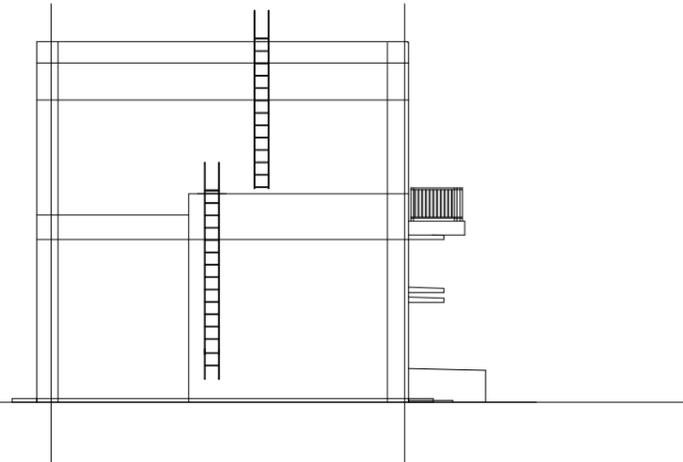
東立面図 S=1/100



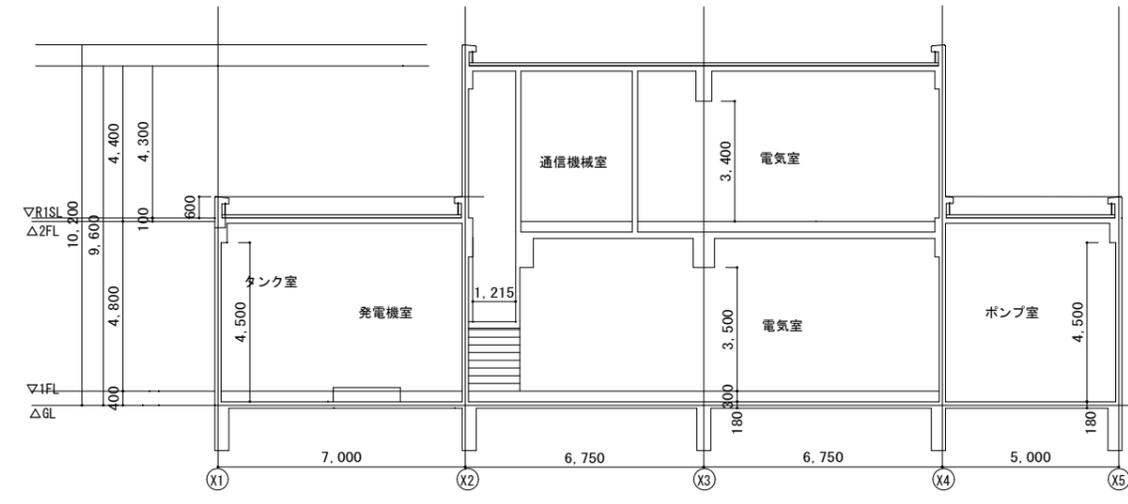
南立面図 S=1/100



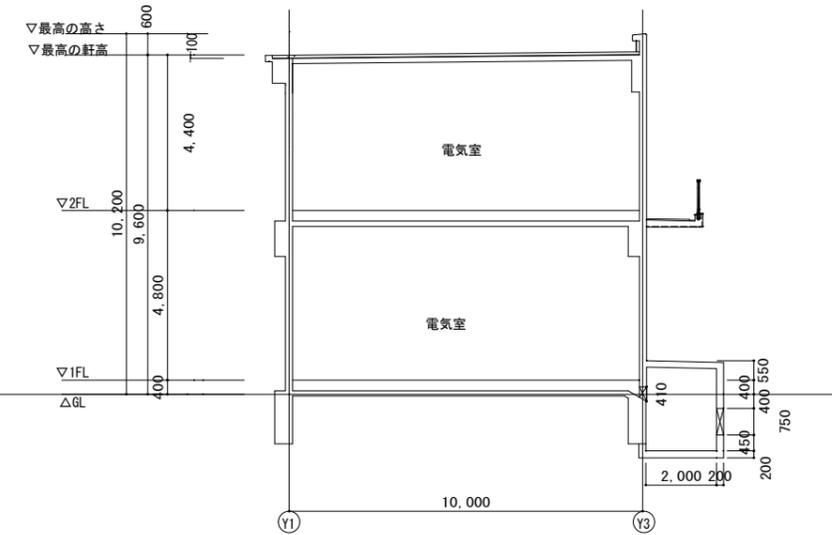
西立面図 S=1/100



北立面図 S=1/100



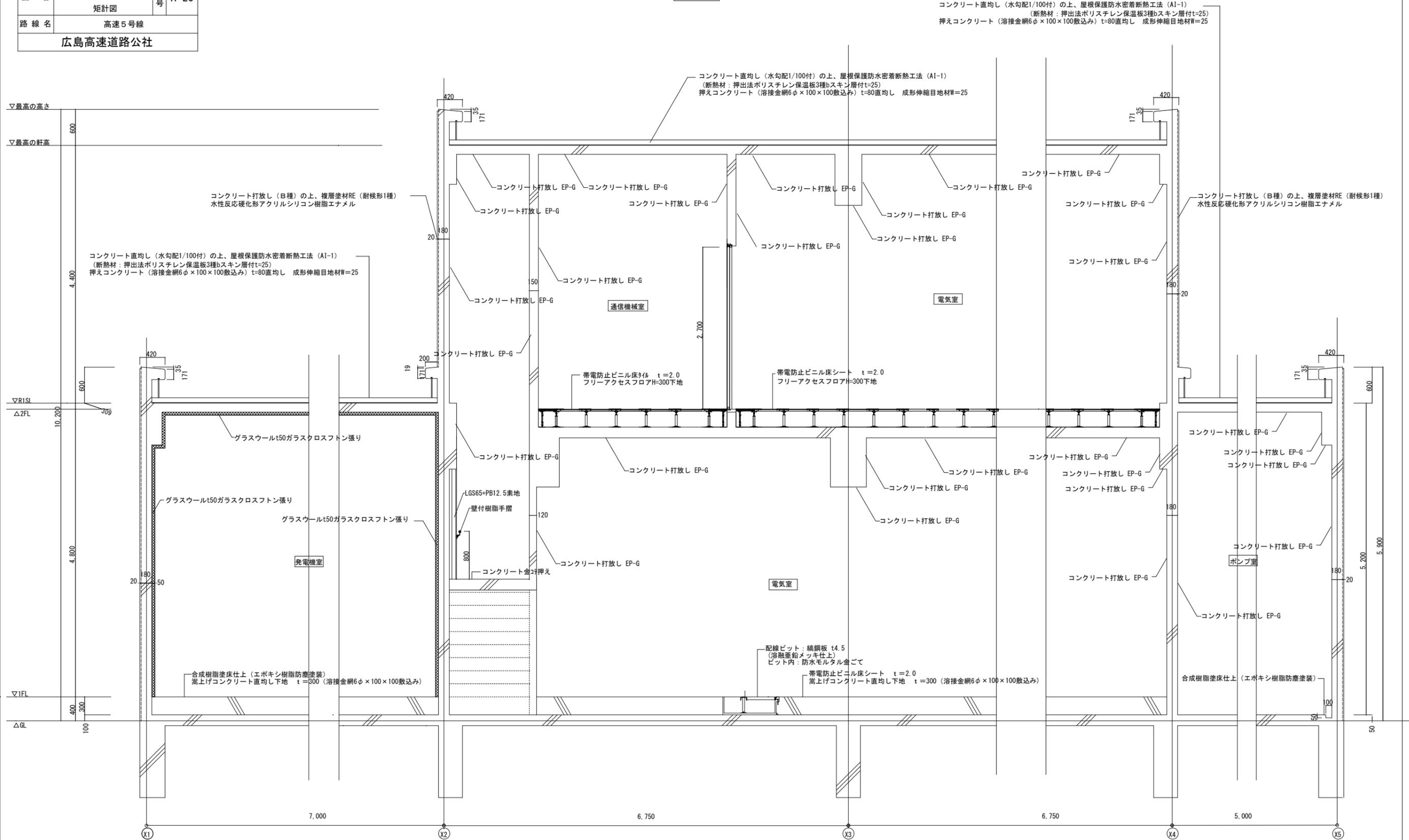
A-A断面図 S=1/100



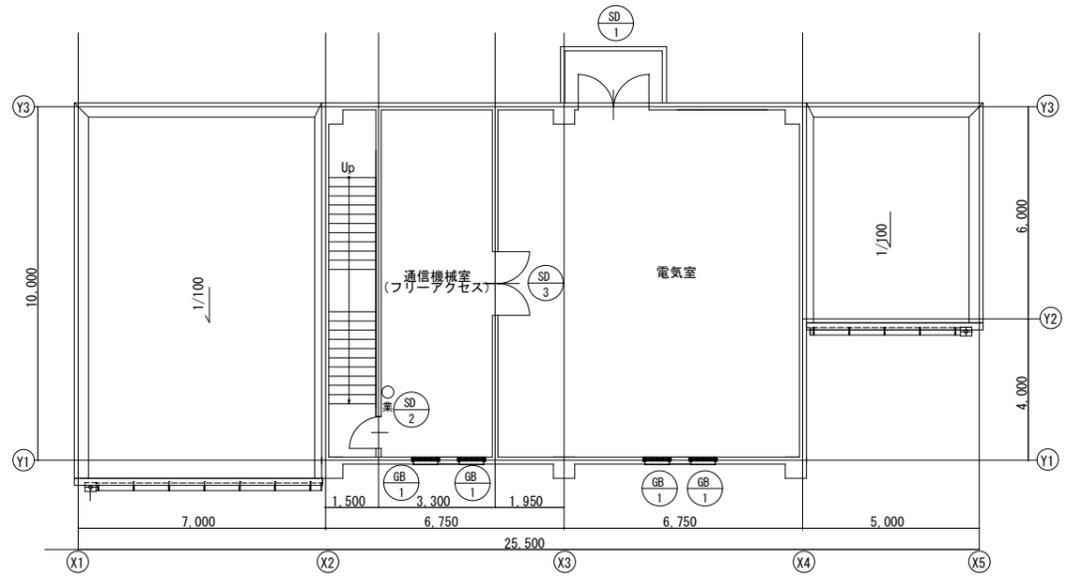
B-B断面図 S=1/100

令和 6 年度			
工事名	広島高速 5 号線料金所等新築その他工事		
図面番号	縮尺	1:30	
図名	二葉の里電気室 矩計図	番号	A-23
路線名	高速 5 号線		
広島高速道路公社			

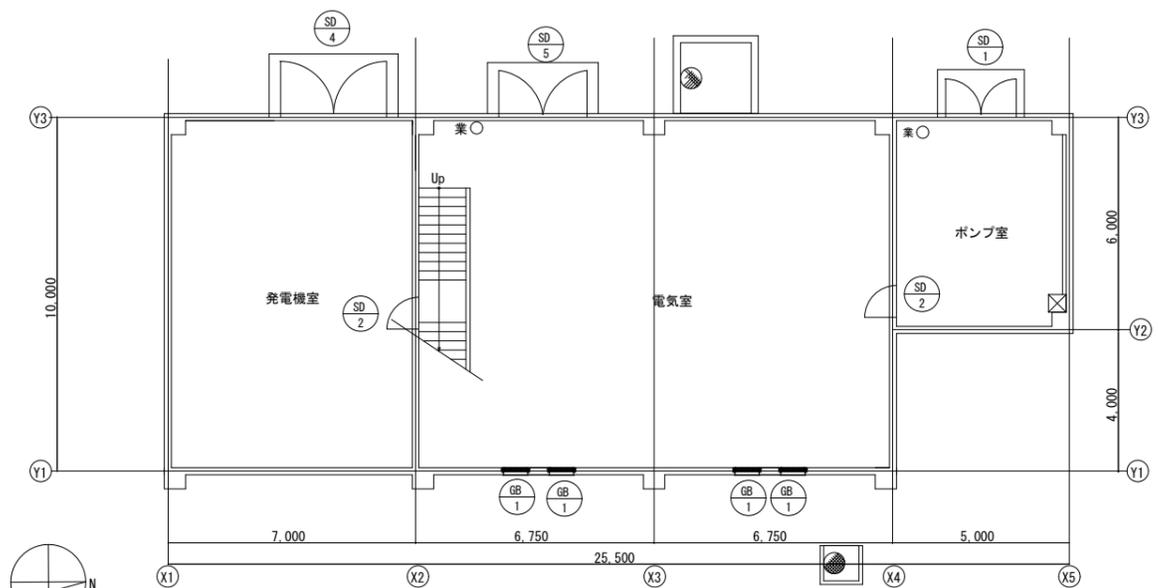
矩計図 S=1/30



令和 6 年度			
工事名	広島高速5号線料金所等新築その他工事		
図面番号	縮尺	1:100	
図名	二葉の里電気室 建具符号図・建具表	番号	A-24
路線名	高速5号線		
広島高速道路公社			



2階建具符号図 S=1/100

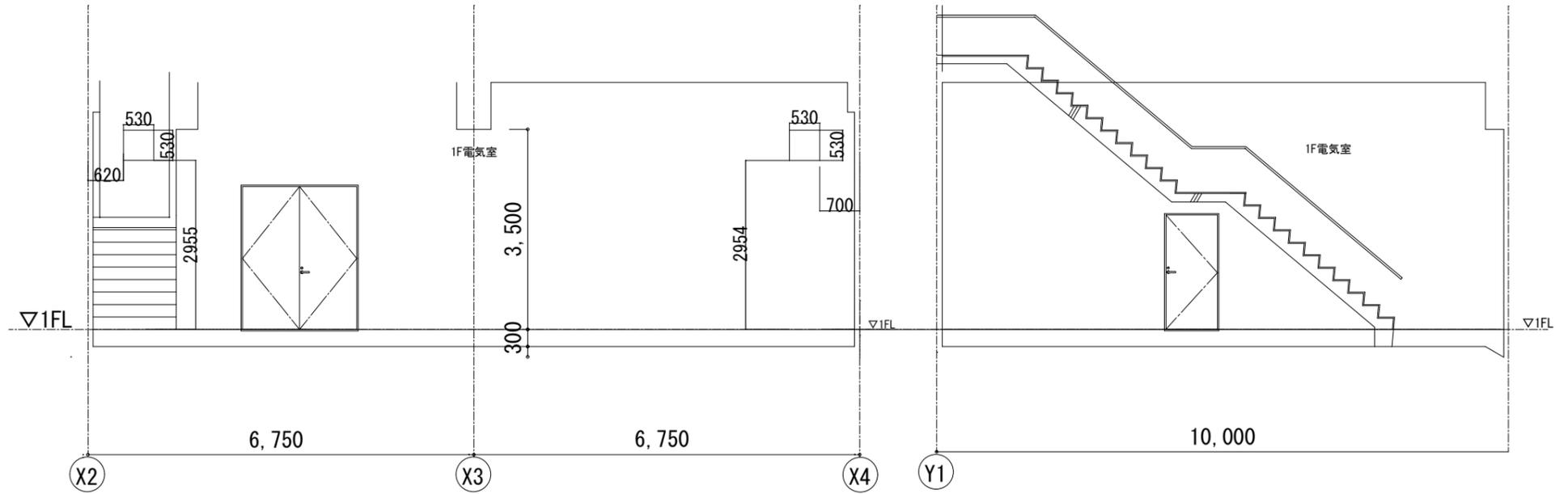


1階建具符号図 S=1/100

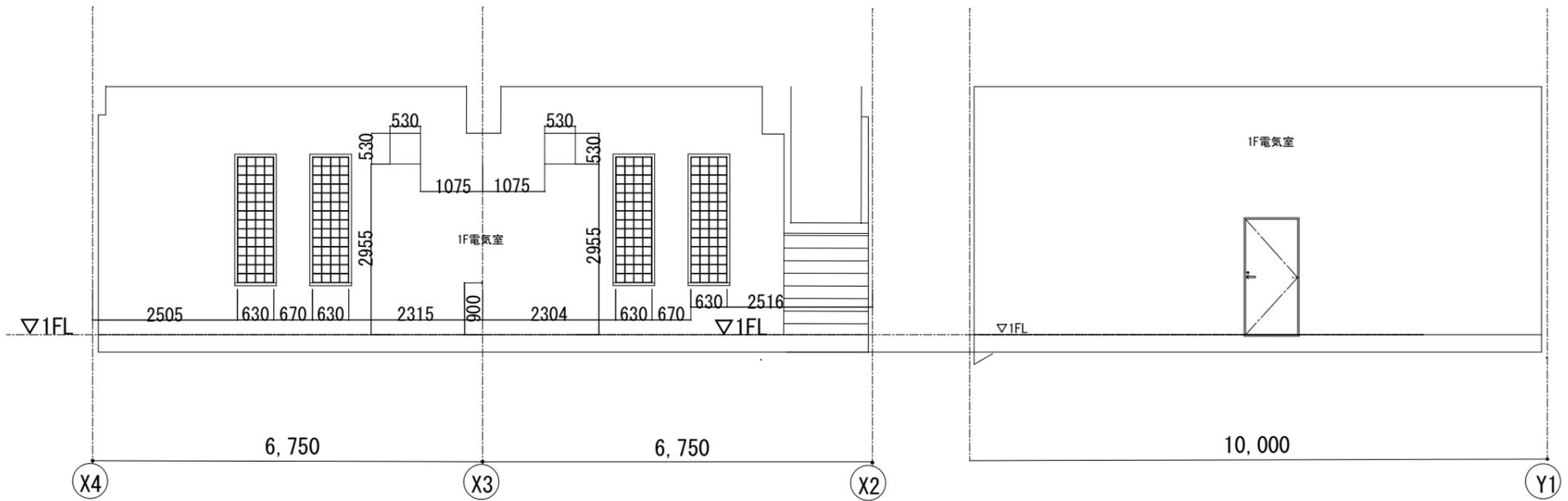


建具表				S=1/50	
符号名称	両開きフラッシュドア	片開きフラッシュドア	片開きフラッシュドア		
位置個数	電気室・通信機械室	3	電気室・通信機械室	3	電気室・通信機械室
形状寸法					
材質	扉:スチール t=1.6 枠:スチール t=2.3	扉:スチール t=1.6 枠:スチール t=2.3	扉:スチール t=1.6 枠:スチール t=2.3		
仕上	SOP塗装	SOP塗装	SOP塗装		
金物	シリンダ-本締めり錠・レバーハンドル・丁番・戸当り(ワカ付) フランス落し・ドアチェック	シリンダ-本締めり錠・レバーハンドル・丁番 戸当り(ワカ付)・ドアチェック	シリンダ-本締めり錠・レバーハンドル・丁番 戸当り(ワカ付)・ドアチェック		
硝子					
見込	枠:100 扉:40	枠:80 扉:40	枠:100 扉:40		
備考	番摺:SUS304 t=2.0	番摺:SUS304 t=2.0	番摺:SUS304 t=2.0		
符号名称	両開きフラッシュドア	両開きフラッシュドア	ガラスブロック窓		
位置個数	発電機室	1	電気室	1	電気室・通信機械室
形状寸法					
材質	扉:スチール t=1.6 枠:スチール t=2.3	扉:スチール t=1.6 枠:スチール t=2.3	アルミ		
仕上	SOP塗装	SOP塗装	アルマイト		
金物	シリンダ-本締めり錠・レバーハンドル・丁番・戸当り(ワカ付) フランス落し・ドアチェック	シリンダ-本締めり錠・レバーハンドル・丁番・戸当り(ワカ付) フランス落し・ドアチェック	付属金物1式		
硝子			ガラスブロック145*145*95		
見込	枠:100 扉:40	枠:100 扉:40	枠:100		
備考	番摺:SUS304 t=2.0	番摺:SUS304 t=2.0	アルミ顔縁		
符号名称					
位置個数					
形状寸法					
材質					
仕上					
金物					
硝子					
見込					
備考					

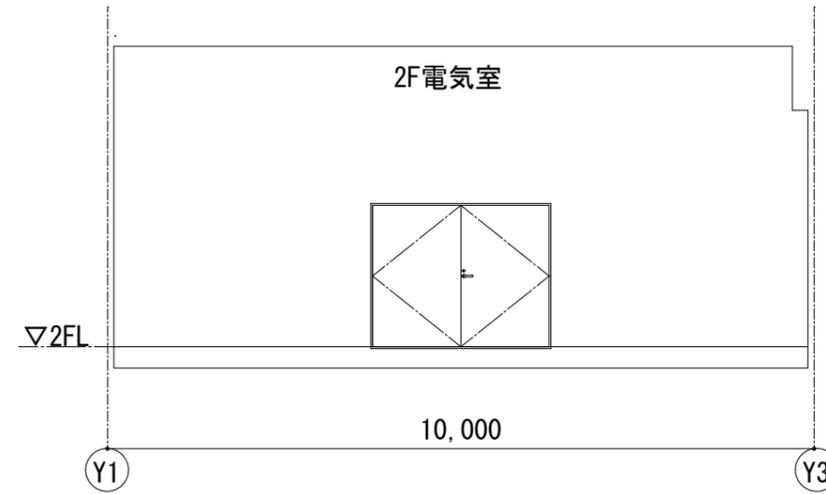
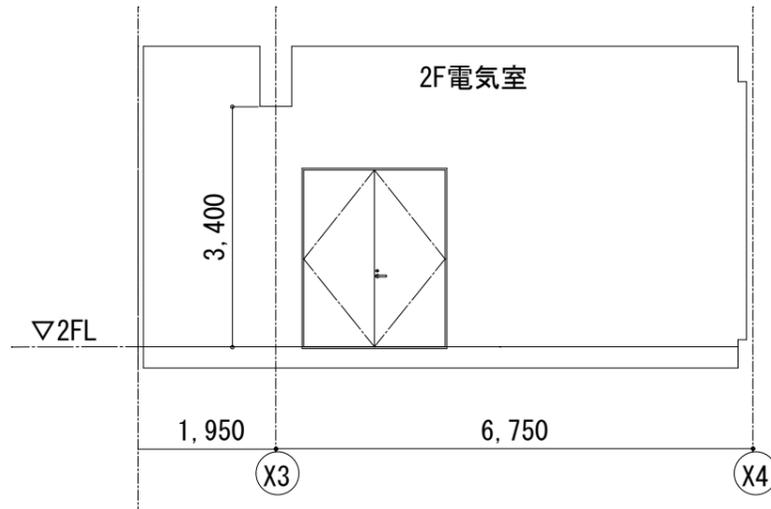
令和 6 年度			
工事名	広島高速 5号線料金所等新築その他工事		
図面番号	縮尺	1:50	
図名	二葉の里電気室 1F電気室 展開図	番号	A-25
路線名	高速 5号線		
広島高速道路公社			



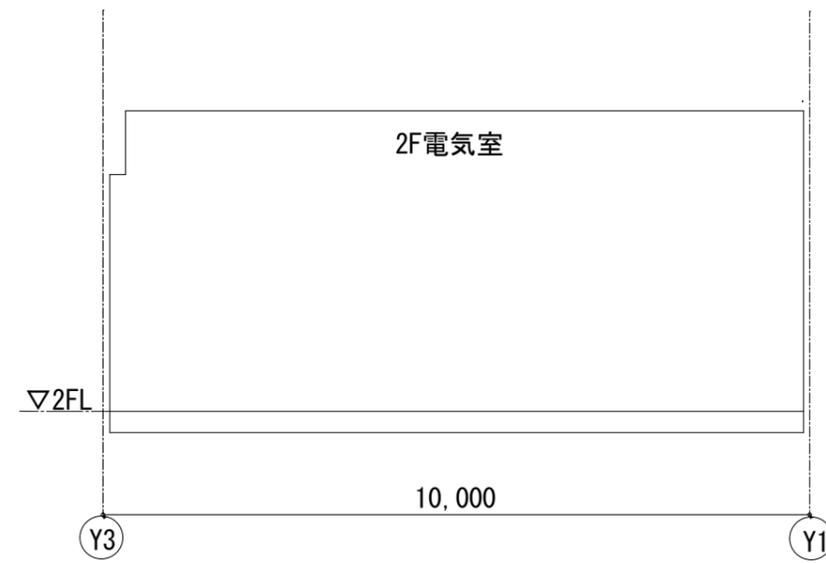
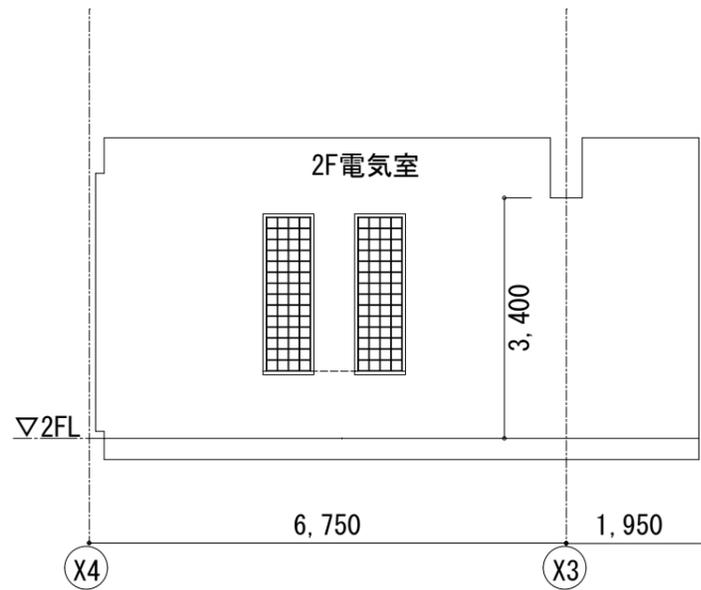
室名	1F電気室
床	帯電防止ビニル床シート t=2.0
巾木	ビニル巾木 H=75
壁	コンクリート打放し EP-G
天井	コンクリート打放し EP-G
備考	配線ビットW=300
柱型	コンクリート打放し EP-G



令和 6 年度			
工事名	広島高速 5号線料金所等新築その他工事		
図面番号	縮尺	1:50	
図名	二葉の里電気室 2F電気室 展開図	番号	A-26
路線名	高速 5号線		
広島高速道路公社			



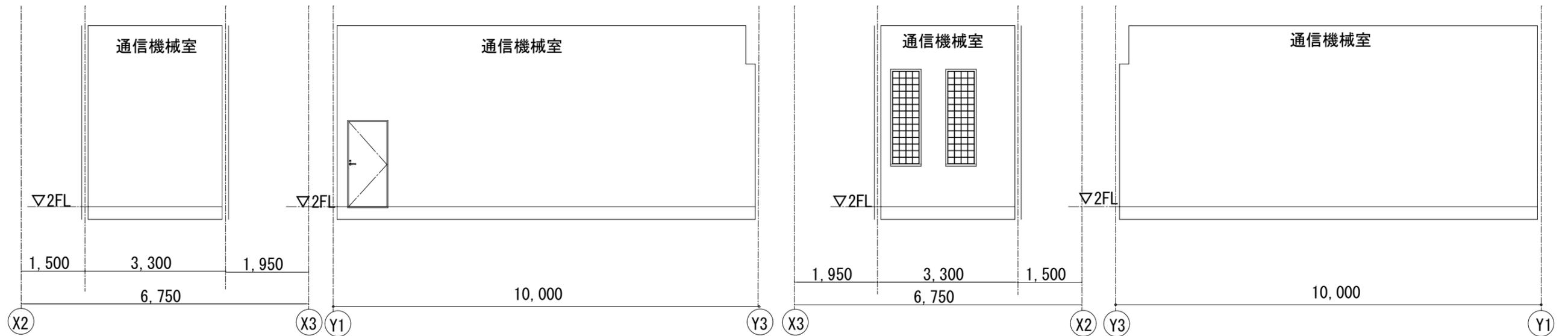
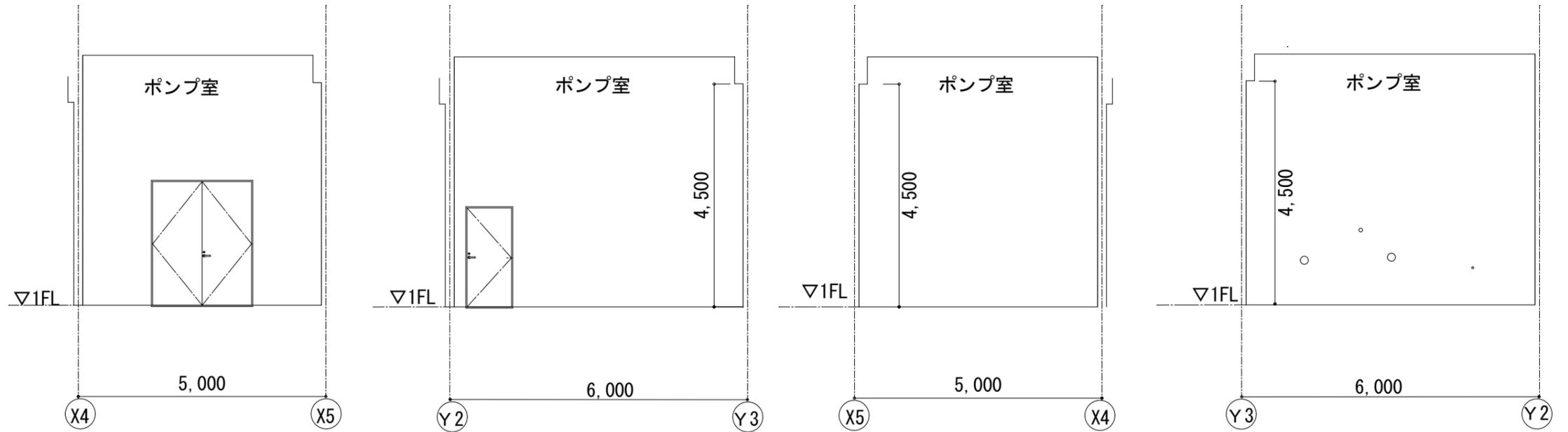
室名	2F電気室
床	帯電防止ビニル床シート t=2.0
巾木	ビニル巾木 H=75
壁	コンクリート打放し EP-G
天井	コンクリート打放し EP-G
備考	配線ピットW=300
柱型	コンクリート打放し EP-G



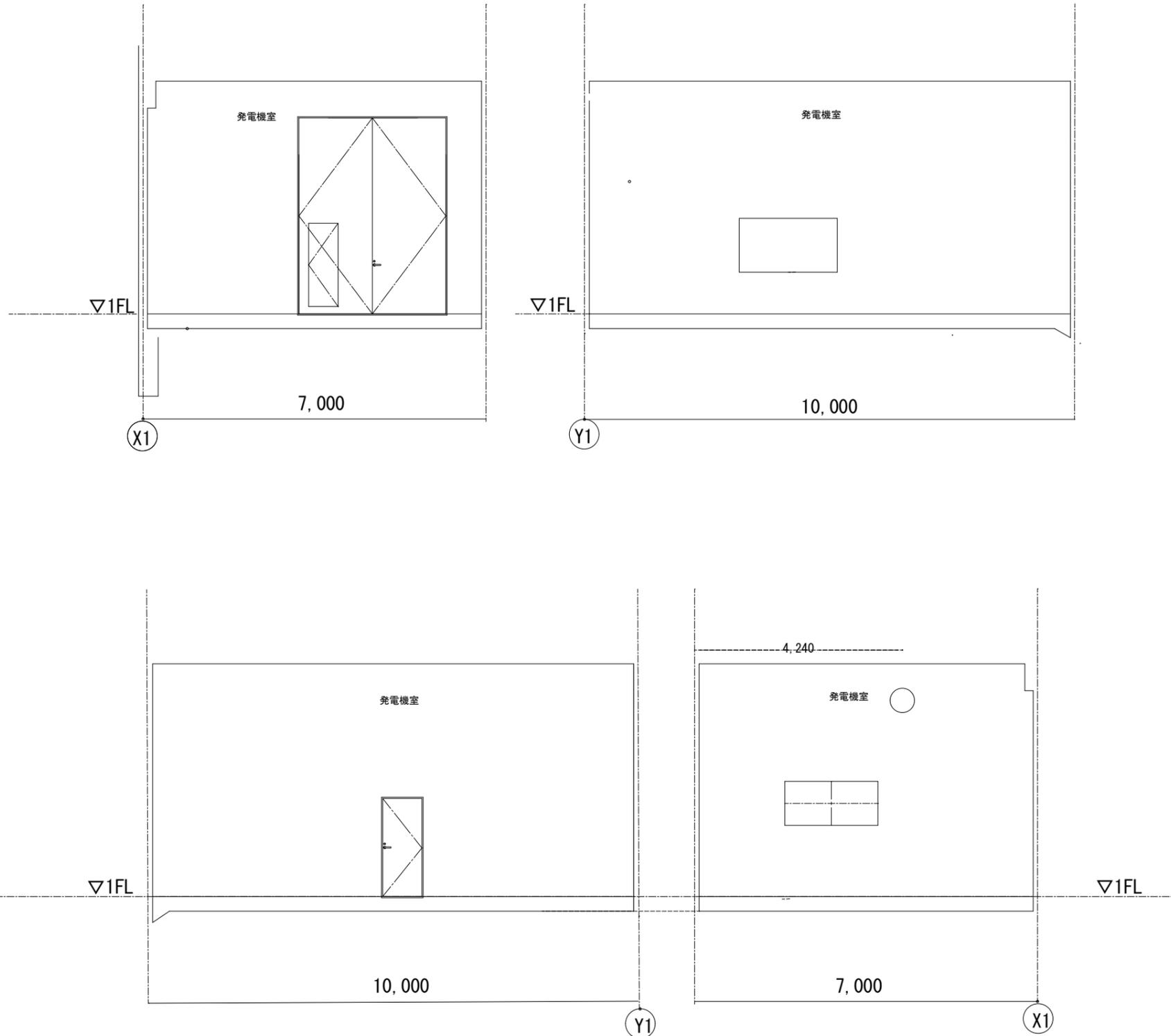
令和 6 年度			
工事名	広島高速 5号線料金所等新築その他工事		
図面番号	縮尺	1:50	
図名	二葉の里電気室 ポンプ室・通信機械室 展開図	番号	A-27
路線名	高速5号線		
広島高速道路公社			

室名	ポンプ室
床	合成樹脂塗床仕上げ (エポキシ樹脂防塵塗装)
巾木	—
壁	コンクリート打放し EP-G
天井	コンクリート打放し EP-G
備考	
柱型	コンクリート打放し EP-G

室名	通信機械室
床	帯電防止ビニル床タイル t=2.0
巾木	ビニル巾木 H=75
壁	コンクリート打放し EP-G
天井	コンクリート打放し EP-G
備考	フリーアクセスフロアH=300
柱型	コンクリート打放し EP-G

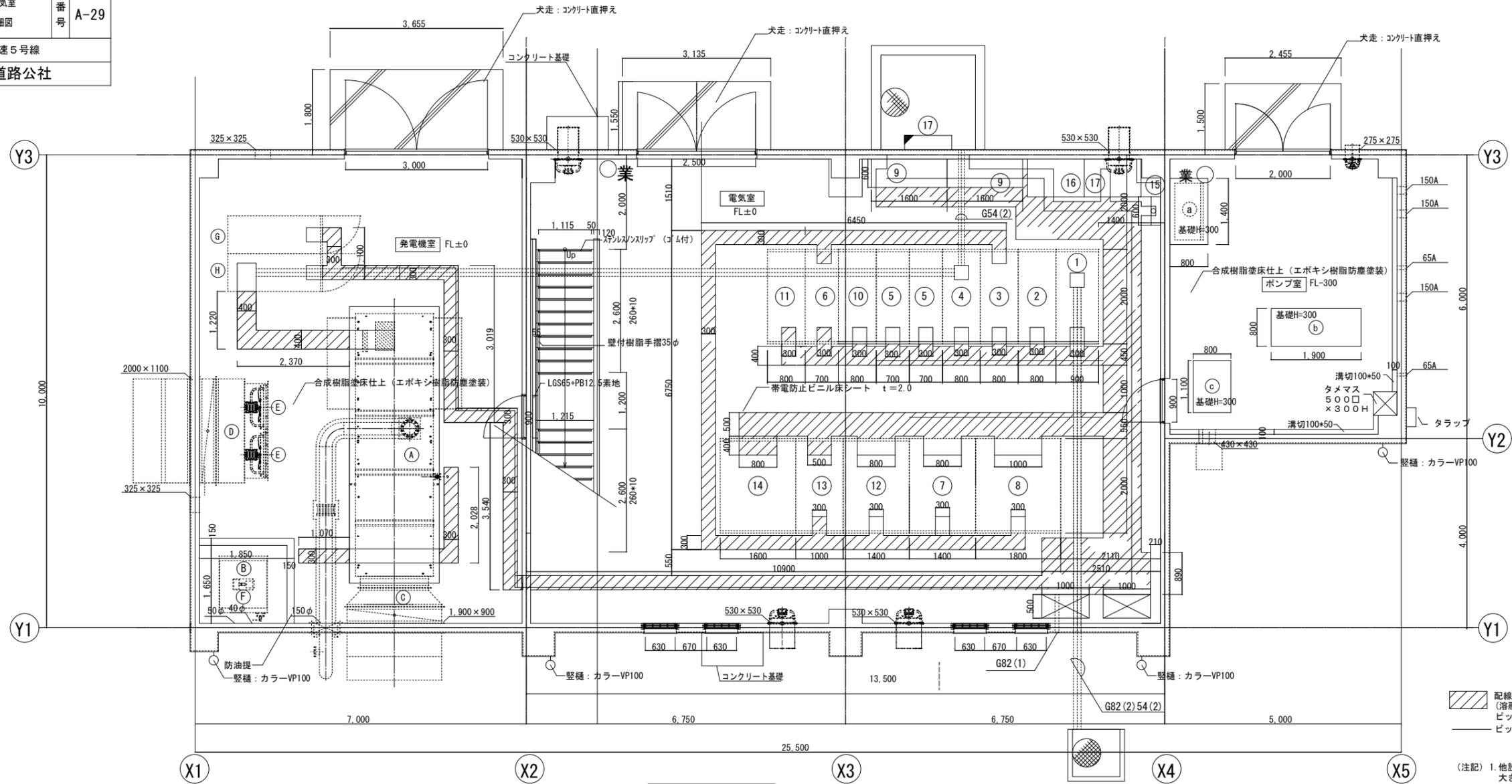


令和 6 年度			
工事名	広島高速 5号線料金所等新築その他工事		
図面番号	縮尺	1:50	
図名	二葉の里電気室 発電機室 展開図	番号	A-28
路線名	高速 5号線		
広島高速道路公社			



室名	発電機室
床	合成樹脂塗床仕上げ (エポキシ樹脂防塵塗装)
巾木	ビニル巾木 H=75
壁	グラスウールt60ガラスクロスフトン張り
天井	グラスウールt60ガラスクロスフトン張り
備考	配線ピットW=300、発電機用基礎+100、防油堤+500
柱型	グラスウールt60ガラスクロスフトン張り

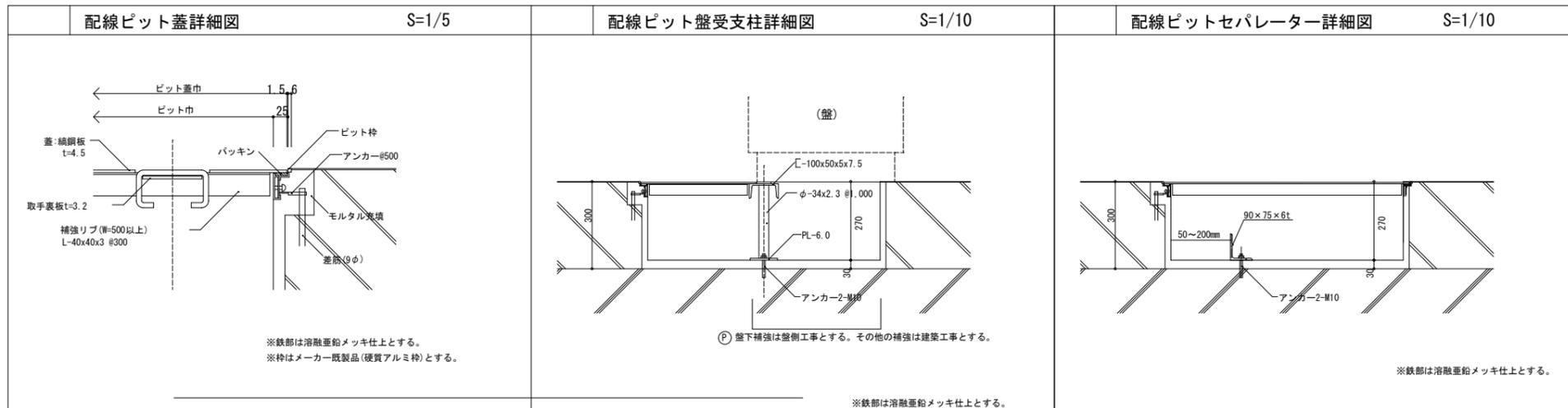
令和 6 年度			
工事名	広島高速 5 号線料金所等新築その他工事		
図面番号	縮尺	1:100	
図名	二葉の里電気室 1階平面詳細図	番号	A-29
路線名	高速 5 号線		
広島高速道路公社			



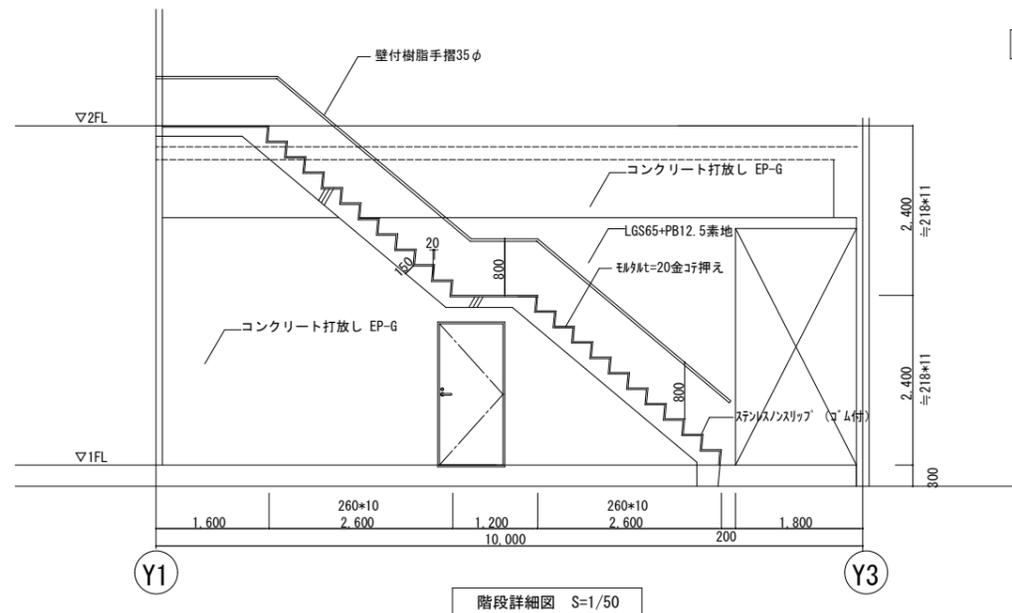
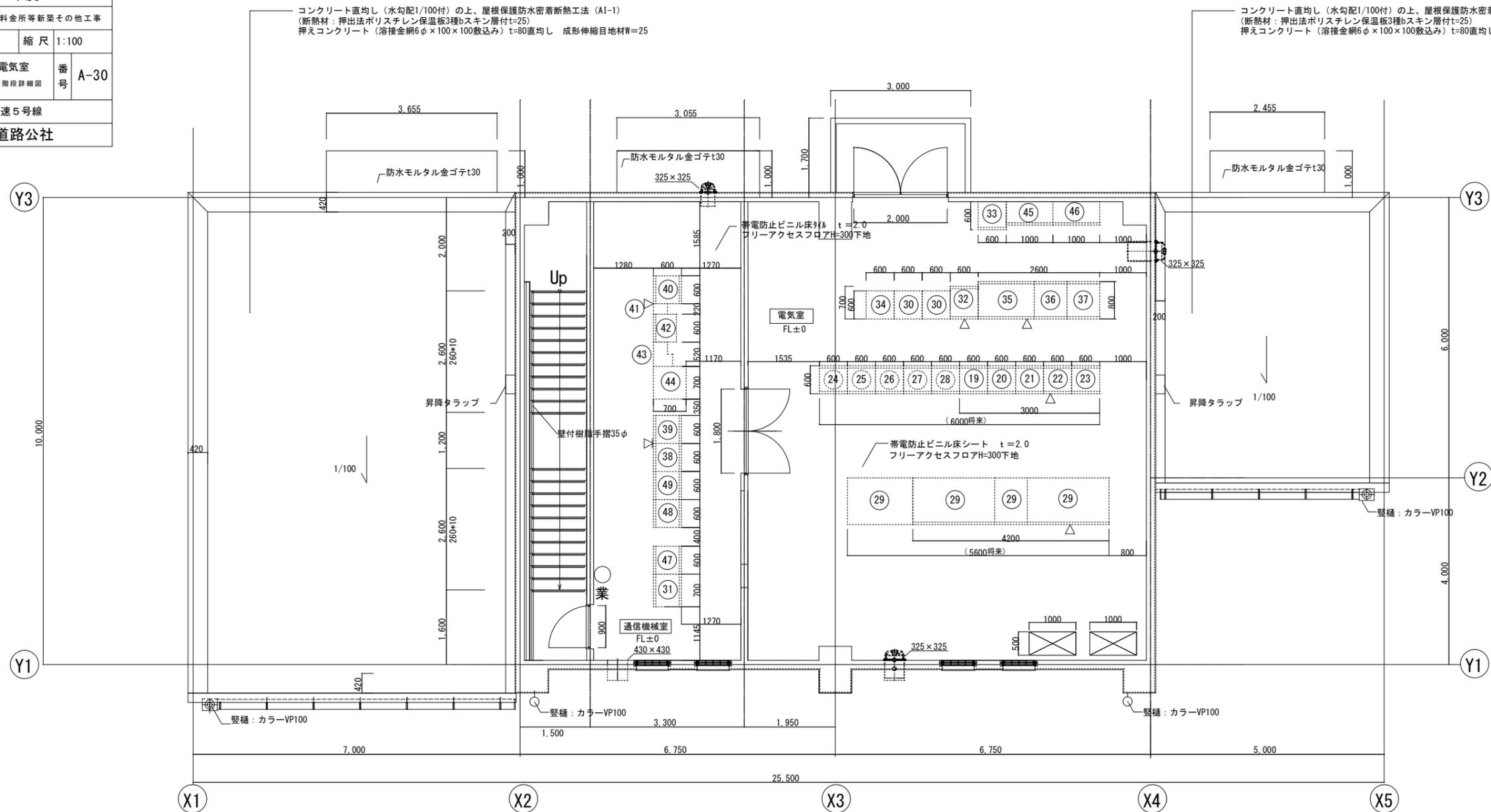
1階平面詳細図 S=1/50

配線ピット蓋: 鋼鋼板 t4.5 (溶融亜鉛メッキ仕上HDZ35)
 ピット内: 防水モルタル塗て
 ピット内セパレーター

(注記) 1. 他設備工事業者と調整し、配線ピット蓋の大きさ等を決めること。



令和 6 年度			
工事名	広島高速5号線料金所等新築その他工事		
図面番号	縮尺	1:100	
図名	二葉の里電気室 2階平面詳細図・階段詳細図	番号	A-30
路線名	高速5号線		
広島高速道路公社			

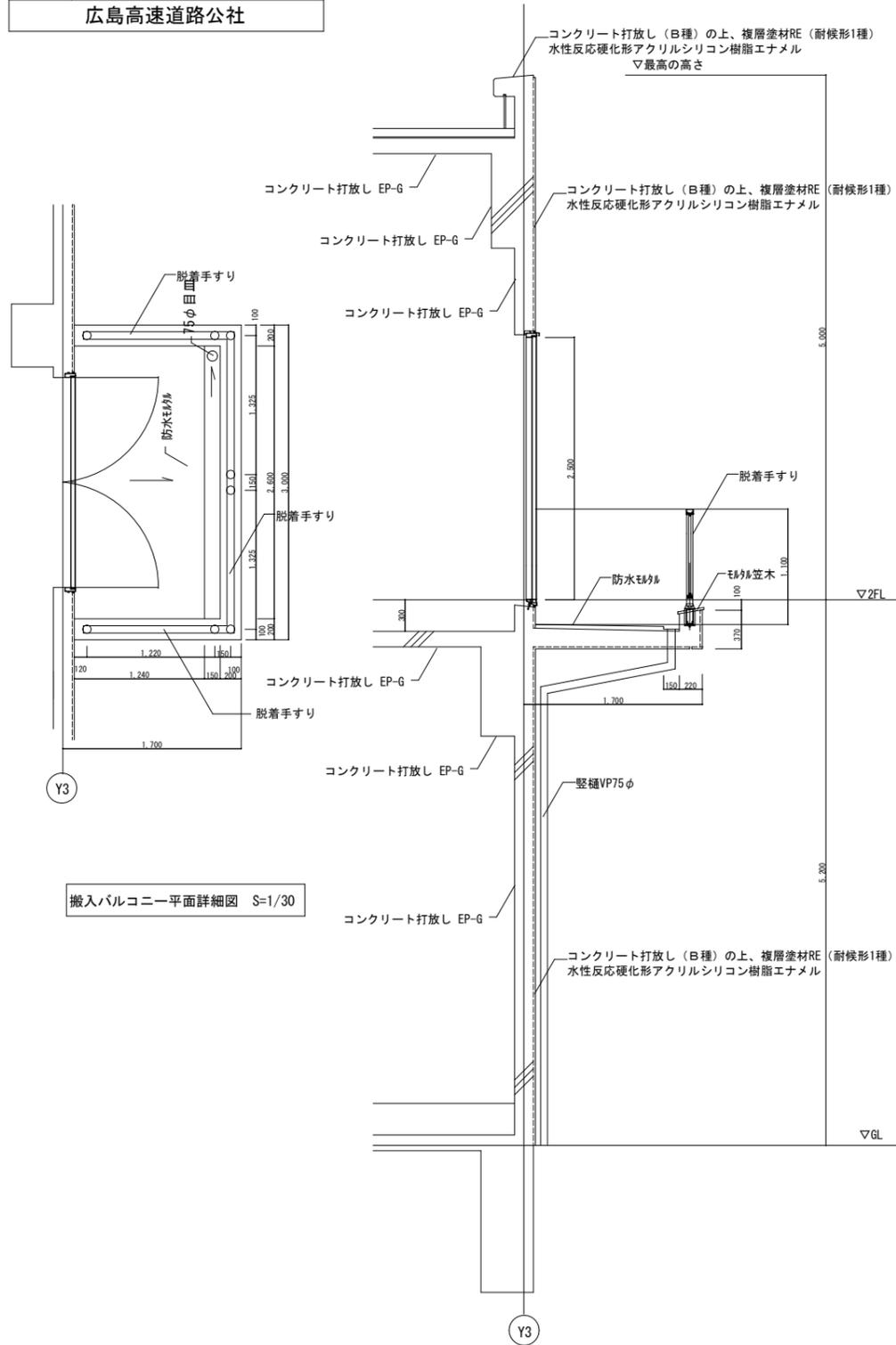


2階平面詳細図 S=1/50

階段詳細図 S=1/50

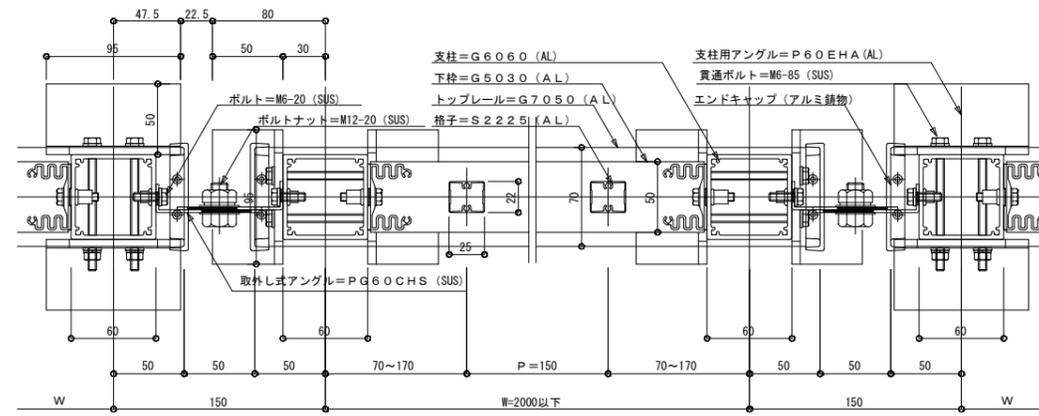
(注記) 1. 他設備工事業者と調整し、フリーアクセスボードの切欠き大きさを決めること。

令和 6 年度			
工事名	広島高速 5 号線料金所等新築その他工事		
図面番号	縮尺	1:30	
図名	二葉の里電気室 雑詳細図	番号	A-31
路線名	高速 5 号線		
広島高速道路公社			

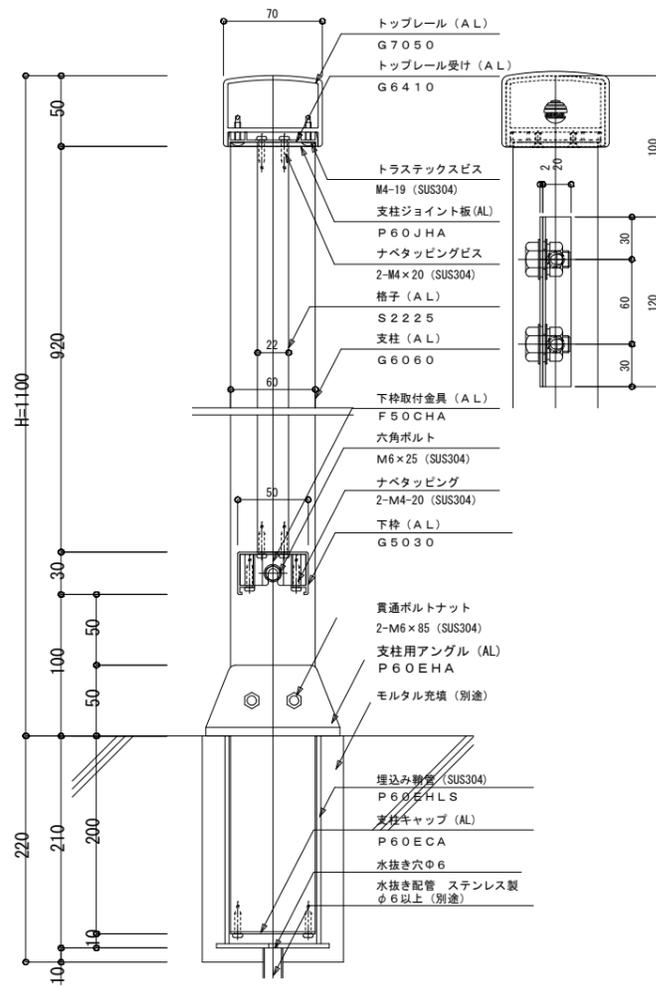


搬入バルコニー平面詳細図 S=1/30

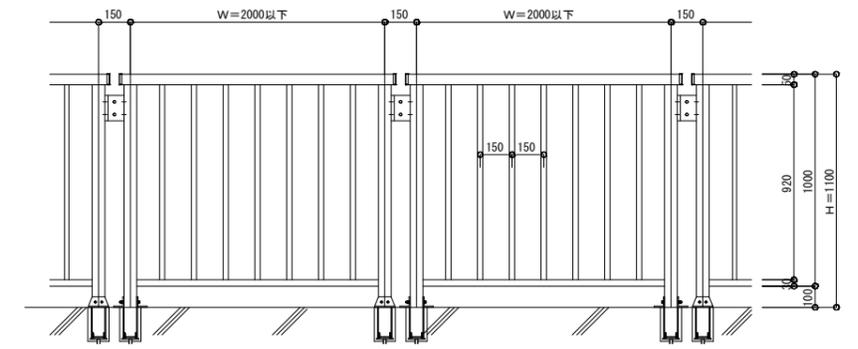
搬入バルコニー断面詳細図 S=1/30



脱着工法/埋め込み鞆管納まり平面詳細図 S=1/5

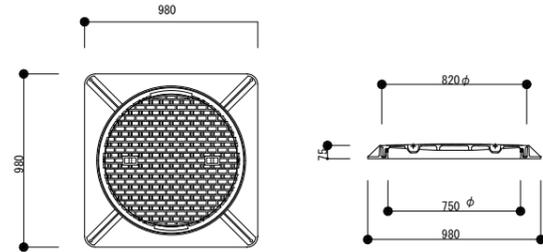


脱着工法/埋め込み鞆管納まり断面図 S=1/5

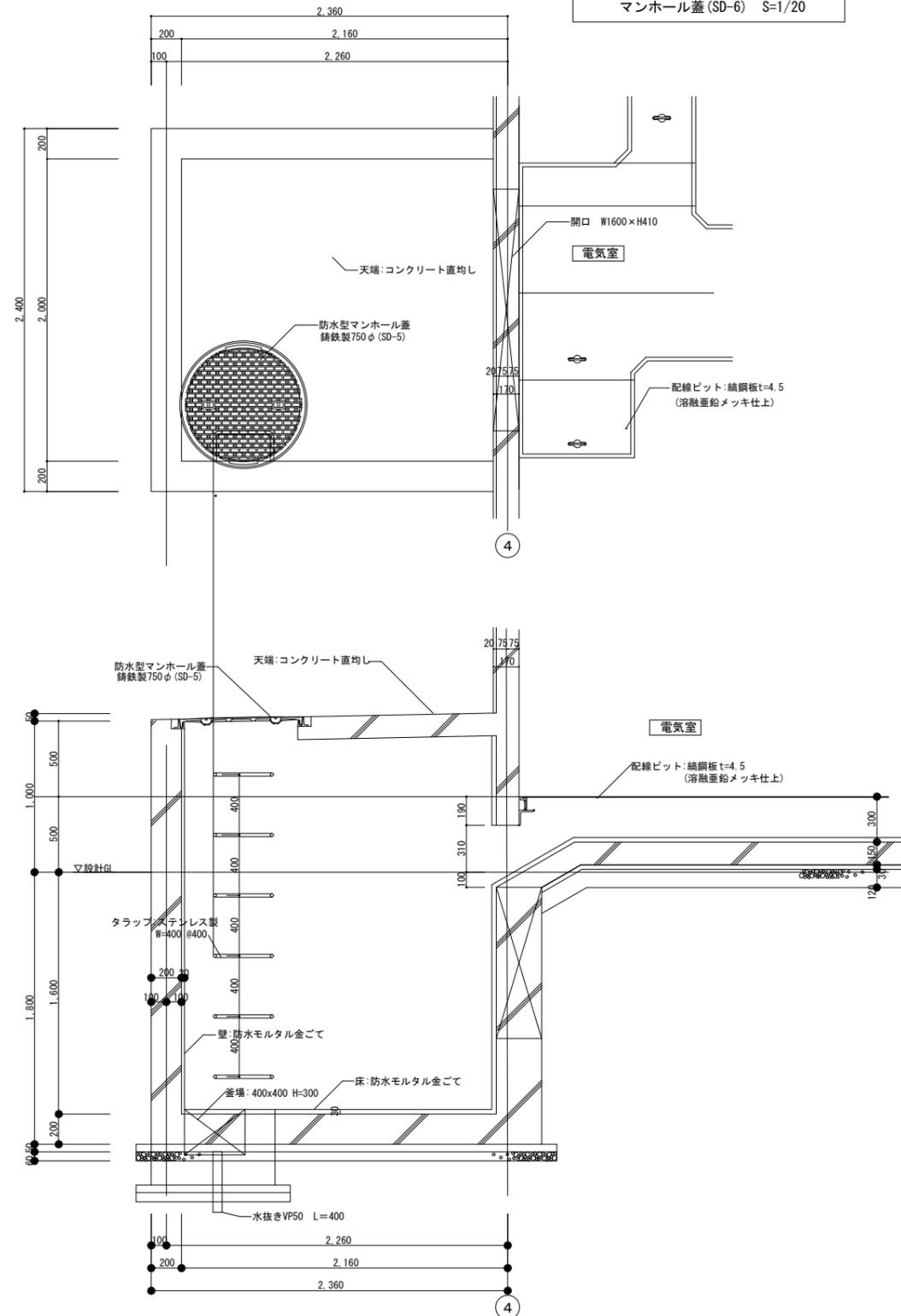


脱着手すり立面図 S=1/5

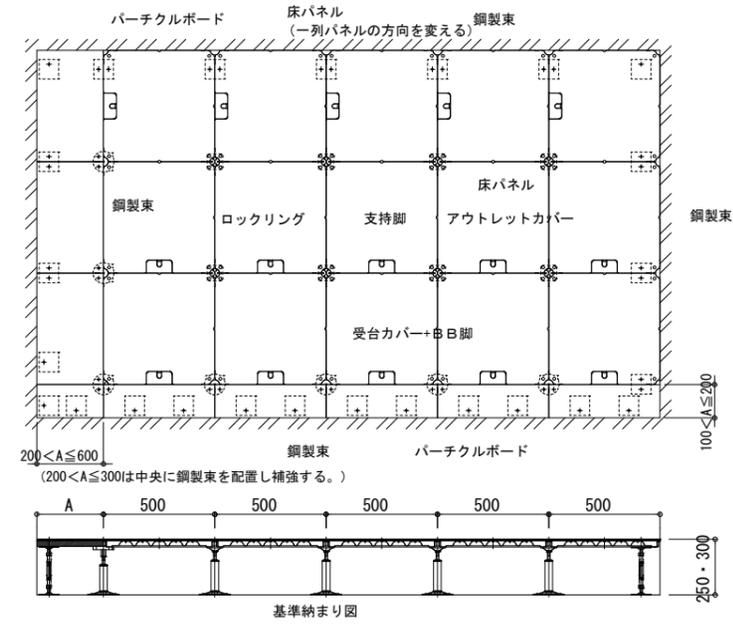
令和 6 年度			
工事名	高速5号線 料金所等新築工事		
図面番号	縮尺	1:20	
図名	二葉の里電気室 部分詳細図2	番号	A-33
路線名	高速5号線		
広島高速道路公社			



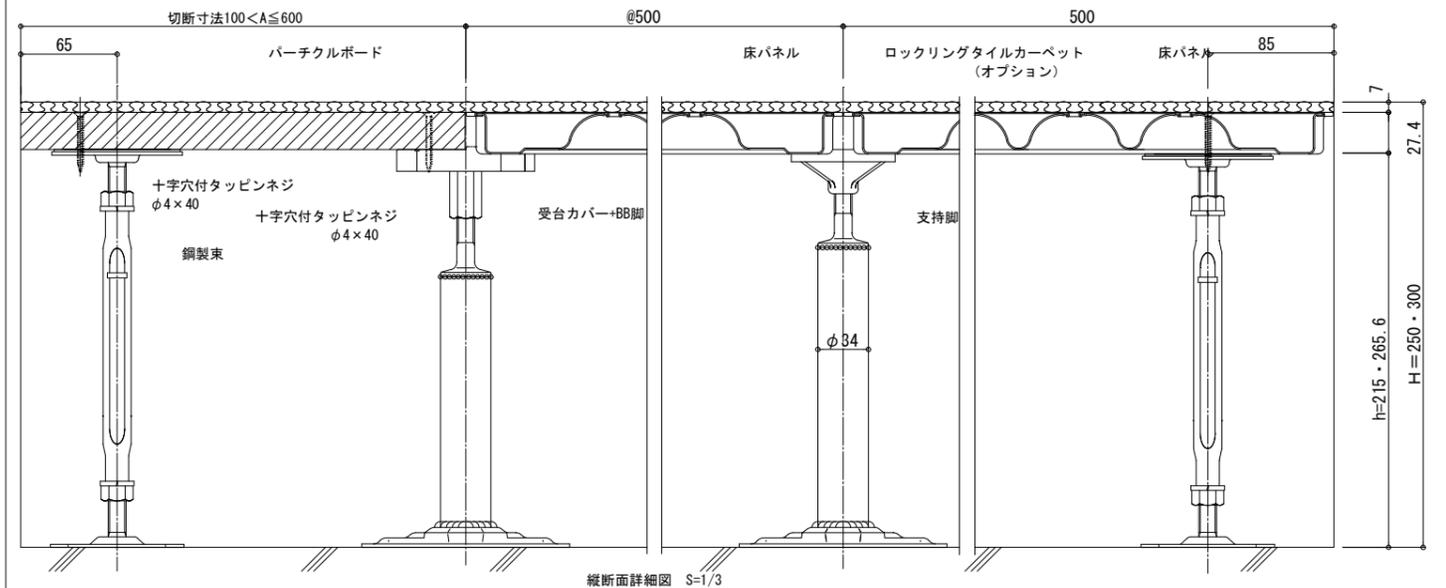
マンホール蓋 (SD-6) S=1/20



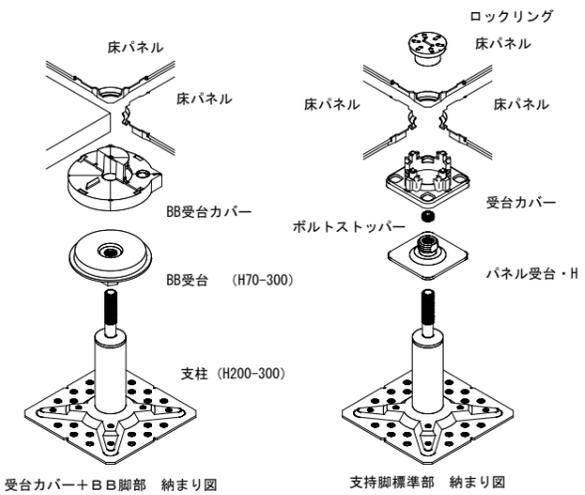
電気室ハンドホール詳細図 S=1/20



フリーアクセスフロア詳細図



縦断面詳細図 S=1/3



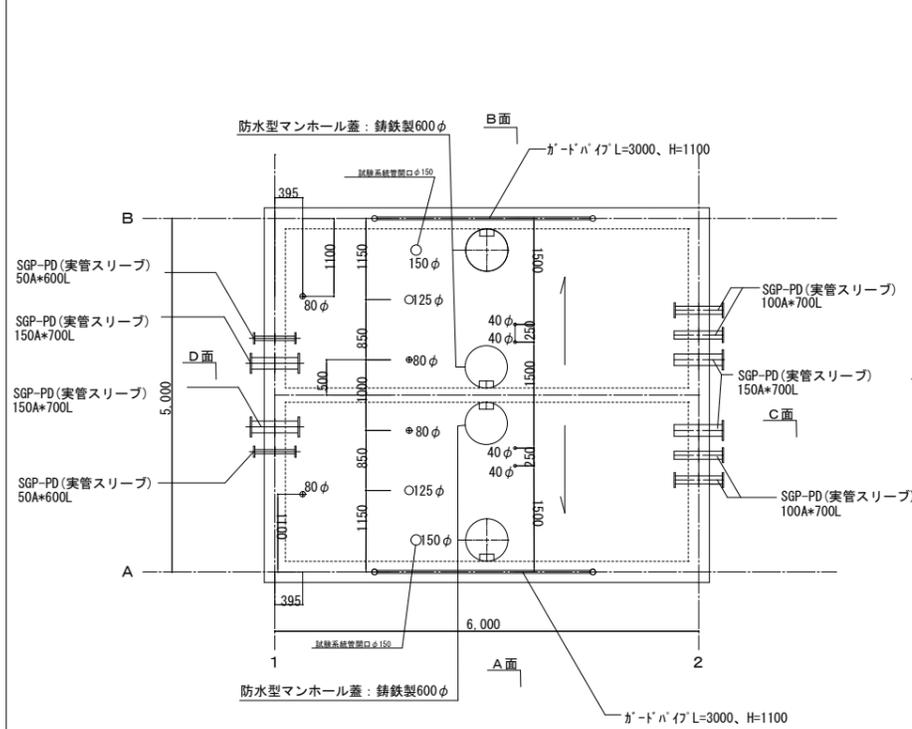
受台カバー+BB脚部 納まり図 支持脚標準部 納まり図

- 仕様：
- パネルサイズ
500×500×27.4mm
 - 材質・表面処理
表面板・裏面板
溶融亜鉛メッキ鋼板
(軽量無機質材充填)
 - パネル重量
約8.1kg/枚
 - 最弱部集中荷重 (加圧板φ50) ※
3,000N (300kgf)
たわみ5.0mm以内
 - 耐震性能
積載荷重300kg/m²-1Gクリア
 - 適応床高さ
H=250・300mm
タイルカーベット厚7mm含む
- ナカ工業 IBフロア同等品

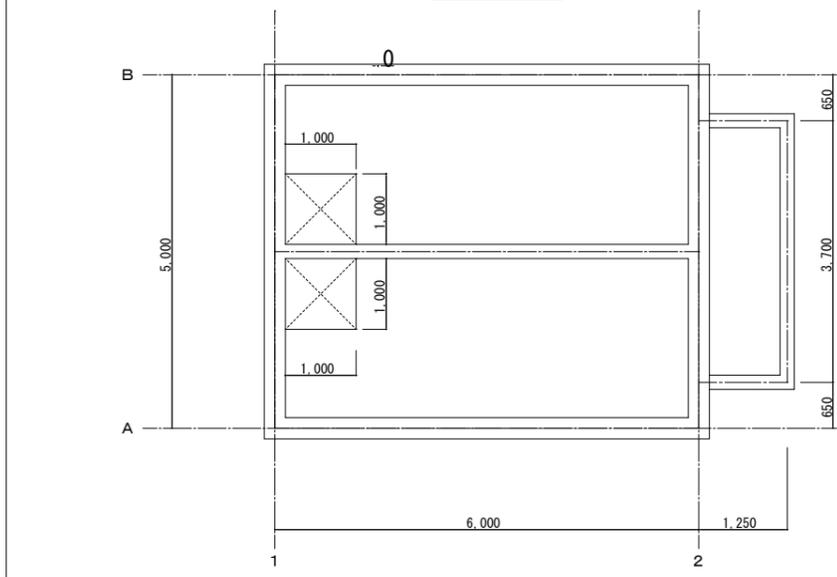
令和 6 年度			
工事名	広島高速5号線料金所等新築その他工事		
図面番号	縮尺	1:100, 1:200	
図名	二葉の里電気室 消化水槽	番号	A-34
路線名	高速5号線		
広島高速道路公社			

外部仕上表	
屋根	コンクリート直均し(水勾配1/100付)
外壁	コンクリート打放しの上複数仕上げ塗材RE 誘発目地@3000 PS-2 20*10
備考	防水型マンホール蓋: 鋳鉄製600φ、点検タラップ、昇降タラップ、ガードパイプL=3000、H=1100

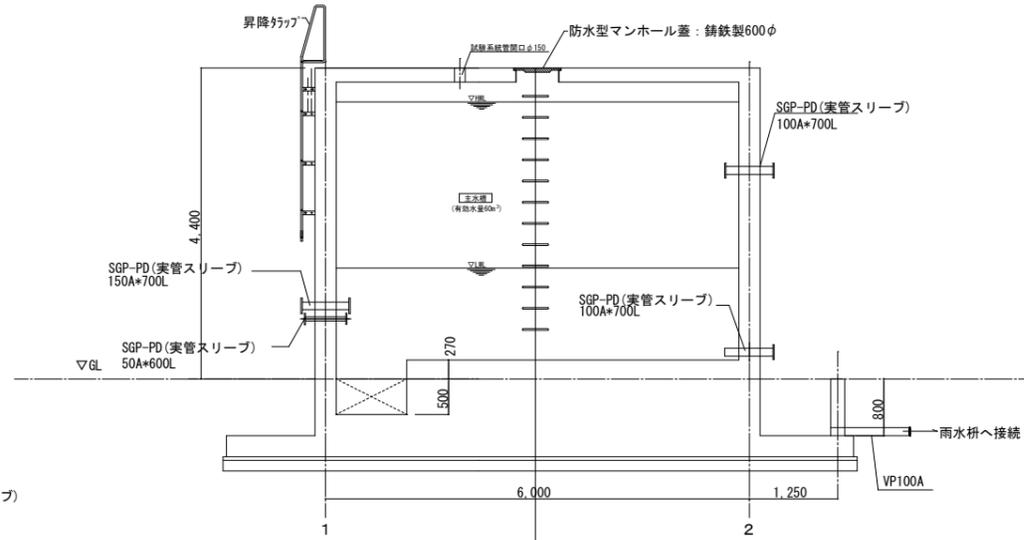
部位	床	巾木	壁	天井	備考
槽内	ケイ酸質系塗布防水	-	ケイ酸質系塗布防水	ケイ酸質系塗布防水	止水板 塩ビ製 H=150



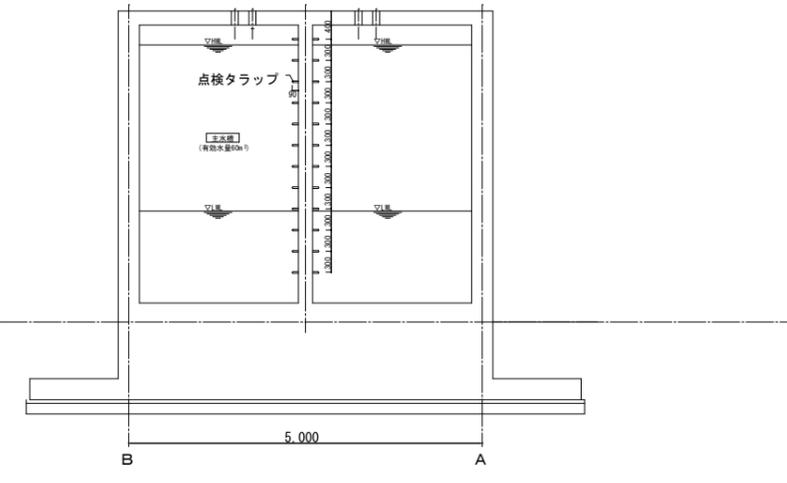
屋階平面図



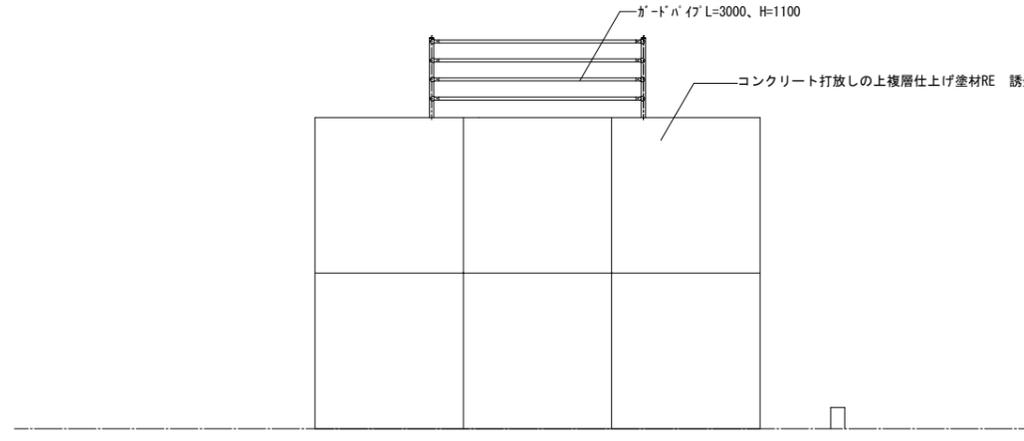
1階平面図



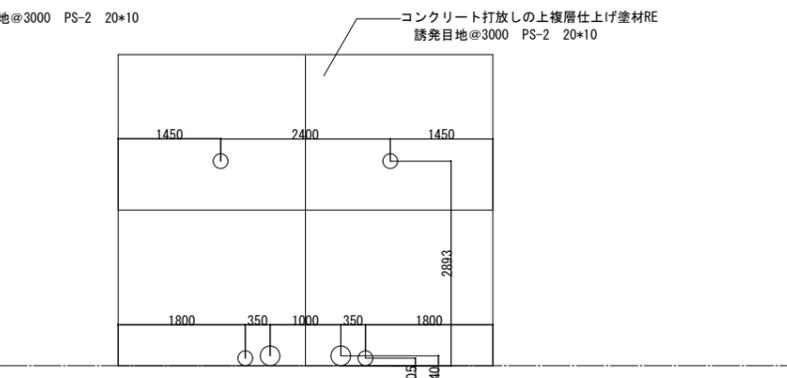
断面図



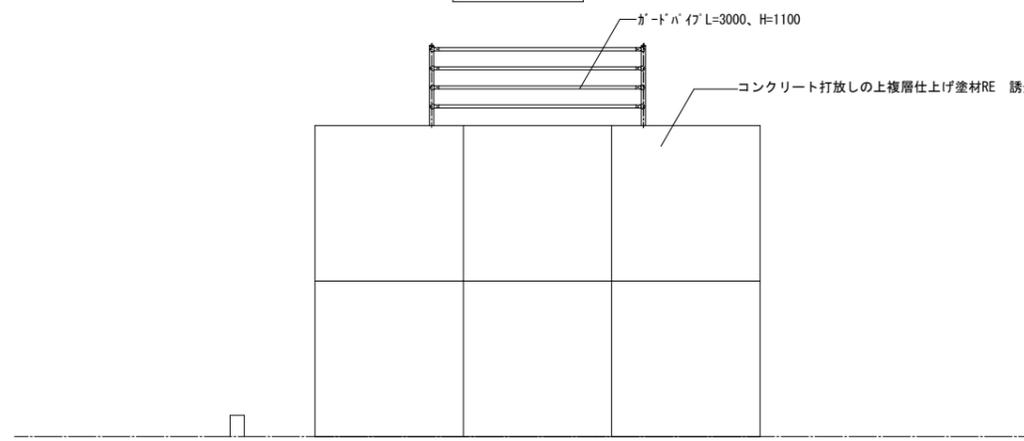
断面図



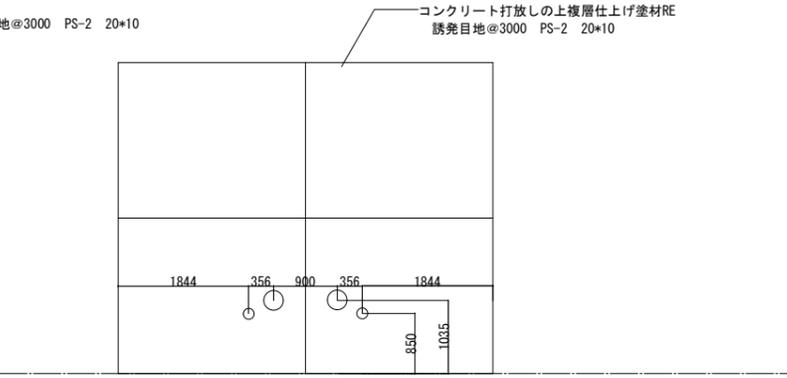
立面図 A面



立面図 C面



立面図 B面



立面図 D面

令和 6 年度			
工事名	広島高速5号線料金所等新築その他工事		
図面番号		縮尺	
図名	広島駅北口料金所 ブース特記仕様書	番号	BA-01
路線名	高速5号線		
広島高速道路公社			

料金所ブース工事 特記仕様書

I 総則

- 適用範囲 この特記仕様書はブース製作工事に適用するものとする。

II 工事概要

- 工事名称 高速5号線 料金所等新設工事（仮称）
- 工事位置 高速5号線
広島駅北口料金所

3. 工事種目

- | | | |
|----------|--|-------------------------------|
| A. ブース本体 | メインブース 1750W×12000L
機械室2 1750W×4578L
サブブース 1220W×3900L | 新設一式：1台
新設一式：1台
新設一式：1台 |
| B. 電気設備 | (電灯動力設備、 弱電設備) | 新設一式 |
| C. 機械設備 | (冷暖房換気設備、 衛生設備) | 新設一式 |

- 使用材料 本工事に使用する資材は、メーカー仕様によるものとし、監督職員の承諾を得るものとする。

III 特記仕様

1. 総 則

- 本仕様書に記載されていない事項はすべて下記諸仕様書並びに、基準によるほか、監督職員の指示によるものとする。

建築工事標準仕様書（最新版）	国土交通大臣官房官庁営繕部監修
電気設備工事標準仕様書（最新版）	国土交通大臣官房官庁営繕部監修
機械設備工事標準仕様書（最新版）	国土交通大臣官房官庁営繕部監修
鋼構造設計基準	日本建築学会編
軽量形鋼構造設計施工指針 同解説	日本建築学会編
溶接工作基準 同解説	日本建築学会編
電気設備技術基準	
その他関係諸規定	

- 本仕様書その他の設計図書に明記されていない事項で、工事施工上当然必要と思われるもの及び詳細不明のものについては、監督職員の指示をうけ、施工する。

2. 特別注意事項

- 本工事においてブース据付面（台枠下面）と、アイランド基準アンカー面はすべて同一レベルを原則としますが、道路面に縦断勾配がある場合にはよって基礎の納まり、取り合い等の施工図を作成の上、主任監督員の承諾を得るものとする。
その他別途工事等の取り合いは図示によるも細部については、監督職員の指示により施工する。

3. 工事種目別特記事項

- ブース本体
 - 鉄骨工事
 - 外板及び屋根板：溶融亜鉛アルミニウム合金めっき鋼板 t=2.3mmを、電気溶接にて取付ける。
 - 建具工事
 - アルミ製引違いサッシ：製品は枠見込み70mmとする。

3) 塗装工事

a. 塗装範囲

- P1工程：室内化粧鉄部、屋根上部（R部分は含まず）
P2工程：外部（P1工程部分は含まず）

：低汚染形セラミック変性ウレタン樹脂塗装。

- 構体骨組錆止塗装：クロムフリー錆止塗装

PI工程	P2工程
1) 汚れ付着物除去	1) 汚れ付着物除去
2) 油類除去	2) 油類除去
3) 錆止塗料（1回目）	3) 錆止塗料（FL+300mmまでを2回塗り）
4) 研磨紙摺り	4) 錆止塗料（ブース全体1回目）
5) 錆止塗料（2回目）	5) 研磨紙摺り
6) 研磨紙摺り	6) 錆止塗料（ブース全体2回目）
7) 中塗り	7) 穴埋め及びパテかい
8) 上塗り	8) 研磨紙摺り
	9) 中塗り
	10) 上塗り

b. 塗装色

- | | |
|-----|-----------------------|
| 外部色 | 全 体 色：U75-30P |
| | ライン色：Y75-90B（日本塗料工業会） |
| 内部色 | U22-85D（ " ） |

4) 雑工事

- プリント鋼板：耐熱限界140℃以下、被膜厚0.03mm 厚さ0.7mmとし、ビス又はリベットにて取付ける。
- 断熱材：(グラスウール)又は発泡ポリスチレンフォーム
天井裏、片開戸、片引戸・・・・・・（2号32K25t）
側壁、間仕切壁、・・・・・・（2号24K50t）
床、・・・・・・（発泡ポリスチレンフォーム40t）
- ビニルシート：下記以外の床面は、厚さ2.5mmを接着する。
但し、ETC監視室及び便所床は厚2.5mm イボ付とする。
- ベッド：ベッドマットは畳とする。
- アクリル樹脂板：静電気現象防止処置を施したのものとする。
- シーリング：雨樋、建具、アルミサッシ廻り等のシーリングにはシリコン系を使用する。
- カーテンレール： ステンレス製C型とする。
- 流し台及び吊戸棚： 木製キャビネット、ステンレス製水槽（排水トラップ付き）、冷蔵庫付とする。

B. 電気設備

1) 電気方式

- | | |
|------------|---------------------|
| (イ) 動力配線設備 | 3φ 3W 200V 60Hz |
| (ロ) 電灯設備 | 1φ 3W 210/105V 60Hz |

2) 弱電設備

- | |
|------------------------|
| (イ) 非常ベル押釦（別途、電気設備工事。） |
| (ロ) インターホン（別途、電気設備工事。） |

3) 工事範囲

設計図記載に基づき、下記事項に留意するものとする。

a. 電灯動力配線設備

- | |
|---|
| (イ) ブース内に設けられた分電盤二次側からブース内の照明、換気、SW、コンセントの各機器迄（配管配線、分電盤、端子盤、端子台などの接続線を含む）を本工事とする。
ブース外取付の機器については別途工事とする。 |
| (ロ) 収受室、ETC監視室、機械室(1)・(2)の天井面にバッテリー内蔵の非常灯を設置します。 |

b. 弱電設備

- | |
|---|
| (イ) サブブースについては、収受室端子盤二次側より各端末機（放送機器（アンプ、マイク））迄の配管配線を行なうものとする。
ただし、インターホン機器・取付は別途工事とする。
また、端子盤一次側の配線、引き込みも別途工事とする。 |
|---|

- | |
|---|
| (ロ) メインブースについては、機械室内に設けられた端子盤二次側より各端末機（放送機器（アンプ、マイク））迄の配管配線を行うものとする。ただし、インターホン機器は別途とする。
また、端子盤一次側の配線、引き込みも別途工事とする。 |
|---|

c. ETC・CCTV設備

- | |
|--|
| (イ) ブースについては、端子盤二次側より各端末機、機器までの配管は、本工事、配線は別途とする。
また、端子盤一次側の配線、引き込みも別途工事とする。 |
|--|

C. 機械設備

1) 空調和換気設備工事

- メインブースの収受室にエアーカーテン、ヒートポンプ式パッケージエアコン及び床ヒーターを設置し、ETC監視室と機械室にはルームエアコンを設置する。
機械室には冷房専用ルームエアコンを設置する。
サブブースにはエアーカーテン、ヒートポンプ式パッケージエアコン及び床ヒーターを設置する。
尚、流し、便所、機械室にはそれぞれ換気扇を取付ける。

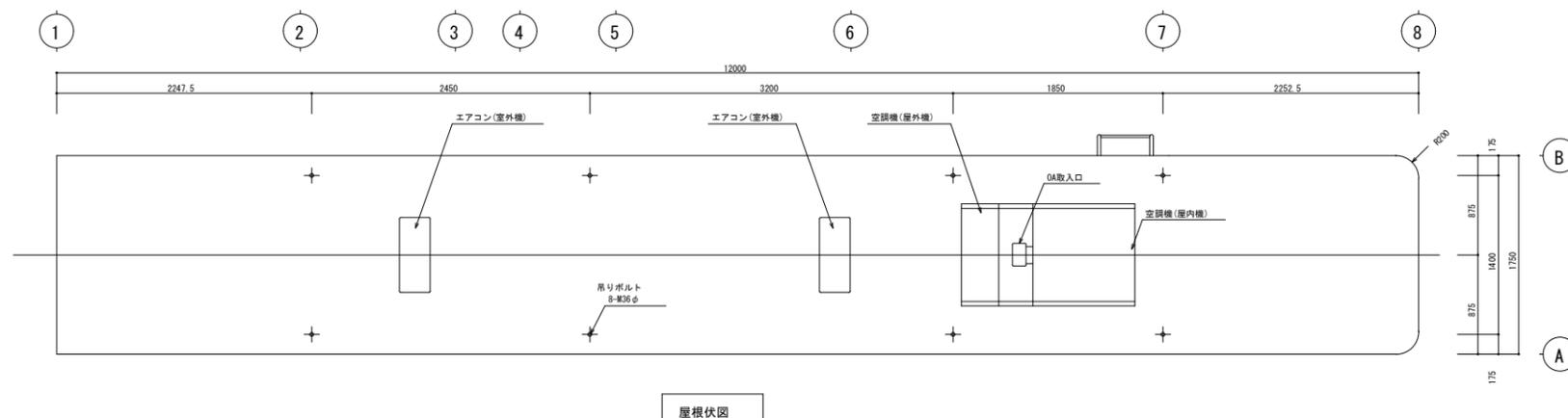
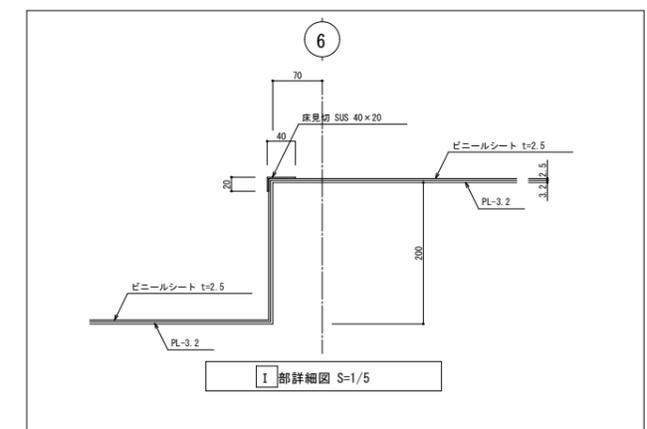
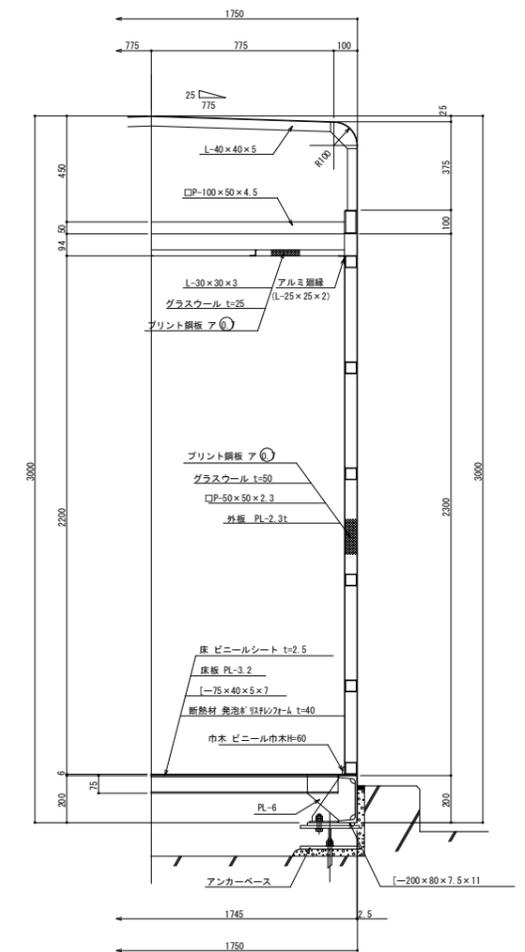
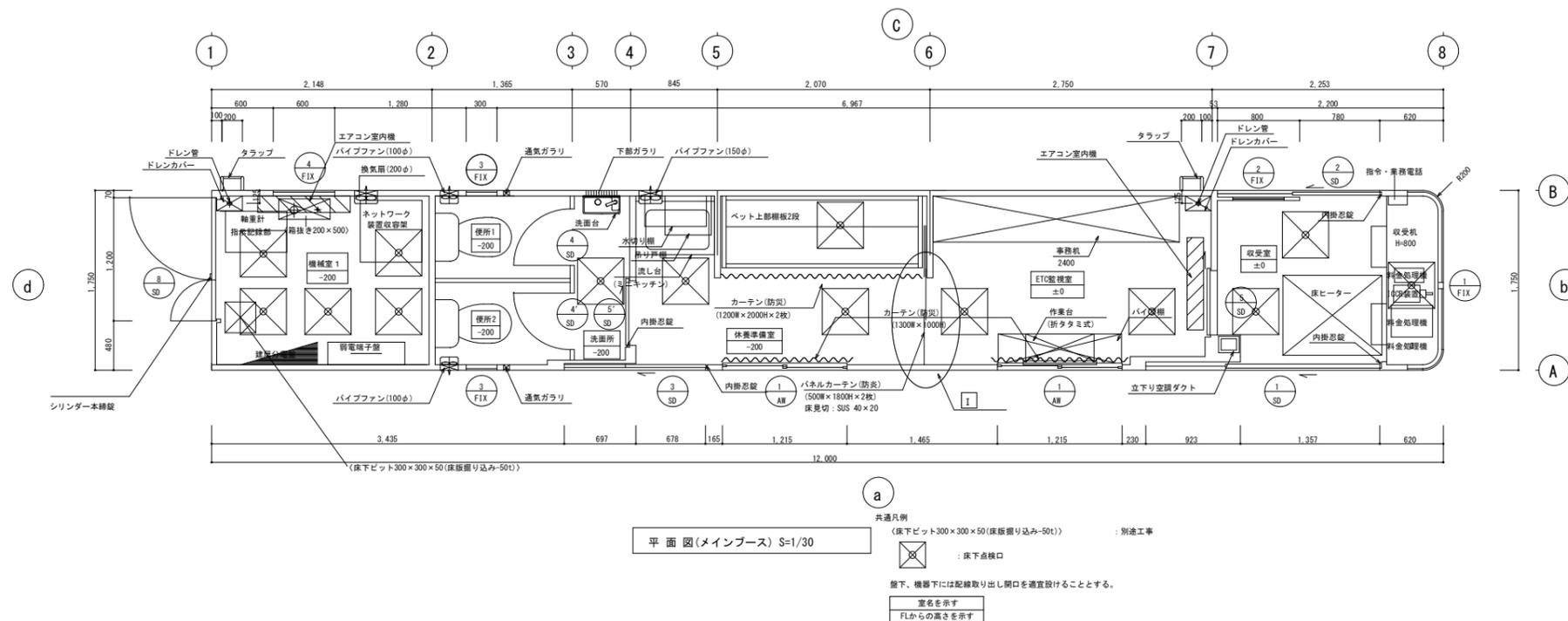
2) 衛生設備工事

- 給水管は水道用ポリエチレン粉体ライニング鋼管 SGP-PB（JWWA K132）、排水管及び通気管は硬質ポリ塩化ビニル管 VP（JISK6741）とし、給水管の保温は標準仕様書第二編 3・1・5. d・(ハ)・Ⅶとする。

令和 6 年度			
工事名	広島高速5号線料金所等新築その他工事		
図面番号	縮尺	S=1/30	
図名	広島駅北口料金所 メインブース 仕上表・平面図	番号	BA-02
路線名	高速5号線		
広島高速道路公社			

〈外部仕上表〉		
	材質・仕上	備考
屋根	溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板 t=2.3mm 低汚染セラミック変性ウレタン樹脂塗装	φ36 吊金物(8ヶ所)
外壁	溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板 t=2.3mm 低汚染セラミック変性ウレタン樹脂塗装(屋根2部を含む)	
建具	鋼製及びアルミ合金製(アルマイト処理)	
硝子	色付、透明アクリル板 t=5mm・透明強化ガラス t=5mm 網入型ガラス、網入磨き(下半分ボカシ)ガラス t=6.8、一部遮光フィルム張り	
ブースナンバー	アクリル板(乳白色地に黒色番号貼付)	150×200×3t

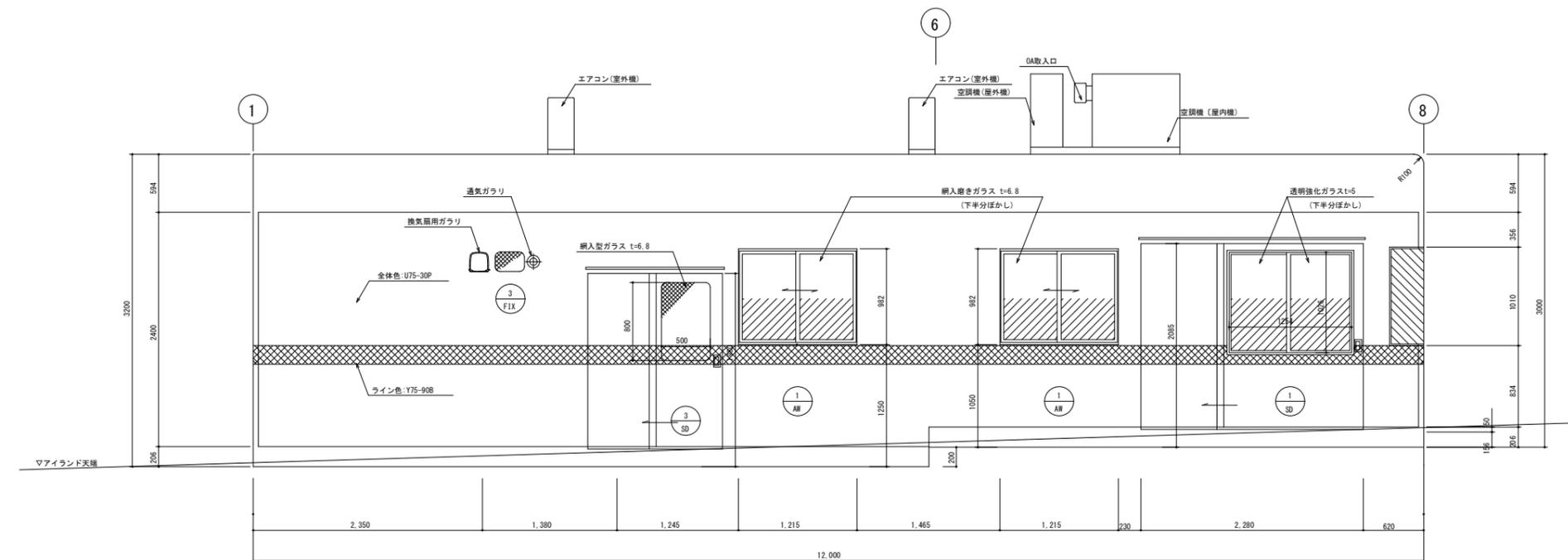
〈内部仕上表〉						
	床	床高 (±)	巾木	壁・天井	天井高	備考
収受室	イボ付ビニールシート t=2.5mm	±0	ビニール巾木H=60	プリント鋼板 t=0.7mm	2200	収受機 床ヒーター
ETC監視室	ビニールシート t=2.5mm	±0	同上	同上	2200	事務机2400×450×750H、作業台300×666(折タミ式)
休養準備室	ビニールシート t=2.5mm	-200	同上	同上	2400	一段ベット1950×700×1970H、パイプ棚2段1950×350 流し台(ミニキッチン)765×500×800H、吊戸棚450×380×500H 水切網598×300×250、カーテンレール(C型)、パネルカーテン
洗面所	イボ付ビニールシート t=2.5mm	-200	同上	同上	2400	
便所1・2	イボ付ビニールシート t=2.5mm	-200	ビニールシート立上げの上 SUS1.0t、150H押入	同上	2400	床板SUS 3.0t
機械室1	ビニールシート t=2.5mm	-200	ビニール巾木H=60	同上	2400	



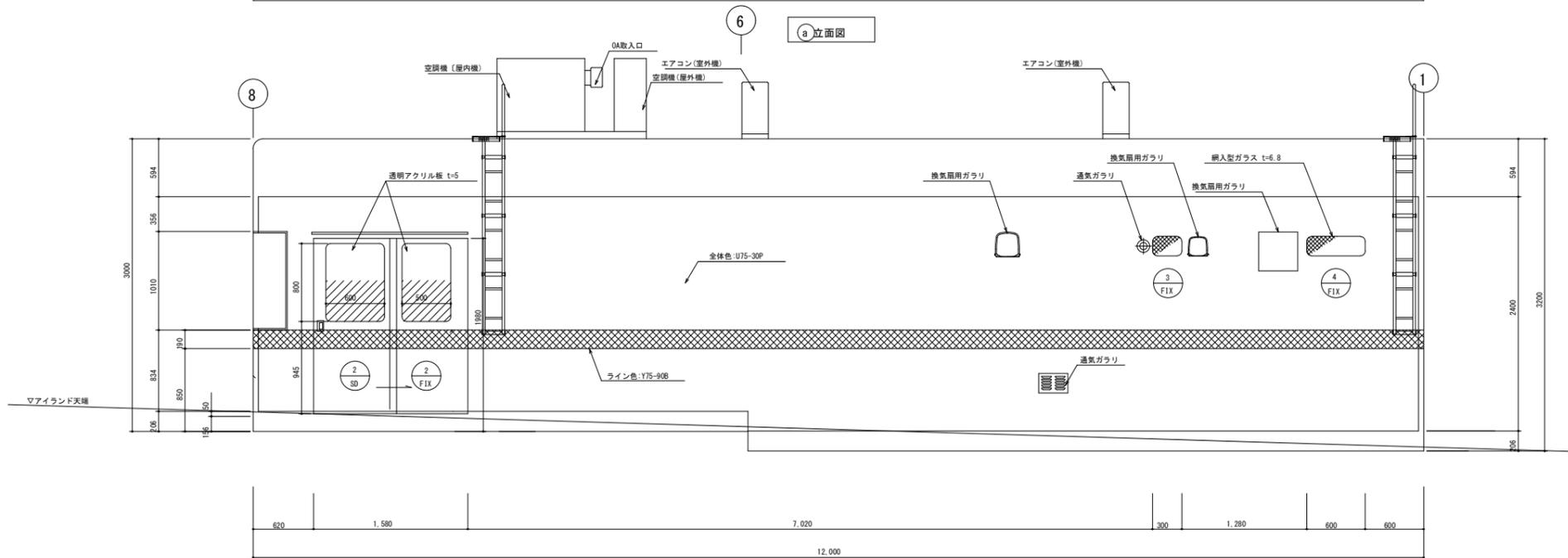
※ () 内寸法は1~2通り間のみを示す

令和 6 年度			
工事名	広島高速 5 号線料金所等新築その他工事		
図面番号	縮尺	S=1/30	
図名	広島駅北口料金所 メインブース 立面図	番号	BA-03
路線名	高速 5 号線		
広島高速道路公社			

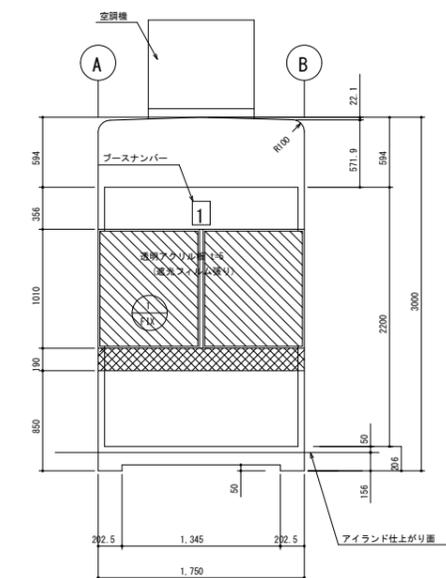
メインブース



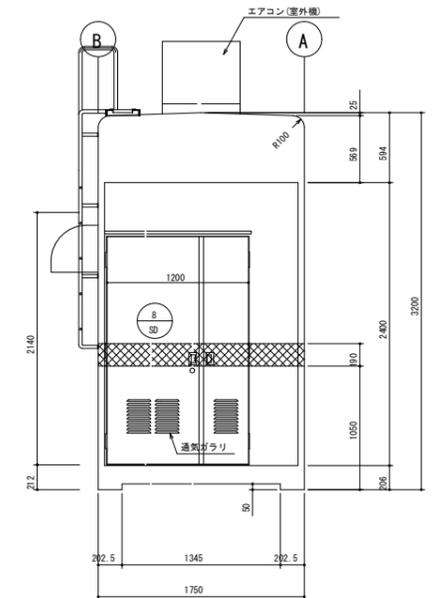
a 立面図



c 立面図

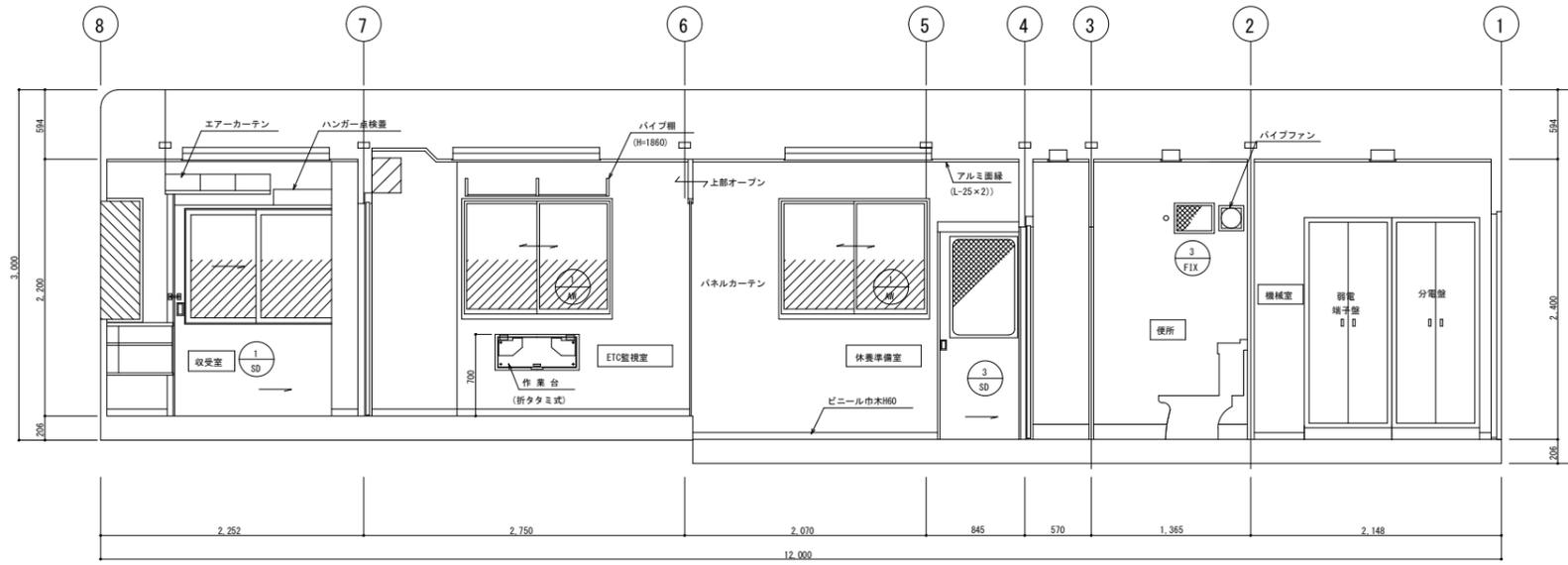


b 立面図

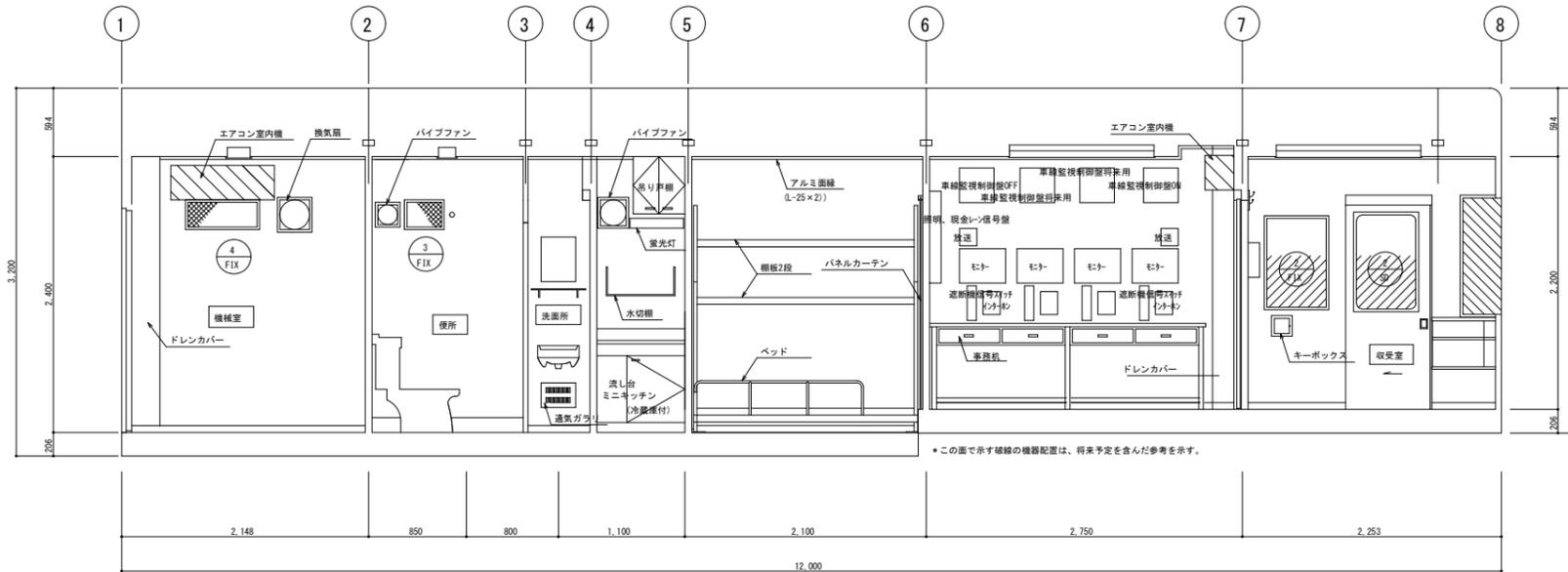


d 立面図

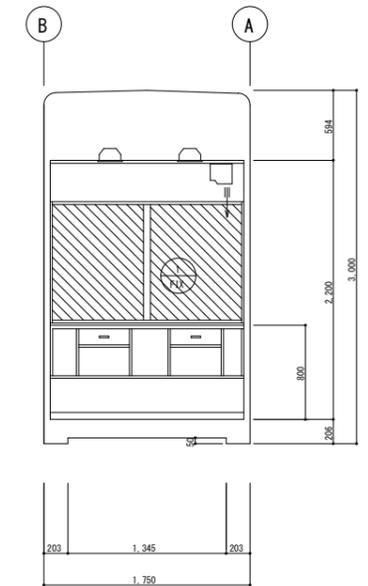
令和 6 年度			
工事名	広島高速 5 号線料金所等新築その他工事		
図面番号	縮尺	S=1/30	
図名	広島駅北口料金所 メインブース 展開図	番号	BA-04
路線名	高速 5 号線		
広島高速道路公社			



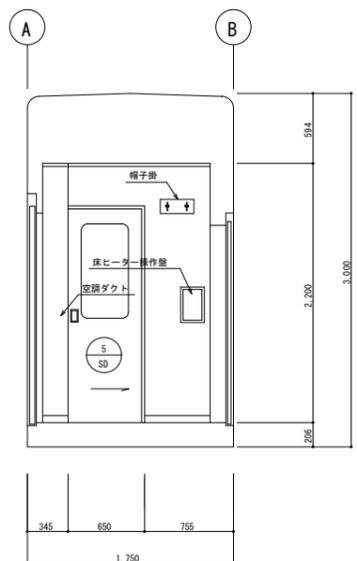
A通り内観図



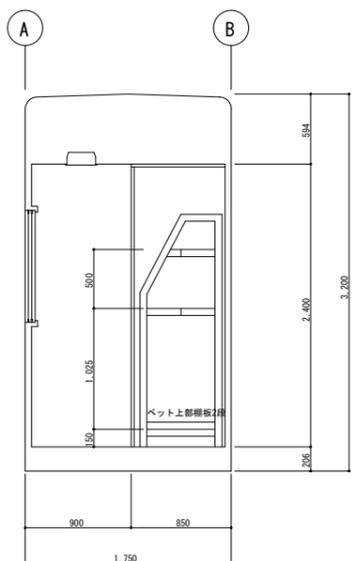
B通り内観図



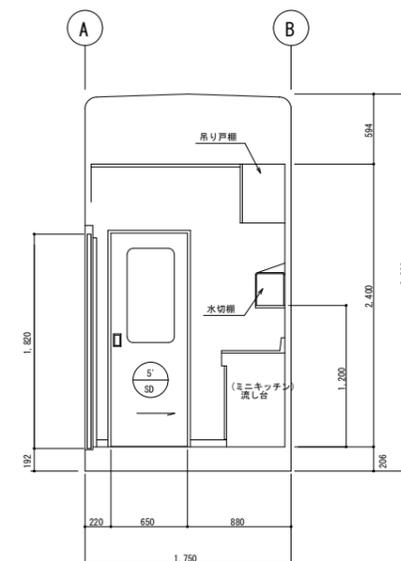
8通り内観図



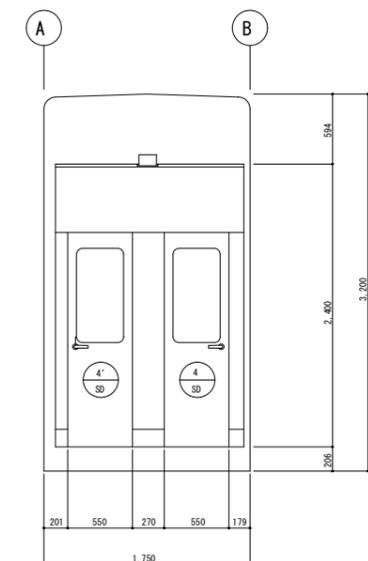
7通り内観図



5通り内観図



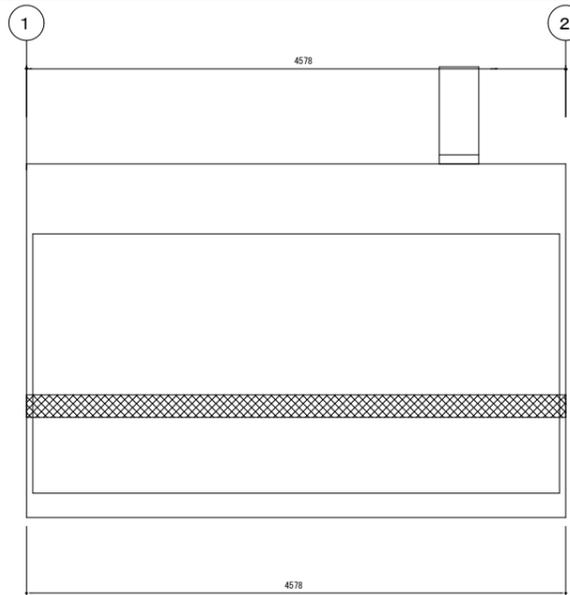
4通り内観図



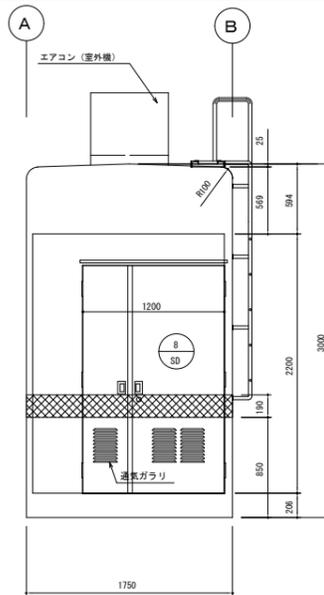
3通り内観図

※この面で示す機器の機器配置は、将来予定を含んだ参考を示す。

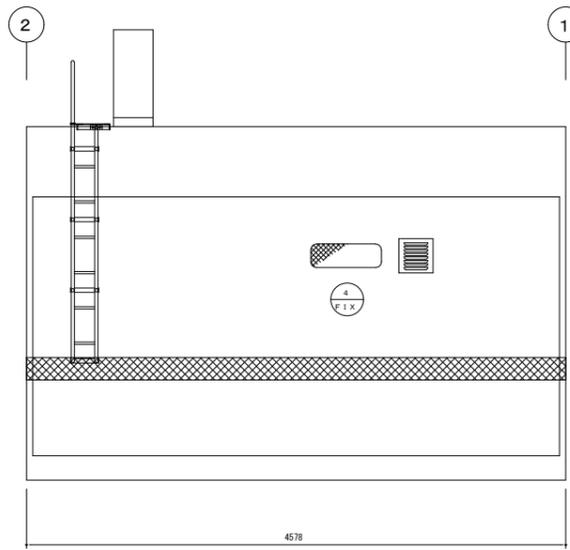
令和 6 年度			
工事名	広島高速5号線料金所等新築その他工事		
図面番号	縮尺	S=1/30	
図名	広島駅北口料金所 機械室2 仕上表・平面図 屋根伏・立面図・展開図	番号	BA-05
路線名	高速5号線		
広島高速道路公社			



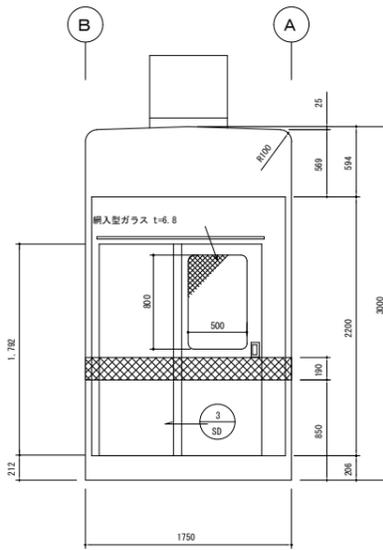
(a) 立面図 S=1/30



(b) 立面図 S=1/30



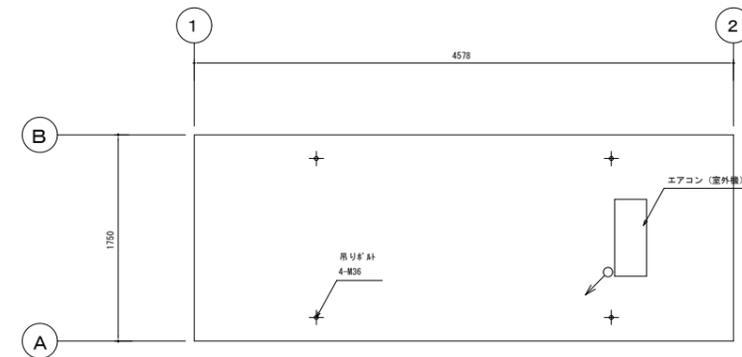
(c) 立面図 S=1/30



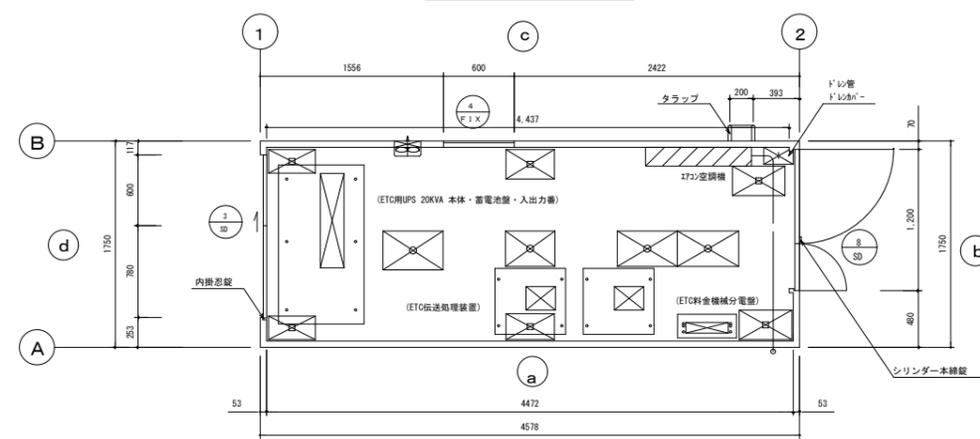
(d) 立面図 S=1/30

<外部仕上表>		備考
屋根	溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板 t=2.3mm 低汚染セラミック変性ウレタン樹脂塗装	φ36 吊金物 (4ヶ所)
外壁	溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板 t=2.3mm 低汚染セラミック変性ウレタン樹脂塗装 (屋根R部を含む)	
建具	鋼製	
硝子	網入型ガラス、t=6.8	

<内部仕上表>					備考
床	ビニルシート t=2.5mm	巾木 ソフト巾木 H=60	壁・天井 プリント鋼板 t=1.2mm	天井高	2200

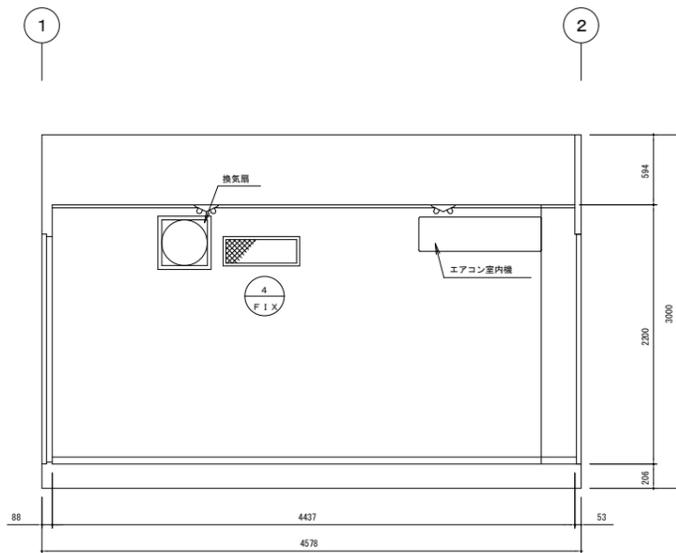


屋根伏図 S=1/30

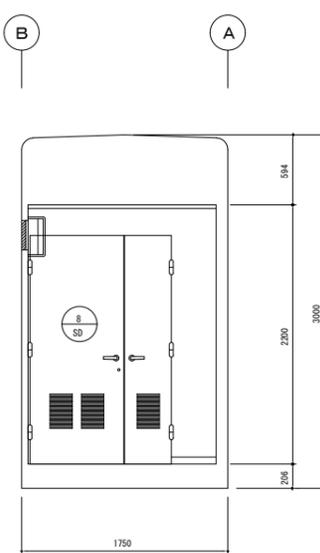


平面図 S=1/30

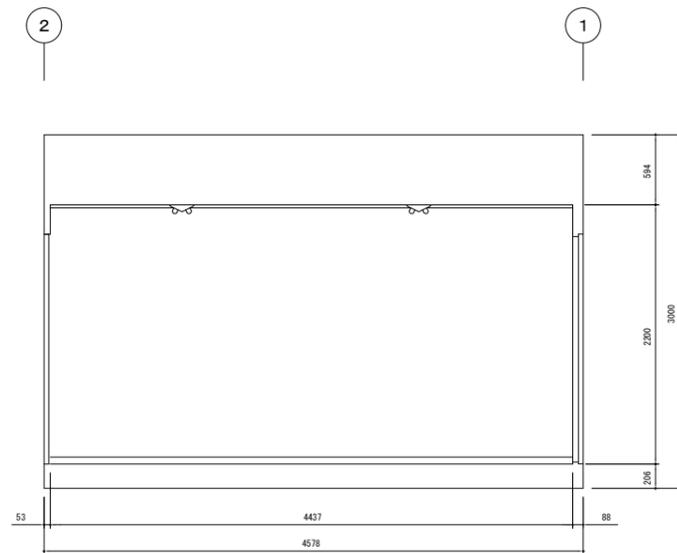
- 共通凡例
- : 床下点検口
 - : ブース架台用点検口
 - : 機器配線用点検口
- 盤下、機器下には配線取り出し開口を適宜設けることとする。



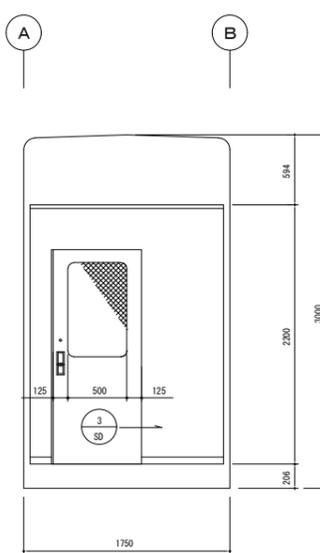
(B) 通芯側内観図



(2) 通芯側内観図



(A) 通芯側内観図



(1) 通芯側内観図

令和 6 年度			
工事名	広島高速 5 号線料金所等新築その他工事		
図面番号	縮尺	S=1/30	
図名	広島駅北口料金所 メインブース・機械室? 建具表	番号	BA-06
路線名	高速 5 号線		
広島高速道路公社			

建具表 S=1/30

記号・場所	1 SD 収受室	2 SD 収受室	3 SD 休養準備室・機械室2	4 SD 便所	4' SD 便所	5 SD ETC監視室	5' SD 休養準備室
※ 図							
見込寸法	43.8(ドア)・48.5(片引アングルドア)	27.8	27.8	27.4	27.4	27.4	27.4
形式・数量	鋼製片引腰高フラッシュ戸 1	鋼製片引腰高フラッシュ戸 1	鋼製片引腰高フラッシュ戸 2	鋼製片開き腰高フラッシュ戸 1	鋼製片開き腰高フラッシュ戸 1	鋼製片引腰高フラッシュ戸 1	鋼製片引腰高フラッシュ戸 1
材質・塗装	外、鋼板 1.6 低汚染形セラミック変性 内、鋼板 1.2 ポリウレタン樹脂塗装 (P2工程)	外、鋼板 1.6 低汚染形セラミック変性 内、鋼板 1.2 ウレタン樹脂塗装 (P2工程)	外、鋼板 1.6 低汚染形セラミック変性 内、鋼板 1.2 ウレタン樹脂塗装 (P2工程)	内外、鋼板 1.2 低汚染形セラミック変性 ウレタン樹脂塗装 (P2工程)			
硝子	透明半強化ガラス t=5 下半分ボカシ	透明半強化ガラス t=5 下半分ボカシ	網入り型ガラス t=6.8	透明ガラス t=3、不透明ガラスフィルム張り	透明ガラス t=3、不透明ガラスフィルム張り	透明ガラス t=3	透明ガラス t=3
付属金物	ハンガー複数戸車 2 ステンレスプレス把手 2 内掛忍錠 (鍵付き) 1 アルミ窓 (1300×1066) 1	ハンガー複数戸車 2 ステンレスプレス把手 2 内掛忍錠 (鍵付き) 1	ハンガー複数戸車 2 ステンレスプレス把手 2 内掛忍錠 (鍵付き) 1	ステンレスハンドル 2 内掛忍錠 (鍵付き) 1	ステンレスハンドル 2 内掛忍錠 (鍵付き) 1	ハンガー複数戸車 2 ステンレスプレス把手 2	ハンガー複数戸車 2 ステンレスプレス把手 2 内掛忍錠 (鍵穴無し) 1
備考	グラスウール充填 t=50 32K	グラスウール充填 t=25 32K	グラスウール充填 t=25 32K	グラスウール充填 t=25 32K	グラスウール充填 t=25 32K	グラスウール充填 t=25 32K	グラスウール充填 t=25 32K

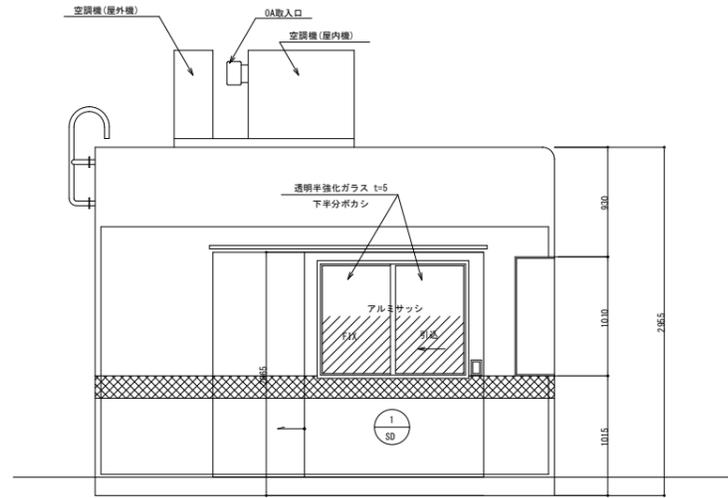
(注記) 1. ガラス窓が軽く動くこと。

建具表 S=1/30

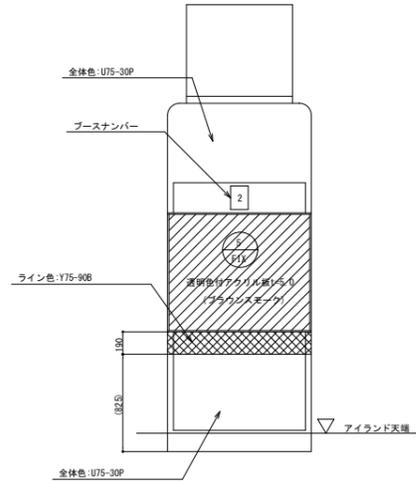
記号・場所	8 SD 機械室1・2	1 AW ETC監視室・休養準備室	1 FIX 収受室	2 FIX 収受室	3 FIX 便所	4 FIX 機械室
※ 図						
見込寸法	38.2	70 (サッシュ)、93 (枠)	61 (枠)	61 (枠)	61 (枠)	61 (枠)
形式・数量	鋼製引付両開フラッシュ戸 2	引違いアルミ窓 2	嵌殺し窓 1	嵌殺し窓 1	嵌殺し窓 2	嵌殺し窓 メイン 1、機械棟 1
材質・塗装	内外、鋼板 1.6 低汚染形セラミック変性 ウレタン樹脂塗装 (P2工程)	アルミ 表面アルマイト処理	外板切込	外板切込	外板切込	外板切込
硝子		網入りガラス t=6.8、下半分ボカシ	透明色付アクリル板 t=5、ブランク	透明半強化ガラス t=5 下半分ボカシ	網入型ガラス t=6.8	網入型ガラス t=6.8
付属金物	127mm面付旗丁番 6 ステンレスハンドル 4 シリンドー本締錠 1 アームスットバー 2 丸落し錠 2 ガラリフィルター 2	室内側サッシュ押え枠 鋼板 1.6 メラミン焼付	室内側押え枠 鋼板 1.6 メラミン焼付 溝ゴム			
備考	グラスウール充填 t=25 32K 召し合わせ有	外板側シリコンコーキング カーテン (防炎) 1300×1000	シリコンコーキング	シリコンコーキング	シリコンコーキング	シリコンコーキング

* 下半分ボカシ: 住友スリーエム ミルキーホワイト同等以上
* 遮光フィルム: 住友スリーエム ニュートラルグリーン同等以上

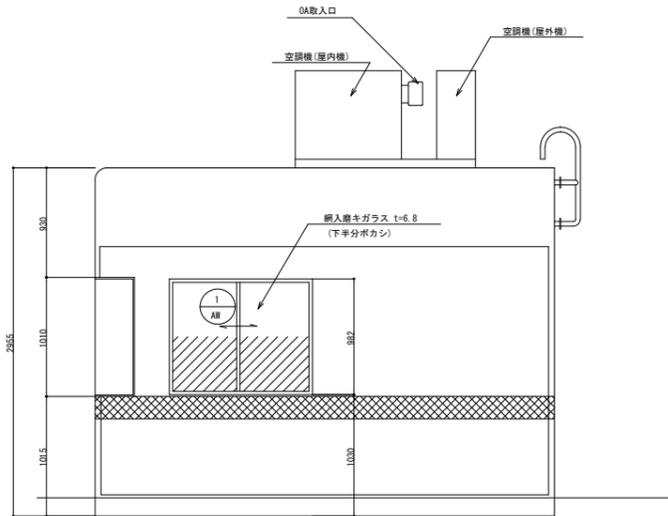
令和 6 年度			
工事名	広島高速 5 号線料金所等新築その他工事		
図面番号	縮尺	S=1/30	
図名	広島駅北口料金所 サブブース 仕上表 平面図・屋根伏・立面図	番号	BA-07
路線名	高速 5 号線		
広島高速道路公社			



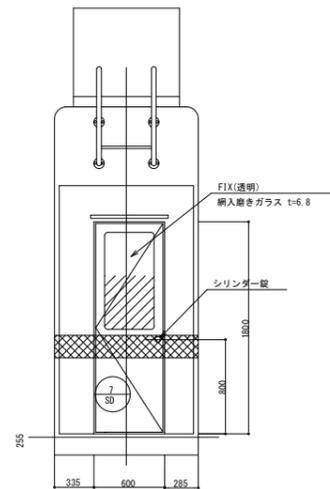
Ⓐ立面図 S=1/30



Ⓑ立面図 S=1/30



Ⓒ立面図 S=1/30



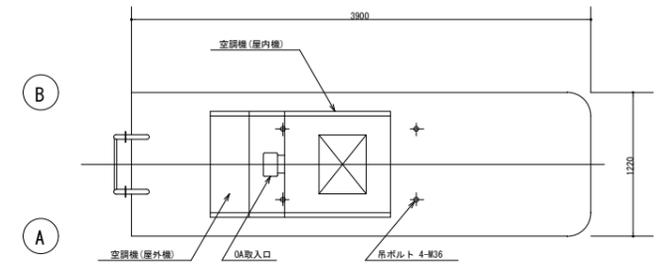
Ⓓ立面図 S=1/30

<外部仕上表>

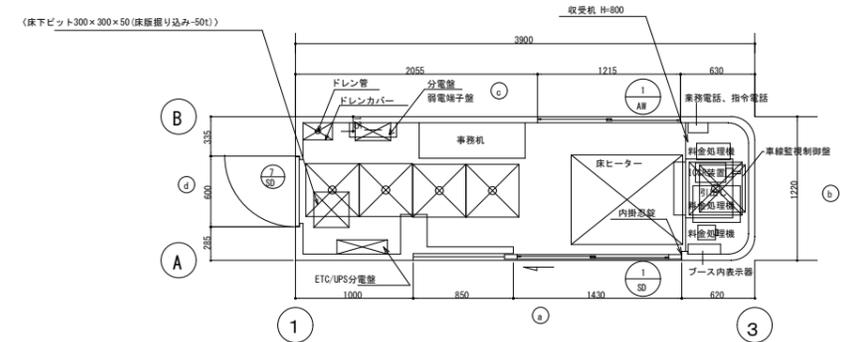
	材質・仕上	備考
屋根	溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板2.3mm 非汚染形セラミック変性ウレタン樹脂塗装	吊金物(4ヶ所)
外壁	溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板2.3mm 非汚染形セラミック変性ウレタン樹脂塗装(屋根取部を含む)	
建具	鋼製及びアルミ合金製(アルマイト処理)	
硝子	透明アクリル板t=5 遮光フィルム張り 納入磨きガラスt=6.8 下半分ボカシ	納入磨きガラスt=6.8 下半分ボカシ 透明強化ガラスt=5 下半分ボカシ
ブースナンバー	アクリル板(乳白色地に黒色番号貼付)	150×200×3

<内部仕上表>

	床	中木	壁・天井	天井高	備考
収受室	イボ付ビニールシートt=2.5	ビニール巾木H=60	プリント鋼板 t=0.7	2100	収受機・床ヒーター 事務机 900×750×300 椅子盤 400×900×125 パイプ棚 900×300×140



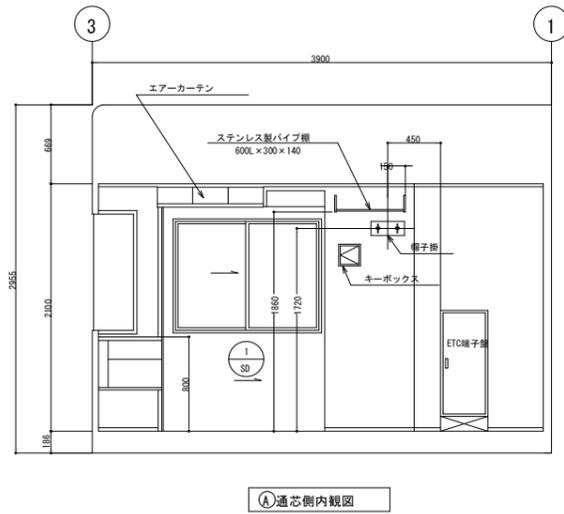
屋根平面図 S=1/30



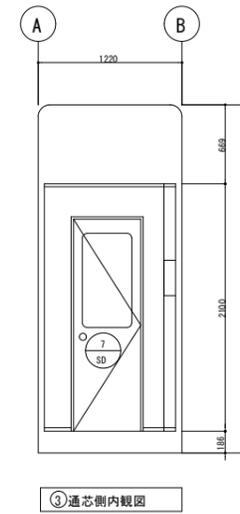
平面図 S=1/30

共通凡例
(床下ビット300×300×50(床版掘り込み=50t)) : 別途工事
⊗ : 床下点検口
盤下、機器下には配線取り出し開口を適宜設けることとする。

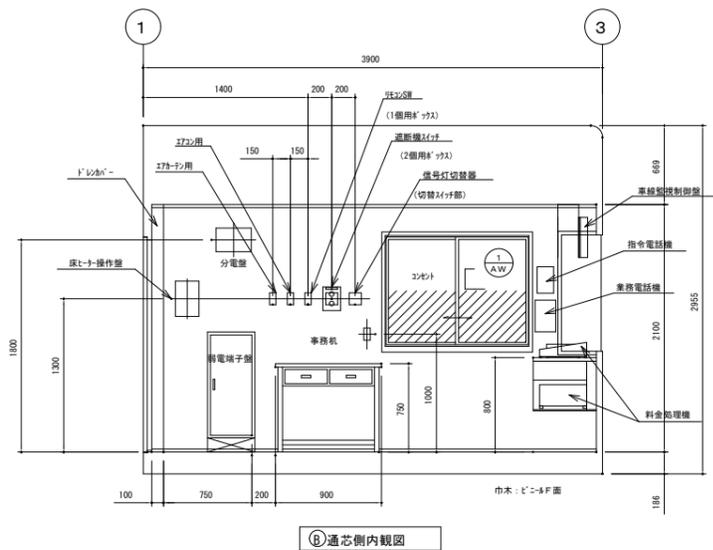
令和 6 年度			
工事名	広島高速5号線料金所等新築その他工事		
図面番号	縮尺	S=1/30	
図名	広島駅北口料金所 サブプース 展開図	番号	BA-08
路線名	高速5号線		
広島高速道路公社			



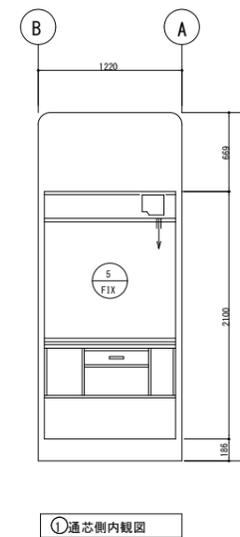
④ 通芯側内観図



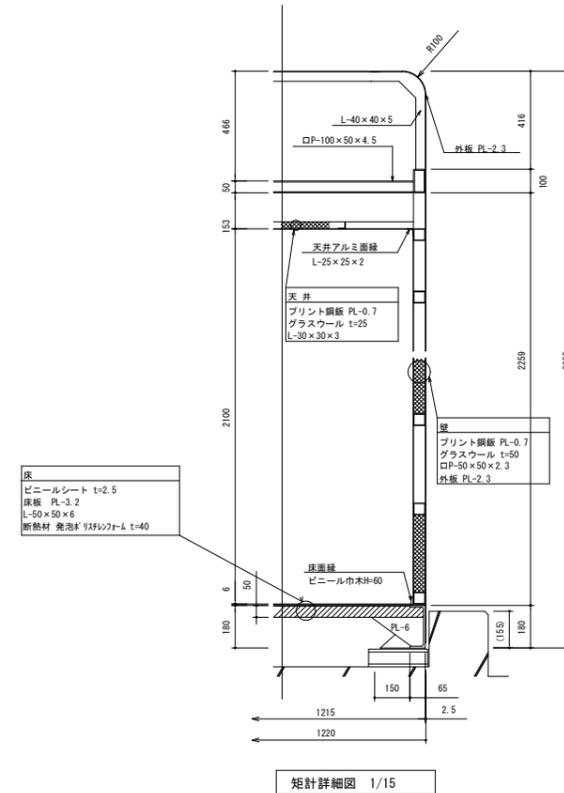
③ 通芯側内観図



⑥ 通芯側内観図



① 通芯側内観図

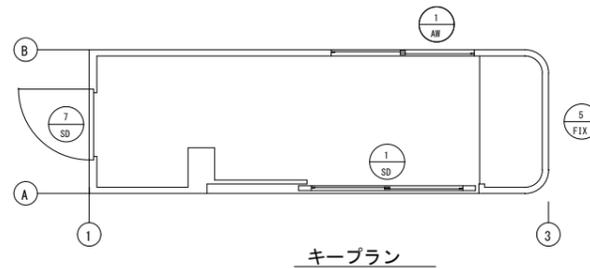


矩計詳細図 1/15

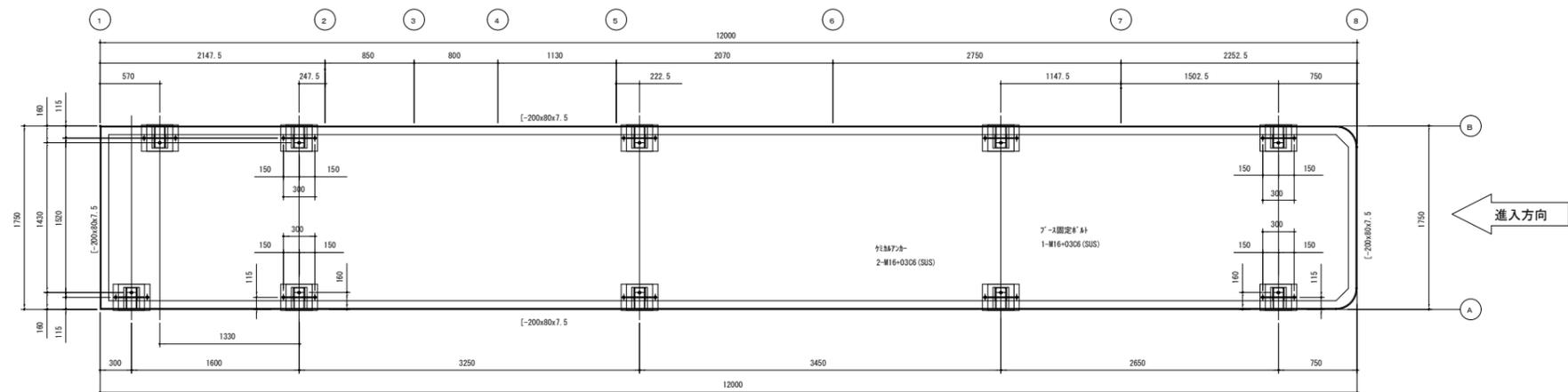
令和 6 年度			
工事名	広島高速 5 号線料金所等新築その他工事		
図面番号	縮尺	S=1/30	
図名	広島駅北口料金所 サブブース 建具表	番号	BA-09
路線名	高速 5 号線		
広島高速道路公社			

建 具 表 (ブース棟分)				
記号・場所	① SD	⑦ SD	① AM	⑤ FIX
	収受室	収受室	収受室	収受室
姿 図				
見込寸法	43.8 (ドア), 48.5 (片引アルミサッシ)	32.8	70 (サッシュ), 93 (枠)	嵌殺し窓 1 61 (枠)
形式・数量	鋼製片引腰高フラッシュ戸 1	鋼製片開フラッシュ戸 1	引違いアルミ窓 1	外板切込
材質・塗装	外. 鋼板 1.6 非汚染形セラミック変性 内. 鋼板 1.2 ポリウレタン樹脂塗装	外. 鋼板 1.6 非汚染形セラミック変性 内. 鋼板 1.2 ポリウレタン樹脂塗装	アルミ 表面アルマイト処理	透明色付アクリル板 t=5 ブラウンスモーク
硝 子	透明半強化ガラス t=5 下半分ボカシ	網入硝子 t=6.8 下半分ボカシ	網入ガラス t=6.8 下半分ボカシ	室内側押え枠 鋼板 t=1.6 (メラミン焼付)
附属金物	ハンガー複数戸車 2 ステンレスプレス把手 2 内掛忍錠 1 (鍵付) アルミ窓 (1300×1066) 1	127mm面付旗丁番 3, 握玉付シリンダー錠 1 アームストッパー 1	室内側サッシュ押え枠 鋼板1.6 (メラミン焼付)	溝ゴム シリコンコーキング
備 考	ガラスウール充填 "T=50 32K"	ガラスウール充填 "T=25 32K"	外板側シリコンコーキング	

(注記) 1. ガラス窓が軽く動くこと。

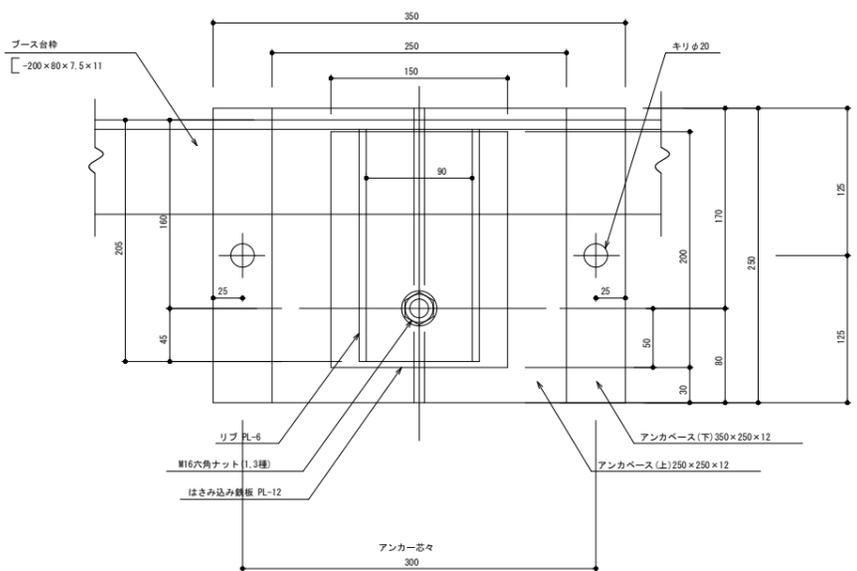


令和 6 年度		
工事名	広島高速5号線料金所等新築その他工事	
図面番号	縮尺	S=1/30, 1/3
図名	広島駅北口料金所 ブースアンカー詳細図(1) メインブース	番号 BA-10
路線名	高速5号線	
広島高速道路公社		

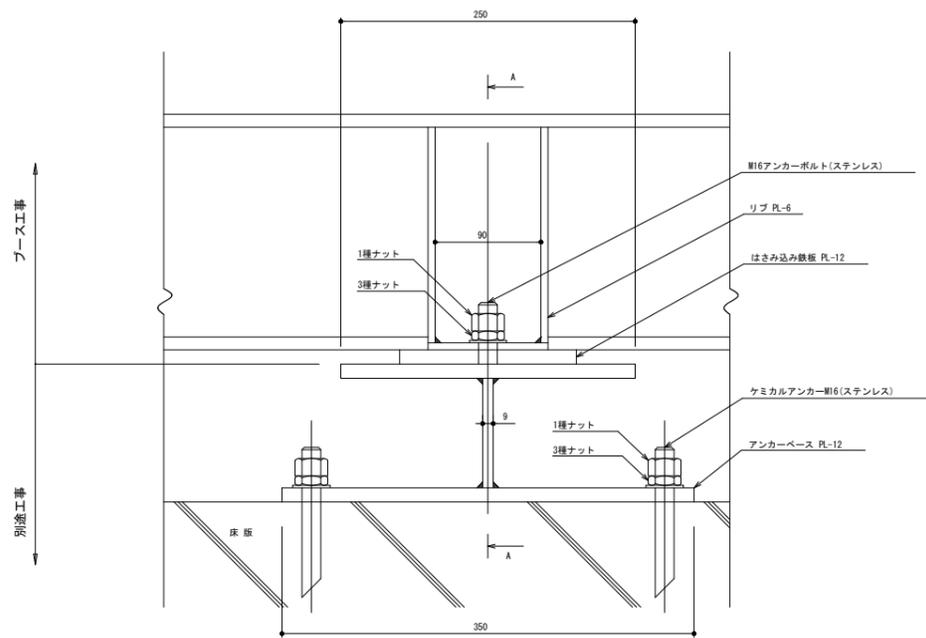


アンカーベース配置図 S=1/30

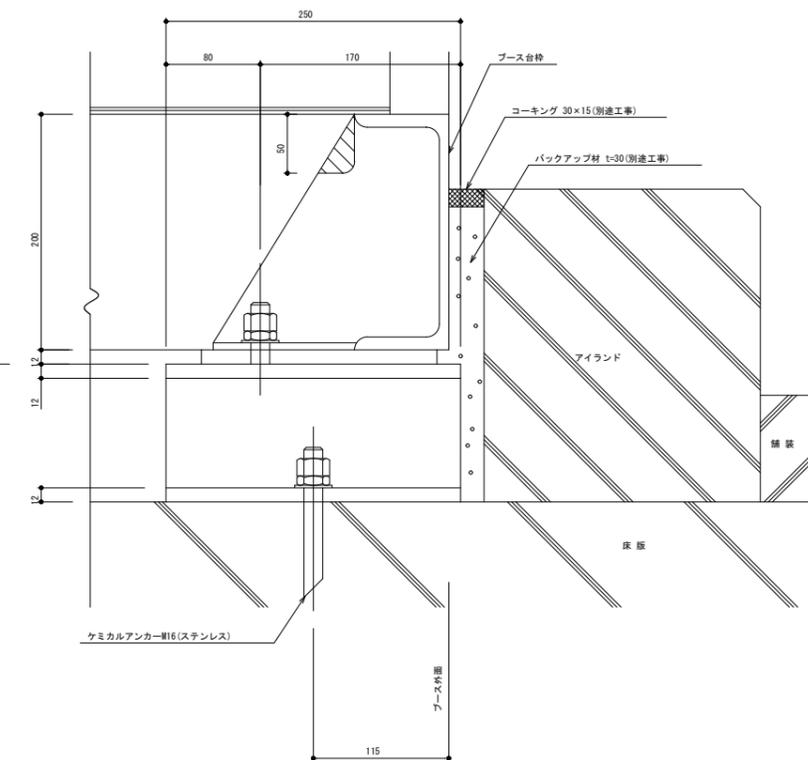
(ベース据付は別途工事)



台枠アンカー取合平面図 S=1/3



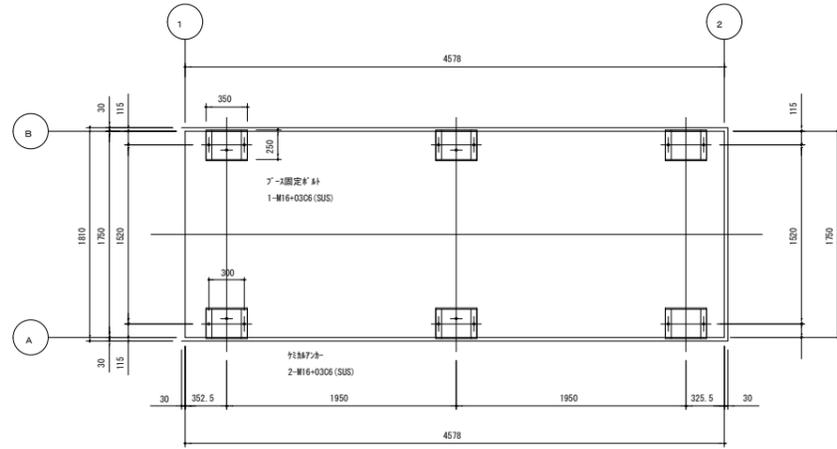
台枠アンカー取合正面図 S=1/3



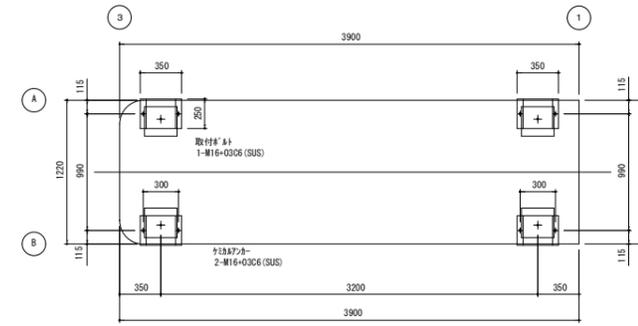
A-A断面図 S=1/3

注記:フロアヒーター設置部のみ斜線部分をカットする。

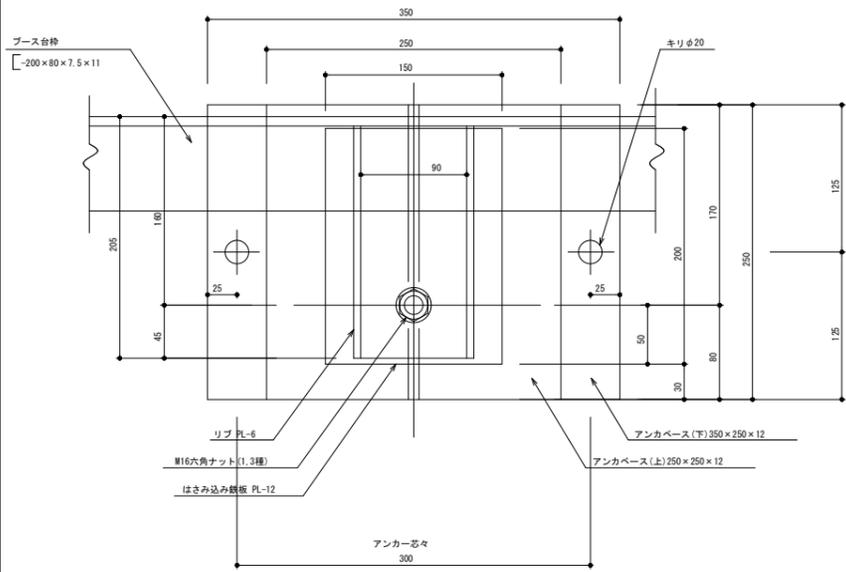
令和 6 年度			
工事名	広島高速5号線料金所等新築その他工事		
図面番号	縮尺	S=1/30 1/3	
図名	広島駅北口料金所 ブースアンカー詳細図(2) 機械室2 サブブース	番号	BA-11
路線名	高速5号線		
広島高速道路公社			



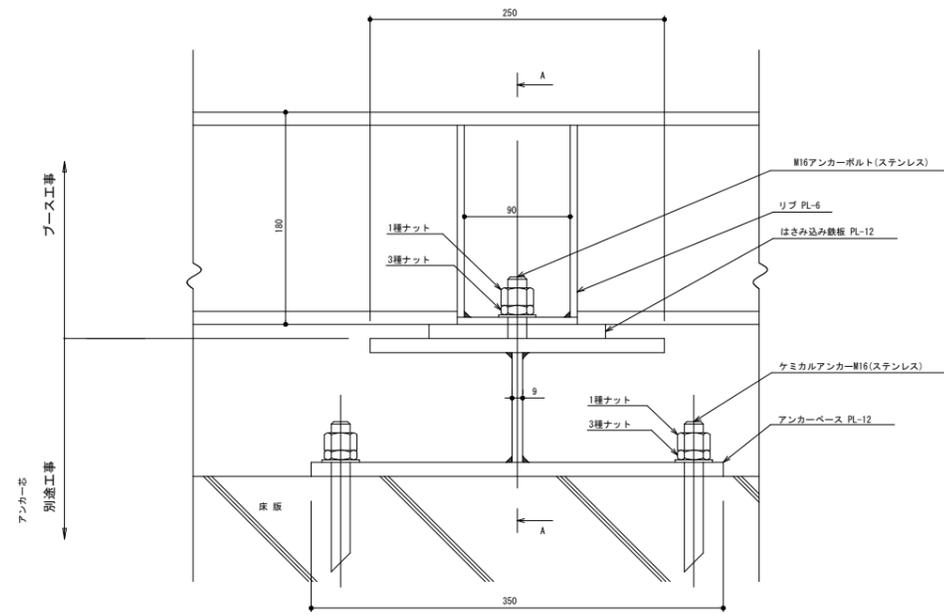
機械室ブースアンカーベース配置図 S=1/30
(ベース振付は別途工事)



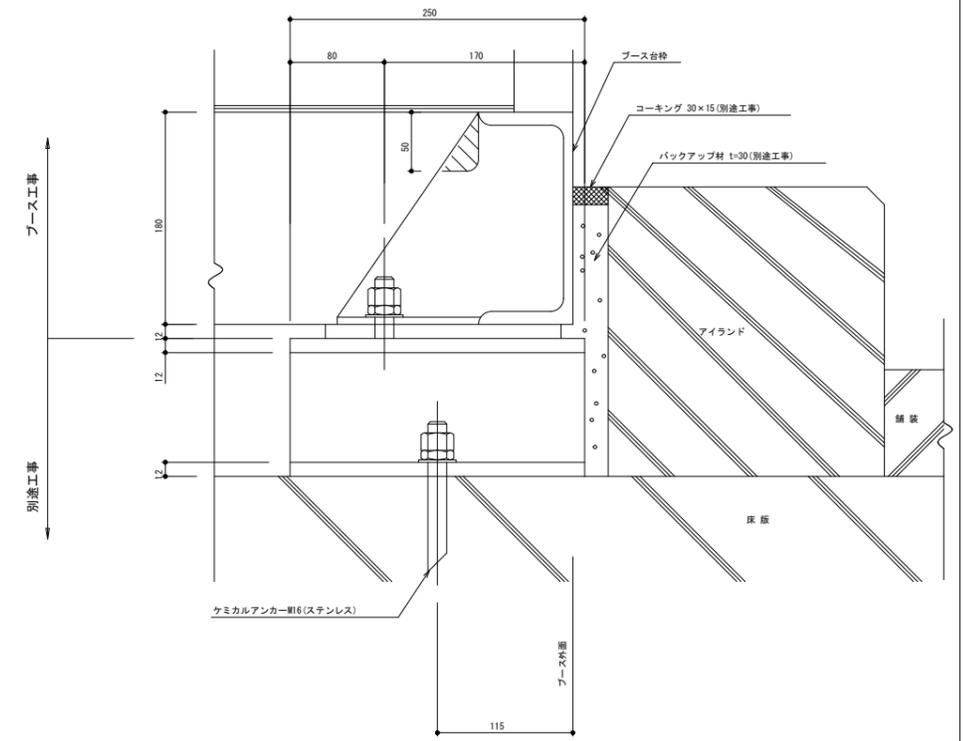
サブアンカーベース配置図 S=1/30
(ベース振付は別途工事)



台枠アンカー取合平面図 S=1/3



台枠アンカー取合正面図 S=1/3



A-A断面図 S=1/3

注記:フロアヒーター設置部のみ斜線部分をカットする。

鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)

1 一般事項

- 1.1 適用範囲
この章は、鉄筋コンクリート造、鉄骨鉄筋コンクリート造等の鉄筋工事に適用する。
- 1.2 基本要項
(a) 鉄筋工事に用いる材料は、所定のものであること。
(b) 組み立てられた鉄筋は、所定の形状及び寸法を有し、所定の位置に保持されていること。また、鉄筋の表面は、所要の状態であること。
(c) 鉄筋の継手及び定着部は、作用する力を伝達できるものであること。
- 1.3 配筋検査
主要な配筋は、コンクリート打込み先立ち、数量、かぶり、間隔、位置等について、監督職員の検査を受ける。
- 1.4 その他準拠基準
・ 壁式構造配筋指針・解説(日本建築学会)

2 材料

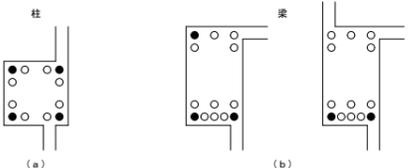
2.1 鉄筋
鉄筋は表2.1により、種類の記号は特記による。

規格番号	規格名称	種類の記号
JIS G 3112	鉄筋コンクリート用棒鋼	S R 235, S R 295 S D 295 A, S D 295 B, S D 345, S D 390
	建築基準法第37条の規定に基づき認定を受けたせん断補強筋	

- 2.2 溶接金網
溶接金網はJIS G 3551(溶接金網及び鉄筋格子)により、網目の形状、寸法及び鉄線の径は特記による。
- 2.3 材料試験
鉄筋の品質を試験により証明する場合は、適用するJIS又は建築基準法に基づき定められた方法により、それぞれ材料に相応したものとする。

3 加工及び組立

- 3.1 一般事項
(a) 鉄筋は、設計図書に指定された寸法及び形状に合わせ、常温で正しく加工して組み立てる。
なお、異形鉄筋の径(この章の本文、図、表において「d」で示す。)は、呼び名に用いた数値とする。
(b) 有害な曲がり又は損傷等のある鉄筋は、使用しない。
(c) コイル状の鉄筋は、直線状態にしてから使用する。この際、鉄筋に損傷を与えない。
(d) 鉄筋には、点付け溶接を行わない。また、アークストライク起してはならない。
- 3.2 加工
(a) 鉄筋の切断は、シヤークッター等によって行う。
(b) 次の部分に使用する異形鉄筋の末端部には、フックを付ける。
(1) 柱の四隅にある主筋で、重ね継手の場合及び最上階の柱頭にある場合。
(2) 梁主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の間隔にある場合(基礎梁を除く。)
(3) 煙突の鉄筋(壁の一部となる場合を含む。)
(4) 杭基礎のベース筋
(5) 帯筋、あばら筋及び幅止め筋



(c) 鉄筋の折曲げ内法直径及びその使用箇所は、表3.1及び表3.2による。

表3.1 鉄筋の折曲げ内法直径及びその使用箇所(末端部)

折曲げ角度	折曲げ図	折曲げ内法直径(D)			使用箇所
		S D 295 A, S D 295 B S D 345	D 16 以下	D 19 ~D 38	
180°		3 d 以上	4 d 以上	5 d 以上	柱・梁の主筋 杭基礎のベース筋 D16以上の鉄筋
135° 及び 90°		3 d 以上	4 d 以上	5 d 以上	あばら筋、帯筋、 スパイラル筋 D13以下の鉄筋
90°		3 d 以上	4 d 以上	5 d 以上	T形及びL形の 梁のあばら筋
135° 及び 90°		3 d 以上	4 d 以上	5 d 以上	幅止め筋

表3.2 鉄筋の折曲げ内法直径及びその使用箇所(中間部)

折曲げ角度	折曲げ図	折曲げ内法直径(D)			使用箇所
		S D 295 A, S D 295 B S D 345, S D 390(注)	D 16 以下	D 19 ~D 25	
90° 以下		3 d 以上	4 d 以上	—	あばら筋、帯筋、 スパイラル筋
		4 d 以上 (5 d 以上)	6 d 以上 (6 d 以上)	8 d 以上 (8 d 以上)	その他の鉄筋

(注) SD390は、使用箇所が、その他の鉄筋の場合に、()内を適用する。

- 3.3 組立
鉄筋の組立は、鉄筋継手部分及び交差部の要所を径0.8mm以上の鉄線で結束し、適切な位置にスペーサー、吊金物等を使用して行う。
なお、スペーサーは、転倒及び作業荷重等に耐えられるものとし、スラブのスペーサーは、原則として、鋼製とする。また、鋼製のスペーサーは、型枠に接する部分に防錆処理を行ったものとする。

- 3.4 継手及び定着
(a) 鉄筋の継手は重ね継手、ガス圧接継手、機械式継手又は溶接継手とし、適用は特記による。特記又は該当する章での指定がなければ、柱及び梁の主筋はガス圧接とし、その他の鉄筋は重ね継手とする。
(b) 鉄筋の重ね継手は、次による。
なお、径が異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細い鉄筋の径による。
(1) 柱及び梁の主筋並びに耐力壁の鉄筋の重ね継手の長さは、特記による。耐力壁の鉄筋の重ね継手の場合、特記がなければ、40dと表3.3の重ね継手長さのうち大きい値とする。
(2) (1)以外の鉄筋の重ね継手の長さは、表3.3による。

表3.3 鉄筋の重ね継手の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度(Fc)(N/mm ²)	L ₁	
		フックなし	フックあり
S D 295 A S D 295 B	18	45 d	35 d
	21	40 d	30 d
	24, 27	35 d	25 d
	30, 33, 36	35 d	25 d
S D 345	18	50 d	35 d
	21	45 d	30 d
	24, 27	40 d	30 d
	30, 33, 36	35 d	25 d
S D 390	21	50 d	35 d
	24, 27	45 d	35 d
	30, 33, 36	40 d	30 d

- (注) 1. L₁ : 重ね継手の長さ
2. フックありの場合のL₁は、図3.1に示すようにフック部分Iを含まない。
3. 軽量コンクリートの場合は、表の数値に5dを加えたものとする。
- 図3.1 フックありの場合の重ね継手の長さ
- (3) 隣り合う継手の位置は、表3.4による。ただし、壁の場合及びスラブ筋でD16以下の場合を除く。
なお、先組み工法等で、柱、梁の主筋の継手を同一箇所には、特記による。

表3.4 隣り合う継手の位置

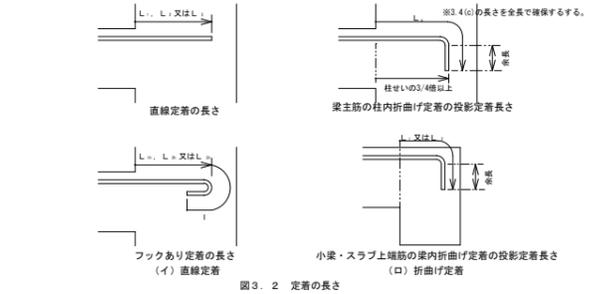
フックありの場合	フックなしの場合	圧接継手・溶接継手	機械式継手の場合
a=0.5L ₁	a=0.5L ₁	a≧0.5L ₁	aは、400mm以上、かつ、(b+40)mm以上

- (c) 鉄筋の定着は、次による。
(1) 柱に取り付ける梁の引張り鉄筋の定着の長さは、表3.5により、適用は特記による。
(2) (1)以外の鉄筋の定着の長さは、表3.5により、適用は特記による。

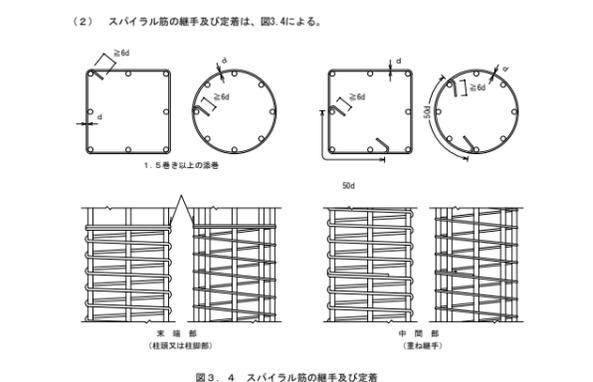
表3.5 鉄筋の定着の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度(Fc)(N/mm ²)	直線定着の長さ				フックあり定着の長さ			
		L ₁	L ₂	小梁	スラブ	L _{1a}	L _{1b}	小梁	スラブ
S D 295 A S D 295 B	18	45 d	40 d	—	—	35 d	30 d	—	—
	21	40 d	35 d	—	—	30 d	25 d	—	—
	24, 27	35 d	30 d	—	—	25 d	20 d	—	—
	30, 33, 36	35 d	30 d	—	—	25 d	20 d	—	—
S D 345	18	50 d	40 d	20 d	10 d かつ 150mm 以上	35 d	30 d	10 d	—
	21	45 d	35 d	—	—	30 d	25 d	—	—
	24, 27	40 d	35 d	—	—	30 d	25 d	—	—
	30, 33, 36	35 d	35 d	—	—	25 d	20 d	—	—
S D 390	21	50 d	40 d	—	—	35 d	30 d	—	—
	24, 27	45 d	40 d	—	—	35 d	30 d	—	—
	30, 33, 36	40 d	35 d	—	—	30 d	25 d	—	—

- (注) 1. L₁ : 2. 及び3. 以外の定着長さ。
2. L₂ : 新築時のおそれのない箇所への定着長さ。
3. L_{1a} : 小梁及びスラブの下端部の定着長さ。ただし、基礎新設スラブ及びこれを受ける小梁を除く。
4. フックありの場合のL_{1a}、L_{1b}及びL₂は、図3.2に示すようにフック部分Iを含まない。
なお、フックありの場合、中間部で折曲げを行わない。
5. 軽量コンクリートの場合は、表の数値に5dを加えたものとする。
- (3) 定着の方法は、図3.2による。
なお、梁主筋の柱内定着において、縦に折り曲げて定着する場合は、図3.2(d)に示すように、原則として柱せいの3/4倍以上とする。ただし、折り曲げた先の直線部の長さが10dに満たなくなる場合は、監督職員と協議する。



- (d) その他の鉄筋の継手及び定着は、次による。
(1) 溶接金網の継手及び定着は、図3.3による。
なお、L₁及びL₂は表3.5の(注)による。
- 図3.3 溶接金網の継手及び定着
- (2) スパイラル筋の継手及び定着は、図3.4による。



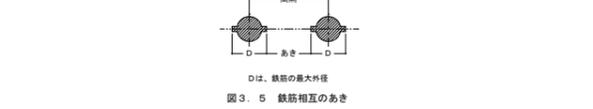
- 3.5 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔
(a) 鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さは、表3.6による。ただし、柱及び梁の主筋にD25以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上確保するように最小かぶり厚さを定める。

表3.6 鉄筋の最小かぶり厚さ(単位:mm)

構造部分の種別	最小かぶり厚さ	
	仕上げあり	仕上げなし
土に接しない部分	スラブ、耐力壁以外の壁	20
	柱、梁、耐力壁	30
	屋外	40
	屋内	30
土に接する部分	基礎、埋設スラブ	40
	柱、梁、スラブ、壁	40
煙突等腐食を受ける部分	基礎、埋設スラブ	60

- (注) 1. *部のかぶり厚さは、普通コンクリートに適用し、軽量コンクリートの場合は、特記による。
2. 「仕上げあり」とは、モルタル塗り等の仕上げのあるものとし、鉄筋の耐久性上有効でない仕上げ(仕上り材、塗装等)のものを除く。
3. スラブ、梁、基礎及び埋設で、直接土に接する部分のかぶり厚さは、隣コンクリートの厚さを含まない。
4. 杭基礎の場合のかぶり厚さは、杭径からとする。
5. 腐食を受けるおそれのある部分等、耐久性上不利な箇所は、特記による。

- (b) 柱、梁等の鉄筋の加工に用いるかぶり厚さは、最小かぶり厚さに10mmを加えた数値を標準とする。
(c) 鉄筋組立後のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。
(d) 鉄筋相互のあきは図3.5により、次の値のうち最大のもの以上とする。ただし、特殊な鉄筋継手の場合は、特記による。
(1) 粗骨材の最大寸法の1.25倍
(2) 25mm
(3) 隣り合う鉄筋の平均径(3.1(a)によるd)の1.5倍



- (a) 鉄骨鉄筋コンクリート造の場合、主筋と平行する鉄骨とのあきは、(d)による。
(f) 貫通孔に挿する鉄筋のかぶり厚さは、(c)による。

- 3.6 鉄筋の保護
(a) 鉄筋の組立後、スラブ、梁等には、歩み板を置き渡し、直接鉄筋の上を歩かないようにする。
(b) コンクリート打込みによる鉄筋の乱れは、なるべく少なくする。特に、かぶり厚さ、上端筋の位置及び間隔の保持に努める。

鉄筋コンクリート構造配筋標準図(2)

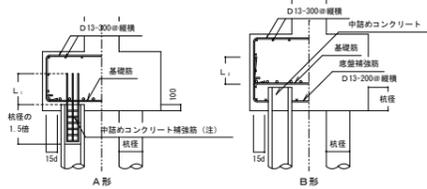
4 基礎及び基礎梁の配筋

4.1 杭基礎

杭基礎の配筋及び杭頭部の補強方法は、次による。

なお、本文中の3つの数字は、公共建築工事標準仕様書(建築工事編)の章・節・項を示している。また、図中の寸法の単位はmmとし、単位記号は省略する。(以下、この別図において同じ。)

- 既製コンクリート杭の杭頭部の補強方法は、図1.1のA形又はB形とし、適用は特記による。特記がなければ、B形とする。
- 中詰めコンクリートは、基礎のコンクリートと同じ割合のコンクリートを使用する。
- 既製コンクリート杭以外の場合は、特記による。



(注) 1. 中詰めコンクリート補強は、次による。

- 杭径300φ以下 ……4-D13
- 350~400φ ……6-D13
- 450~600φ ……8-D13
- 600φ以上 ……10-D100φ

2. 中詰めコンクリート補強には、フックを付けない。

図1.1 杭基礎の配筋及び杭頭部の補強方法

4.2 直接基礎

(a) 直接基礎(独立基礎)の場合の配筋は、図1.2(1)による。

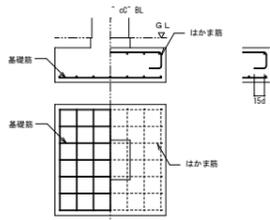


図1.2 独立基礎の配筋

(b) 直接基礎(連続基礎)の場合の配筋は、図1.3による。

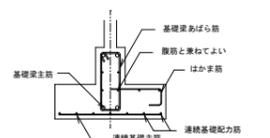


図1.3 連続基礎の配筋

4.3 基礎接合部の補強

基礎接合部の補強配筋は、図1.4による。

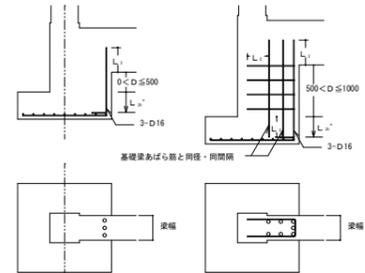


図1.4 基礎接合部の補強配筋

4.4 基礎梁

(a) 一般事項

- 上端主筋の定着は、やむを得ない場合、上向きとすることができる。

- 梁筋は、原則として、柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことができない場合は、柱内に定着する。ただし、やむを得ず梁内に定着する場合は、図1.5による。
- 梁筋を柱内に定着する場合は、3.1(a)(4)による。

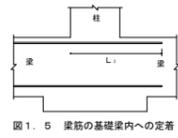


図1.5 梁筋の基礎梁内への定着

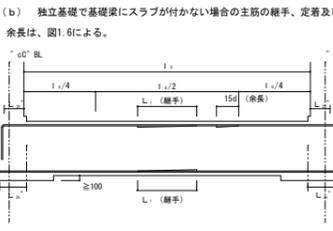


図1.6 主筋の継手、定着及び余長(その1)

(c) 独立基礎で基礎梁にスラブが付く場合の主筋の継手、定着及び余長は、図1.7による。ただし、耐圧スラブが付く場合は、(d)による。

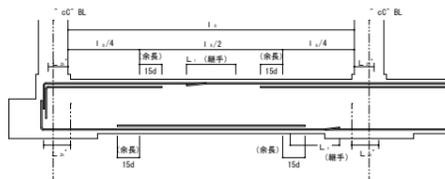


図1.7 主筋の継手、定着及び余長(その2)

(d) 連続基礎及びべた基礎の場合の主筋の継手、定着及び余長は、図1.8による。

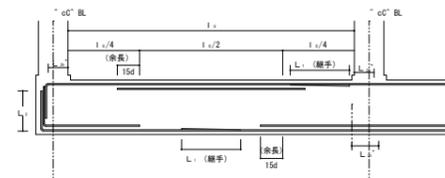


図1.8 主筋の継手、定着及び余長(その3)

- 図示のない事項は3.1による。
- 印は、継手及び余長位置を示す。
- 破線は、柱内定着の場合を示す。
- L₁ を確保できない場合は3.4(c)(3)によることができる。

4.5 基礎梁のあばら筋等

(a) あばら筋

- あばら筋の径及び間隔は、特記による。
- あばら筋組立ての形及びフックの位置は、3.2(b)による。ただし、梁の上下端にスラブが付く場合で、かつ、梁せいが1.5m以上の場合は、図1.9によることができる。

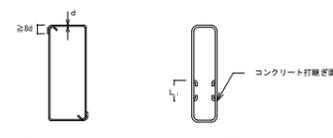


図1.9 あばら筋組立の形及びフックの位置

- 腹筋及び幅止め筋は、3.2による。ただし、梁せいが1.5m以上の場合は、特記による。
- あばら筋の割付けは、3.2(a)による。

4.6 基礎梁の補強

(a) 打増し補強筋は、3.3による。

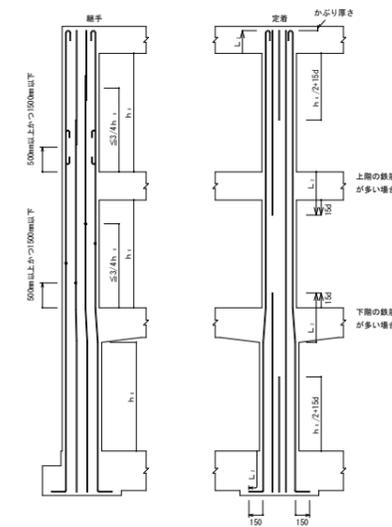
- 土間スラブ等の打増し補強筋は、5.3(c)及び(d)による。

5 柱の配筋

5.1 柱

柱主筋の継手、定着及び余長は、次による。

- 継手中心位置は、梁上端から500mm以上、1500mm以下、かつ、 $3/4h$ (h は柱の内法高さ) 以下とする。
- 継手、定着及び余長は図2.1による。ただし、柱頭定着長さL₁が確保できない場合は、オールフック付とする。



- 5.3.2 [加工] (b) (1) で定めた鉄筋には、フックを付ける。
- 異なる継手の位置は、5.3.4による。
- 継手、定着は、すべての層に適用できる。

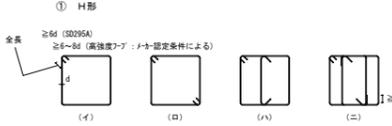
図2.1 柱主筋の継手、定着及び余長

5.2 帯筋

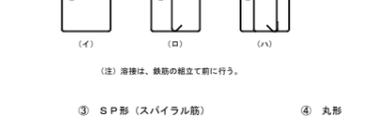
(a) 帯筋の種類及び間隔は、特記による。

(b) 帯筋組立ての形は図2.2により、適用は特記による。特記がなければ、次による。

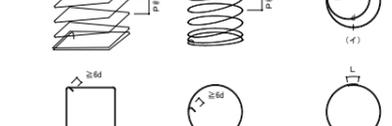
- H形とする。
- H形の135°曲げのフックが困難な場合は、W-I形とする。
- 溶接する場合の溶接長さは、両面フレア溶接の場合は5d以上、片面フレア溶接の場合は10d以上とする。



- S-P形(スパイラル筋)
- 丸形



- S-P形(スパイラル筋)
- 丸形

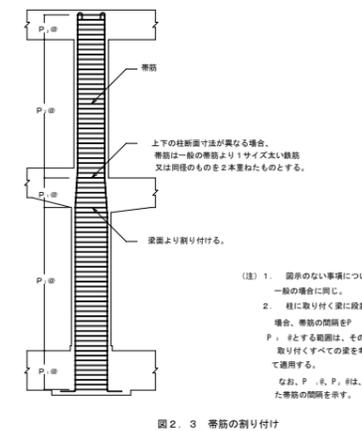


- S-P形(スパイラル筋)
- 丸形



図2.2 帯筋組立の形

- フック及び継手の位置は、交互とする。
- 帯筋の割付けは、特記による。特記がなければ、図2.3による。



- 図示のない事項については、一般の場合と同じ。
- 柱に取り付けに段差がある場合、帯筋の間隔をP₁又はP₂とする範囲は、その柱に取り付けずべての梁を考慮して適用する。なお、P₁、P₂、P₃は、特記された帯筋の間隔を示す。

図2.3 帯筋の割り付け

5.3 柱の打ち増し補強

- 柱の打ち増し補強筋は図2.4により、打増し幅が70mm以上の場合を示す。
- 帯筋と同一方向の補強筋は、帯筋と同径・同材質・間隔とし、定着長さL₁とする。
- 軸方向の補強筋間隔は300mm以下とする。

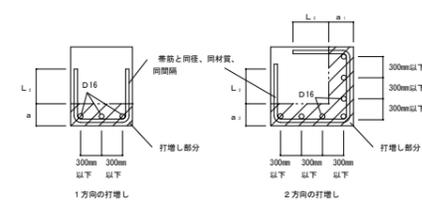


図2.4 柱の打ち増し補強筋

6 梁の配筋

6.1 大梁

(a) 大梁主筋の継手及び定着の一般事項

- 継手中心位置は、次による。
上端筋：中央 $1/2$ 以内
下端筋：柱面より梁せい(D)以上とし、 $1/4$ を介した範囲以内
- 継手中心部の位置、継手長さはL₁とし、定着長さ及び余長は図3.3及び図3.4による。
- 梁主筋は、原則として柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことができない場合は、(4)により柱内に定着することができる。ただし、やむを得ず梁内に定着する場合は、図3.1による。

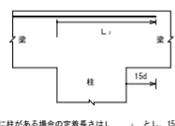


図3.1 梁主筋の梁内定着

- 梁主筋を柱内に折り曲げて定着する場合は、次による。
なお、定着の方法は、5.3.4 [継手及び定着] (b) (2)による。
上端筋：曲げ降ろす。
下端筋(一般)：曲げ上げる。ただし、やむを得ない場合は、監督職員の手配を受けて、曲げ降ろすことができる。
下端筋(ハンチ付き)：曲げ降ろす。
- 梁にハンチをつける場合、その傾斜は特記による。特記がなければ1:4とする。
- 段違い梁は、図3.2によることができる。

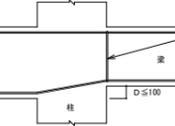
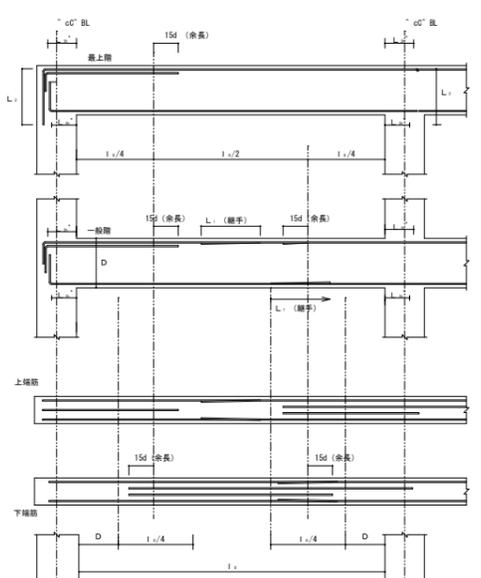


図3.2 段違い梁

- 上端に柱がある場合の定着長さはL₁とし、15dを確保できる。
- 上上げ筋は、一般のあばら筋より1サイズ大きい鉄筋又は同等のものを用いる。

図3.2 (continued)

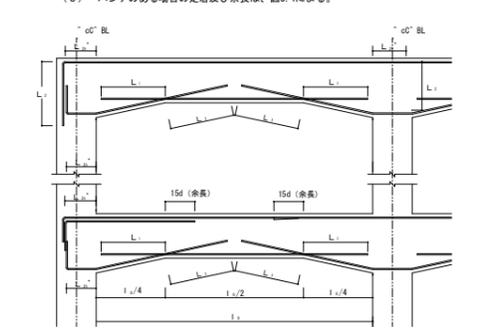
(b) ハンチのない場合の重ね継手、定着及び余長は、図3.3による。



- 5.3.2 [加工] (b) (2) で定めた鉄筋には、フックを付ける。
- 印は、継手及び余長を示す。
- 破線は、柱内定着の場合を示す。
- L₁ を確保できない場合は3.4(c)(3)によることができる。

図3.3 大梁の重ね継手、定着及び余長

(c) ハンチのある場合の定着及び余長は、図3.4による。



- 5.3.2 [加工] (b) (2) で定めた鉄筋には、フックを付ける。
- 印は、継手及び余長を示す。
- 梁内定着の下部下端筋が挿入するときは、のようにつなぐことができる。
- 破線は、柱内定着を示す。
- L₁ を確保できない場合は、3.4(c)(3)によることができる。

図3.4 ハンチのある大梁の定着及び余長

6.2 あばら筋等

(a) あばら筋、腹筋及び幅止め筋の一般事項

- あばら筋の種類、径及び間隔は、特記による。
- 腹筋に継手を設ける場合の継手長さは、150mm程度とする。
- 壁梁の場合、腹筋の定着長さ及び継手長さは、特記による。特記がなければL₁とする。
- 幅止め筋及び受け用幅止め筋は、D10-1000φ程度とする。

(b) あばら筋組立ての形及びフックの位置

- 形は、図3.5(イ)とする。ただし、L形梁の場合は、(ロ)又は(ハ)、T形梁の場合は(イ)~(ニ)とすることができる。

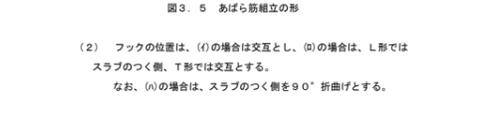


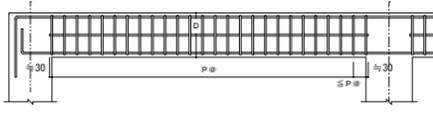
図3.5 あばら筋組立の形

- フックの位置は、(イ)の場合は交互とし、(ロ)の場合は、L形ではスラブのつく側、T形では交互とする。
なお、(ハ)の場合は、スラブのつく側を90°折曲げとする。

鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (3)

(c) あばら筋の割付け

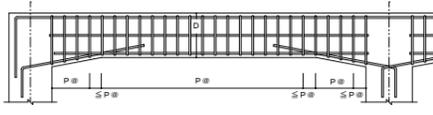
(1) 間隔が一律で、ハンチのない場合は、図3.6による。



(注) 1. あばら筋は、柱面位置から割付ける。
2. 図中のP#は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

図3.6 あばら筋の割付け (その1)

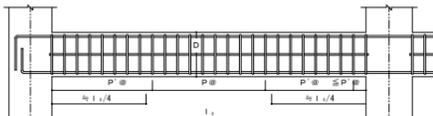
(2) 間隔が一律で、ハンチのある場合は、図3.7による。



(注) 1. あばら筋は、柱面位置から割付ける。
2. 図中のP#は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

図3.7 あばら筋の割付け (その2)

(3) 梁の端部で間隔の異なる場合は、図3.8による。



(注) 1. あばら筋は、柱面位置から割付ける。
2. 図中のP#、P' #は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

図3.8 あばら筋の割付け (その3)

(d) 腹筋及び幅止め筋

(1) 一般の要は、図3.9による。

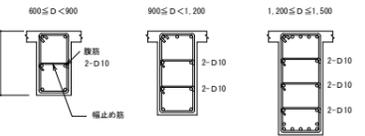


図3.9 腹筋及び幅止め筋 (その1)

(2) 壁梁の場合は、図3.10による。

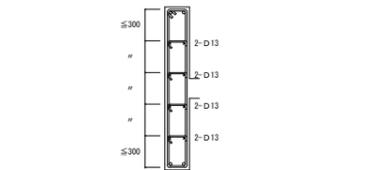
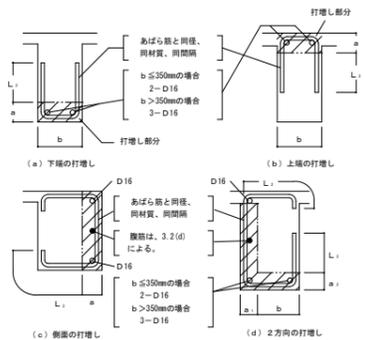


図3.10 腹筋及び幅止め筋 (その2)

6.3 梁の打増し補強

(a) 梁の打増し補強配筋は図3.11により、打増し幅が70mm以上の場合を示す。
(b) 帯筋と同一方向の補強筋は、帯筋と同径・同材質・同間隔とし、定着長さLとする。

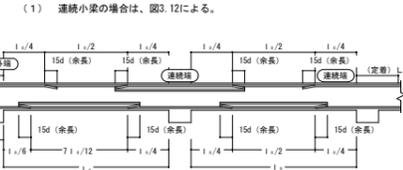


(注) 70mm ≤ a、a、a' の場合

図3.11 梁の打増し補強配筋

6.4 小梁

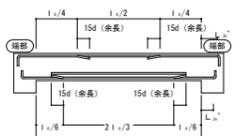
(a) 小梁主筋の継手、定着及び余長



(注) 1. 印は、継手及び余長位置を示す。
2. 図示のない事項は、1.4及び3.11に準ずる。

図3.12 小梁主筋の継手、定着及び余長 (その1)

(2) 単独小梁の場合は、図3.13による。



(注) 1. 印は、継手及び余長位置を示す。
2. 図示のない事項は、1.4及び3.11に準ずる。

図3.13 小梁主筋の継手、定着及び余長 (その2)

(3) L、L' を確保できない場合は3.4(a)(3)によることができる。

図3.13 小梁主筋の継手、定着及び余長 (その2)

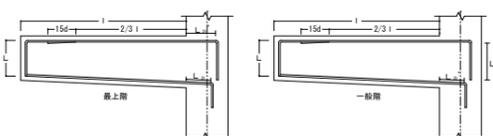
(b) あばら筋は、3.2による。

(c) 打増し補強筋は、3.3による。

6.5 片持梁

(a) 片持梁主筋の定着及び余長

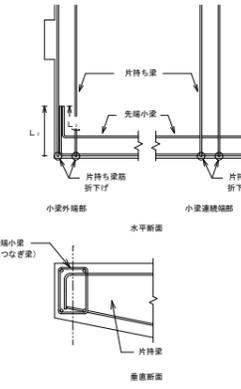
(1) 先端に小梁のない場合は、図3.14による。



(注) 1. 図示のない事項は3.11による。
2. 印は、余長を示す。
3. 先端の折曲げの長さLは、梁せいのより厚さを除いた長さとする。
4. 腹筋を引き過ぎない場合は、取合い材材に定着する。ただし、柱に取合する場合、全取合位置で定着する。上層筋は、2本以上を柱に定着する。
5. L、L' を確保できない場合は3.4(a)(3)によることができる。

図3.14 片持梁主筋の定着及び余長 (先端に小梁のない場合)

(2) 先端に小梁がある場合は、図3.15による。



(注) 1. 図示のない場合は、(1)による。
2. 先端小梁端部の主筋は、片持梁内に水平定着する。
3. 先端小梁の連続筋は、片持梁の先端を貫通する過し筋としてよい。

図3.15 片持梁主筋の定着

(b) あばら筋は、3.2による。

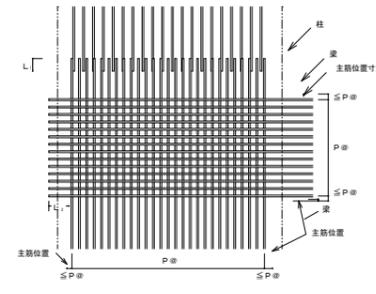
(c) 打増し補強筋は、3.3による。

7 壁、その他の配筋

7.1 壁

(a) 一般事項

(1) 壁配筋の重ね継手及び定着の長さは、特記がなければLとする。
(2) 土圧等を受ける壁及び耐震壁として特記されたものは、重ね継手をLとし、定着長さをL'とする。
(3) 重ね継手及び定着の長さが取れない場合は、監督職員と協議する。
(4) 幅止め筋は、縦横ともD10-1,000程度とする。
(5) 一般部壁の配筋は、図4.1による。



(注) 図中のP#は、特記された壁筋の間隔を示す。

図4.1 壁の配筋

(b) 壁の基準配筋は表4.1により、種別は特記による。

種別	縦筋及び横筋	断面図
W10	D10-250@シングル	100
W12	D10-200@シングル	120
W15A	D10-150@シングル	150
W15B	D10-100@シングル	150
W18A	D10-200@ダブル	180
W18B	D10-150@ダブル	180
W20A	D10-200@ダブル	200
W20B	D10-150@ダブル	200

(注) 壁筋の配筋順序は、規定しない。

(c) 片持スラブ形階段を受ける壁の基準配筋は表4.2により、種別は特記による。

種別	縦筋及び横筋	断面図	階段の配筋種別 (表6.1)
KW1	縦筋 D13-200@ ダブル	100	KA 1
	横筋 D10-200@ ダブル		
KW2	縦筋 D13-150@ ダブル	200	KA 2
	横筋 D10-200@ ダブル		

(注) 縦筋は、横筋の外側に配筋する。

(d) 壁の交差部及び端部の配筋は、図4.2による。

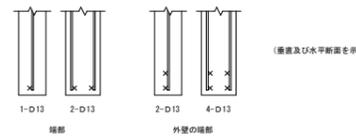
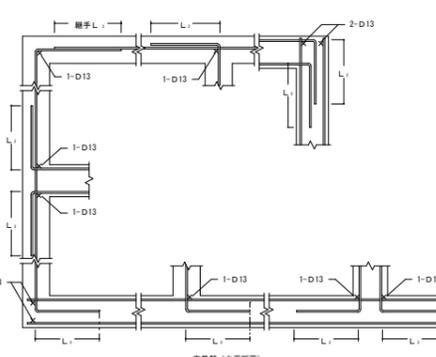


図4.2 壁の交差部及び端部の配筋

7.2 壁の補強

(a) 壁開口部の補強

(1) 耐震壁を除く壁開口部の補強筋はA形は表4.3、B形は表4.4とし、適用は特記による。特記がなければ、B形とする。
なお、耐震壁の補強筋は、特記による。

壁の種別	補強筋	
	縦、横	斜め
W12、W15	1-D13	1-D13
W18、W20	2-D13	2-D13

壁の種別	補強筋	
	縦、横	斜め
W12、W15	2-D13	1-D13
W18、W20	4-D13	2-D13

(2) 壁開口部補強の定着長さは、図4.3による。

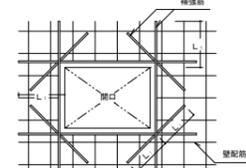


図4.3 壁開口部補強筋の定着長さ

(3) 開口部が柱及び梁に接する部分又は最大径が300mm以下で鉄筋を緩やかに曲げることにより開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。

(b) コンセントボックス等を壁に埋め込む場合の補強は、特記による。

(c) 壁の打増し補強配筋

壁の打増し補強配筋は図4.4により、打増し厚さaが50mm以上の場合に適用する。

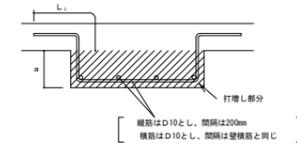


図4.4 壁の打増し補強配筋

7.3 パラベット

パラベットの配筋は、表4.5による。

コンクリート厚さ	方向	配筋	先端補強筋
特記による	縦	D10-150ダブル	D10-150@ 4-D13
	横	D10-150ダブル	D10-150@ 4-D13

8 スラブの配筋

8.1 スラブ

スラブの配筋は、次による。

(1) スラブの基準配筋 (S形基準配筋) は表5.1及び図5.1により、配筋種別及びスラブ厚さは、特記による。

表5.1 S形基準配筋

配筋種別	短辺方向 (主筋)		長辺方向 (主筋)	
	全域	配筋	全域	配筋
S1	D13-100@	S8	D10、D13-150@	D10-150@
S2	同上	S9	同上	D10-200@
S3	同上	S10	D10、D13-200@	D10、D13-200@
S4	D13-150@	S11	同上	D10-200@
S5	同上	S12	同上	D10-250@
S6	同上	S13	D10-200@	D10-200@
S7	D10、D13-150@	S14	同上	D10-250@

(注) 上層筋、下層筋とも同一配筋とする。



図5.1 スラブの配筋

(2) 鉄筋の割付けは、中央から行い、端部は定められた間隔以下とする。
(3) 鉄筋の重ね継手長さは、L'とする。
(4) 定着長さ及び受け筋は、図5.2による。ただし、引き通すことができない場合は、図5.3により梁内に定着する。

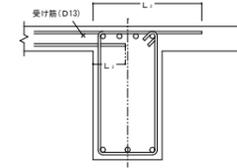


図5.2 スラブ筋の定着長さ及び受け筋 (その1)

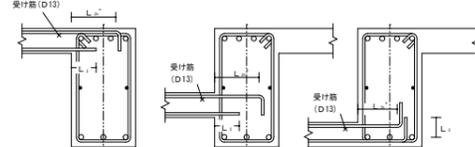


図5.3 スラブ筋の定着長さ及び受け筋 (その2)

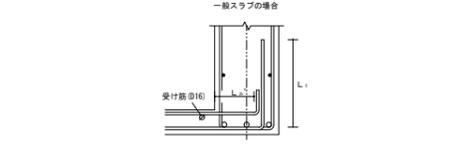


図5.3 スラブ筋の定着長さ及び受け筋 (その2)

8.2 片持スラブ

片持スラブの配筋は、次による。

(1) 片持スラブの基準配筋 (CS形基準配筋) は表5.2並びに図5.4及び図5.5により、配筋種別及びスラブ厚さは、特記による。

表5.2 CS形基準配筋

配筋種別	主筋		配筋種別	主筋	
	上	下		上	下
CS1	上	D13-100@	CS5	上	D10-200@
	下	D13-200@		下	D10-400@
CS2	上	D13-150@	CS6	上	D10、D13-200@
	下	D13-300@		下	—
CS3	上	D10、D13-150@	CS7	上	D10-200@
	下	D10、D13-300@		下	—
CS4	上	D10、D13-200@	CS5	上	D10-200@
	下	D10-200@		下	—

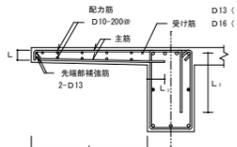
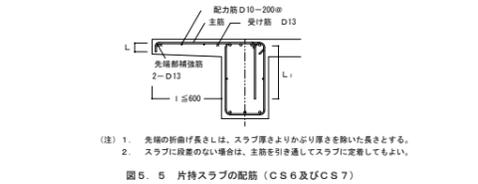


図5.4 片持スラブの配筋 (CS1からCS5)

(注) 1. 先端の折曲げの長さLは、スラブ厚さより厚さを除いた長さとする。
2. スラブに取合のない場合は、主筋を引き通してスラブに定着してもよい。

鉄筋コンクリート構造配筋標準図(4)



(注) 1. 先端の折曲げ長さは、スラブ厚よりかぶり厚を除いた長さとする。
2. スラブに設置のない場合は、主筋を引き通してスラブに定着してもよい。

図5.5 片持スラブの配筋 (CS6及びCS7)

(2) 先端に壁が付く場合の配筋は、図5.6による。

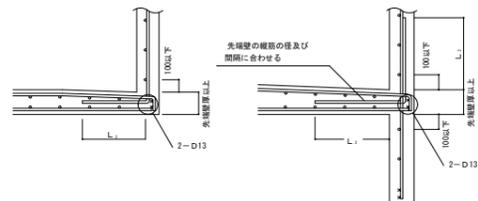


図5.6 先端に壁が付く場合の配筋

(3) 出隅部

(i) 補強の配筋は、特記による。特記がなければ、D10-100φダブルとする。配筋方法は、図5.7による。

(ii) 出隅受け部 (図5.7の斜線部分) の補強筋は、特記による。

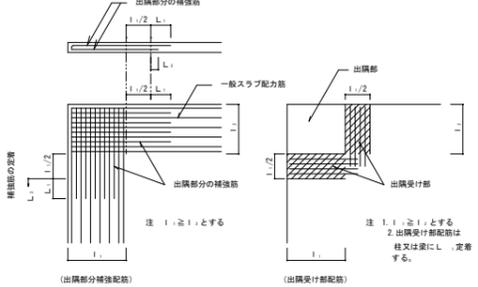


図5.7 片持スラブ出隅部の補強配筋

8.3 スラブ等の補強

(a) スラブ開口部の補強

スラブ開口部の補強は、特記による。特記がなければ、次による。

(i) スラブ開口の最大径が700mm以下の場合、図5.8により開口によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し、隅角部に斜め方向に2-D10 (1=2L) シングルを上下筋の内側に配筋する。

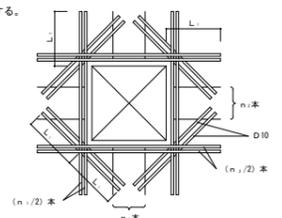


図5.8 スラブ開口部の補強配筋

(ii) スラブ開口の最大径が隅方向の配筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。

(b) 屋根スラブの補強

屋根スラブの出隅及び入隅部分には、図5.9により、補強筋を上端筋の下側に配置する。

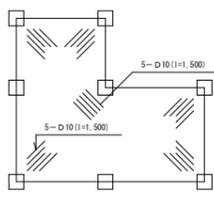


図5.9 出隅部及び入隅部の補強配筋

(c) 土間スラブの打継ぎ補強

基礎梁とスラブを一体打ちとしないで、打継ぎを設ける場合の補強は、特記による。特記がなければ、図5.10による。ただし、土間スラブとは、土に接するスラブでS形の配筋によるものをいう。

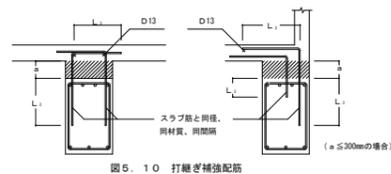


図5.10 打継ぎ補強配筋

(d) 土間コンクリートの補強

土間コンクリートの補強筋は、特記による。なお、基礎梁との接合部は、図5.11による。

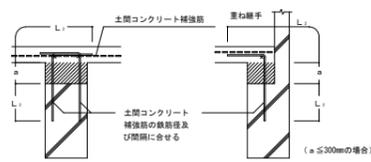


図5.11 土間コンクリートと基礎梁との接合部配筋

(e) 段差のあるスラブの補強

150mm以下の段差のあるスラブの補強は、図5.12による。

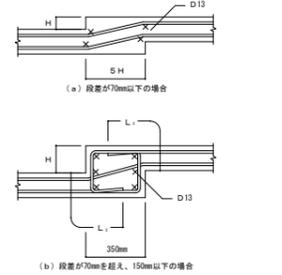


図5.12 段差のあるスラブ補強配筋

9 階段の配筋

9.1 片持スラブ形階段

片持スラブ形階段の基準配筋は、表6.1及び図6.11により、寸法及び配筋種別は、特記による。

表6.1 片持スラブ形階段の基準配筋

配筋種別	KA 1	KA 2
配筋図		
配筋種別	KA 3	KA 4
配筋図		

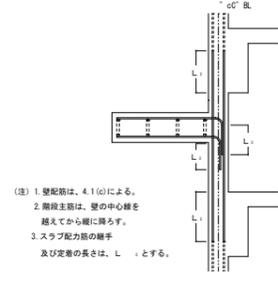


図6.1 片持スラブ形階段配筋の定着

9.2 二辺固定スラブ形階段

二辺固定スラブ形階段の基準配筋は表6.2並びに図6.2及び図6.3により、寸法及び配筋種別は、特記による。

表6.2 二辺固定スラブ形階段

配筋種別	スラブ厚さ t (mm)	上端筋、下端筋 全長
KB 1	150	D13-200φ
KB 2	150	D13-150φ
KB 3	150	D13-100φ
KB 4	180	D13, D16-150φ
KB 5	180	D16-150φ
KB 6	180	D16-125φ
KB 7	200	D16-100φ

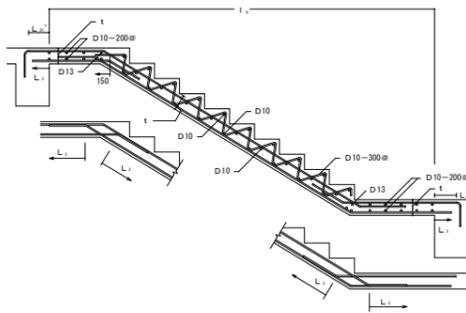


図6.2 二辺固定スラブ形階段配筋 (その1)

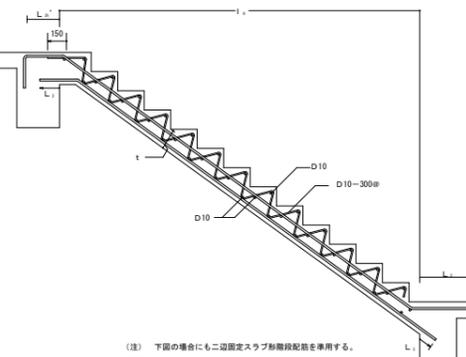


図6.3 二辺固定スラブ形階段配筋 (その2)

(注) L1 を確保できない場合は、3.4(c)③によることとする。

10 梁貫通孔その他の配筋

10.1 梁貫通孔

(a) 梁貫通孔は、次による。

- 梁貫通孔補強筋の名称等は、図7.1による。
- 孔の径は、梁せい1/3以下とし、孔が円形でない場合はこの外接円とする。
- 孔の上下方向の位置の限度は、図7.2による。
- 孔の中心位置の限度は、柱及び直交する梁 (小梁) の面から原則として1.2D (Dは梁せい) 以上とする。
- 孔が並列する場合の中心間隔は、孔の径の平均値の3倍以上とする。
- 縦筋及び上下縦筋は、あばら筋の形に配筋する。
- 補強筋は、主筋の内側とする。やむを得ない場合は、監督職員の承認を受けて外側とすることができる。また、鉄筋の定着長さは、図7.3による。
- 孔の径が梁せい1/10以下、かつ、150mm未満のものは、補強を省略することができる。
- 溶接金網の余長は1格子以上とし、突出しは10mm以上とする。

- 溶接金網の貫通孔部分には、鉄筋 1-13φのリング筋を取り付ける。なお、リング筋は、溶接金網に4箇所以上溶接する。
- 溶接金網の割付け始点は、横筋ではあばら筋の下側とし、縦筋では貫通孔の中心とする。

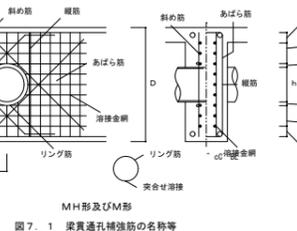
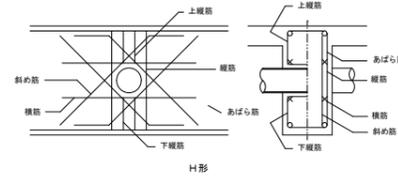


図7.1 梁貫通孔補強筋の名称等

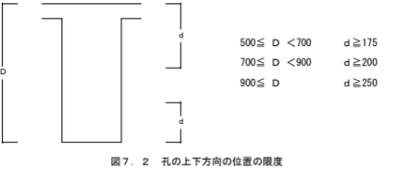


図7.2 孔の上下方向の位置の限度

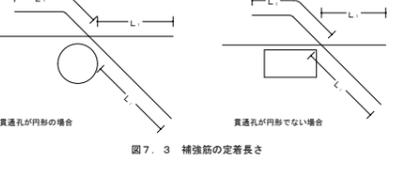


図7.3 補強筋の定着長さ

(b) 梁貫通孔の補強形式は表7.1~表7.3により、配筋種別は特記による。なお、既製の梁貫通孔補強等を使用する場合は、特記による。

表7.1 H形配筋

配筋種別	斜め筋	縦筋	横筋	上下縦筋	配筋図
H 1	なし	なし	なし	なし	
H 2	2-2-D13	なし	なし	なし	
H 3	4-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H 4	4-2-D16	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H 5	4-2-D16	なし	なし	なし	
H 6	4-2-D19	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	
H 7	4-2-D22	なし	なし	なし	

(注) は、一般部分のあばら筋を示す。

表7.2 M形配筋

配筋種別	縦筋	溶接金網	リング筋	配筋図
M 1	2-2-D13	なし	なし	
M 2	4-2-D13	なし	なし	
M 3	4-2-D13	2-6φ-100φ	13φ	
M 4	6-2-D13	なし	なし	

(注) は、一般部分のあばら筋を示す。

表7.3 MH形配筋

配筋種別	斜め筋	縦筋	溶接金網	リング筋	配筋図
MH 1	なし	なし	なし	なし	
MH 2	2-2-D13	2-2-D13	なし	なし	
MH 3	2-2-D13	なし	なし	なし	
MH 4	4-2-D13	2-2-D13	2-6φ-100φ	13φ	
MH 5	4-2-D16	なし	なし	なし	
MH 6	4-2-D16	4-2-D13	2-6φ-100φ	13φ	
MH 7	4-2-D19	なし	なし	なし	

(注) は、一般部分のあばら筋を示す。

10.2 コンクリートブロック横壁との取合い

(a) 控壁

- 控壁の配筋は、特記による。
- 配筋は、図7.4による。

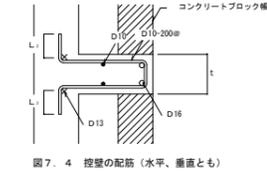


図7.4 控壁の配筋 (水平、垂直とも)

(b) 横壁が土間コンクリート上に設置される場合の補強は、図7.5による。

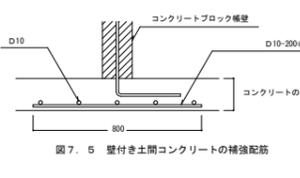


図7.5 壁付き土間コンクリートの補強配筋

10.3 機械吊上げ用フック

梁に設ける機械吊上げ用フックは表7.4及び図7.6により、種別は特記による。

表7.4 機械吊上げ用フック

種別	A種	B種	C種
フック筋	φ25又はD25	φ22又はD22	φ19又はD19
曲げ内のり直径 (mm)	100		
補強かんざし筋	2-D16		
補強鉄筋 (mm)	D16, l=900	D16, l=750	D16, l=600
吊上げ荷重 (KN)	50 ≤ W < 30	30 ≤ W < 10	10 ≤ W

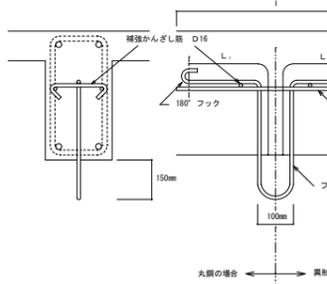


図7.6 機械吊上げ用フック

令和6年度			
工事名	広島高速5号線料金所等新築そのた工事		
図面番号	縮尺	—	
図名	二葉の里電気室 ボーリング柱状図		番号 CS-05
	高速5号線		
広島高速道路公社			

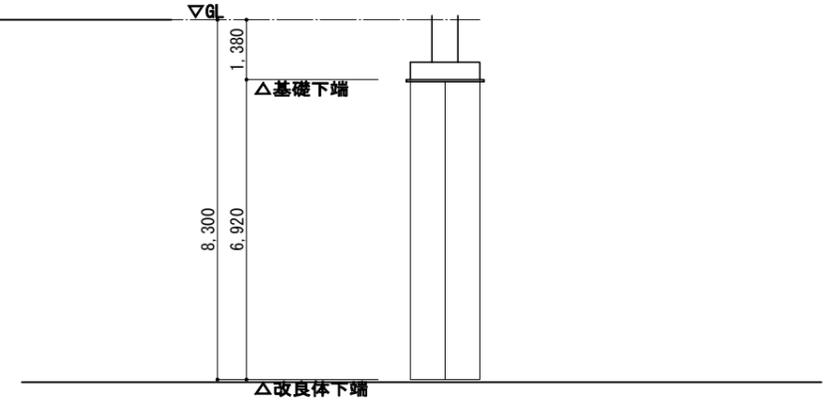
ボーリング柱状図

調査名 高速5号線 道路附属施設詳細設計業務(ボーリング調査)

ボーリングNo.									
----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

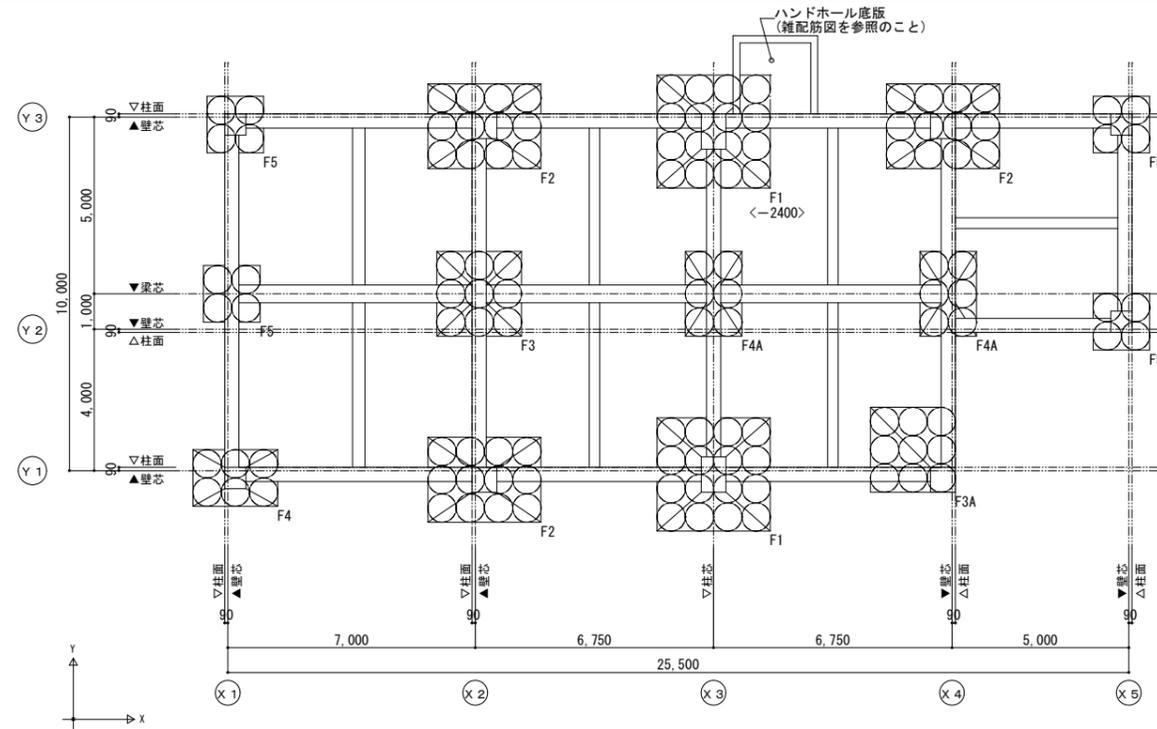
ボーリング名	二葉の里①		調査位置	広島県広島市東区二葉の里 地内			北緯	34° 24' 12.3"				
発注機関	広島高速道路公社			調査期間	平成31年1月28日～31年1月29日			東経	132° 28' 29.0"			
調査業者名	西日本高速道路エンジニアリング中国株式会社 電話(082-532-1432)		主任技師	西村 信宏		現場代理人	西出 満男		コア鑑定者	大岩 直人		
ボーリング責任者							ボーリング責任者	山本 勝美				
孔口標高	KBM +15.6m		角	180° 上 90° 下 0°		方	北 0° 西 270° 東 90° 南 180°		地盤勾配	鉛直 90° 水平 0°		
総掘進長	13.00m		使用試験機	東邦製 D1-3型			ハンマー落下用具	半自動落下装置				
			エンジン	ヤンマー(株) NFD12-MEK			ポンプ	東邦製 BG-3型				

標高 (m)	層厚 (m)	柱状図	土質区分	色相対調度	相対密実度	記号	標準貫入試験	原位置試験	試験採取	室内試験	掘進月日
1.15	0.9						9 9 5 23 30 20				
1.45	1.2						12 17 15 44 30 44				
2.45	1.0						3 2 2 7 30 7				
3.45	1.0						6 9 10 25 30 25				
4.45	1.0						3 3 4 19 30 10				
5.45	1.0						2 4 3 9 30 9				
6.45	1.0						2 2 3 7 30 7				
7.45	1.0						14 14 15 43 30 43				
8.45	1.0						6 5 9 20 30 20				
9.45	1.0						14 26 10 50 30 24				
10.45	1.0						19 18 13 50 6 26 58				
11.41	0.06						30 20 4 50 14 107				
12.25	0.84						50 50 8 189				
13.00	0.75										
13.08	0.08										



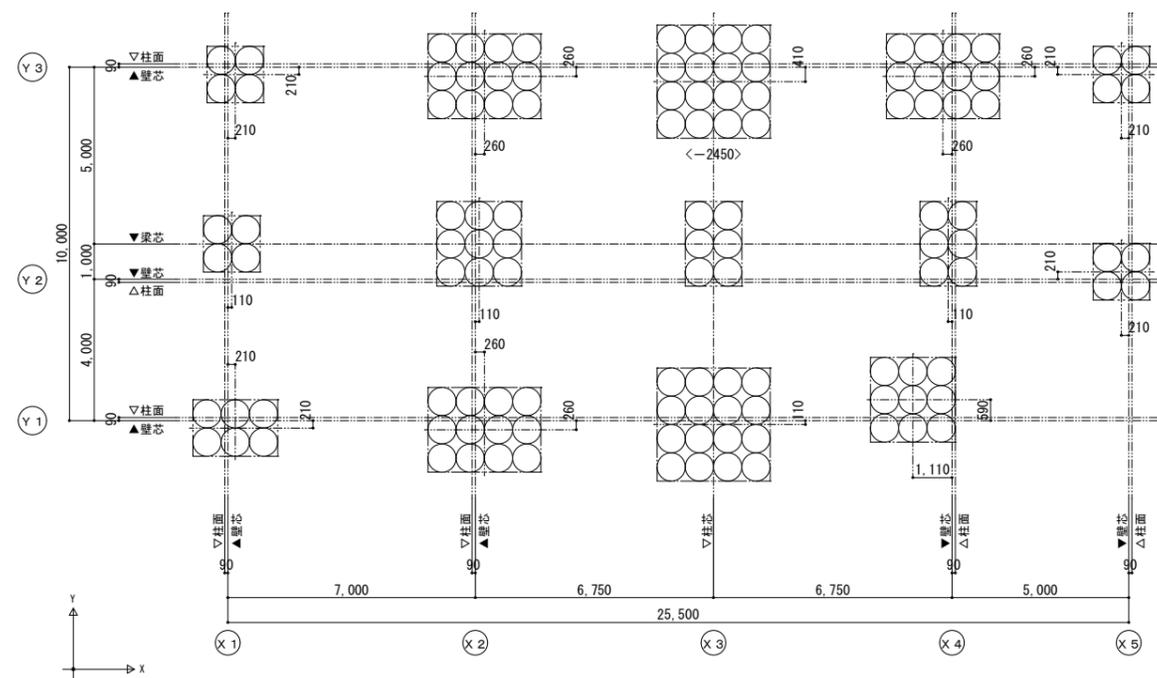
令和 6 年度			
工事名	広島高速5号線料金所等新築その他工事		
図面番号	縮尺	1/100	
図名	二葉の里電気室 伏図-1	番号	CS-06
路線名	高速5号線		
広島高速道路公社			

共通事項	
長期鉛直地耐力度	改良伏図の特記による
鉄筋	D19未満 SD295A (重ね継手)
	D19以上 SD345 (圧接)
コンクリート	普通コンクリート Fc=24N/mm ² S=18cm
基礎コンクリート	普通コンクリート Fc=24N/mm ² S=15cm
土間コンクリート	普通コンクリート Fc=24N/mm ² S=18cm
捨てコンクリート	普通コンクリート Fc=18N/mm ² S=15cm ・コンクリート厚 50mm
砕石	・厚さ 60mm (基礎梁下) ・厚さ 100mm (土間下)
備考	・打設時期にあった構造体強度補正を行うこと ・コンクリートの仕様は、「公共建築工事標準仕様書 (建築工事) 最新版」による ・改良工事前にGL-3.0m程度までほぐし (探り堀) を行うこと



基礎伏図 (見下図) 1:100

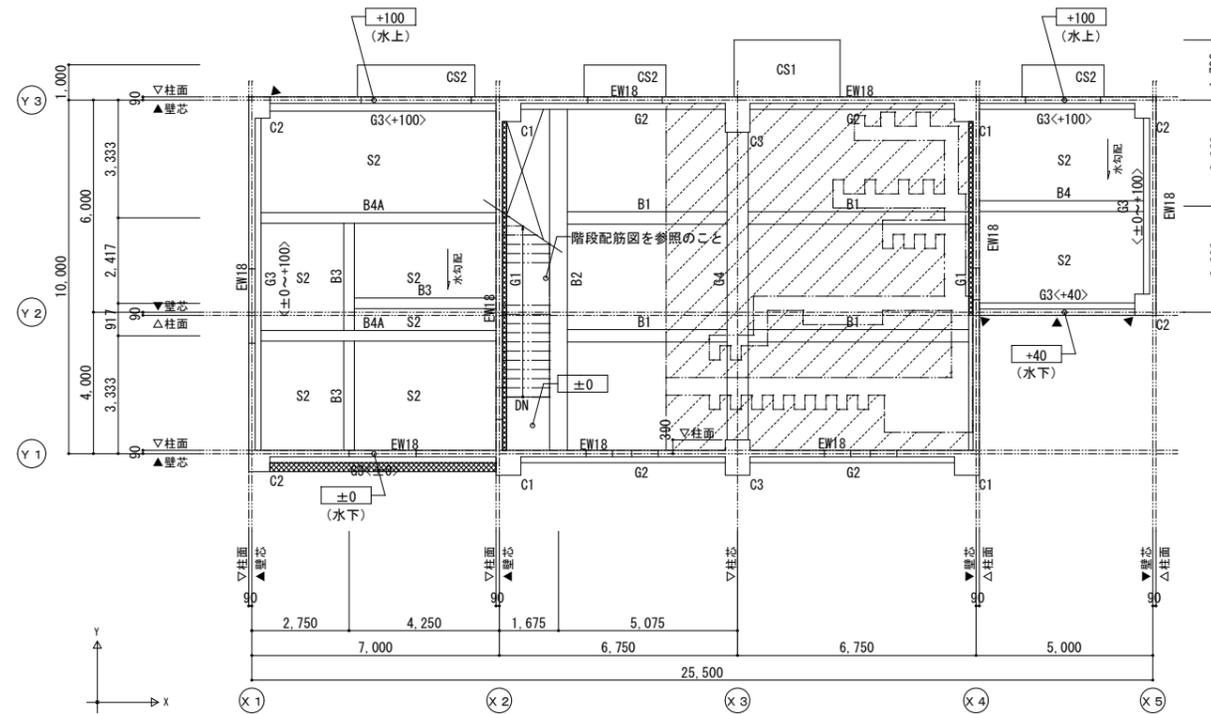
- 記入なき限り、下記とする
1. 基礎下端レベル: GL-1380
 2. <○○>…GLからの基礎下端レベル寸法を示す。



改良伏図 (見下図) 1:100

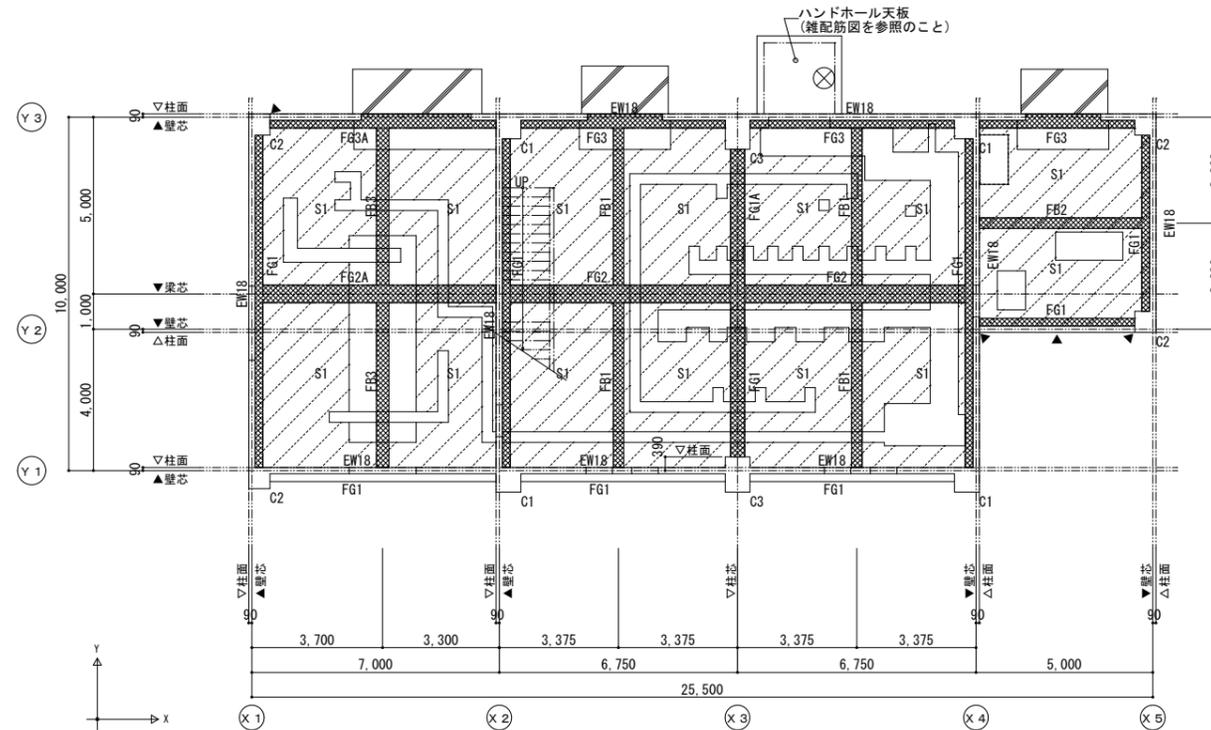
- 記入なき限り、下記とする
1. 改良工法: 深層混合処理工法
 2. 改良体天端レベル: GL-1430
 3. <○○>…GLからの改良体天端レベル寸法を示す。
 4. 改良体下端レベル: GL-8300
 5. 設計基準強度 Fc=1200kN/m²
 6. 長期支持力度 σe=260kN/m²
 7. ○…φ800 120本
 8. 支持層: 強風化花崗岩層 N₆₀≥20

令和 6 年度			
工事名	広島高速5号線料金所等新築その他工事		
図面番号	縮尺	1/100 (A1)	
図名	二葉の里電気室 伏図-2	番号	CS-07
路線名	高速5号線		
広島高速道路公社			



1階柱壁2階梁床伏図 (見上図) 1:100

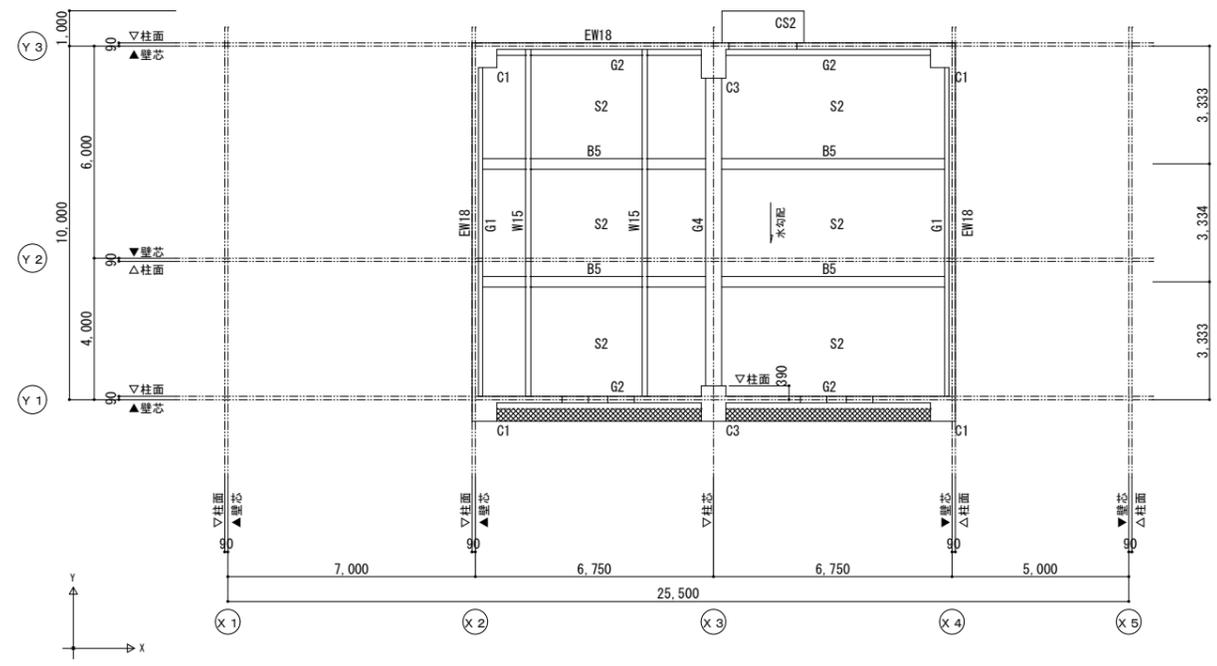
- 記入なき限り、下記とする
1. 床・梁天端レベル: 2FL-300
 2. <○○○>はFLからの梁天端レベルを示す。
 3. □○○○はFLからの床レベルを示す。
 4. 壁はW18とする。
 5. 床はS1とする。
 6. ▼はスリットを示す。
 7. ⊞は増打ち範囲を示す。
 8. ⊞は無筋コンクリートt=300増打ちを示す。



1階床伏図 (見下図) 1:100

- 記入なき限り、下記とする
1. 基礎梁天端レベル: GL-80 (Y3通りのみ、GL-190)
 2. 床レベル: GL+100
 3. 壁はW18とする。
 4. 床はS1とする。
 5. ▼はスリットを示す。
 6. ⊞は増打ち範囲を示す。
 7. ⊞は土間コンクリート範囲を示す。
 8. ⊞は無筋コンクリートt=300増打ちを示す。

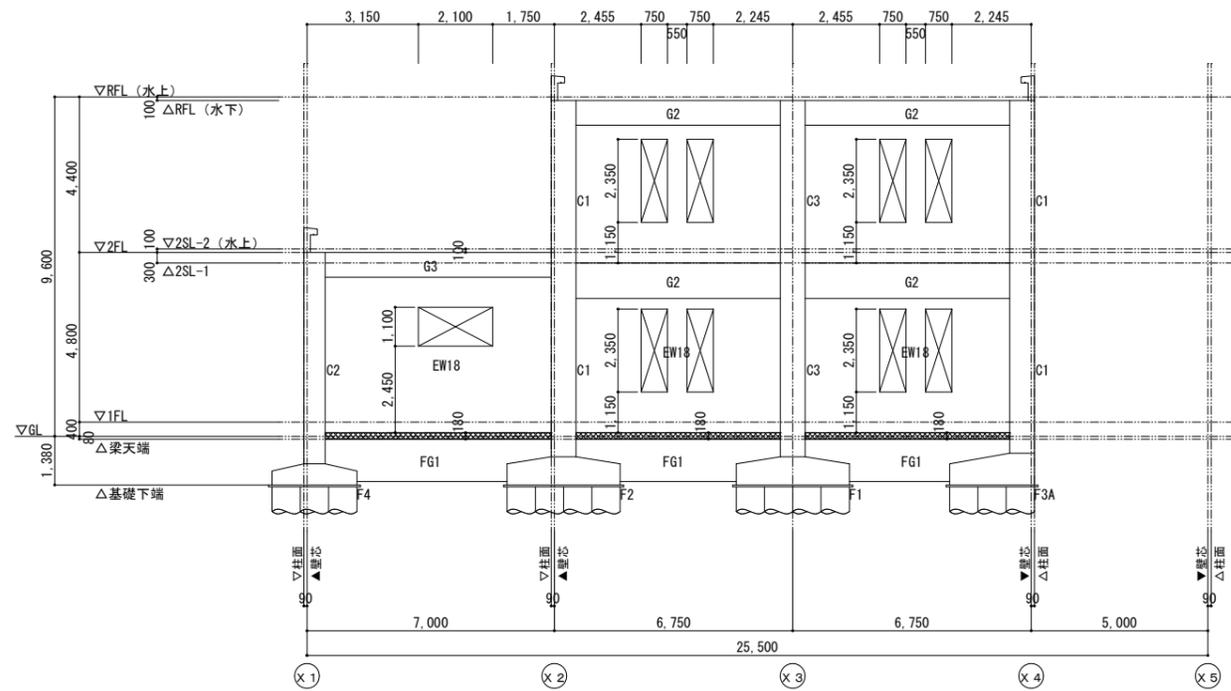
令和 6 年度			
工事名	広島高速5号線料金所等新築その他工事		
図面番号	縮尺	1/100	
図名	二葉の里電気室 伏図-3	番号	CS-08
路線名	高速5号線		
広島高速道路公社			



2階柱壁R階梁床伏図（見上図） 1:100

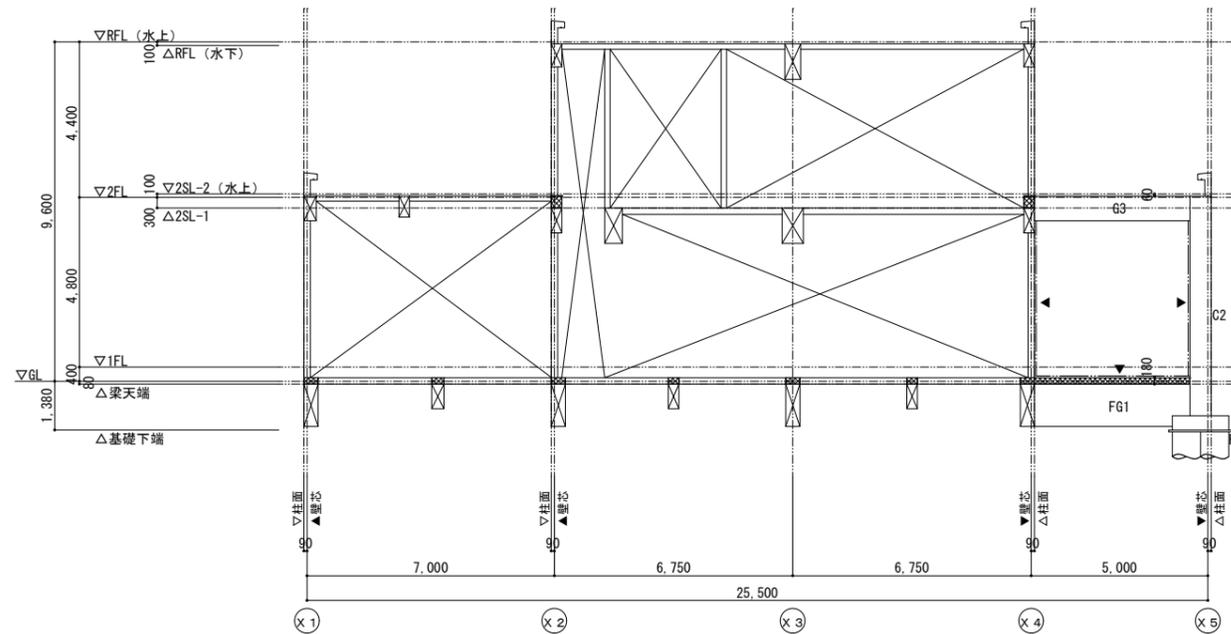
- 記入なき限り、下記とする
1. 床・梁天端レベル：RFL±0～-100
 2. 壁はW18とする。
 3. 床はS2とする。
 4. ▼はスリットを示す。

令和 6 年度			
工事名	広島高速5号線料金所等新築その他工事		
図面番号	縮尺	1/100	
図名	二葉の里電気室 軸組図-1	番号	CS-09
路線名	高速5号線		
広島高速道路公社			



Y 1 通り軸組図 1:200

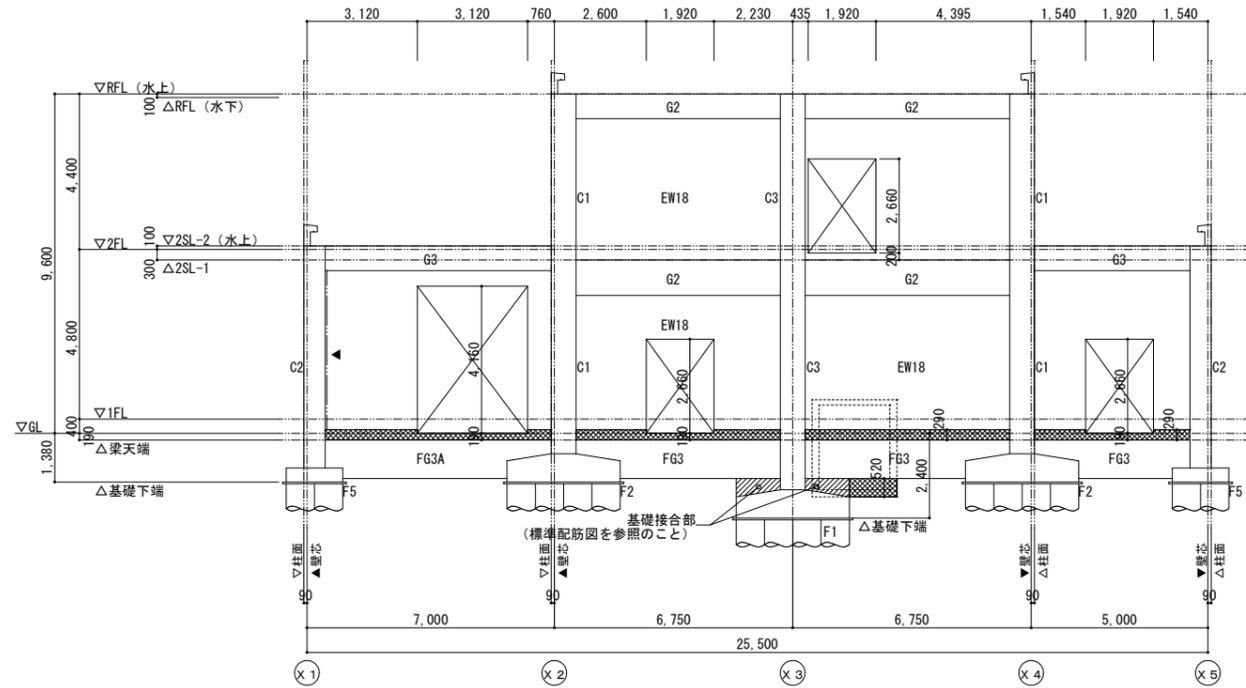
- 記入なき限り、下記とする
1. 壁はW18とする。
 2. ▼はスリットを示す。
 3. ⊠は増打ち範囲を示す。



Y 2 通り軸組図 1:200

- 記入なき限り、下記とする
1. 壁はW18とする。
 2. ▼はスリットを示す。
 3. ⊠は増打ち範囲を示す。

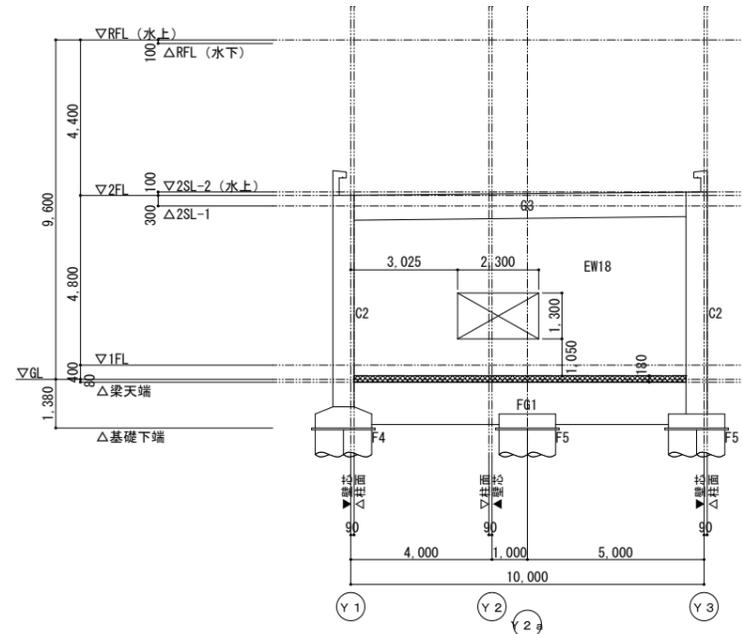
令和 6 年度			
工事名	広島高速5号線料金所等新築その他工事		
図面番号	縮尺	1/100	
図名	二葉の里電気室 軸組図-2	番号	CS-10
路線名	高速5号線		
広島高速道路公社			



Y 3 通り軸組図 1:200

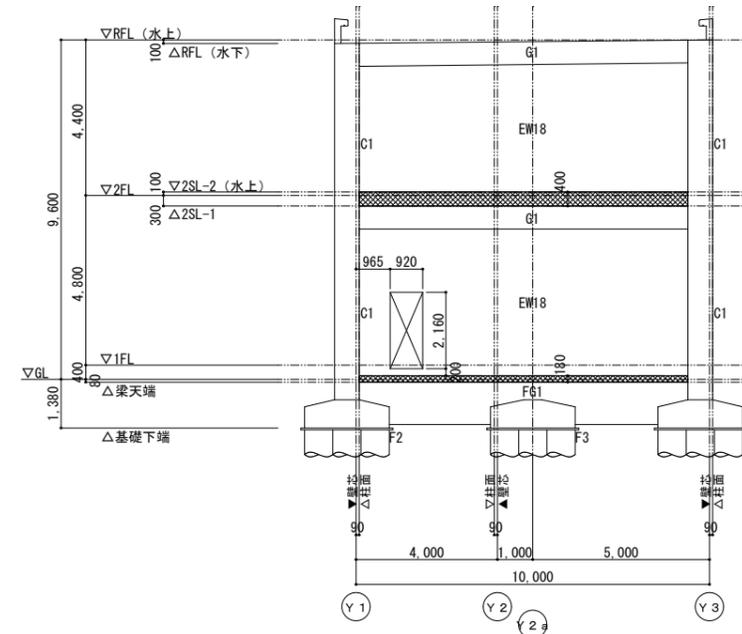
- 記入なき限り、下記とする
1. 壁はW18とする。
 2. ▼はスリットを示す。
 3. ☒は増打ち範囲を示す。

令和 6 年度			
工事名	広島高速5号線料金所等新築その他工事		
図面番号	縮尺	1/100	
図名	二葉の里電気室 軸組図-3	番号	CS-11
路線名	高速5号線		
広島高速道路公社			



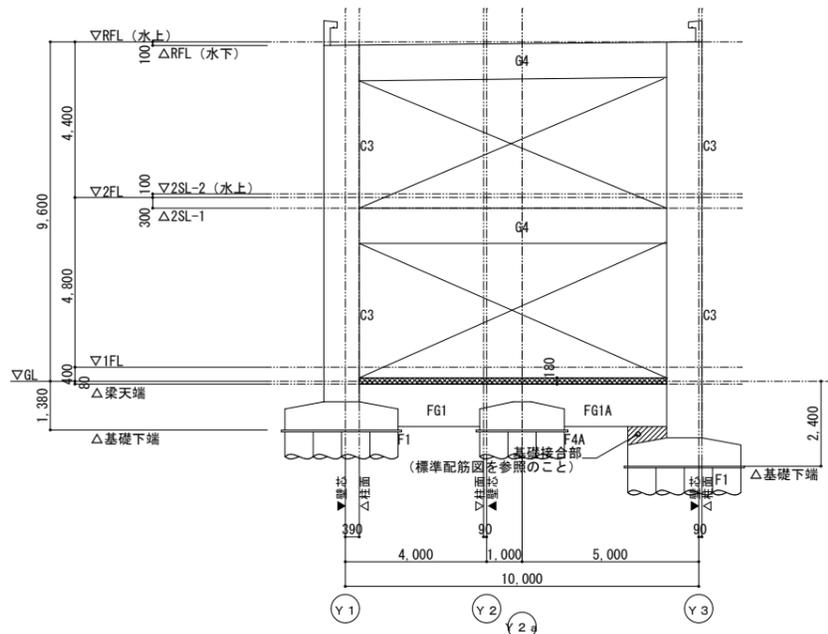
X 1 通り軸組図 1:200

- 記入なき限り、下記とする
1. 壁はW18とする。
 2. ▼はスリットを示す。
 3. 増打ち範囲を示す。



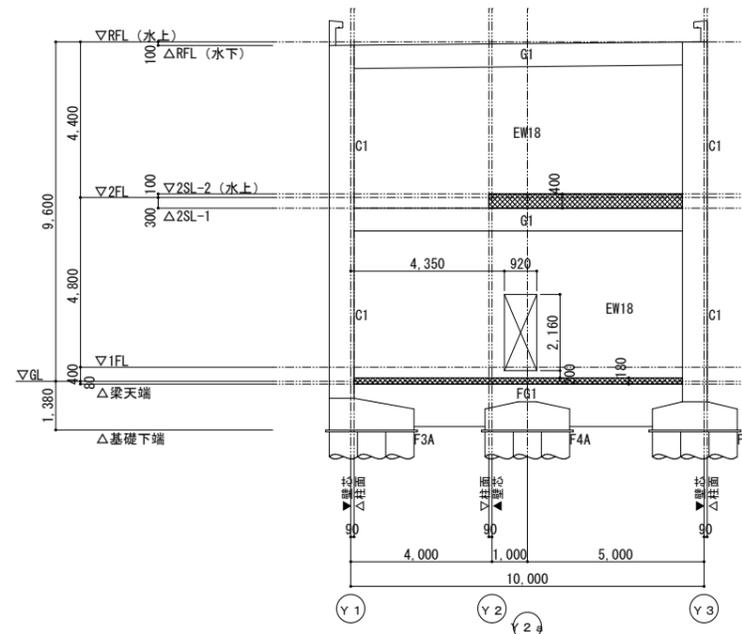
X 2 通り軸組図 1:200

- 記入なき限り、下記とする
1. 壁はW18とする。
 2. ▼はスリットを示す。
 3. 増打ち範囲を示す。



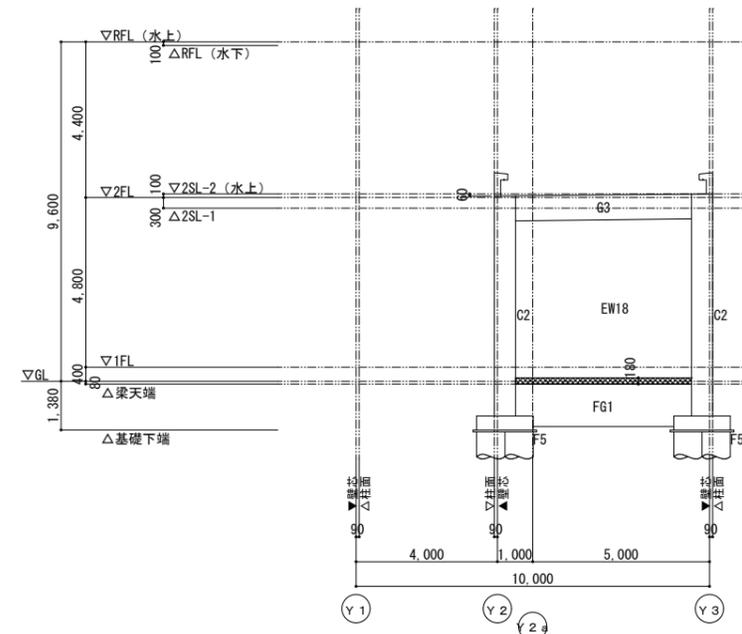
X 3 通り軸組図 1:200

- 記入なき限り、下記とする
1. 壁はW18とする。
 2. ▼はスリットを示す。
 3. 増打ち範囲を示す。



X 4 通り軸組図 1:200

- 記入なき限り、下記とする
1. 壁はW18とする。
 2. ▼はスリットを示す。
 3. 増打ち範囲を示す。

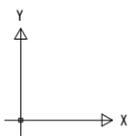
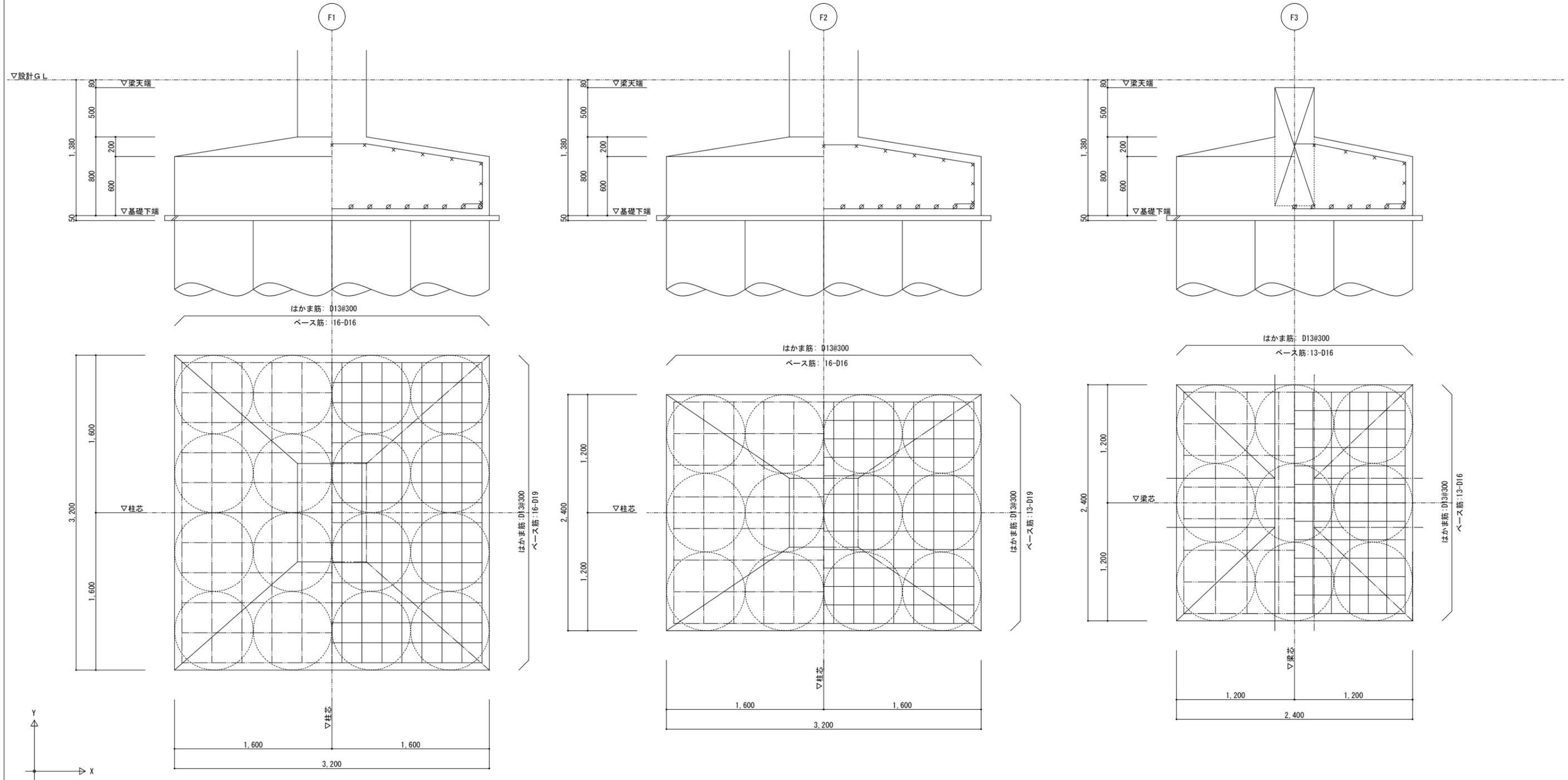


X 5 通り軸組図 1:200

- 記入なき限り、下記とする
1. 壁はW18とする。
 2. ▼はスリットを示す。
 3. 増打ち範囲を示す。

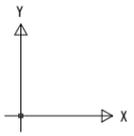
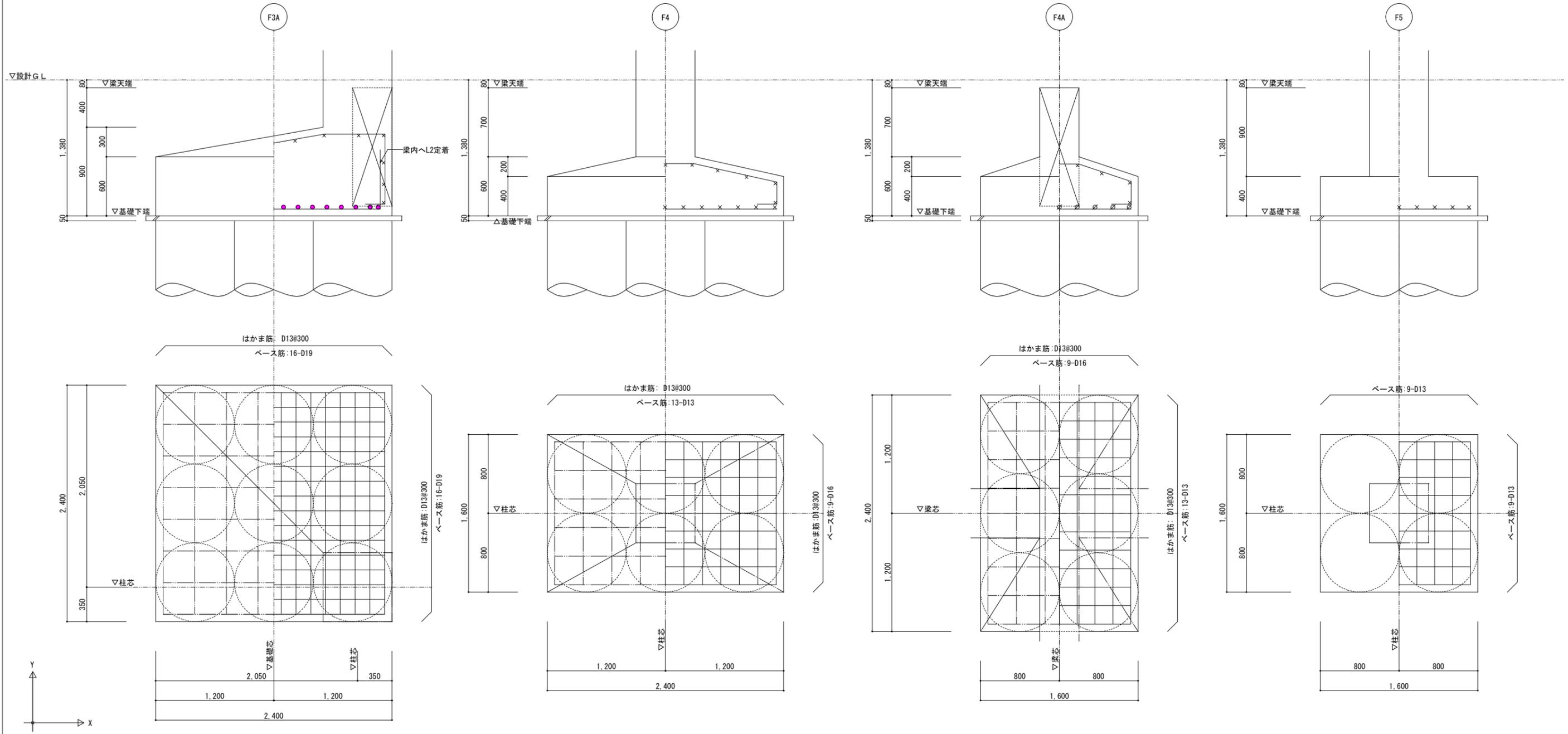
令和 6 年度			
工事名	広島高速5号線料金所等新築その他工事		
図面番号	縮尺	1/20	
図名	二葉の里電気室 基礎リスト-1	番号	CS-12
路線名	高速5号線		
広島高速道路公社			

基礎リスト 1:20



令和 6 年度			
工事名	広島高速5号線料金所等新築その他工事		
図面番号	縮尺	1/20	
図名	二葉の里電気室 基礎リスト-2	番号	CS-13
路線名	高速5号線		
広島高速道路公社			

基礎リスト 1:20



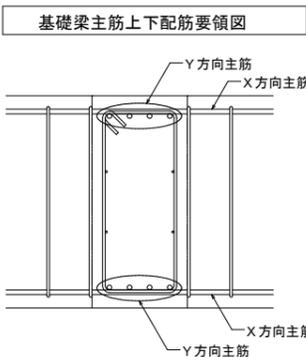
令和 6 年度			
工事名	広島高速5号線料金所等新築その他工事		
図面番号	縮尺	1/20	
図名	二葉の里電気室 基礎梁リスト	番号	CS-14
路線名	高速5号線		
広島高速道路公社			

基礎梁リスト 1:20

特記外 1. 巾止筋はD10-@1,000とする。
2. <>内寸法はカットオフ筋付着長を示す。

符号	FG1	FG1A		FG2	FG2A		FG3	FG3A		
	全断面	Y3通り側	中央・他端	全断面	両端	中央	全断面	外端・中央	内端(X2通り側)	
▽設計GL										
b x D	400 x 1200	400 x 1200		500 x 1200	500 x 1200		400 x 1090	400 x 1090		
上端筋	4-D22	5-D22<1,500>	4-D22	6-D22	6-D22	6-D22	4-D22	4-D22	5-D22	
下端筋	4-D22	4-D22	4-D22	6-D22	6-D22	7-D22	4-D22	4-D22	4-D22	
STP	□ -D13-@200	□ -D13-@200		□ -D13-@200	□ -D13-@200		□ -D13-@200	□ -D13-@200		
腹筋	6-D10	6-D10		6-D10	6-D10		4-D10	4-D10		

符号	FB1		FB2	FB3	
	外端・中央	内端(Y2通り側)	全断面	外端・中央	内端(Y2通り側)
▽設計GL					
b x D	300 x 700		300 x 700	350 x 700	
上端筋	3-D19	5-D19	3-D19	3-D22	5-D22
下端筋	3-D19	3-D19	3-D19	3-D22	3-D22
STP	□ -D10-@200		□ -D10-@200	□ -D10-@150	
腹筋	2-D10		2-D10	2-D10	



令和 6 年度			
工事名	広島高速5号線料金所等新築その他工事		
図面番号	縮尺	1/20	
図名	二葉の里電気室 柱・梁リスト	番号	CS-15
路線名	高速5号線		
広島高速道路公社			

柱リスト 1:20

特記外 1. 柱主筋は、全数フック付とする。

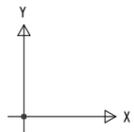
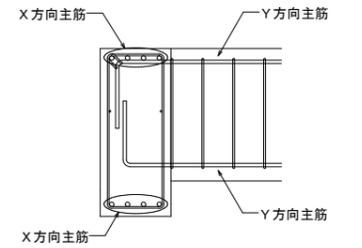
符号	C1	C2	C3
柱頭仕口HOOP	□ -D10-@100	□ -D10-@110	□ -D13-@120
2階			
B x D	700 x 700	600 x 600	700 x 1000
主筋	12-D22	8-D22	8-D25+8-D22
HOOP	x	□ -D10-@100	□ -D10-@100
	y	□ -D10-@100	□ -D10-@100
幅止め筋	—	—	—
柱頭/柱脚仕口HOOP	□ -D10-@100	□ -D10-@110	□ -D13-@120
1階			
B x D	700 x 700	600 x 600	700 x 1000
主筋	12-D22	8-D22	8-D25+8-D22
HOOP	x	□ -D10-@100	□ -D10-@100
	y	□ -D10-@100	□ -D10-@100
幅止め筋	—	—	—

大梁リスト 1:20

特記外 1. 巾止筋はD10-@1,000とする。

符号	G1	G2	G3	G4	
位置	全断面	全断面		両端	中央
R階					
b x D	300 x 650	350 x 700		450 x 1000	
上端筋	3-D19	4-D22		9-D22	5-D22
下端筋	3-D19	4-D22		5-D22	7-D22
S T P	□ -D10-@200	□ -D10-@200		□ -D13-@200	
腹筋	2-D10	2-D10		4-D10	
位置	全断面	全断面	全断面	両端	中央
2階					
b x D	300 x 650	350 x 1000	350 x 700	600 x 1000	
上端筋	3-D19	4-D22	4-D22	13-D25	7-D25
下端筋	3-D19	4-D22	4-D22	7-D25	9-D25
S T P	□ -D10-@200	□ -D10-@200	□ -D10-@200	□ -D13-@100	
腹筋	2-D10	4-D10	2-D10	4-D10	

梁主筋上下配筋要領図

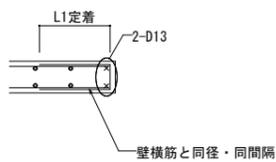


令和 6 年度			
工事名	広島高速5号線料金所等新築その他工事		
図面番号	縮尺	1/20	
図名	二葉の里電気室 小梁・壁・スラブリスト	番号	CS-16
路線名	高速5号線		
広島高速道路公社			

壁リスト 1:20

特記外 1. 巾止筋はD10-@1,000とする。

符号	W15	W18・EW18	開口部補強筋
断面			
縦筋	D10-@200 S	D10-@200 D	
横筋	D10-@200 S	D10-@200 D	
開口部補強筋	a	1-D13	4-D13
	b	1-D13	4-D13
	c	1-D13	—
端部補強筋	1-D13	2-D13	

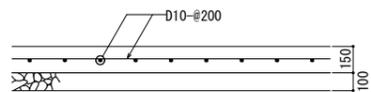


壁端部補強筋 1:20

特記外 1. EWの壁のみ適用すること。

スラブリスト

符号	床厚	位置	短辺方向(主筋方向)			長辺方向(配力筋)		
			端部	中央	周辺部	端部	中央	周辺部
S1	180	上筋	D13-@150	←	←	D13-@150	←	←
		下筋	D13-@150	←	←	D13-@150	←	←
S2	150	上筋	D10-D13-@150	←	←	D10-D13-@150	←	←
		下筋	D10-D13-@150	←	←	D10-D13-@150	←	←
CS1	180	上筋	D13-@150	←	←	D10-@200	←	←
		下筋	D10-@150	←	←	D10-@200	←	←
CS2	150	上筋	D13-@200	←	←	D10-@200	←	←
		下筋	D10-@200	←	←	D10-@200	←	←

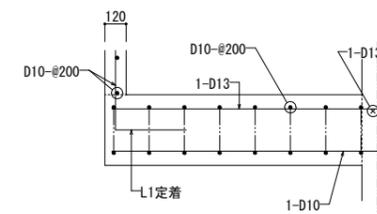


土間コンクリート配筋図 1:20

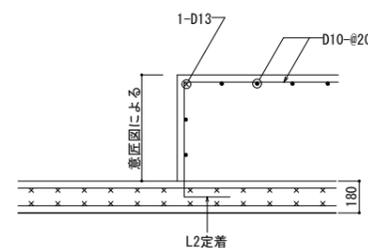
小梁リスト 1:20

特記外 1. 巾止筋はD10-@1,000とする。

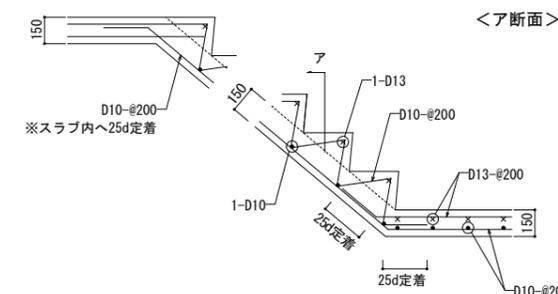
符号	B1		B2		B3	B4
	外端・中央	内端 (X3通り側)	両端	中央	全断面	全断面
位置						
断面						
b x D	350 x 700		500 x 1000		300 x 600	300 x 650
上端筋	4-D22	7-D22	10-D22	6-D22	3-D19	3-D22
下端筋	4-D22	4-D22	6-D22	10-D22	3-D19	3-D22
S T P	□ -D10-@200		□ -D13-@200		□ -D10-@200	□ -D10-@200
腹筋	2-D10		4-D10		2-D10	2-D10
符号	B4A		B5			
位置	両端	中央	外端・中央	内端 (X3通り側)		
断面						
b x D	300 x 650		300 x 650			
上端筋	3-D22	3-D22	3-D22	5-D22		
下端筋	3-D22	4-D22	3-D22	3-D22		
S T P	□ -D10-@200		□ -D10-@200			
腹筋	2-D10		2-D10			



<ア断面>

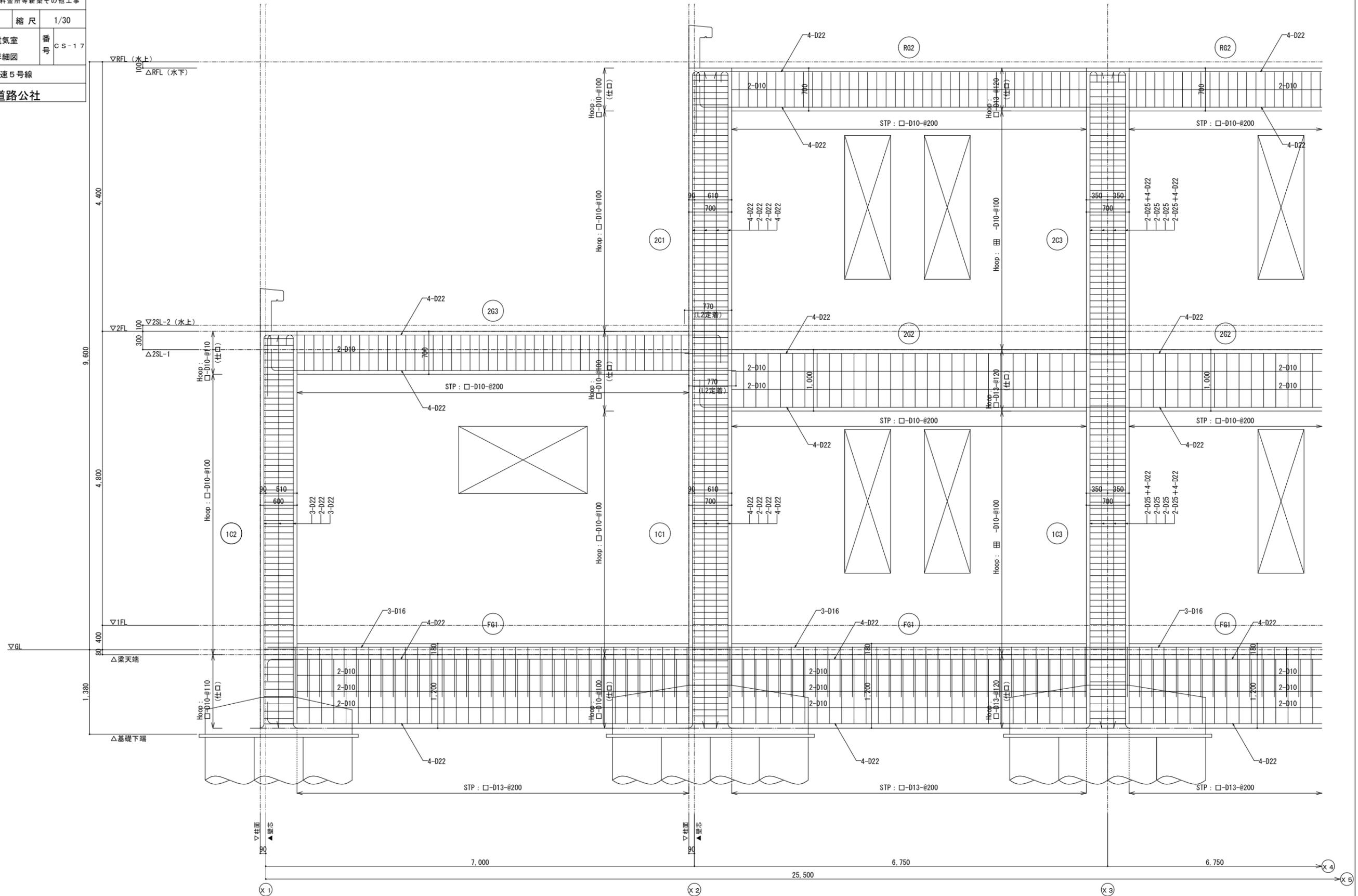


機械基礎配筋図 1:20



階段配筋図 1:20

令和 6 年度			
工事名	広島高速5号線料金所等新築その他工事		
図面番号	縮尺	1/30	
図名	二葉の里電気室 架構配筋詳細図	番号	CS-17
路線名	高速5号線		
広島高速道路公社			

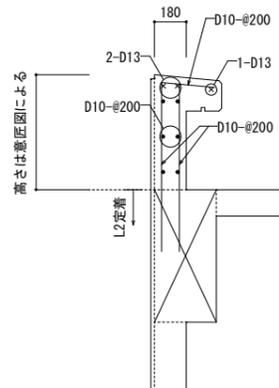


Y 1 通り配筋詳細図 1:30

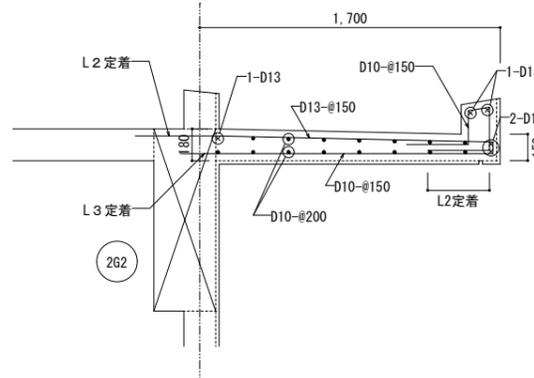
1. 柱主筋は、全数フック付とする。

令和 6 年度			
工事名	広島高速5号線料金所等新築その他工事		
図面番号	CS-18	縮尺	1/20
図名	二葉の里電気室 雑配筋詳細図	番号	
路線名	高速5号線		
広島高速道路公社			

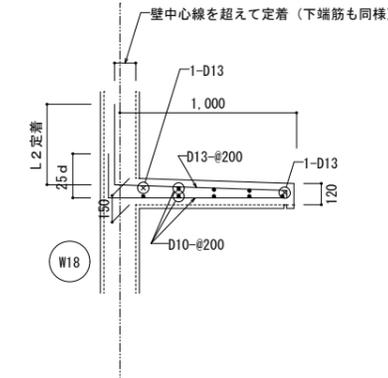
バラベット配筋詳細図 1:20



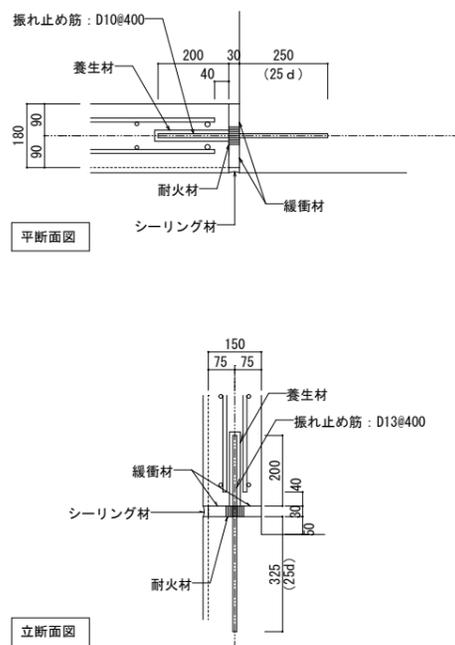
CS1配筋詳細図 1:20



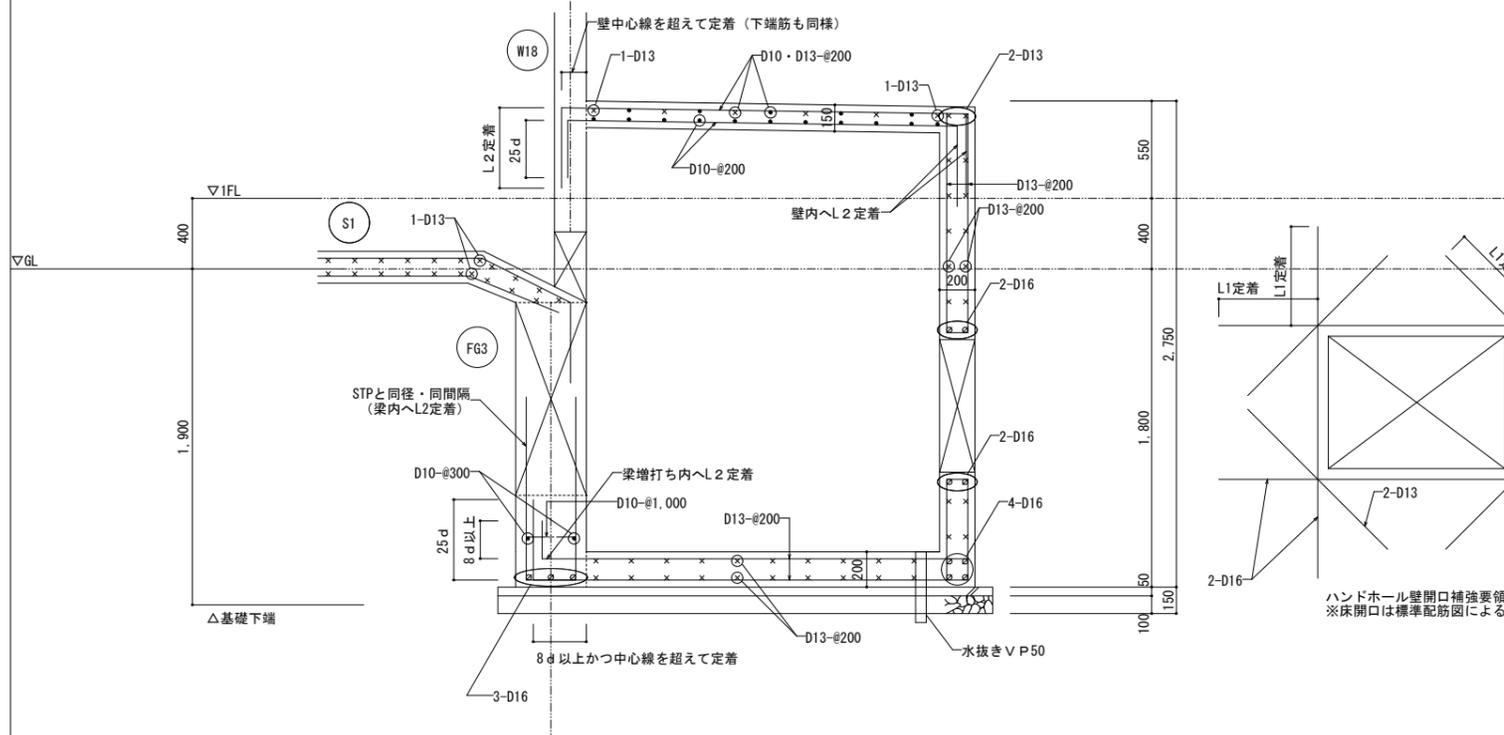
CS2配筋詳細図 1:20



スリット断面詳細図 1:10



ハンドホール配筋詳細図 1:20



鉄骨構造標準図 (1)

1. 一般事項

- (1) 材料及び検査
- (a) 構造設計仕様による
 - (b) 適用範囲は、鋼材を用いる工事に適用し、かつ鋼材の厚さが4.0mm以下のものとする
 - (c) 社内検査結果の検査報告書には、鉄骨の寸法、制度及びその他の結果を添付する
- (2) 作業一般
- (a) 鉄骨製作及び施工に先立って「鉄骨工事施工要領書」を提出し工事監督者の承認を得る
 - (b) 鋼管部材の分岐継手部の相貫切断は、鋼管自動切断機による
 - (c) 高張力鋼の歪み矯正は、冷間矯正とする
- (3) 高力ボルト接合
- (a) 本籍に使用するボルトと、仮締めのボルトの併用はしてはならない
- (4) 溶接接合
- (a) 溶接技能者
- 溶接技能者は施工する溶接に適用する JIS Z 3801 (手溶接) 又は JIS Z 3841 (半自動溶接) の溶接技術検定試験に合格し引き続き、半年以上溶接に従事している者とする
- (b) 溶接機器
- (イ) 交流アーク溶接機 300A~500A
 - (ロ) アークエア-ガウジング機 (直流)
 - (ハ) サブマージアーク溶接機一式
 - (ニ) 炭酸ガスアーク半自動溶接機
 - (ホ) 溶接電流を測定する電流計
 - (ヘ) 溶接棒乾燥機
- (c) 溶接方法
- アーク手溶接 (MC)
 - セルフ (ノンガス) シールドアーク半自動溶接 (NGC)
 - ガスシールドアーク半自動溶接機 (GC)
 - アークエア-ガウジング (AAG)
- (d) 溶接姿勢
- 下向 F 立向 V 横向 H 上向 O
- (e) 組立て溶接技能者は、原則として本工事に従事する者が行う
- (イ) 仮付位置
- 組立て溶接は溶接の始、終端、隅角部など強度上、工作上、問題となり易い箇所は避ける
- (ロ) 完全溶込み溶接部の仮付溶接は必ず裏はつり側に施工する
- (f) 溶接施工
- (イ) エンドタブ
- 完全溶込み溶接、部分溶込み溶接の両端部に母材と同厚と同形状のエンドタブを取り付ける
 - エンドタブの材質は、母材と同質とする
 - エンドタブの長さは、MC: 35mm以上 NGC, GC: 40mm以上とし特記のない場合は、溶接終了後、母材より10mm程度残し切断して、グラインダー仕上げとする
 - プレス鋼板タブ、固形タブ使用については、資料を提出して設計者又は工事監督者の承認を得る
- (ロ) 裏あて金
- 材質は母材と同質材料とし厚さは手溶接で6mm、半自動溶接で9mm以上とする
- (ハ) スカラップ半径は30~35mmと、10mmのダブルアールとする
- 但し梁端が150mm未満の場合のスカラップはr=20mmとする
- (ニ) ノンスカラップ工法
- (ホ) 裏はつり
- 縦断面の溶接において AAG と記載のある部分は全て、溶接監督者の確認を履行し、部材に確認マークをつける
- (ヘ) 現場溶接の閉先面には、溶接に支障のない防錆材を塗布する。又、閉先部をいためない様に、養生を行なう
- (5) 塗装
- コンクリートに埋め込まれる部分及びコンクリートとの接触面で、コンクリートと一体とする設計仕様になっている部分は、塗装をしない

2. 溶接標準図

(注) f: 余盛 G: ルート開削 R: フェース S: 鋭長 (単位mm)

(1) 隅肉溶接

t ≤ 16mm				
t	7以下	8~10	11~13	14~16
S	6	7	10	12

但し片面溶接の場合は S = t とする
t は t₁, t₂ の小なる方とする
余盛は (1 + 0.1S) mm 以下とする
軸力が加わる場合は S は母材と同厚とすることが望ましい

(2) 部分溶込み溶接 (使用箇所) (注)

R ≤ 2 t / 4 ≤ S ≤ 10mm t ≤ t₁

t	t > 16mm
溶接姿勢	F, V

・両側に補強隅肉溶接を付加する

(3) 完全溶込み溶接 (平継手 T形継手)

(イ) 平継手

f = t / 4

t	6 < t < 19mm
溶接姿勢	F, V

・両側に補強隅肉溶接を付加する AAG

(ロ) T形継手

f = t / 4

のど厚 t mm		余盛の高さ mm	
t mm	θ	G	L
6 ≤ t < 12	45°	6	5
12 ≤ t < 16	35°	9	8
16 ≤ t	35°	9	8

溶接姿勢 F, V

・両側に補強隅肉溶接を付加する

(ハ) T形合せ継手余盛

f = t / 4

t	6 < t < 19mm
溶接姿勢	F, V

・AAG () 内は GC の場合
・両側に補強隅肉溶接を付加する

(ニ) 平継手

f ≥ 0.5mm (ただし、t ≥ 15mm 以上のとき 4mm とする)

a > 4mm の場合 (平継手で板厚が異なるとき)

t	6 < t < 19mm
溶接姿勢	F, V

・両側に補強隅肉溶接を付加する

(4) フレア溶接

寸法 (mm)			
φ	B	S	
9	7	4	
13	8	4.5	
16	9	5	
19	10	6	
22	11	7	
25	12	8	

・フレア溶接長は、鋼板に接する全長とする
・9~16mm は1/4バスの上、19mm 以上は2/4バス以上とする
・溶接角度 θ は 30° ~ 40° とする

BOX型 (通しダイヤフラムの場合)

① ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

② ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

③ ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

④ ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

⑤ ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

⑥ ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

⑦ ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

⑧ ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

⑨ ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

⑩ ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

⑪ ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

⑫ ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

⑬ ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

⑭ ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

⑮ ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

⑯ ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

⑰ ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

⑱ ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

⑲ ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

⑳ ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

㉑ ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

㉒ ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

㉓ ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

㉔ ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

㉕ ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

㉖ ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

㉗ ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

㉘ ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

㉙ ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

㉚ ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

㉛ ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

㉜ ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

㉝ ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

㉞ ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

㉟ ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

㊱ ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

㊲ ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

㊳ ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

㊴ ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

㊵ ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

㊶ ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

㊷ ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

㊸ ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

㊹ ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

㊺ ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

㊻ ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

㊼ ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

㊽ ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

㊾ ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

㊿ ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

鋼材種別による溶接条件

鋼材の種類	溶接材料	入熱 (kJ/cm)	パス温度差 (°C)
400N 級鋼	JIS Z 3211, 3212, 3214	(30)	(250)
	Y8P-11, 15		
	Y8P-18, 19		
	Y8A-50W, 50P		
490N 級鋼	JIS Z 3212, 3214	40 以下	350 以下
	Y8P-11, 15		
	Y8P-18, 19		
	Y8A-50W, 50P		

※ () 内は BCP, BCR 材の場合

① ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

② ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

③ ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

④ ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

⑤ ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

⑥ ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

⑦ ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

⑧ ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

⑨ ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

⑩ ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

⑪ ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

⑫ ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

⑬ ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

⑭ ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

⑮ ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

⑯ ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

⑰ ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

⑱ ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

⑲ ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

⑳ ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

㉑ ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

㉒ ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

㉓ ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

㉔ ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

㉕ ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

㉖ ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

㉗ ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

㉘ ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

㉙ ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

㉚ ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

㉛ ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

㉜ ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

㉝ ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

㉞ ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

㉟ ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

㊱ ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

㊲ ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

㊳ ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

㊴ ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

㊵ ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

㊶ ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

㊷ ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

㊸ ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

㊹ ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

㊺ ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

㊻ ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

㊼ ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

㊽ ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

㊾ ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

㊿ ※t > 16mm の場合の溶接は、③ ~ ⑤ とする。

鉄骨構造標準図(2)

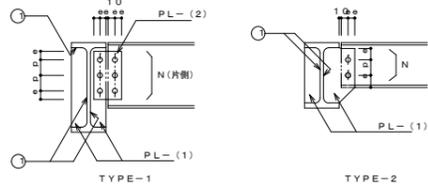
3. 継手標準図、その他

(1) ボルトピッチ(P)、ボルト穴径・最小縁間距離

呼び	ボルト穴径	最小縁間距離(e)				ピッチ(P)	
		(1)	(2)	(3)	(2)の標準	最小	標準
M16	18	40	28	22	40	40	60
M20	22	50	34	26	40	50	60
M22	24	55	38	28	40	55	60
M24	26	60	44	32	45	60	70

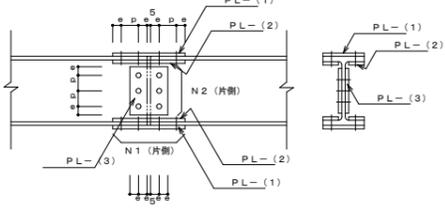
- 【注】 (1) 引張材の接合部で応力方向にボルトが3本以上並ぶ場合の応力方向の縁間距離
 (2) せん断継・手動ガス切断継の場合の縁間距離
 (3) 圧縮継・自動ガス切断継・のり引き継・機械仕上げの場合の縁間距離

(2) ピン接合梁継手リスト



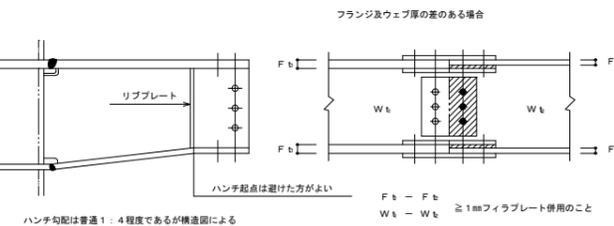
符号	タイプ	部材	フランジ		ウェブ
			PL-(1)	PL-(2)	

(3) 梁剛接合継手リスト (SCSS-H97による)



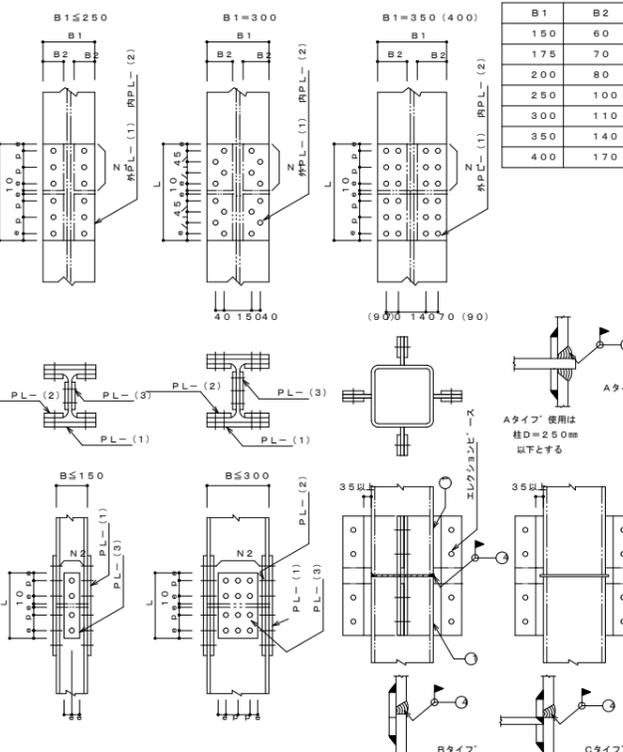
符号	部材	フランジ		ウェブ
		PL-(1)	PL-(2)	

(4) ハンチ部の継手



ハンチ勾配は普通1:4程度であるが構造図による
 $F_b - F_b \geq 1\text{mm}$ フラプレート併用のこと
 $W_b - W_b$

(5) 柱継手リスト (SCSS-H97による)



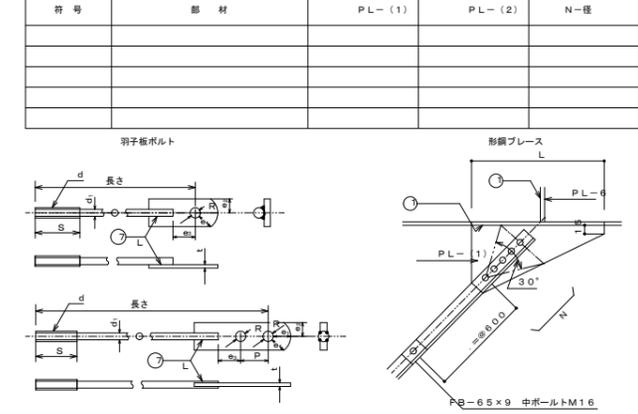
符号	部材	フランジ		ウェブ	
		PL-(1)	PL-(2)	PL-(3)	PL-(4)

(6) 鉄筋ブレース (JIS規格品とする... JIS5540... 1993)

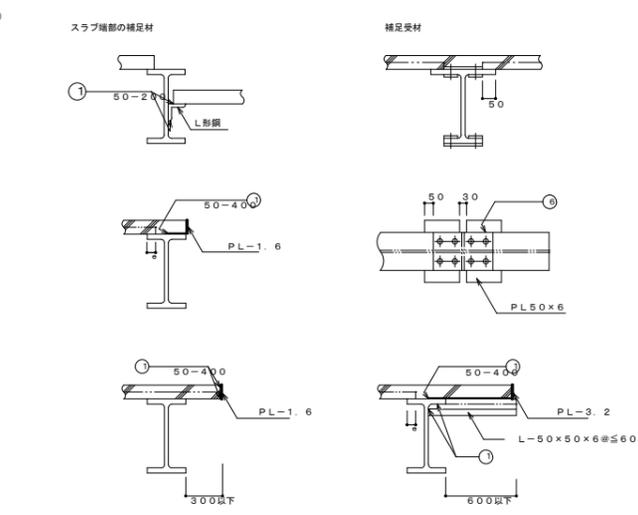
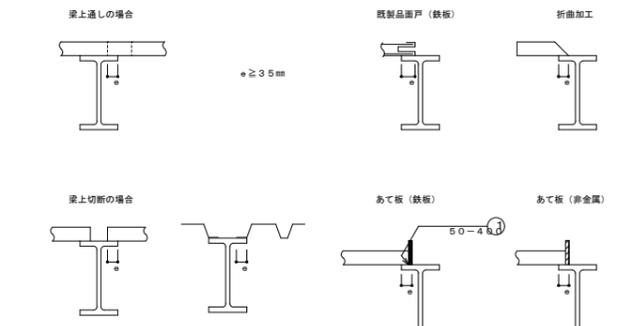
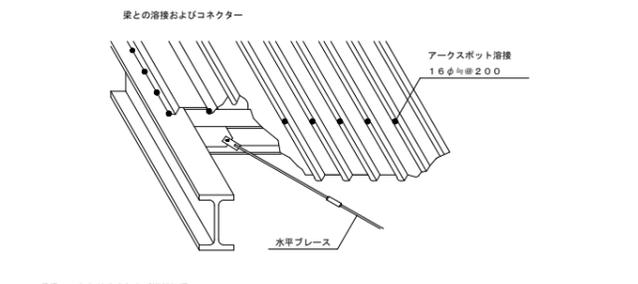
ねじの呼び (d)	規格						
	M12	M14	M16	M18	M20	M22	M24
軸径 d	10.0	12.0	14.0	16.0	18.0	20.0	21.9
調整ねじの長さ S	100	115	125	140	150	165	175
ねじ穴径 R	13	17	17	21	21	23	21
はしあき (最小) e ₁	35	40	45	50	50	55	50
切板製 へりあき (最小) e ₂	22	28	28	34	34	38	38
板厚 t	4.5	6	6	9	9	9	9
平鋼製 へりあき (最小) e ₂	19	25	25	32	32	37	37
板厚 t	4.5	6	6	9	9	9	9
ボルト頭からの取付ボルト穴のあき (最小) e ₂	47	52	59	66	66	73	70
溶接長さ (最小) L	40	50	55	60	75	85	85
取付ボルト	種別: JIS B 118610又は2種高力ボルト, JIS B 1180 8g 10.9						
ねじの呼び	M12	M16	M16	M20	M20	M22	M20
本数	1	1	1	1	1	1	2

【注】 (1) e₁, e₂ が確保されていれば形状は自由
 (2) 羽子板とガセットプレートの接合は表に示す取付ボルトを使用し、一面せん断(支圧)接合とする

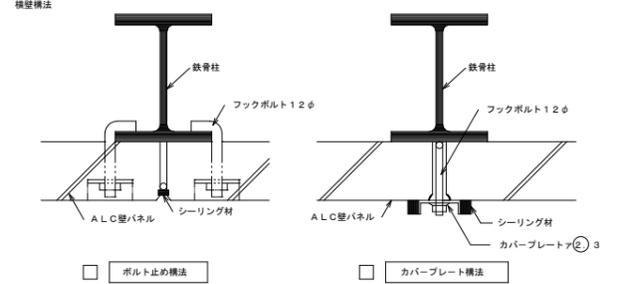
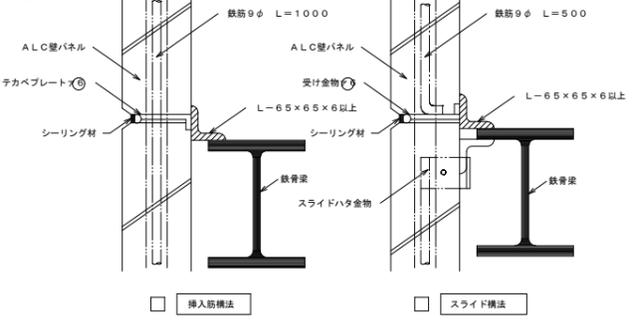
(b) 形鋼ブレース



(7) デッキプレート



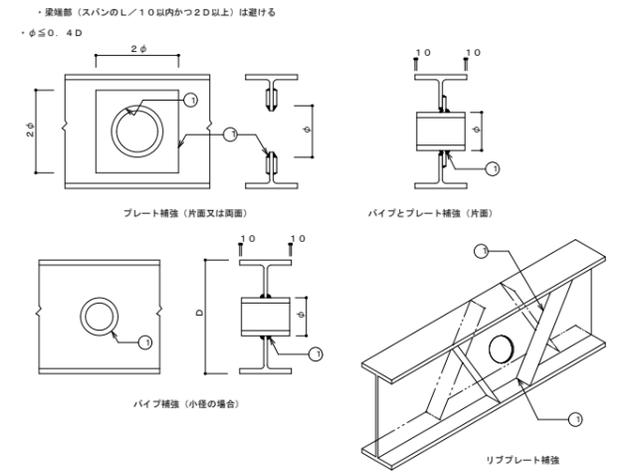
(8) ALC板取付要領



(9) 頭付きスタッド (JIS1198)

呼び名	軸径 d (mm)	頭径 D (mm)	頭高さ T (mm)	溶接後の長さ L (mm)		
				50	80	100
φ13mm	13.0	22.0	10.0	50	80	100
				70	90	110
φ16mm	16.0	29.0	10.0	80	100	130
				90	110	140
φ19mm	19.0	32.0	10.0	80	100	130
				90	110	140
φ22mm	22.0	35.0	10.0	100	130	150
				110	140	160

(10) 梁貫通補強



壁式配筋基準図 (1)

1. 鉄筋の表示

鉄筋の表示は下表による。

鉄筋径	D10	D13	D16	D19	D22
記号	○	×	◇	●	◎

2. 鉄筋加工、かぶり

(1) 鉄筋末端部の折曲げ形状・寸法

曲げ角度	折り曲げ図	鉄筋の折り曲げ内径寸法 (D)	鉄筋の余長	備考
180°		D16以下 3d以上	4d以上	
135°		SD345 (D19~D29) 4d以上	6d以上	
90°		SD390 (D29以上) 5d以上	8d以上	スラブ筋、壁筋の末端部またはスラブと同等に打込むT、L形ばりのキャップタイにのみ用いる。 キャップタイ

d: 呼び名に用いた数値

(注) 片持スラブの上筋の先端、壁の自由端に用いる先端にフックを付ける場合の余長は4d以上でよい。

(2) 鉄筋中間部の折り曲げの形状、鉄筋の折り曲げ角度90°以下

曲げ角度	折り曲げ図	使用箇所	鉄筋の径による区分	鉄筋の折り曲げ内径寸法 (D)
90°以下		あばら筋 帯 スパイラル筋	D16以下	3d以上
			D19以上	4d以上
		上記以外の鉄筋	D16以下	4d以上
			D19~D25	6d以上
		D29~D38	8d以上	

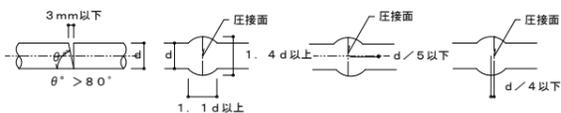
(3) 鉄筋の定着および重ね継手の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 (N/mm ²)	定着の長さ		特別の定着および重ね継手長さ (L1)
		一般 (L2)	下端筋 (L3)	
SD295A	18	40または30φック付	25または10φかつ15φ以上	45または35φック付
				40または30φック付
SD295A	21~27	35または25φック付	15φ以上	30φック付
				35または25φック付
SD345	30以上	30または20φック付		35または25φック付

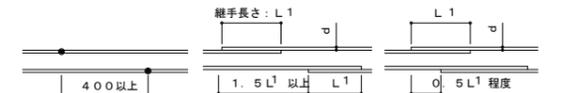
(注) 末端のフックは定着長さに含まない。

- 梁および小梁筋の定着のための中間折り曲げにあっては、表中の定着長さに関わらず、柱および梁の中心を超えてから折り曲げる。
- 耐圧スラブの下端筋の定着長さは、一般定着 (L2) とする。
- 径の異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細い方のdによる。
- 耐圧スラブを受ける小梁の下端筋 (L2) とする。

a. (ガス圧接形状)

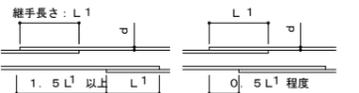


b. (ガス圧接)

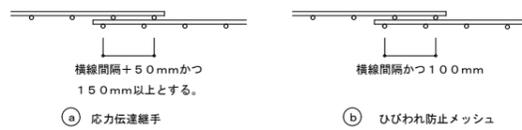


c. (重ね継手)

(下図のいずれかとする)



(4) 溶接金網の継手



(5) 設計かぶり厚さ

a. 使用区分

使用区分	設計かぶり厚さ (b)	備考
土に接しない部分	床版	30
	耐力壁以外の壁	40
	梁・耐力壁	50
土に接する部分	梁・床版・壁	50
	基礎・擁壁・耐圧版	70
煙突など高熱を受ける部分	70	

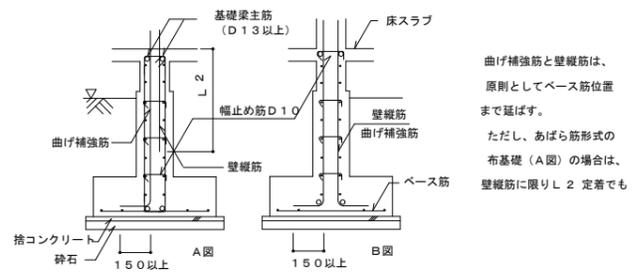
b. 各部分のかぶり厚さ

床版	壁	梁	直接基礎	杭基礎

(注) bには、増しコンクリート厚さは含まない。

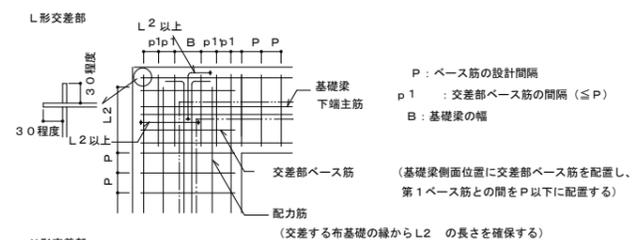
3. 基礎

(1) 直接基礎



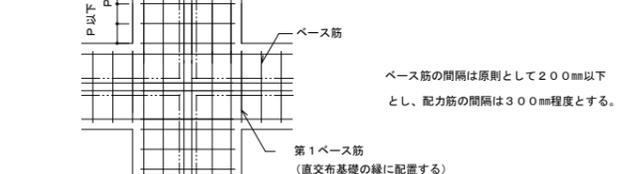
曲げ補強筋と壁縦筋は、原則としてベース筋位置まで延ばす。ただし、あばら筋形式の布基礎 (A図) の場合は、壁縦筋に限りL2定着でも可。

布基礎交差部の配筋 (平面)



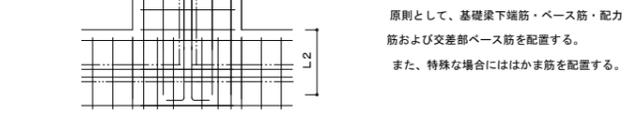
P: ベース筋の設計間隔
P1: 交差部ベース筋の間隔 (≦P)
B: 基礎梁の幅
(基礎梁側面位置に交差部ベース筋を配置し、第1ベース筋との間をP以下に配置する)

X形交差部



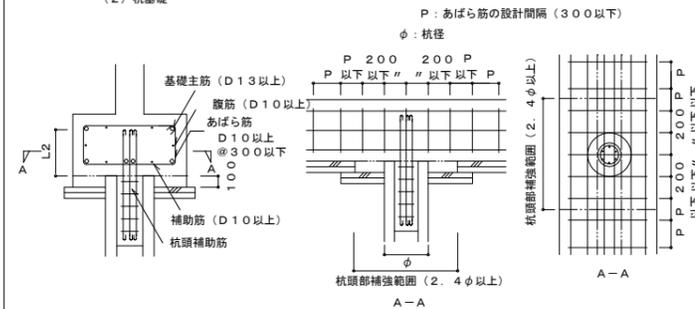
ベース筋の間隔は原則として200mm以下とし、配力筋の間隔は300mm程度とする。

T形交差部



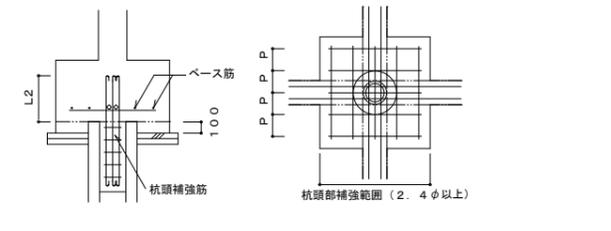
原則として、基礎梁下端筋・ベース筋・配力筋および交差部ベース筋を配置する。また、特殊な場合にははかま筋を配置する。

(2) 杭基礎

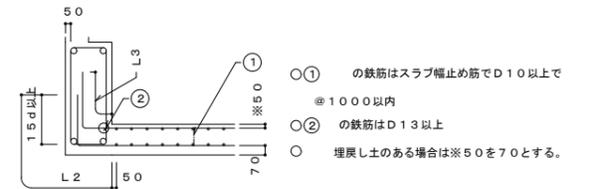


基礎主筋はD13以上とし、あばら筋・補強筋・腹筋はD10以上とする。あばら筋の間隔は300mm以下とし、杭頭部では原則として200mm以下とする。また、補強筋・腹筋の間隔は300mm程度とする。

P: ベース筋の設計間隔 (200以下)

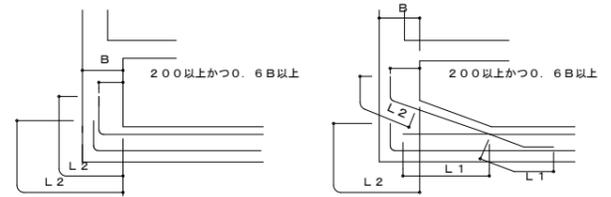


(3) べた基礎

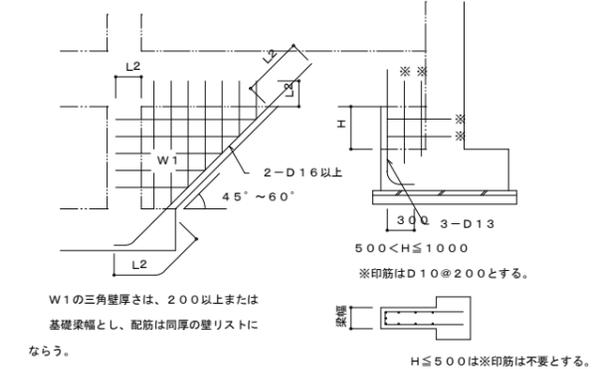


- ① の鉄筋はスラブ幅止め筋でD10以上で @100以内
- ② の鉄筋はD13以上
- 埋戻し土のある場合は※50を70とする。

(4) 耐圧版 (定着および継手)

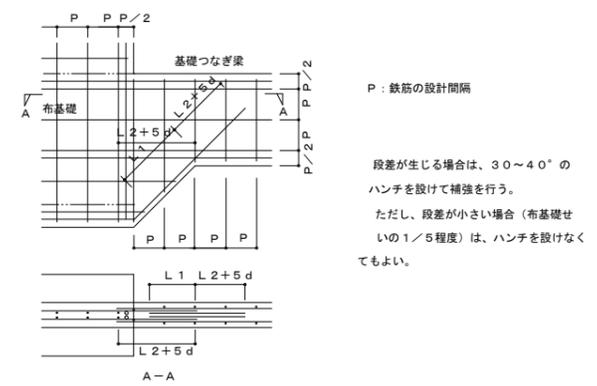


(5) 基礎接合部の補強



W1の三角壁厚さは、200以上または基礎梁幅とし、配筋は同厚の壁リストに等しい。H≦500は※印筋は不要とする。

(6) 布基礎と基礎つなぎ梁



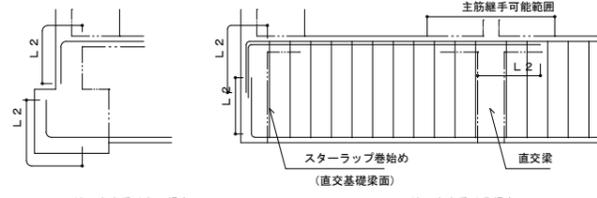
P: 鉄筋の設計間隔

段差が生じる場合は、30~40°のハンチを設けて補強を行う。ただし、段差が小さい場合 (布基礎でない1/5程度) は、ハンチを設けなくてもよい。

4. 基礎梁

(1) 基礎梁の配筋

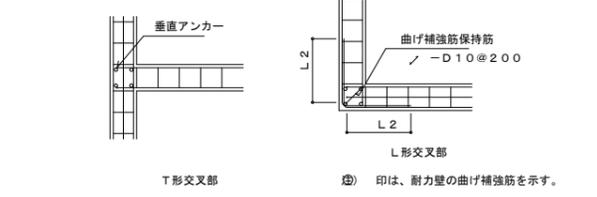
a. 定着・継手



地反力を受けない場合

地反力を受ける場合

b. 主筋定着要領



T形交叉部

L形交叉部

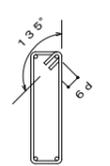
② 印は、耐力壁の曲げ補強筋を示す。

(2) スターアップの加工、その他

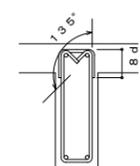
a. スターアップの加工

2G~RGについては、壁式配筋基準図-27による。

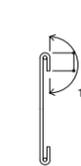
一般形状



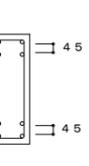
両側床版付の場合は下配でもよい



単筋型



b. 二筋の場合



片側床版以外は、フック位置を交互とする。

c. 鉄筋相互のあき (P) は、下記のうち最大のものとす。

- 1) 組骨材の最大寸法の1.25倍
- 2) 25mm
- 3) 鉄筋径 (d) の1.5倍

D: 鉄筋の最大径、d: 鉄筋径 (呼び名)

(3) 幅止め筋の本数、加工

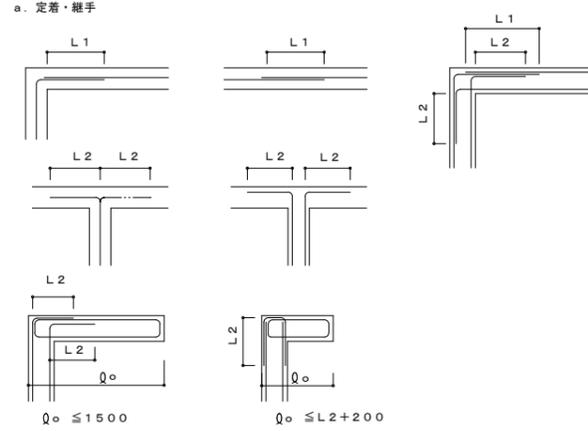
腹筋	D < 600	不要
幅止め筋	600 ≦ D < 900	2-D10 1段
	900 ≦ D < 1200	2-D10 2段
	1200 ≦ D	2-D10 @300以内

○ 腹筋は柱面より30mm以上定着すること。

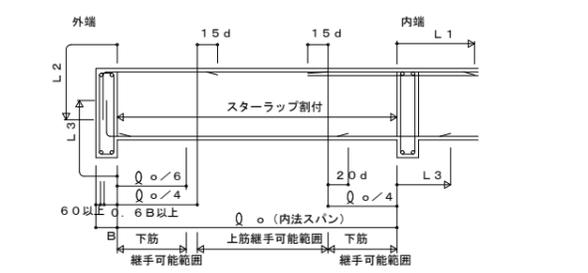
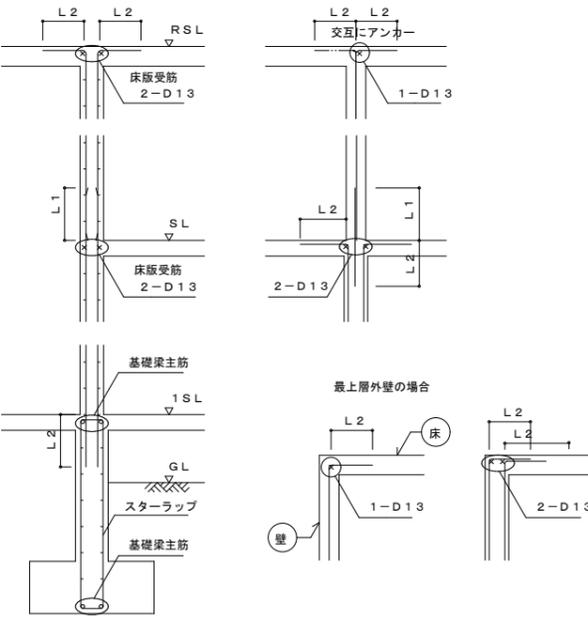
壁式配筋基準図(2)

5. 壁の配筋

(1) 横筋の継手、定着、その他

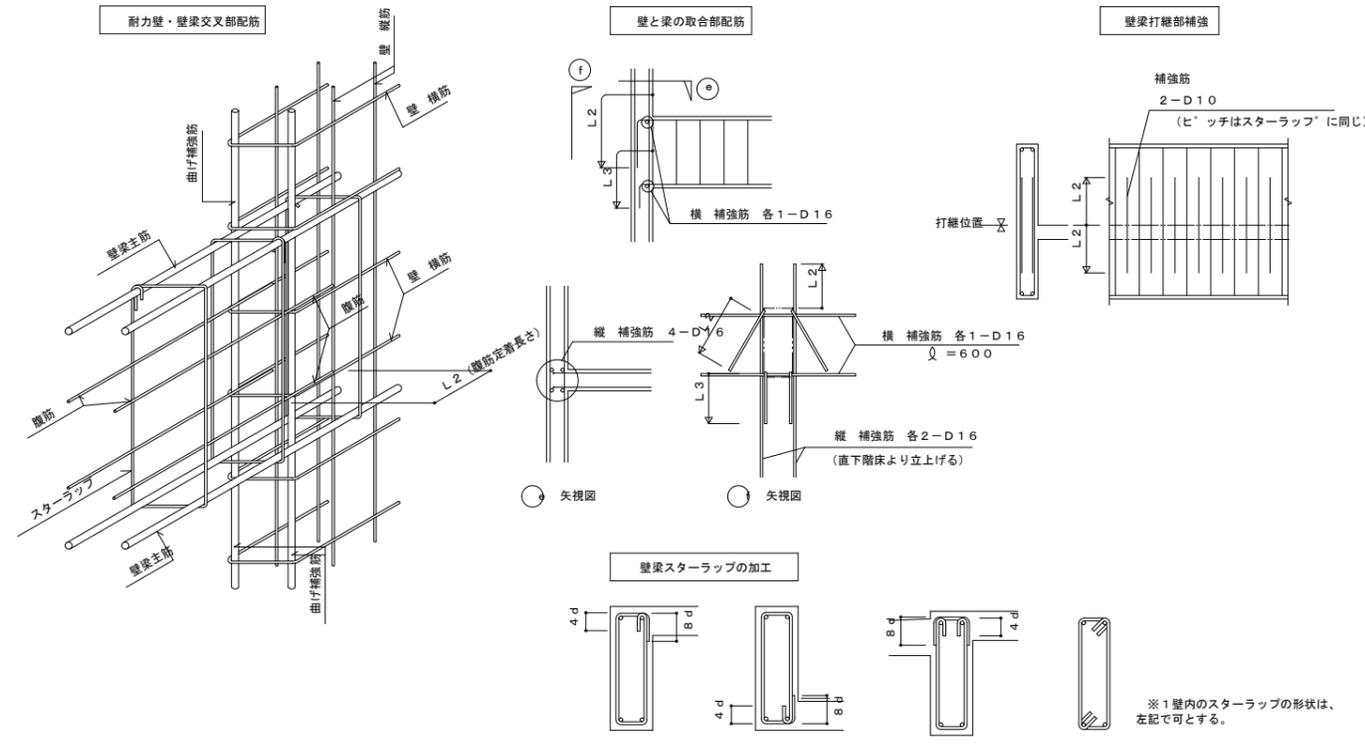
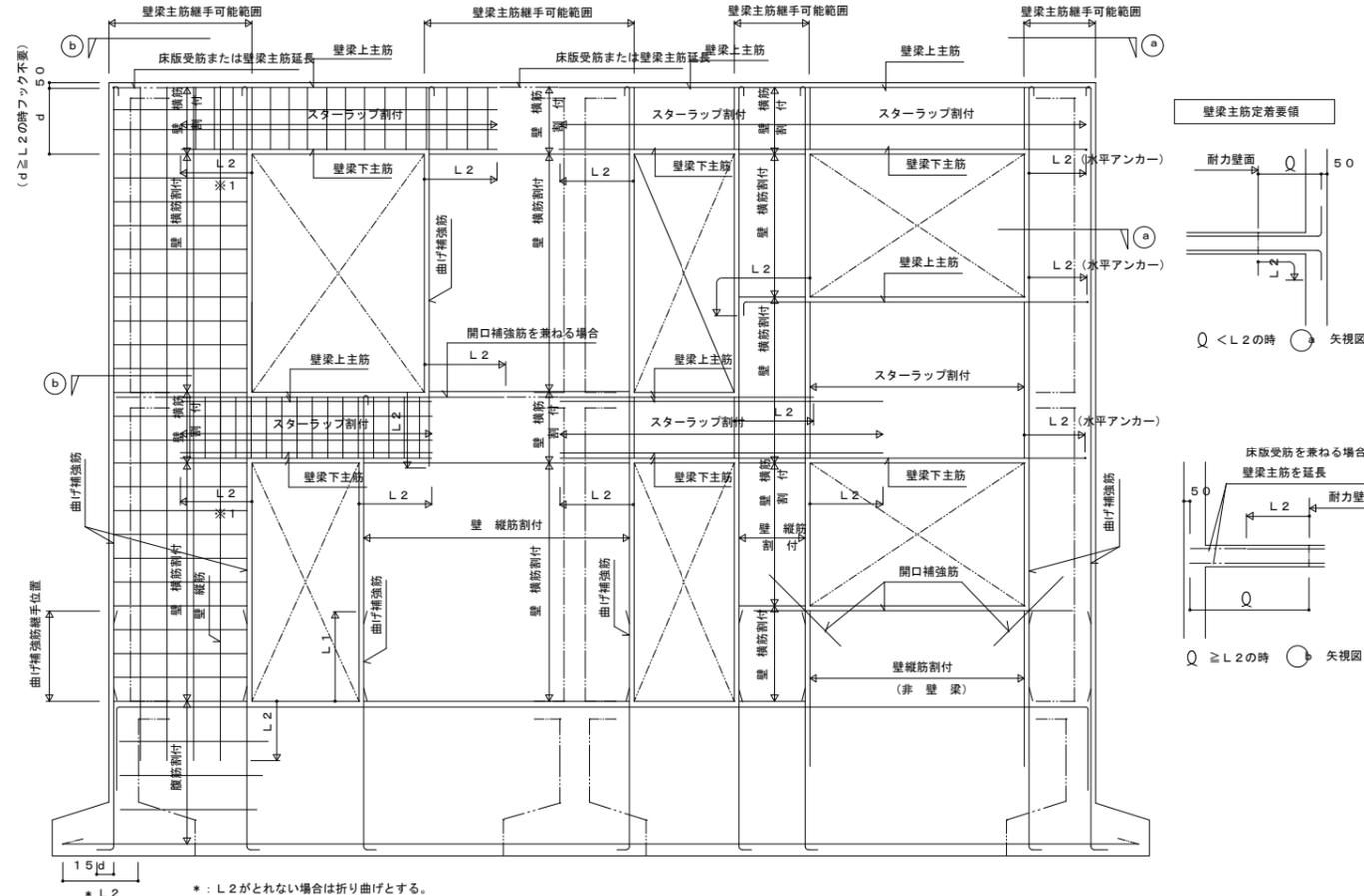


(2) 縦筋の継手、定着



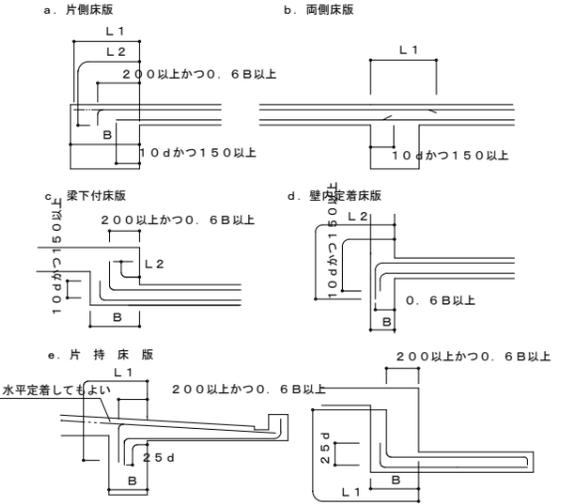
6. 耐力壁・壁梁の配筋詳細

・壁梁主筋の定着・継手およびスターラップの割付。
・耐力壁曲げ補強筋の定着および継手、縦横筋の割付。

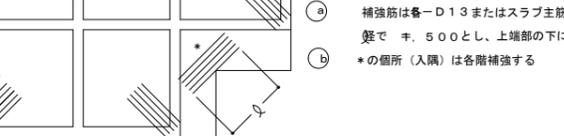


7. 床版

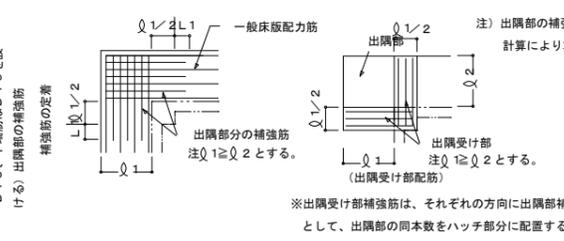
(1) 定着および継手



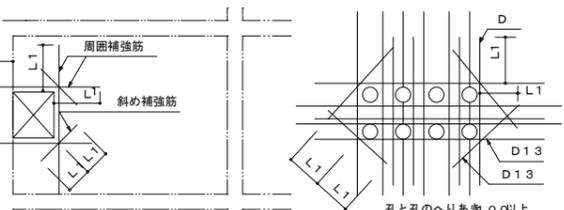
(2) 屋根スラブの補強



(3) 片持ちスラブの補強

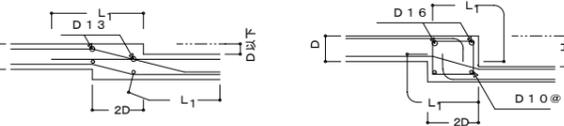


(4) 床版開口部の補強



床版厚さD	周囲	斜め
D ≤ 150	各 2-D 13	各 1-D 13
150 < D ≤ 200	各 2-D 13	各 2-D 13
200 < D ≤ 300	各 2-D 19	各 2-D 19

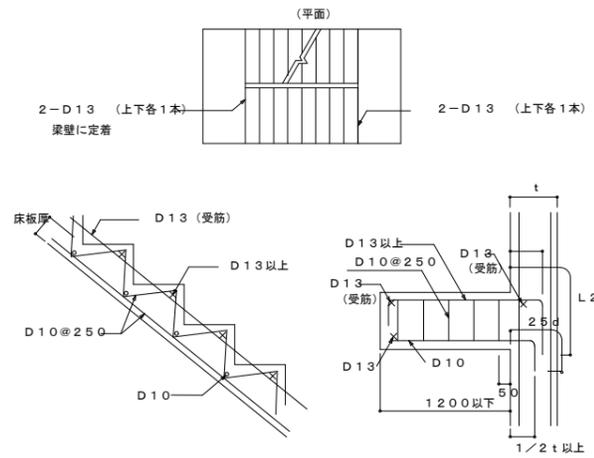
(5) 床版段差



壁式配筋基準図(3)

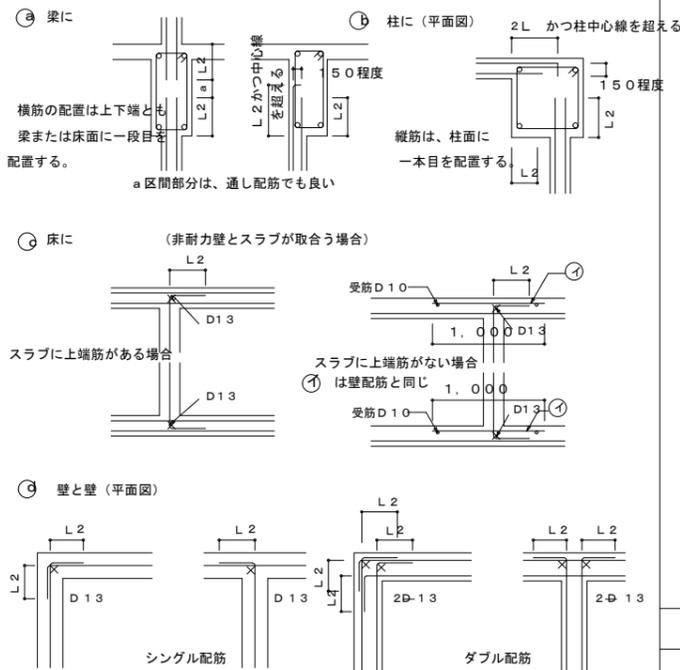
8. 階段

(1) 片持階段

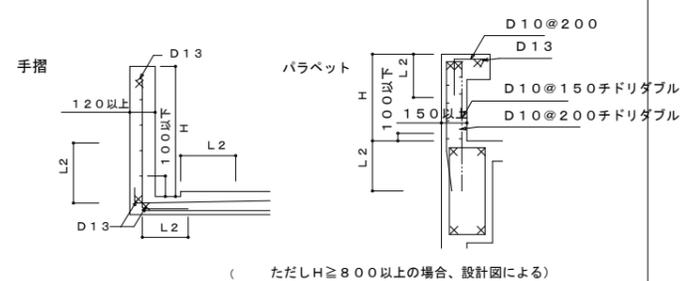


9. 壁

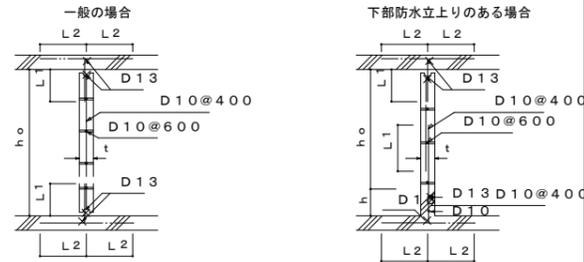
(1) 定着



(2) 手摺、バラベツト



(3) コンクリートブロック帳壁

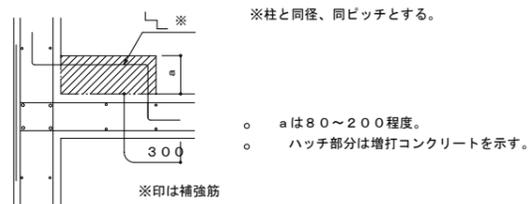


- $H \leq 25t$ かつ 400 以下とする。ただし直交方向 t 以内に壁、または柱がある場合は除く。
- h はコンクリートブロック段数調節寸法とする。ただし $h \leq 400$
- 継手部は必ずモルタルを充填すること。

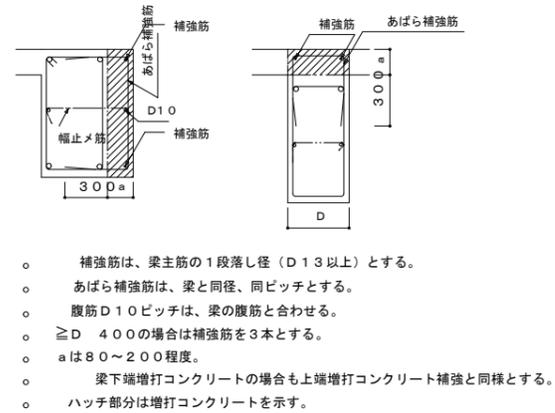
10. 増打コンクリート補強

(増打するときは事前に設計者および工事監理者と打合せのこと)

(1) 壁

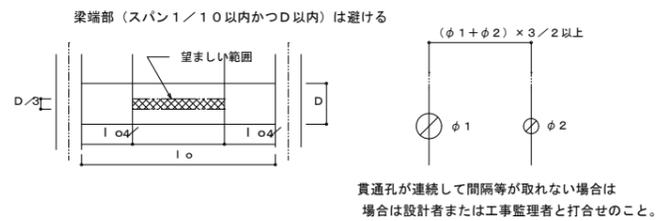


(2) 梁



11. 梁貫通孔補強

(1) 設置可能範囲



(2) 鉄筋標準配筋

ただし $\leq D \times$ とする

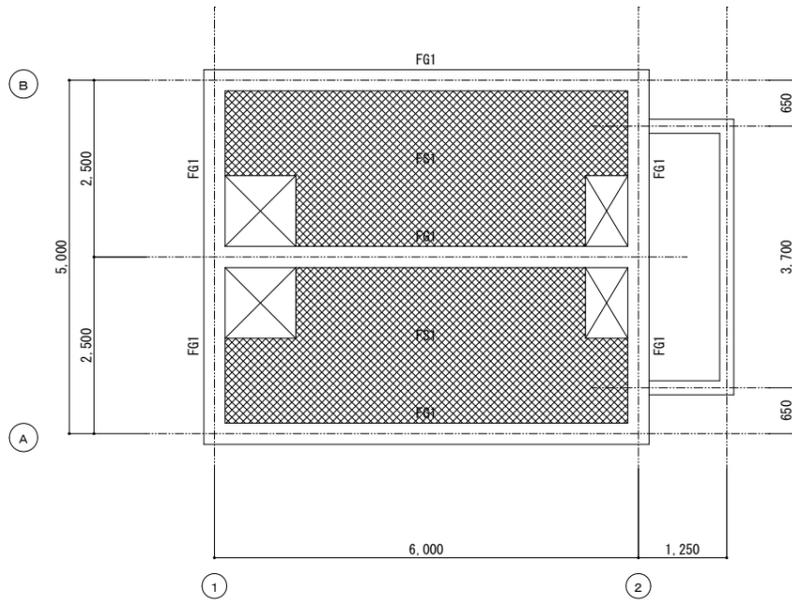
80 ≦	100 ≦	150 ≦
折筋 2-(2-D)	折筋 2-(2-D)	斜筋 4-(2-D) 3
縦筋 ST2-D13	縦筋 ST4-D13	縦筋 ST4-D13
	横筋 2-(2-D)	横筋 2-(2-D) 3
		上下縦筋 各ST1-D13

(3) 既製品

- (使用するときには、監理者の承諾を得ること)
- リング型 ○パイプ型 ○金網型 ○プレート型

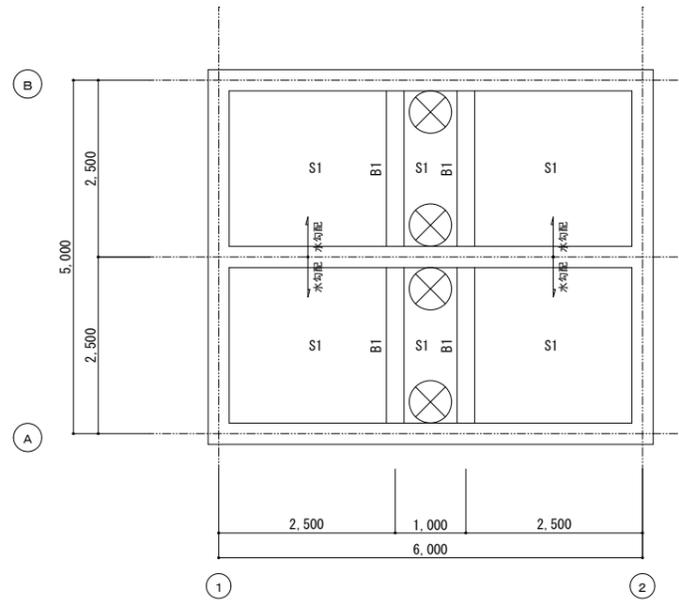
令和 6 年度			
工事名	広島高速 5 号線料金所等新築その他工事		
図面番号	縮尺	1/50	
図名	二葉の里消火水槽 伏図・軸組図	番号	CS-25
路線名	高速 5 号線		
広島高速道路公社			

共通事項				
長期鉛直地耐力	qa=100kN/m ² (支持層:盛土層 N ₇ GL-1.0m)		備考 ・打設時期にあった構造体強度補正を行うこと ・コンクリートの仕様は、「公共建築工事標準仕様書 (建築工事) 最新版」による	
鉄筋	D19未満	SD295A (重ね継手)		土間コンクリート 普通コンクリート Fc=24N/mm ² S=18cm
	D19以上	SD345 (圧接)		捨てコンクリート 普通コンクリート Fc=18N/mm ² S=15cm ・コンクリート厚 50mm
コンクリート	普通コンクリート Fc=24N/mm ² S=18cm			砕石 ・厚さ 100mm
基礎コンクリート	普通コンクリート Fc=24N/mm ² S=15cm			



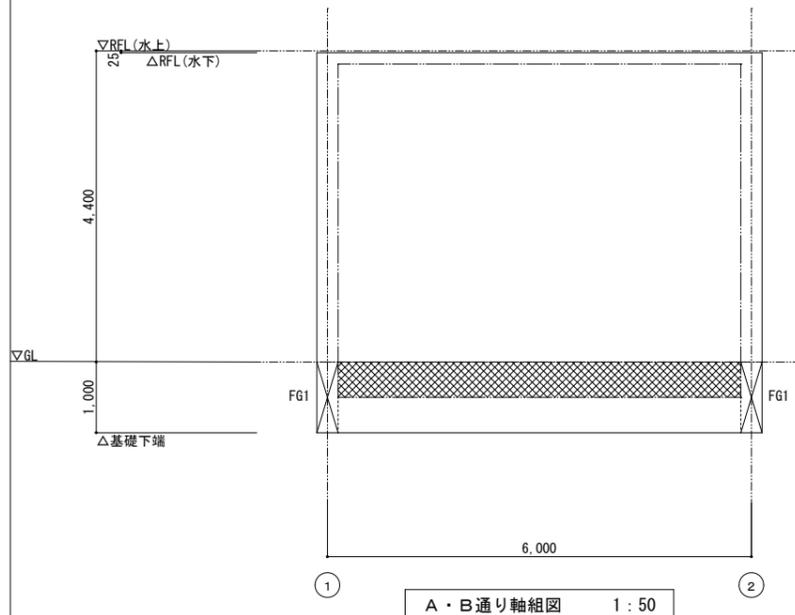
基礎伏図 (見下図) 1:50

- 記入なき限り、下記とする
1. 基礎下端レベル: GL-1,000
 2. 壁はW30とする。
 3. 耐圧盤はFS1とする。
 4. 〇〇増打ち範囲を示す。



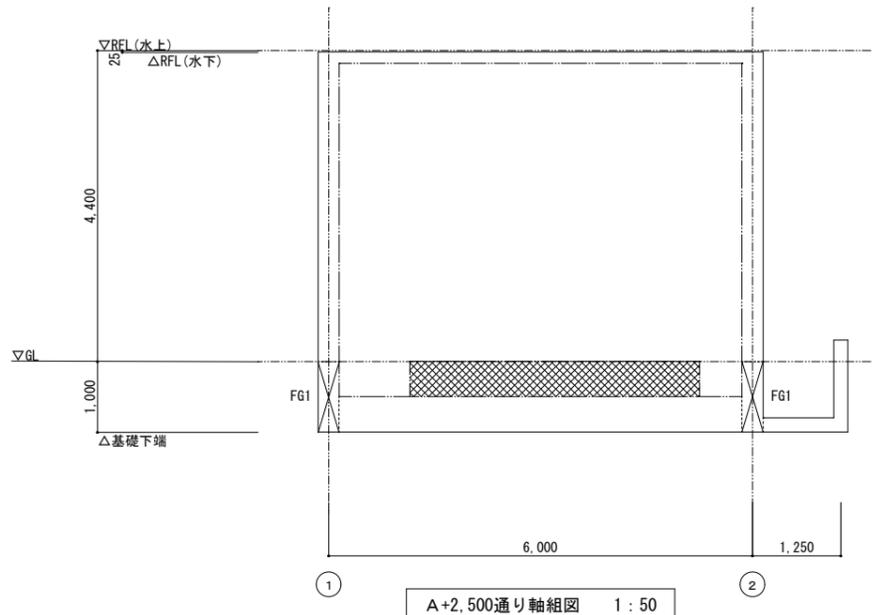
1階壁R階梁床伏図 (見上図) 1:50

- 記入なき限り、下記とする
1. 床天端レベル: RFL±0~-25
 2. 壁はW30とする。
 3. 床はS1とする。



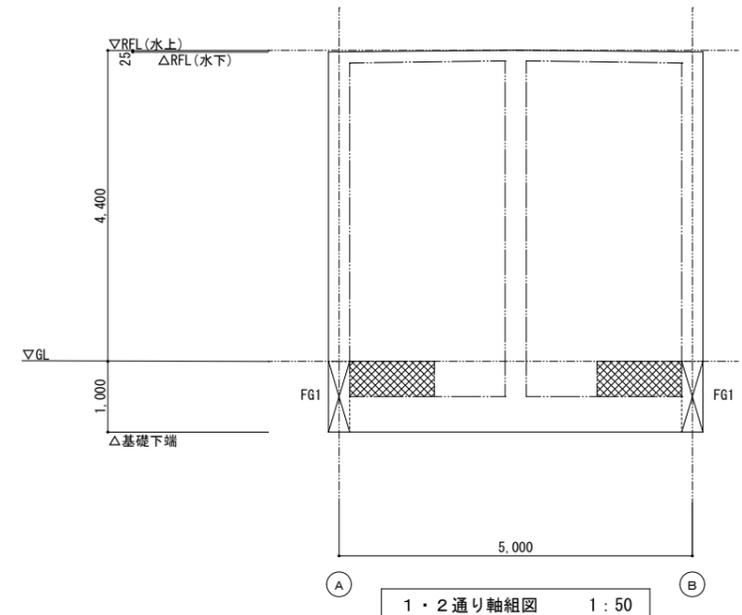
A・B通り軸組図 1:50

- 記入なき限り、下記とする
1. 壁はW30とする。
 2. 〇〇増打ち範囲を示す。



A+2,500通り軸組図 1:50

- 記入なき限り、下記とする
1. 壁はW30とする。
 2. 〇〇増打ち範囲を示す。



1・2通り軸組図 1:50

- 記入なき限り、下記とする
1. 壁はW30とする。
 2. 〇〇増打ち範囲を示す。

令和 6 年度			
工事名	広島高速5号線料金所等新築その他工事		
図面番号	縮尺	1/20	
図名	二葉の里消火水槽 梁・壁・スラブリスト 配筋詳細図	番号	CS-26
路線名	高速5号線		
広島高速道路公社			

梁リスト 1:20

特記外 1. 巾止筋はD10-@1,000とする。

符号	FG1	B1	
位置	全断面	全断面	
断面			
b x D	300 x 1000	250 x 450	
上端筋	3-D19	2-D16	
下端筋	3-D19	2-D16	
STP	□ -D13-@150	□ -D10-@200	
腹筋	4-D10	-	

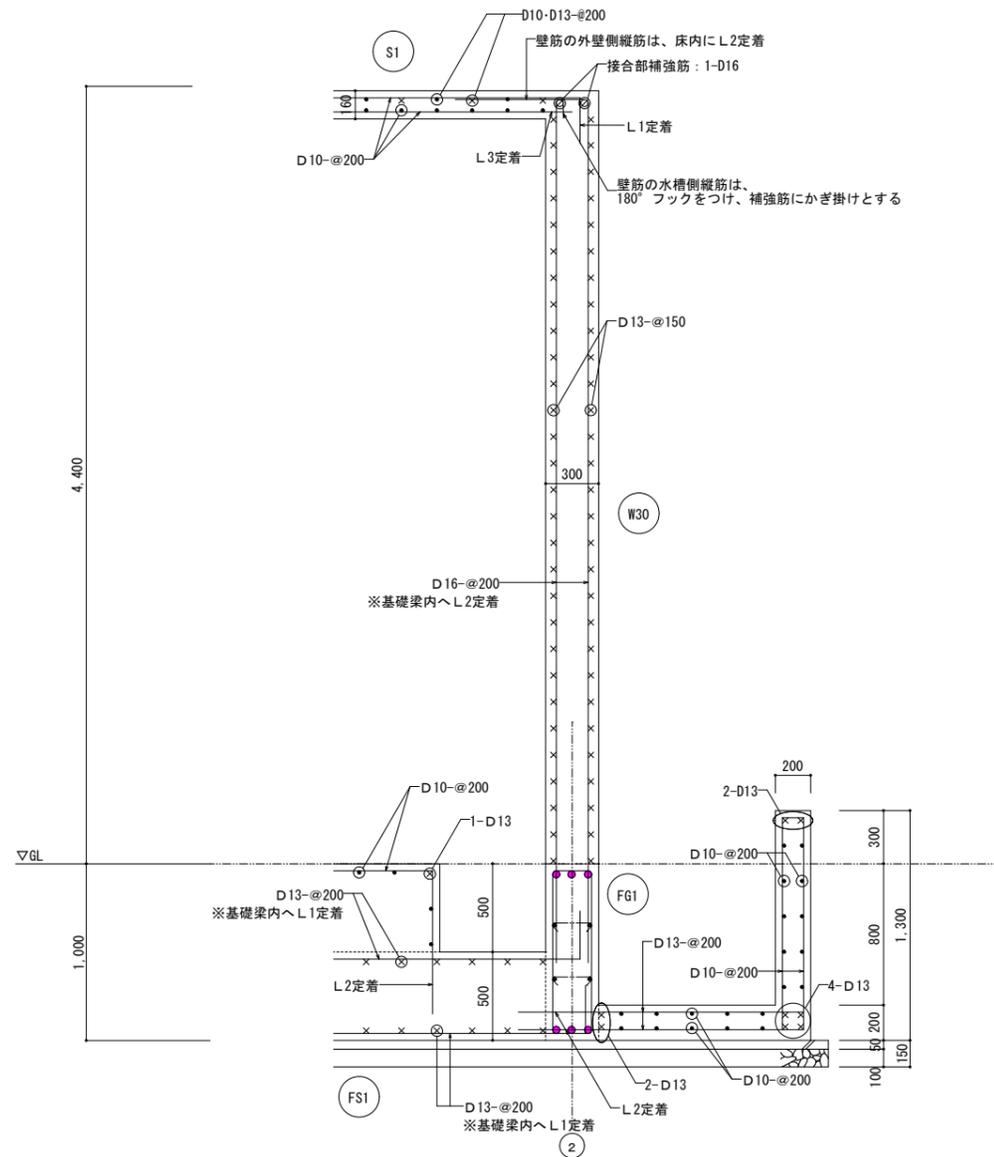
壁リスト 1:20

特記外 1. 巾止筋はD10-@1,000とする。

符号	W30		開口部補強筋
断面			
縦筋	D16-@200 D		
横筋	D13-@150 D		
開口部補強筋	a	—	
	b	—	
	c	—	
端部補強筋	4-D16		L=40d

スラブリスト

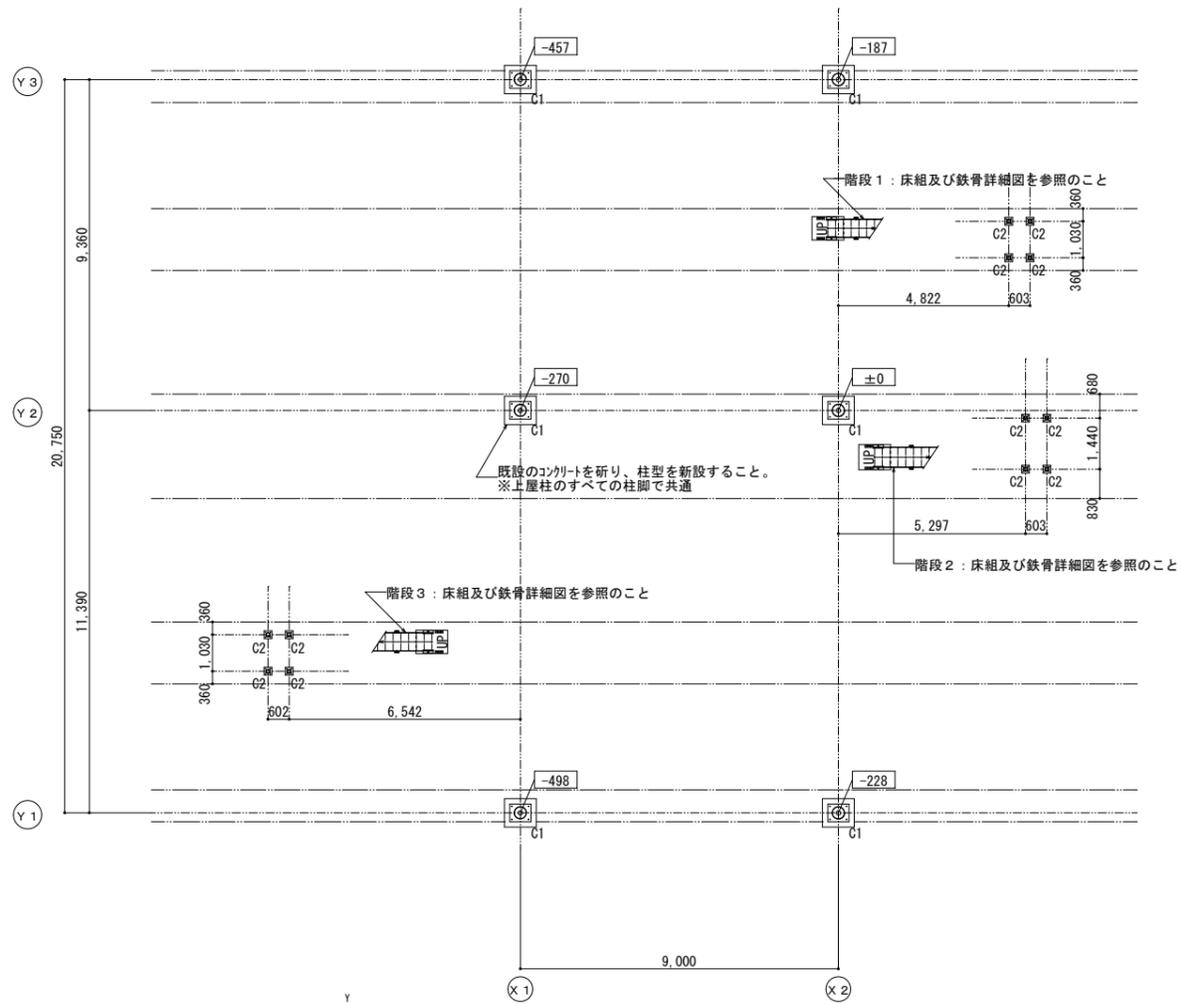
符号	床厚	位置	短辺方向(主筋方向)			長辺方向(配力筋)		
			端部	中央	周辺部	端部	中央	周辺部
S1	160	上筋	D10-D13-@200	←	←	D10-@200	←	←
		下筋	D10-@200	←	←	D10-@200	←	←
FS1	500	上筋	D13-@200	←	←	D13-@200	←	←
		下筋	D13-@200	←	←	D13-@200	←	←



配筋詳細図 1:20

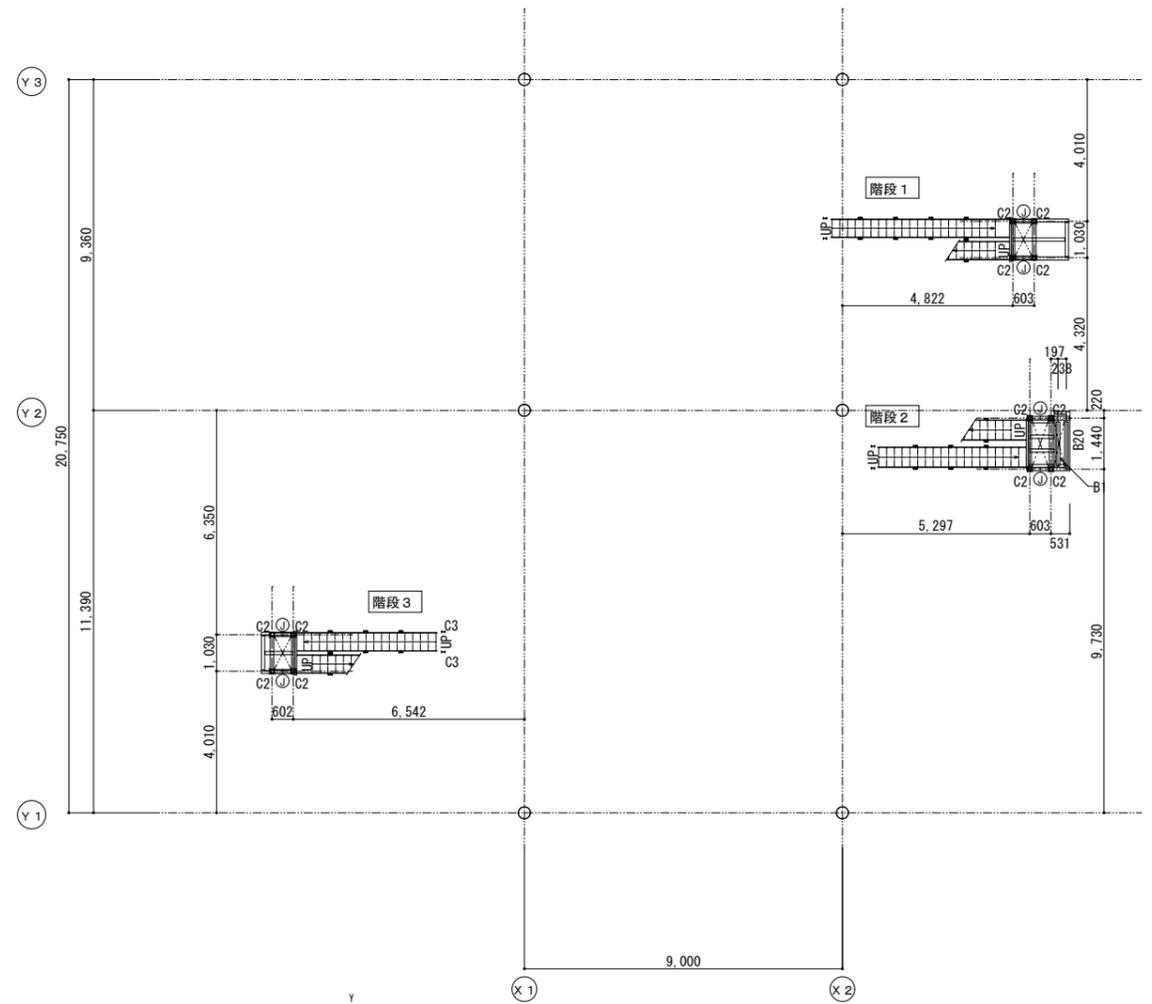
令和 6 年度			
工事名	広島高速 5 号線料金所等新築その他工事		
図面番号	縮尺	1/100	
図名	広島駅北口料金所 伏図 (1)	番号	C S - 2 7
路線名	高速 5 号線		
広島高速道路公社			

共通事項	
鋼材	円型鋼管 STKN400B
	角型鋼管 STKR400
	H型鋼 SN400A、SN400B
	アイワム SN490C
	ペースプレート SN490C
	アキボルト ABR490
	軽量型鋼 SSC400
	鋼板 SN400B
	高力ボルト F8T
備考	・鋼材の仕上げは、溶融亜鉛メッキとすること



1階伏図 (見下図) 1:100

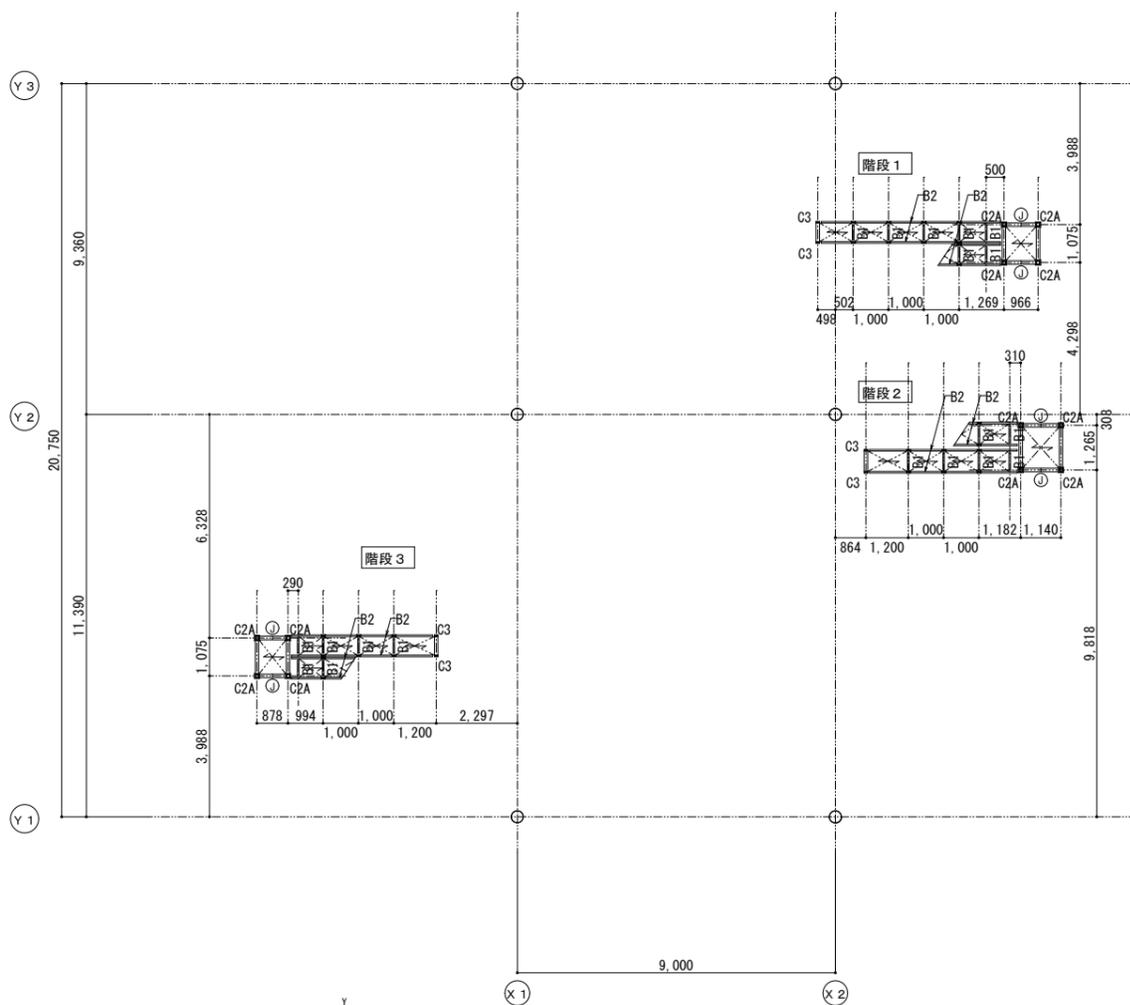
- 記入なき限り、下記とする
1. 最高の舗装天 +221をGLとする。
 2. ○○○はGLからのアイランド天端レベルを示す。



階段伏図 (見下図) 1:100

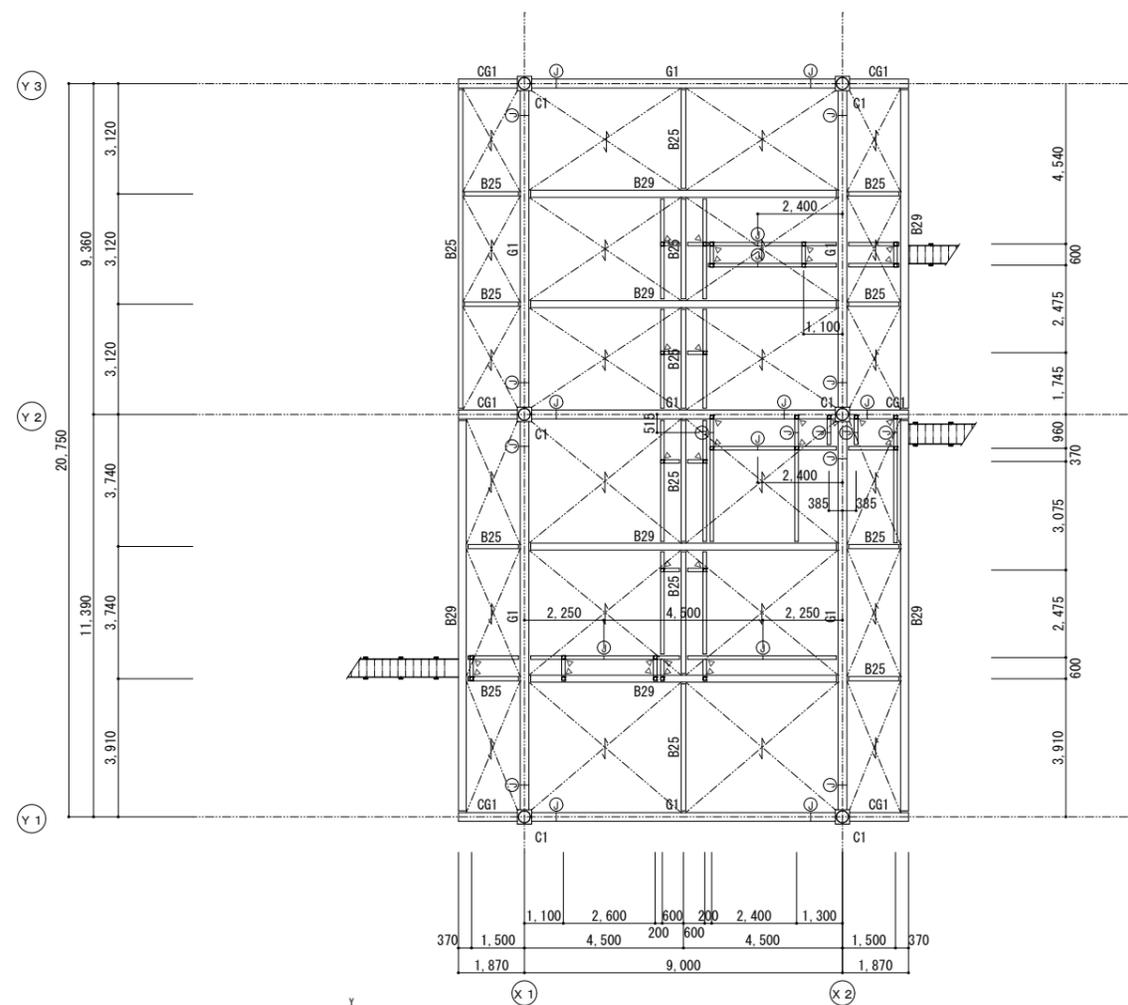
- 記入なき限り、下記とする
1. 大梁は全て、「G20」とする。
 2. 印は屋根ブレースHV2を示す。(階段下の全ての層に配置すること)
 3. ○は現場継手位置を示す。(位置は、スパンの中央とすること)
 4. 印は階段踊り場の床組を示す。
 5. 階段の段部や床組等は、詳細図を参照のこと

令和 6 年度			
工事名	広島高速5号線料金所等新築その他工事		
図面番号	縮尺	1/100	
図名	広島駅北口料金所 伏図(2)	番号	CS-28
路線名	高速5号線		
広島高速道路公社			



階段屋根伏図 (見下図) 1:100

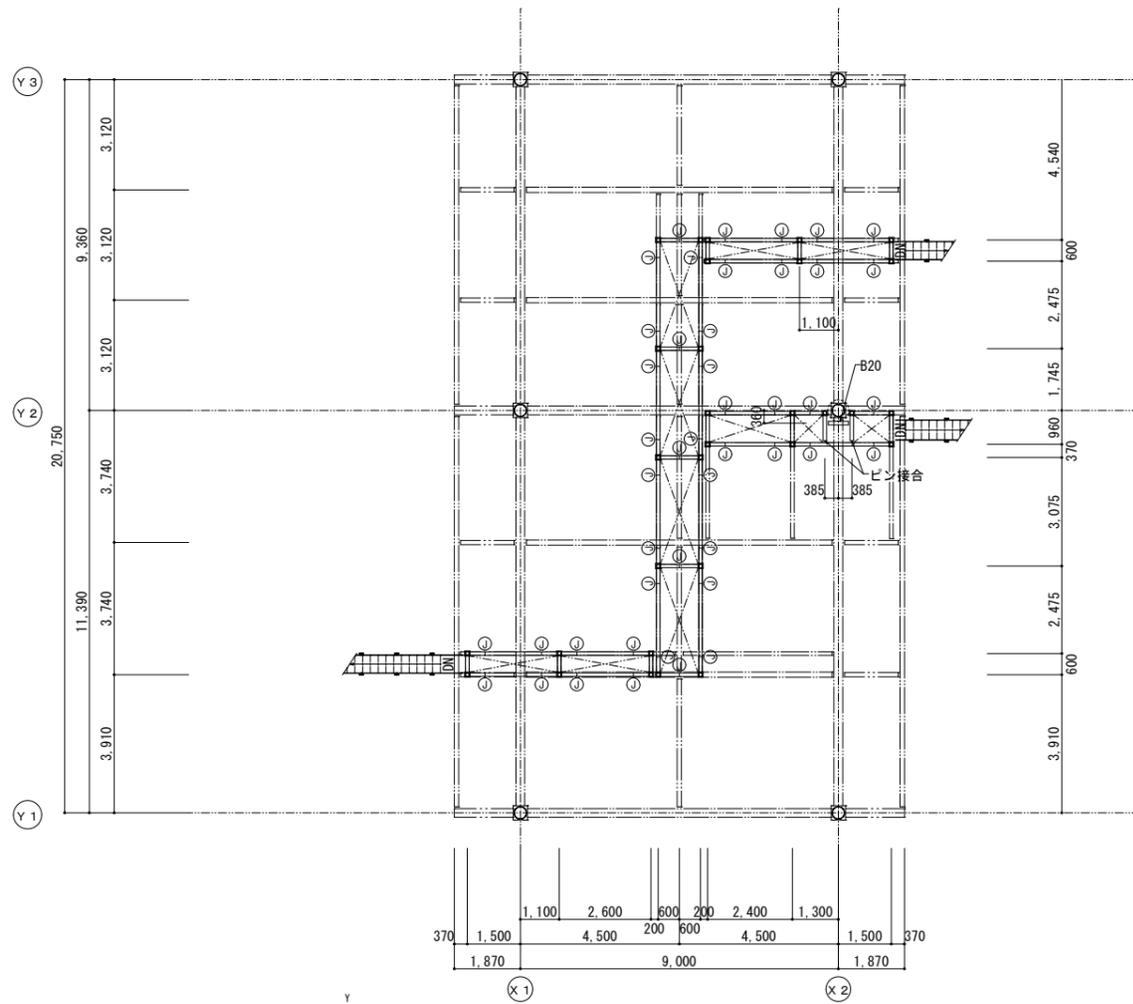
- 記入なき限り、下記とする
1. 大梁は全て、「G14」とする。
 2. 印は屋根ブレースHV1を示す。
 3. 印は現場継手位置を示す。(位置は、スパンの中央とすること)
 4. 印は折板方向を示す。



屋根伏図 (見上図) 1:100

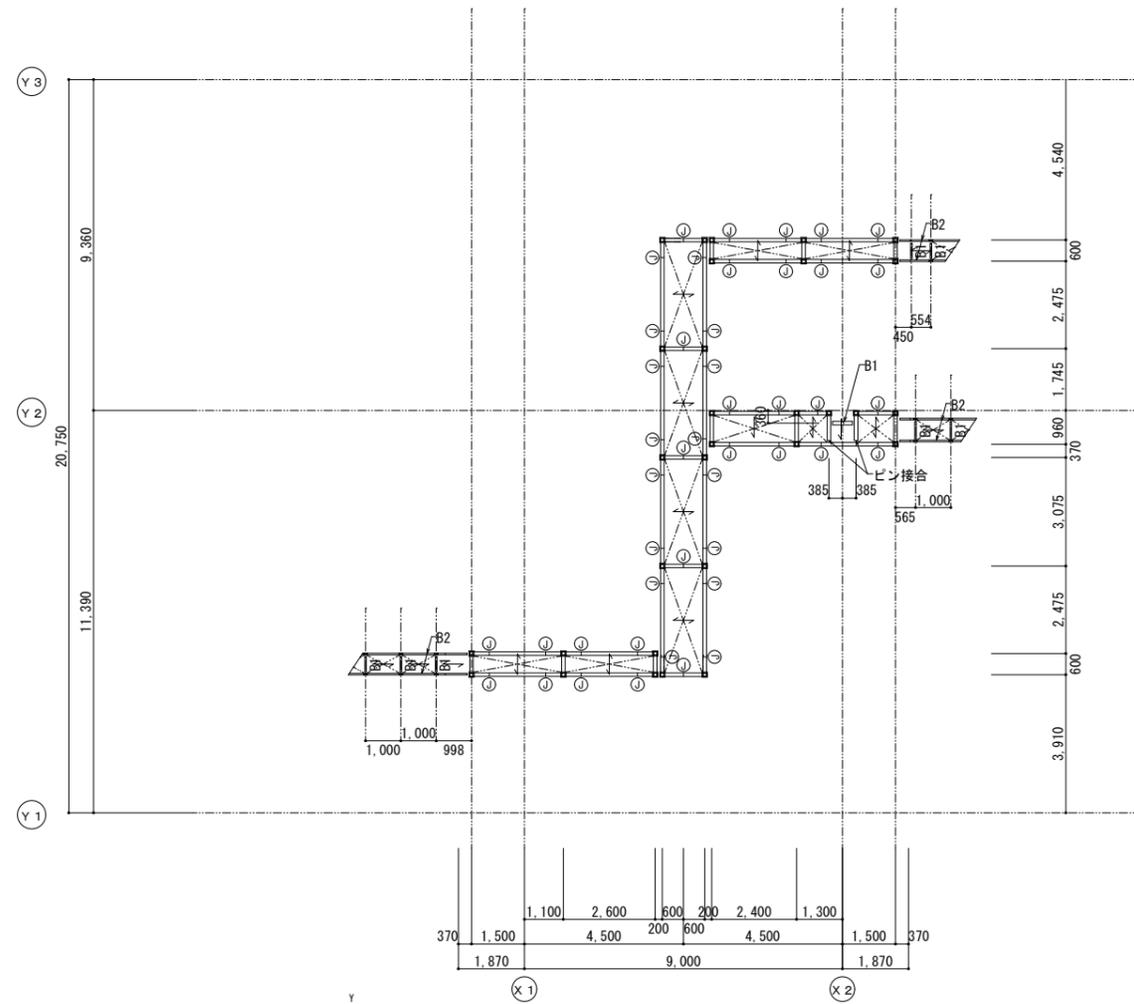
- 記入なき限り、下記とする
1. 部材レベルは軸組図による。
 2. 印は剛接合位置を示す。
 3. 印は屋根ブレースHV2を示す。
 4. 印は現場継手位置を示す。(位置は、軸組図を参照のこと)
 5. 印は折板方向を示す。
 6. 小梁は、「B20」とする。

令和 6 年度			
工事名	広島高速5号線料金所等新築その他工事		
図面番号	縮尺	1/100	
図名	広島駅北口料金所 伏図(3)	番号	CS-29
路線名	高速5号線		
広島高速道路公社			



通路床伏図 (見上図) 1:100

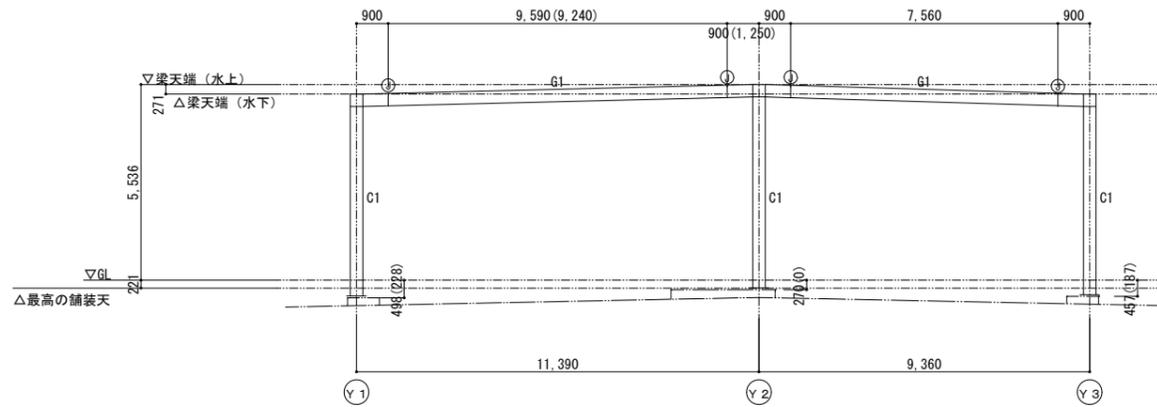
- 記入なき限り、下記とする
1. 部材レベルは軸組図による。
 2. 印は屋根ブレースHV2を示す。
 3. 印は現場継手位置を示す。(位置は、軸組図を参照のこと)
 4. 柱は、「C2B」とする。
 5. 大梁は、「G20」とする。



通路屋根伏図 (見上図) 1:100

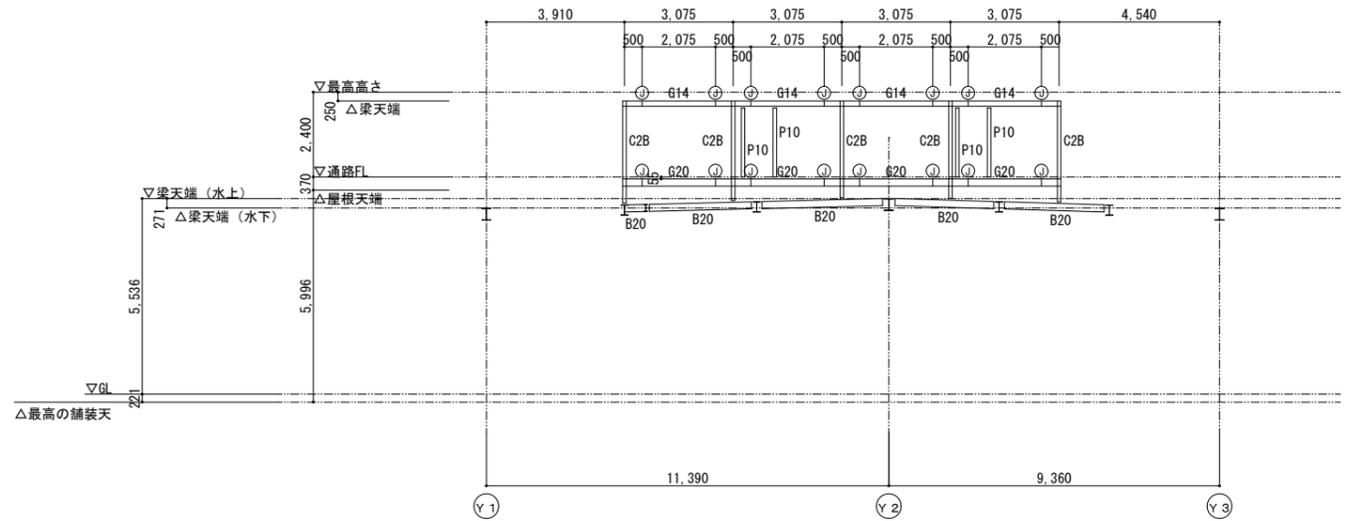
- 記入なき限り、下記とする
1. 部材レベルは軸組図による。
 2. 印は屋根ブレースHV1を示す。
 3. 印は現場継手位置を示す。(位置は、軸組図を参照のこと)
 4. 印は折板方向を示す。
 5. 柱は、「C2B」とする。
 6. 大梁は、「G14」とする。

令和 6 年度			
工事名	広島高速5号線料金所等新築その他工事		
図面番号	縮尺	1/100	
図名	広島駅北口料金所 軸組図	番号	CS-30
路線名	高速5号線		
広島高速道路公社			



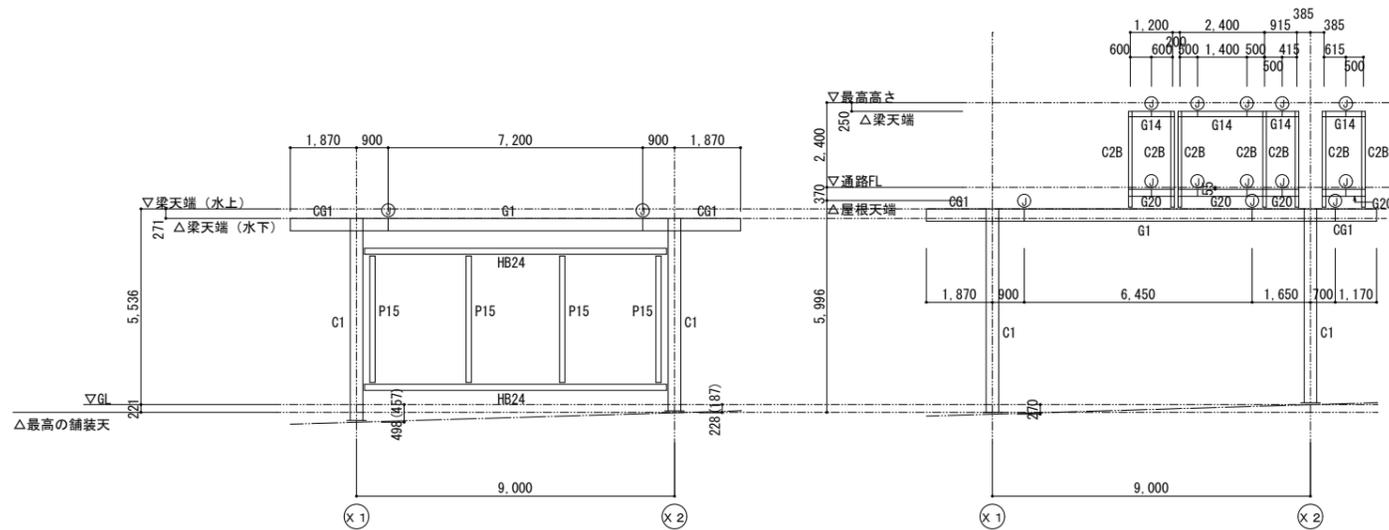
X 1・X 2 通り軸組図 1:100

- 記入なき限り、下記とする
- ①は現場継手位置を示す。
 - ()はX 2通りのレベル及び符号を示す。
 - B. PL下端は、アイランド天端+50とする。



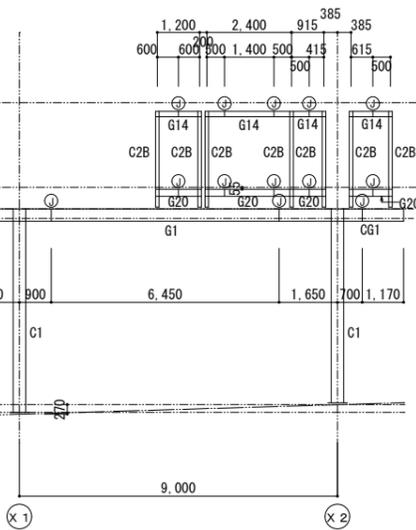
X 1+5,100 通り軸組図 1:100

- 記入なき限り、下記とする
- ①は現場継手位置を示す。



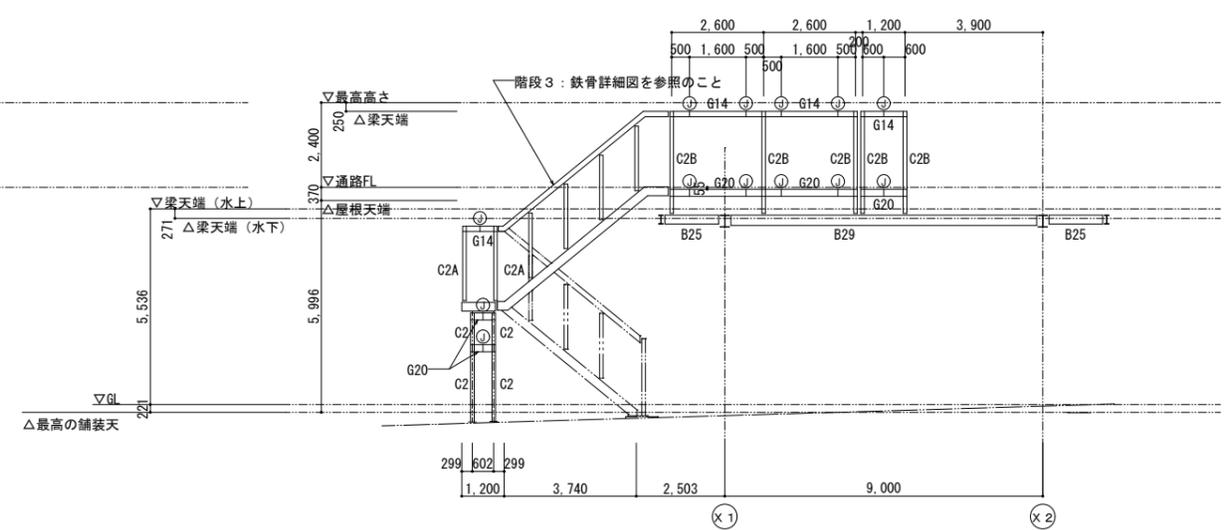
Y 1・Y 3 通り軸組図 1:100

- 記入なき限り、下記とする
- ①は現場継手位置を示す。
 - ()はY 3通りのレベル及び符号を示す。
 - B. PL下端は、アイランド天端+50とする。



Y 2 通り軸組図 1:100

- 記入なき限り、下記とする
- ①は現場継手位置を示す。
 - B. PL下端は、アイランド天端+50とする。



Y 1+3,988 通り軸組図 1:100

- 記入なき限り、下記とする
- 階段踊り場等のレベルは、詳細図を参照のこと
 - ①は現場継手位置を示す。
 - B. PL下端は、アイランド天端+30とする。

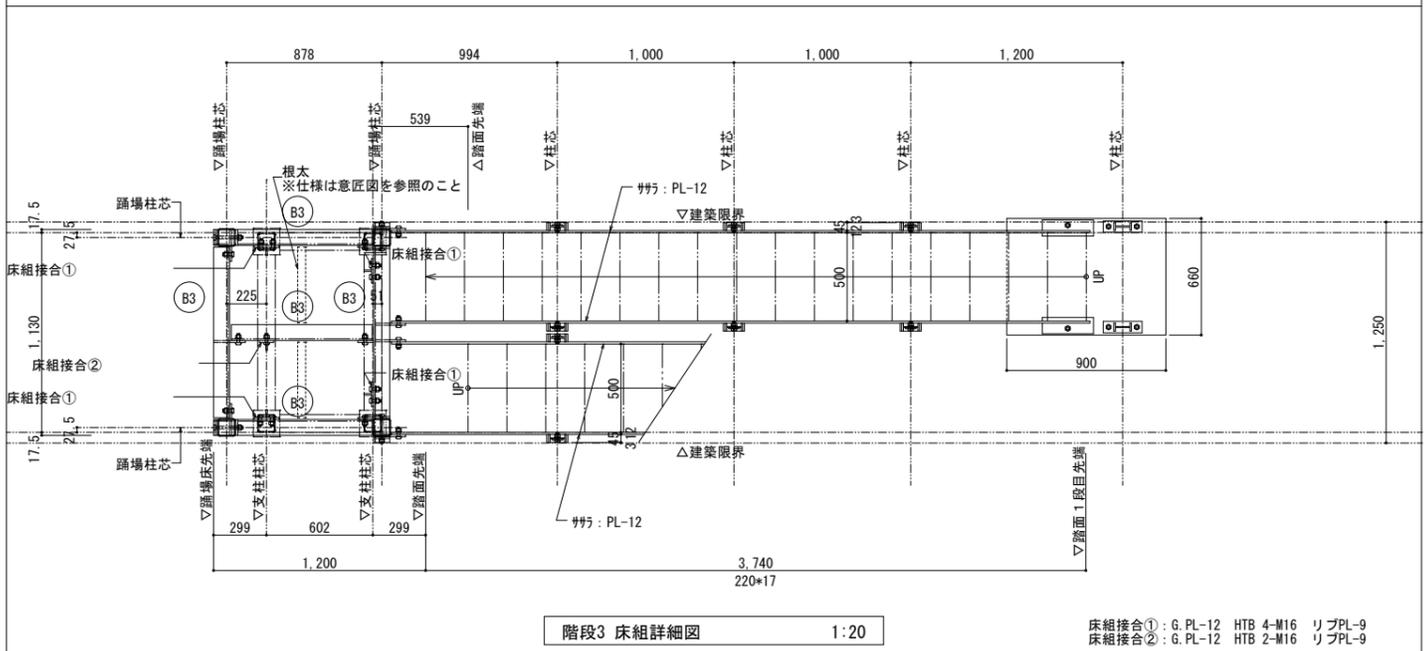
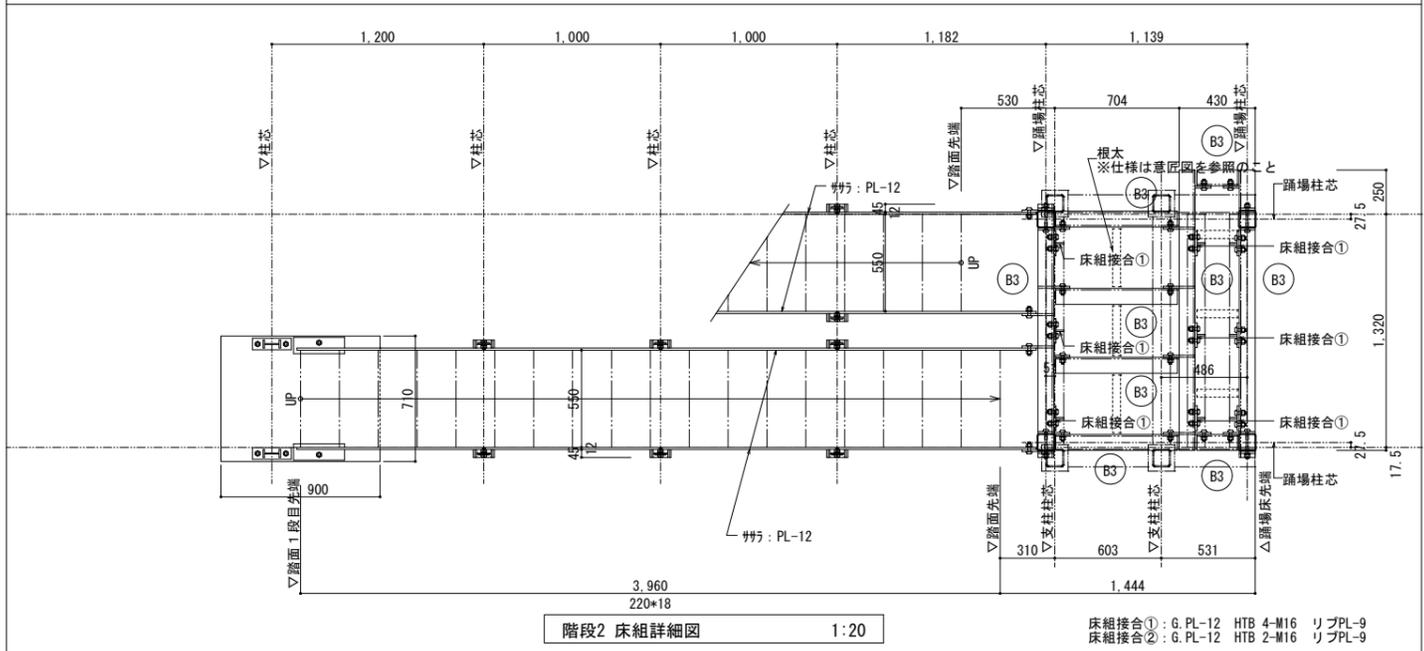
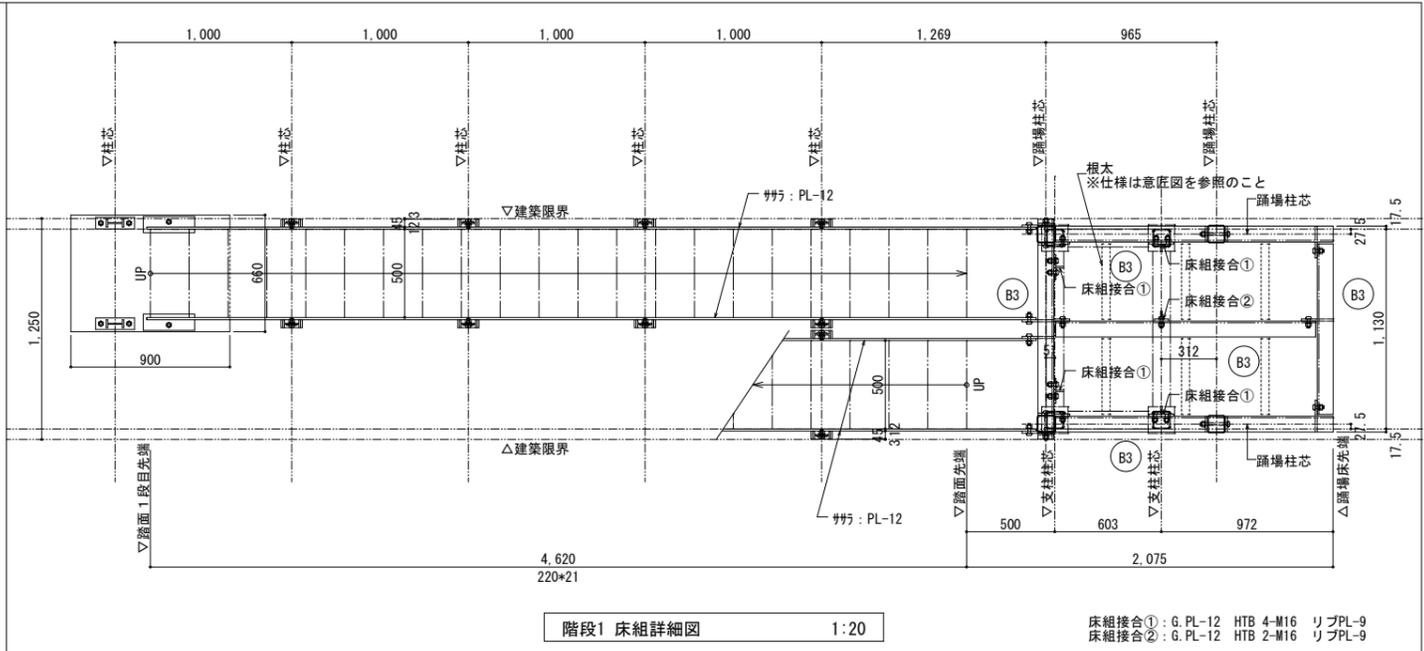
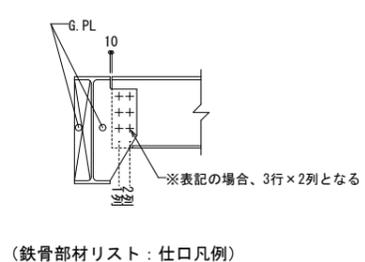
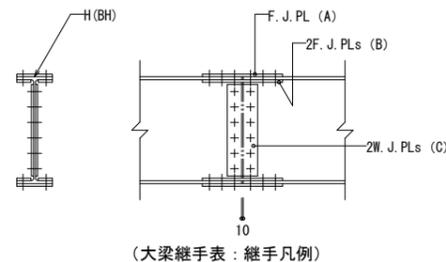
令和 6 年度			
工事名	広島高速 5 号線料金所等新築その他工事		
図面番号	縮尺	1/20	
図名	広島駅北口料金所 部材リスト・床組詳細図	番号	CS-31
路線名	高速 5 号線		
広島高速道路公社			

鉄骨部材リスト 1:20			
特記外 1. 使用鋼材は、SN400Aとする。			
符号	部材	仕口	備考
B1	H-148x100x6x9	G. PL-6 HTB 2-M16	ボルトは1行×2列配置
B2	BH-150x45x6x9	G. PL-9 HTB 2-M16	ボルトは1行×2列配置
B3	[-250x90x9x13	G. PL-12 HTB 3-M16	踊場床組に使用
B20	H-200x100x5.5x8	G. PL-6 HTB 2-M16	
B25	H-250x125x6x9	G. PL-6 HTB 2-M20	Y1及びY3通りのG1に接続する箇所は、2×2-M20
B29	H-294x200x8x12	G. PL-9 HTB 3-M20	
HB24	H-244x175x7x11	G. PL-9 HTB 2-M20	横使い
P1	BH-100x45x6x9	G. PL-6 HTB 2-M16	階段に使用
P10	H-100x100x6x8	G. PL-9 HTB 1-M16	ボルトは1行×2列配置
P15	H-150x150x7x10	G. PL-9 HTB 2-M16	ボルトは1行×2列配置
ササ	PL-12	G. PL-12 HTB 3-M16	
HV1	1-M12(クランク付)	G. PL-9 HTB 1-M16	JIS製品、SS400
HV2	1-M16(クランク付)	G. PL-9 HTB 1-M20	JIS製品、SS400
屋根葺き材	折板 t=0.8(山高85以上)		上屋の屋根に使用
屋根葺き材	折板 t=0.8(山高170以上)		通路の屋根に使用

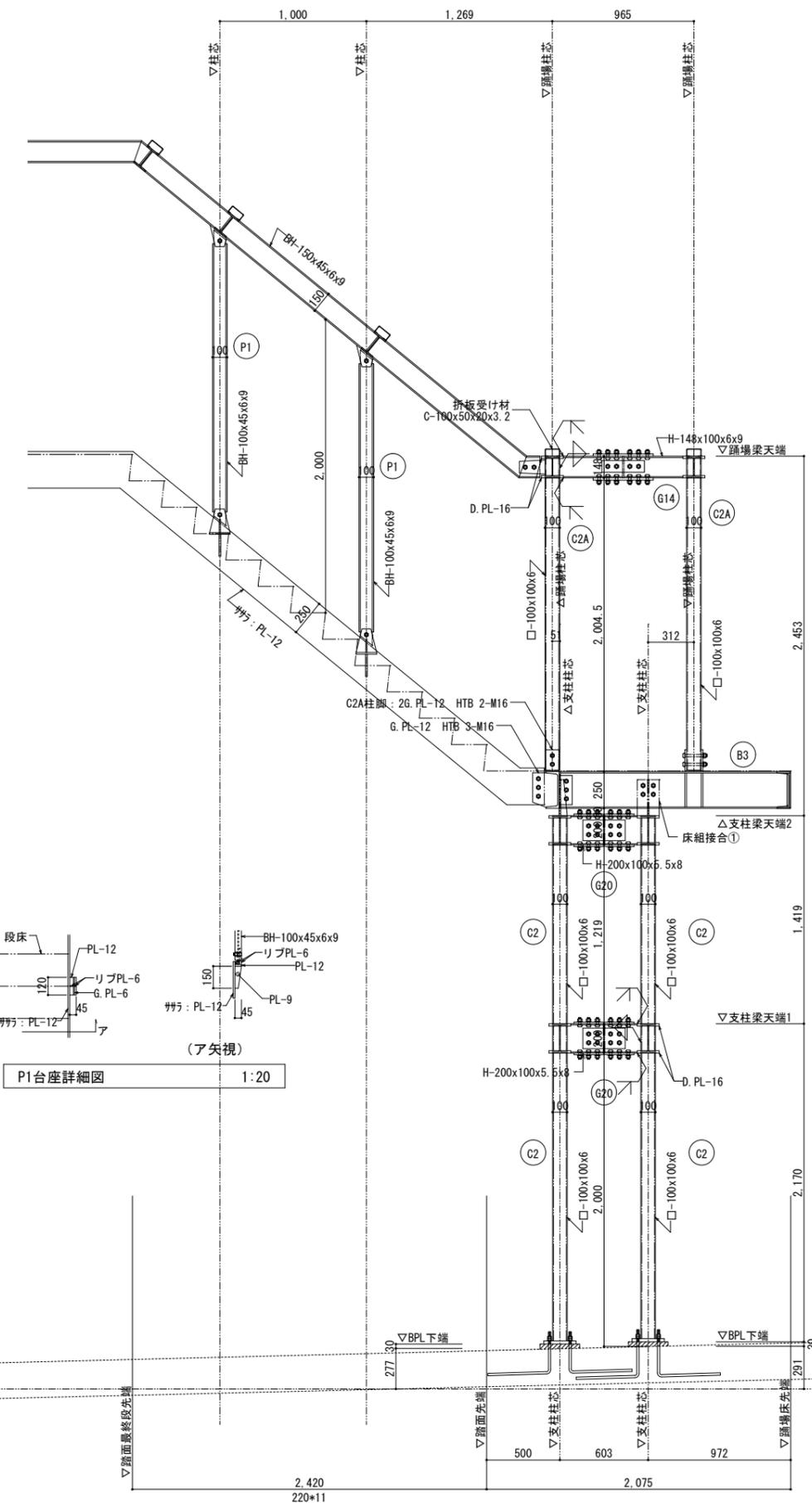
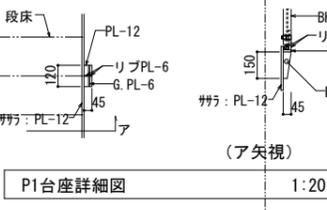
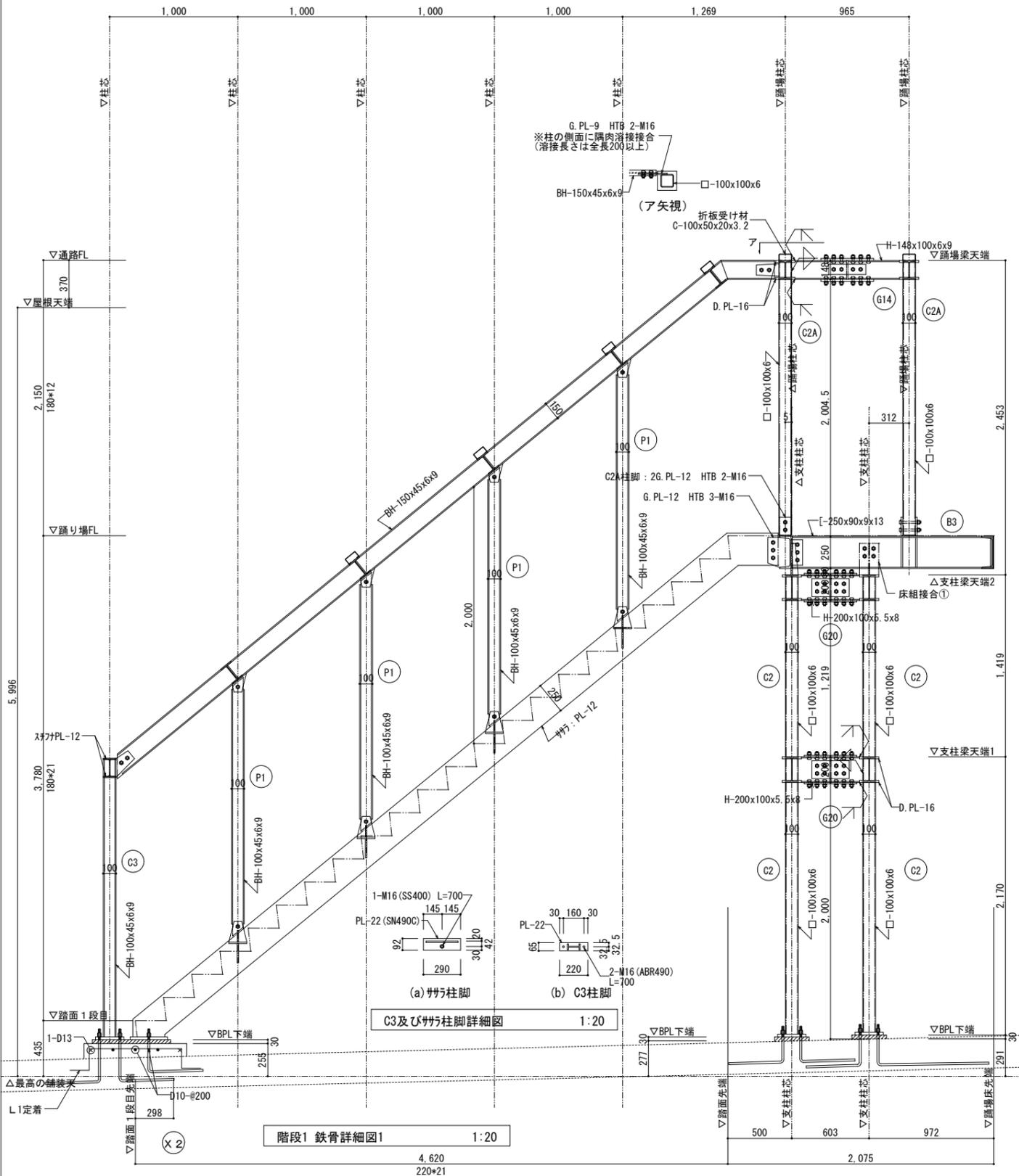
柱リスト 1:20			
特記外 1. アンカーボルトは定着版付・DN締めとする。			
符号	C1	C2・C2A・C2B	C3
S柱断面			
鉄骨	○-355.6x9.5(STKN400B)	□-100x100x6(STKR400)	BH-100x45x6x9(SN400B)
備考			
柱脚			
B. PL	PL-36x500x600(SN490C)	PL-22x220x220(SN490C)	PL-22x65x220(SN490C)
A. BOLT	4-M27(ABR490) L=600	4-M16(ABR490) L=700	2-M16(ABR490) L=700

鉄骨梁リスト 1:20			
特記外 1. 使用鋼材は、SN400Bとする。			
符号	G1	G1	
位置	全断面	全断面	
断面			
鉄骨	H-340x250x9x14	H-340x250x9x14	
備考			
符号	G14	G20	
位置	全断面	全断面	
断面			
鉄骨	H-148x100x6x9	H-200x100x5.5x8	
備考	ピン接合: G. PL-6 HTB 2-M16	ピン接合: G. PL-6 HTB 2-M16	

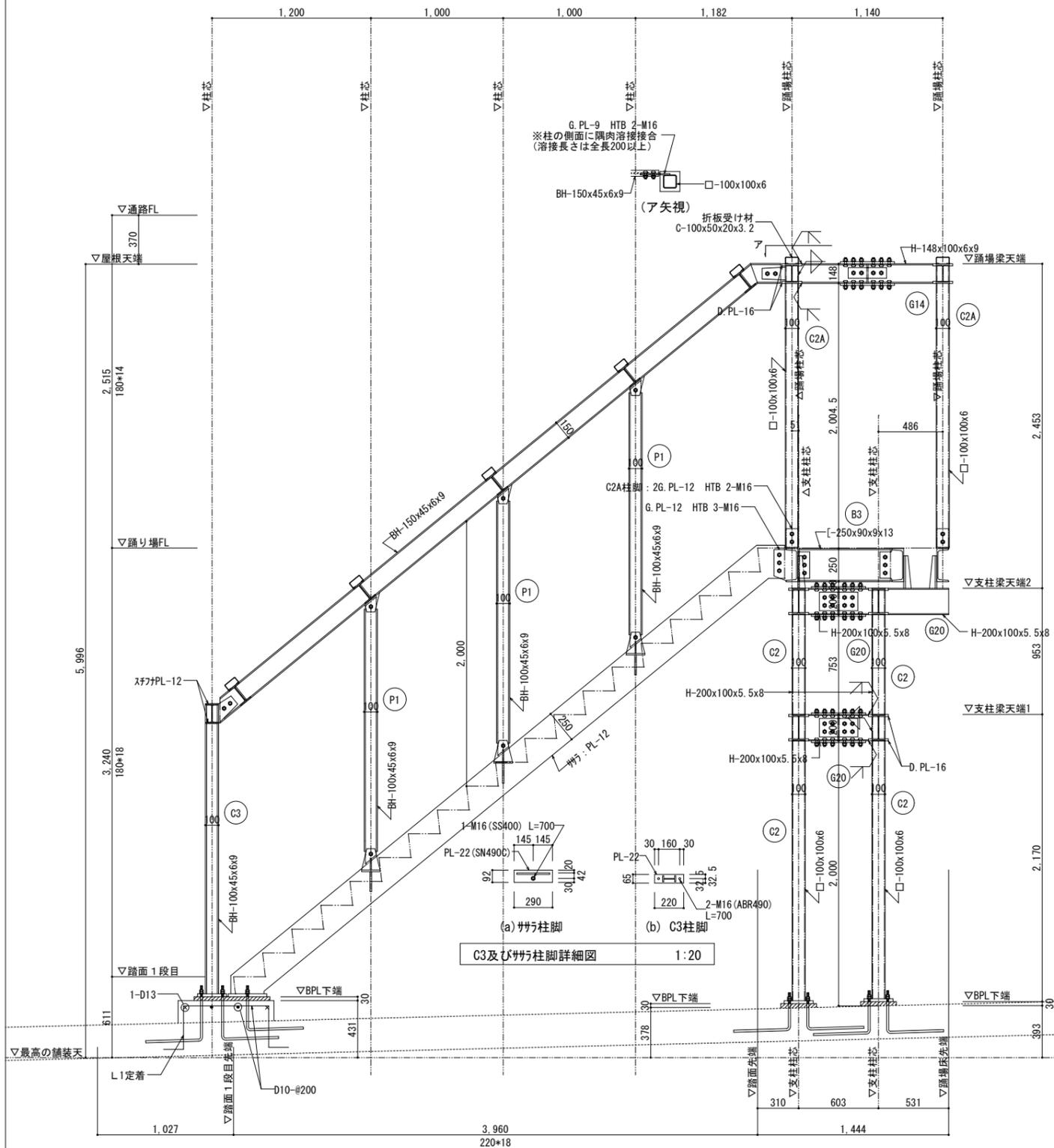
大梁継手表						
特記外 1. 使用鋼材は、母材に同じとする。 2. 使用 H.T.B はF8Tとする。 3. 下表の F.H.T.B の本数は、JOINTする片側の梁の1フランジに必要な本数とする。 4. 下表の W.H.T.B の本数は、JOINTする片側の梁の1ウェブに必要な本数とする。 5. 継手の仕様は、「建築鉄骨設計基準及び同解説(平成10年版)」による。						
梁中央部材	FLANGE			WEB		梁使用鋼材
	F. J. PL (A)	2F. J. PLs (B)	F. HTB	2W. J. PLs (C)	W. HTB	
H-340x250x9x14	9x250x530	9x100x530	Σn=32 8-M20	9x200x290	Σn=12 6-M20	SN400B
H-200x100x5.5x8	12x100x410	-	Σn=24 6-M16	6x140x290	Σn=8 4-M16	SN400B
H-148x100x6x9	16x100x410	-	Σn=24 6-M16	6x80x290	Σn=4 2-M16	SN400B



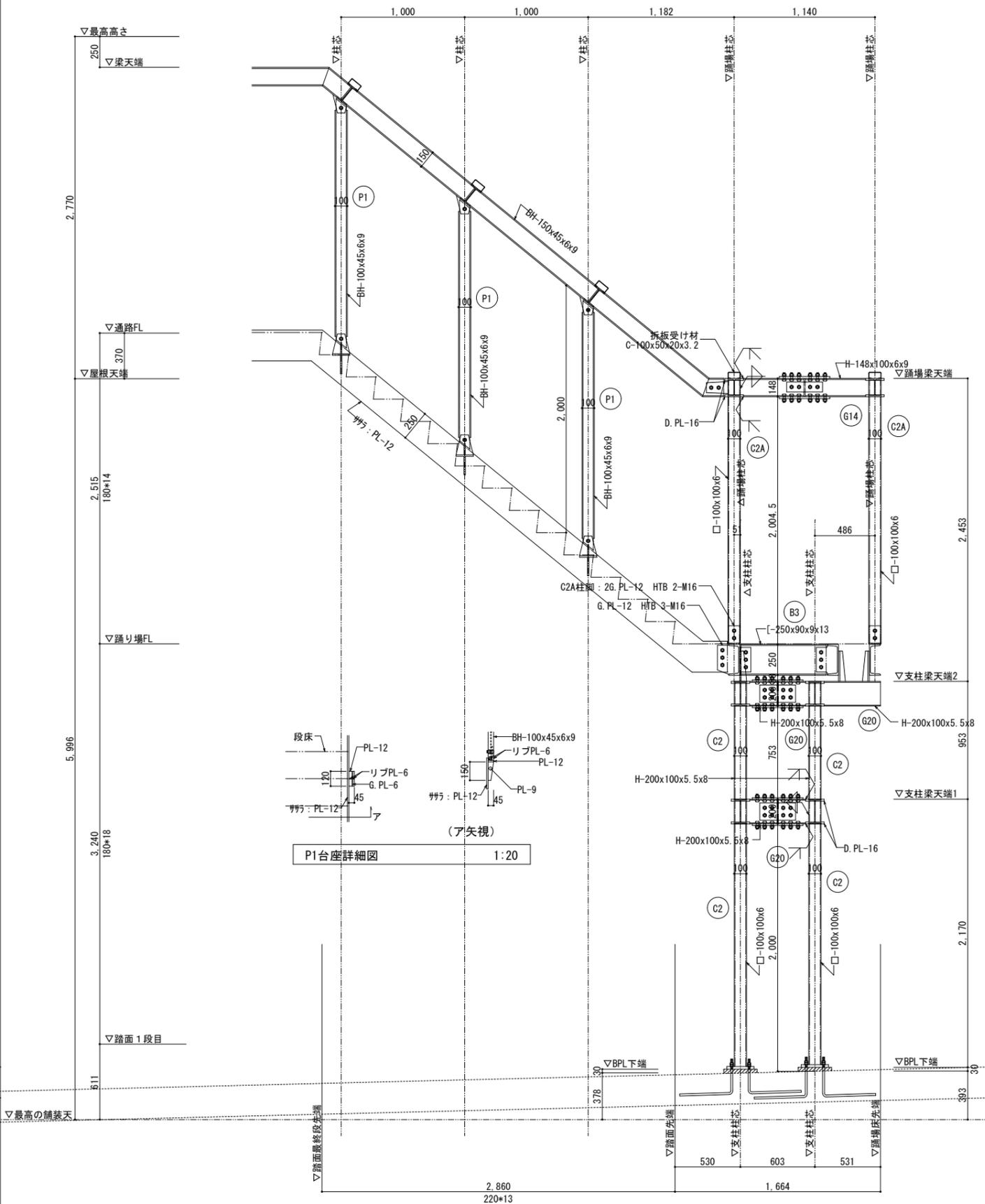
令和 6 年度			
工事名	広島高速5号線料金所等新築その他工事		
図面番号	縮尺	1/20	
図名	広島駅北口料金所 階段1 鉄骨詳細図	番号	C S - 3 2
路線名	高速5号線		
広島高速道路公社			



令和 6 年度			
工事名	広島高速 5 号線料金所等新築その他工事		
図面番号	縮尺	1/20	
図名	広島駅北口料金所 階段2 鉄骨詳細図	番号	C S - 3 3
路線名	高速 5 号線		
広島高速道路公社			

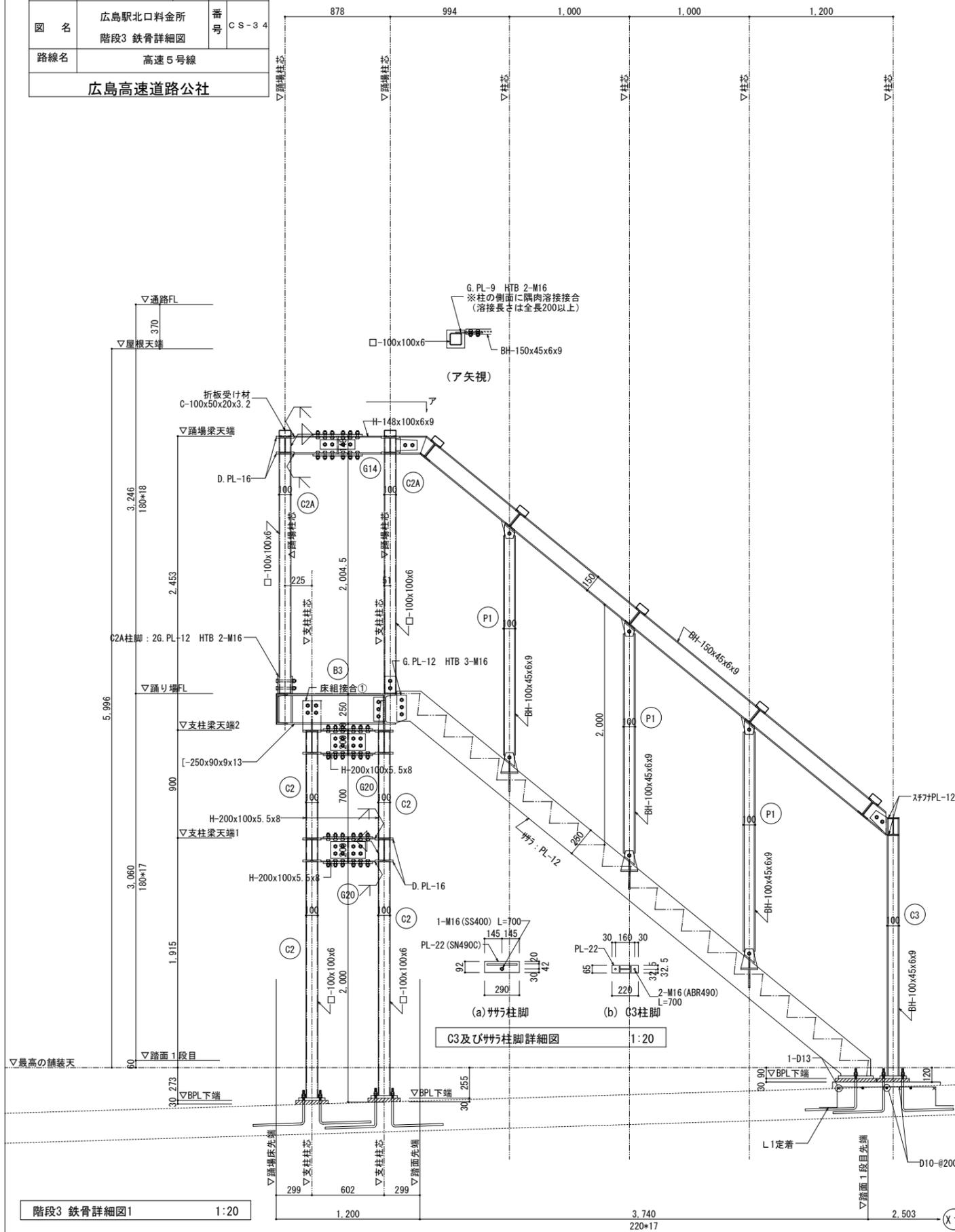


階段2 鉄骨詳細図1 1:20

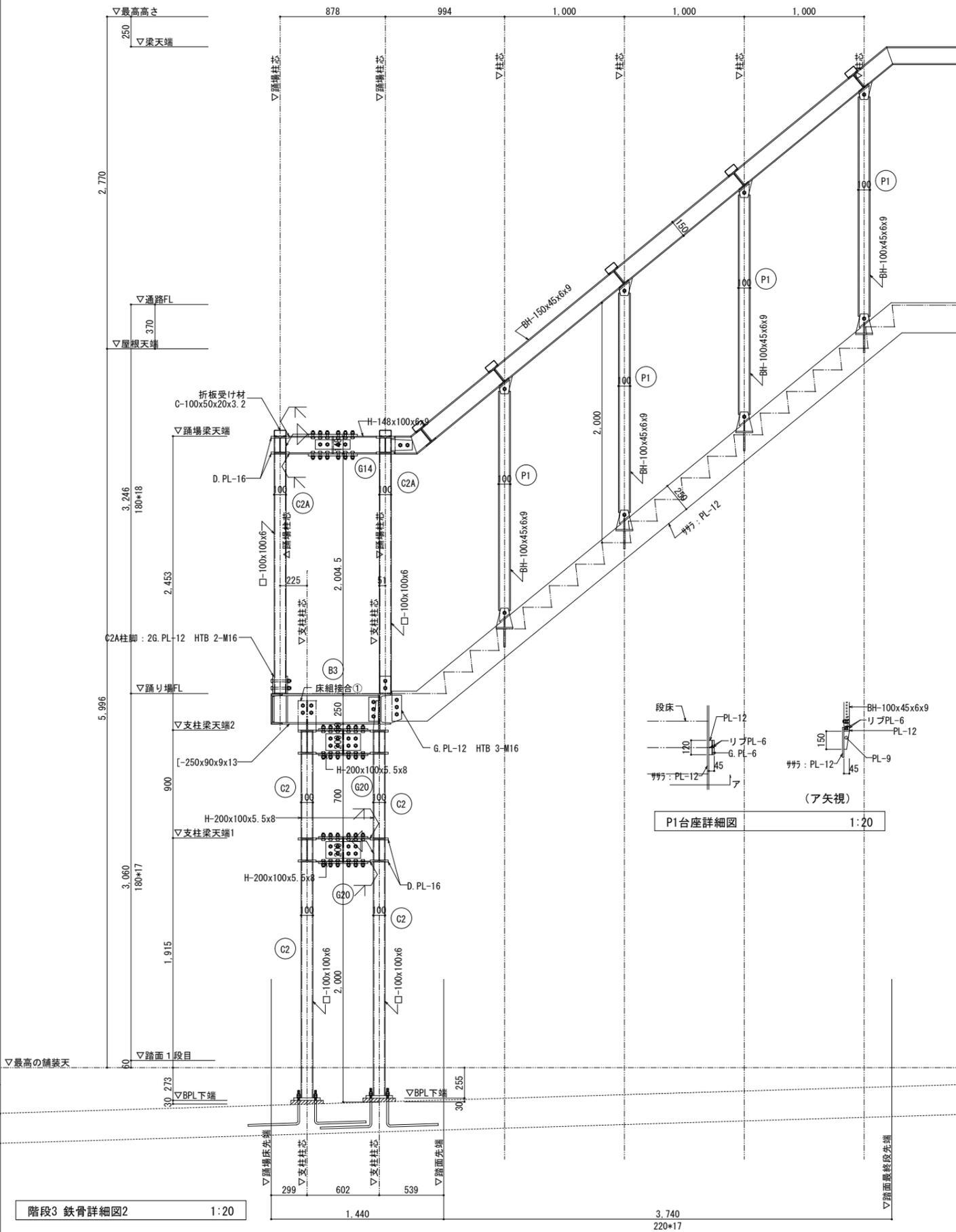


階段2 鉄骨詳細図2 1:20

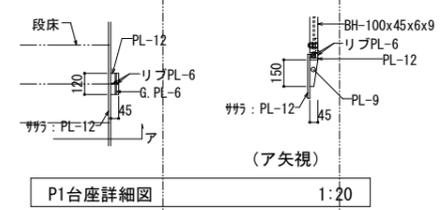
令和 6 年度			
工事名	広島高速 5号線料金所等新築その他工事		
図面番号	縮尺	1/20	
図名	広島駅北口料金所 階段3 鉄骨詳細図	番号	C S - 3 4
路線名	高速 5号線		
広島高速道路公社			



階段3 鉄骨詳細図1 1:20

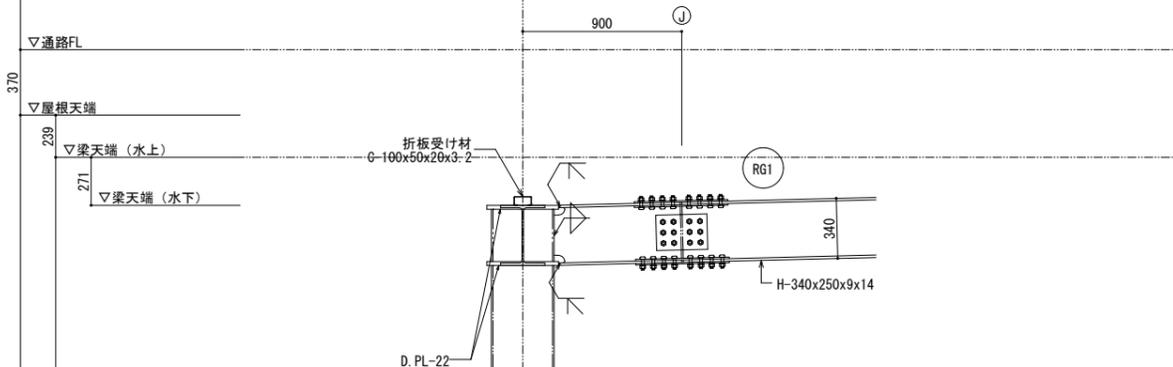
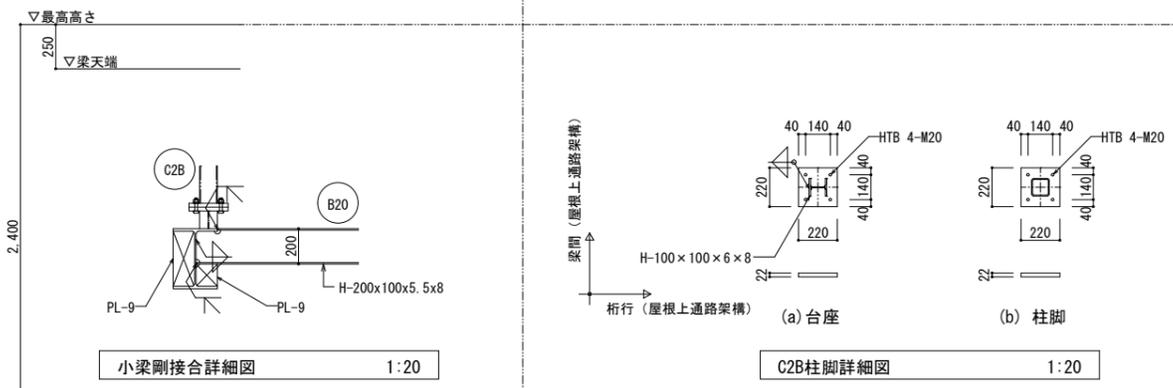


階段3 鉄骨詳細図2 1:20

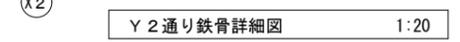
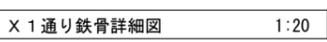
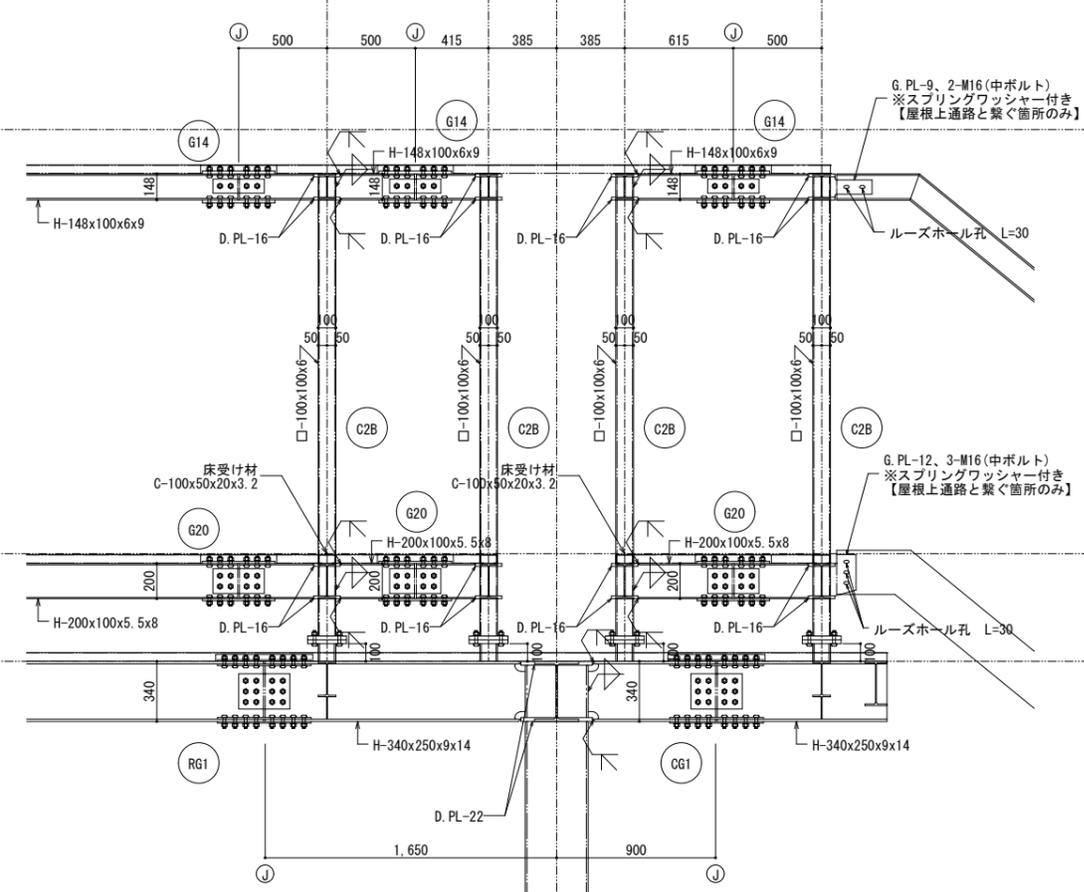
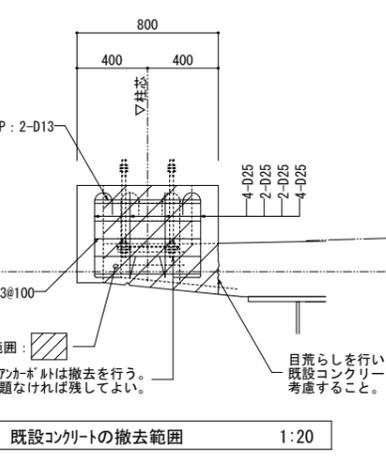
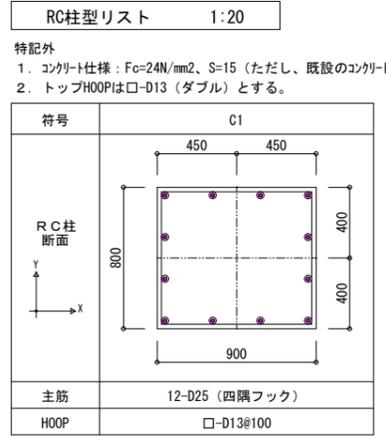


P1台座詳細図 1:20

令和 6 年度			
工事名	広島高速 5 号線料金所等新築その他工事		
図面番号	縮尺	1/20	
図名	広島駅北口料金所 架構鉄骨詳細図	番号	C S - 3 5
路線名	高速 5 号線		
広島高速道路公社			



有効細長比		
符号	X 方向	Y 方向
1C1	47.0	47.0



既設のコンクリートを削り、柱型を新設すること。
※上屋柱のすべての柱脚で共通

既存コンクリートの撤去範囲：
既設の柱型配筋やアンカールは撤去を行う。
ただし、施工性に問題なければ残してよい。

令和 6 年度			
工事名	広島高速5号線料金所等新築その他工事		
図面番号	縮尺	-	
図名	(参考図)-1 鋼上部工事 (二葉の里)	番号	C S - 3 6
路線名	高速5号線		
広島高速道路公社			

広島高速5号線		
工事名	高速5号線 鋼上部工事 (二葉の里)	
図名	床版配筋図 (その27)	縮尺 1:60
広島高速道路公社		

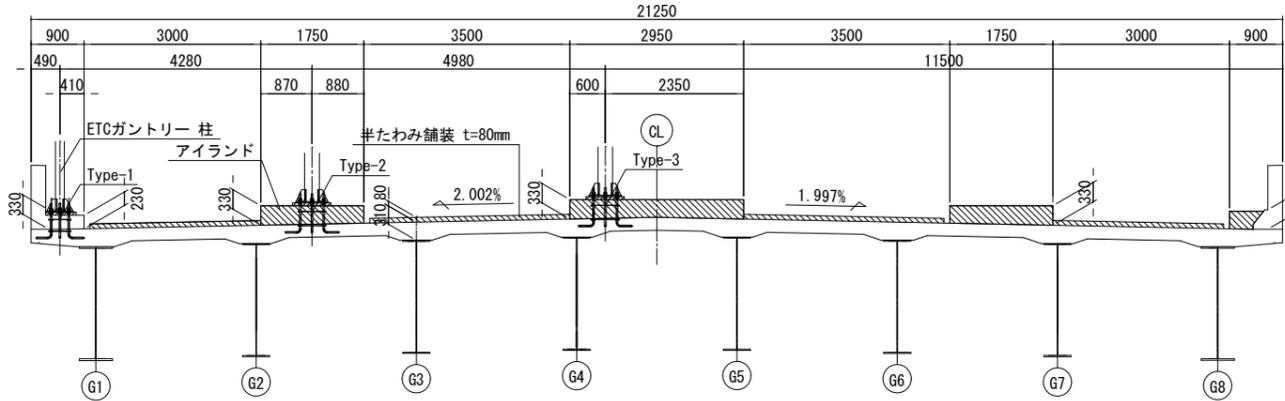
床版配筋図 (その27) S = 1 : 60

料金所設備用アンカー詳細

- 注記
1. 特記なき材質は、全てSS400とする。
 2. 特記なき材料は全て溶融亜鉛メッキ仕上げとする。
付着量は、JIS H 8641 HDZ55とする。
但し、ボルト・ナット類はHDZ35とする。
 3. 床版より上 (ハッチ部) は、別途工事とする。

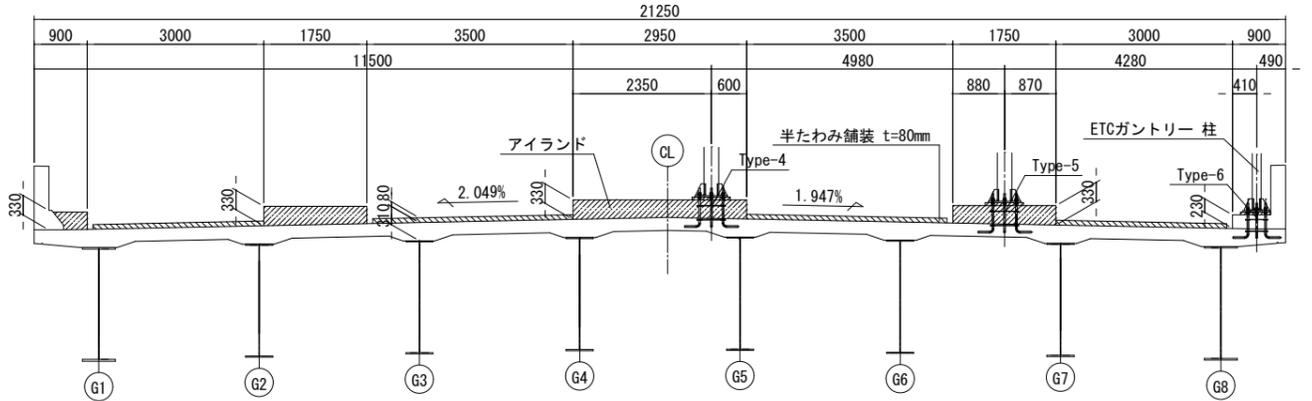
A - A

(上り線 ETCガントリー 入口側)



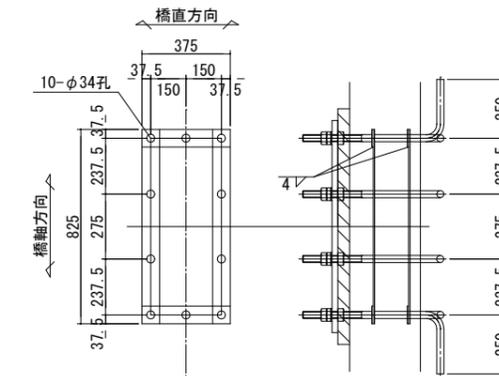
D - D

(下り線 ETCガントリー 出口側)



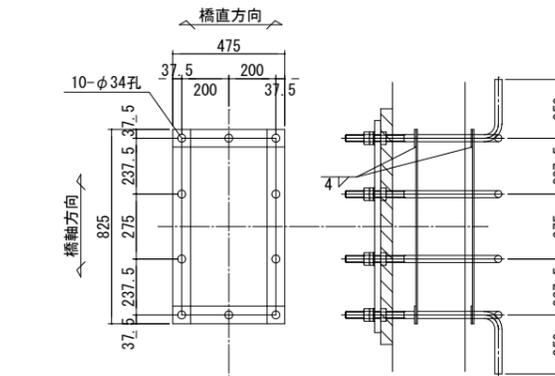
Type-1<Type-6> S = 1 : 15

(製作数: 2)

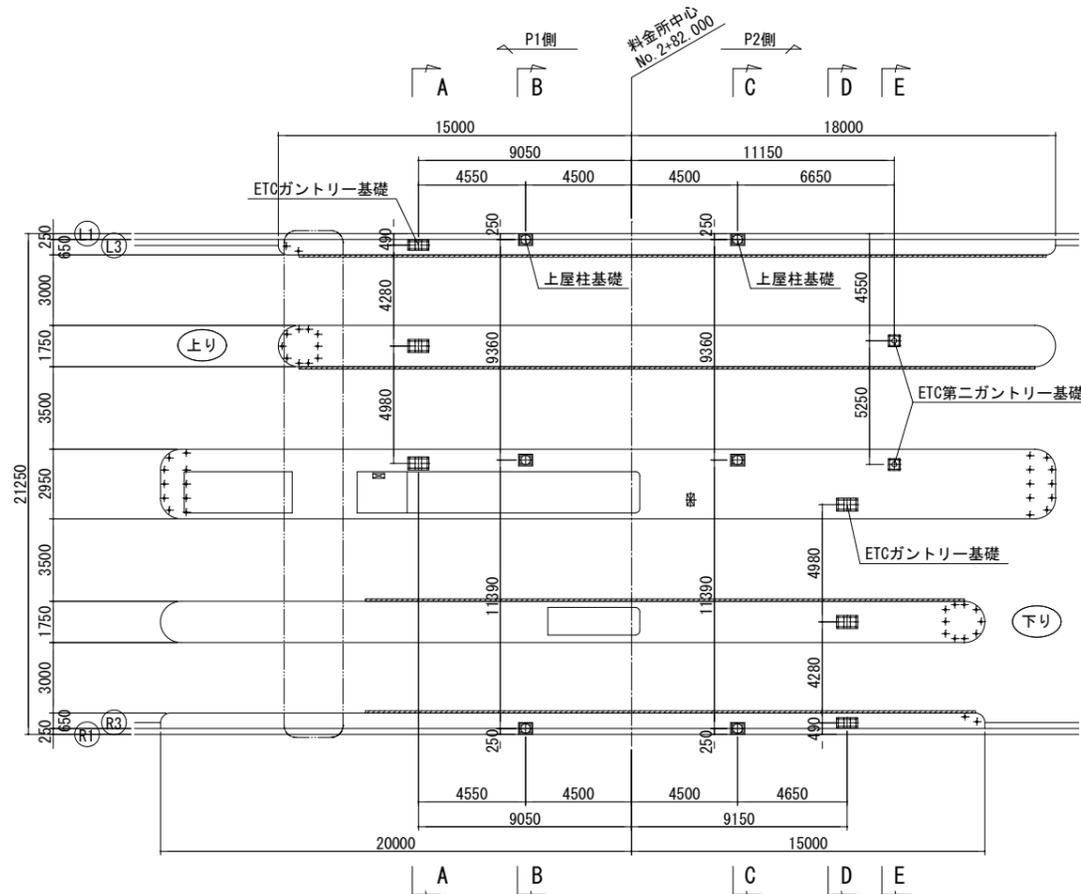


Type-2~5 S = 1 : 15

(製作数: 4)



平面図 S = 1 : 150



アンカー部材料

(製作数: 2)

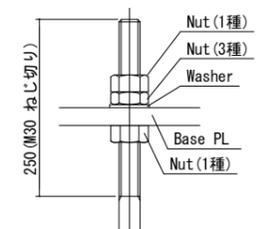
- 2 - FB 75 x 6 x 375
- 2 - FB 75 x 6 x 825
- 10 - RB $\phi 32$ x 810
- 20 - NUT M30 (1種)
- 10 - NUT M30 (3種)
- 10 - WASHER M30

アンカー部材料

(製作数: 4)

- 2 - FB 75 x 6 x 475
- 2 - FB 75 x 6 x 825
- 10 - RB $\phi 32$ x 875
- 20 - NUT M30 (1種)
- 10 - NUT M30 (3種)
- 10 - WASHER M30

"a"部詳細 S = 1 : 5



	H1	H2
Type-2	312.7	137.3
Type-3	318.2	131.8
Type-4	311.6	138.4
Type-5	313.1	136.9

令和 6 年度			
工事名	広島高速5号線料金所等新築その他工事		
図面番号	縮尺	—	
図名	(参考図)-2 鋼上部工事 (二葉の里)	番号	CS-37
路線名	高速5号線		
広島高速道路公社			

広島高速5号線			
工事名	高速5号線 鋼上部工事 (二葉の里)		
図名	二葉7橋 床版配筋図 (その28)	縮尺	1:60
広島高速道路公社			

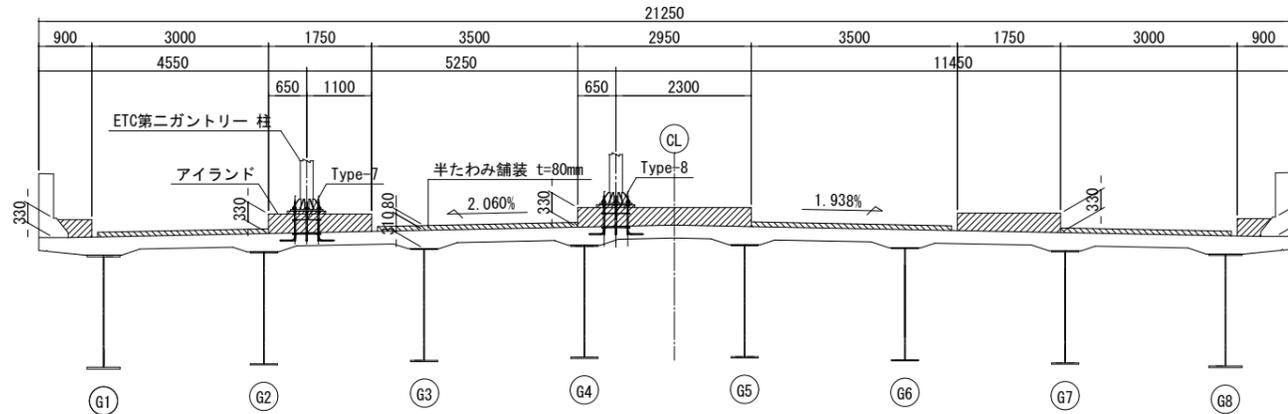
床版配筋図 (その28) S = 1 : 60

料金所設備用アンカー詳細

- 注記
- 特記なき材質は、全てSS400とする。
 - 特記なき材料は全て溶融亜鉛メッキ仕上げとする。
付着量は、JIS H 8641 HDZ55とする。
但し、ボルト・ナット類はHDZ35とする。
 - B-B, C-C, E-Eは「床版配筋図(その27)」を参照のこと。
 - 床版より上 (ハッチ部) は、別途工事とする。

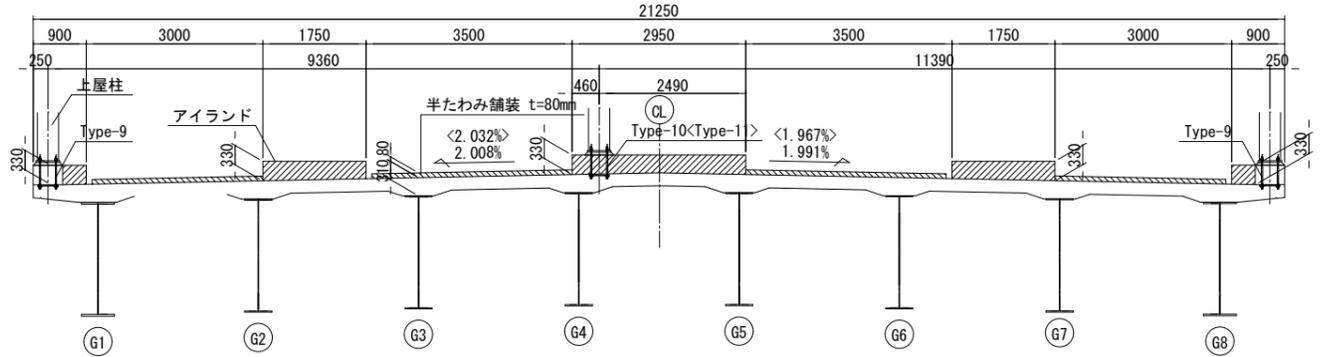
E - E

(上り線 ETC第二ガントリー)



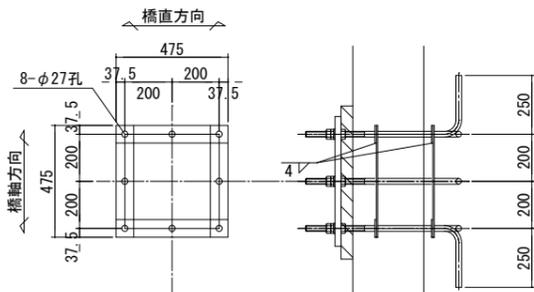
B - B<C - C>

(料金所 上屋)



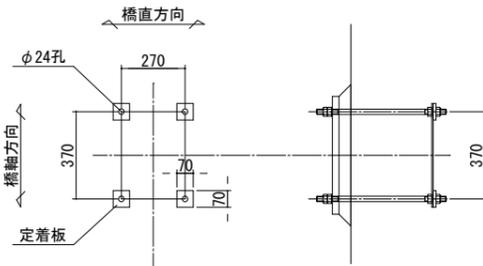
Type-7, Type-8 S = 1 : 15

(製作数: 2)



Type-9~11 S = 1 : 15

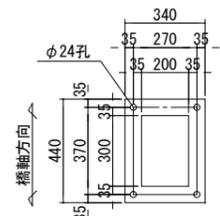
(製作数: 6)



床版打設時

F - F S = 1 : 15

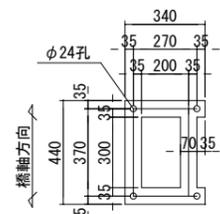
Type-9上側, Type-10, Type-11
(製作数: 8)



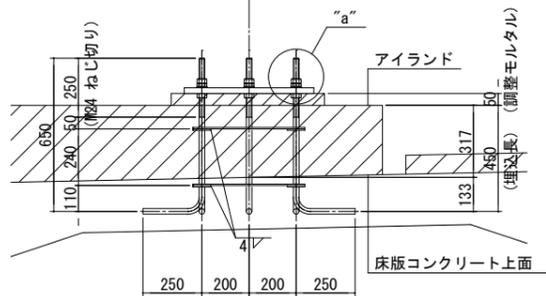
1 - PL 340 x 6 x 440

G - G S = 1 : 15

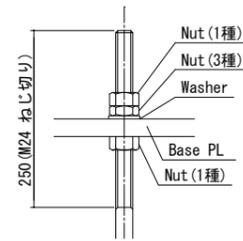
Type-9下側
(製作数: 4)



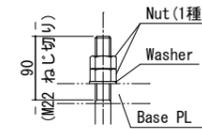
1 - PL 340 x 6 x 440



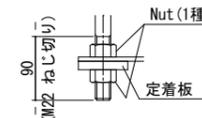
"a"部詳細 S = 1 : 5



"b"部詳細 S = 1 : 5



"c"部詳細 S = 1 : 5



アンカー部材料

- (製作数: 2)
- 4 - FB 75 x 6 x 475
 - 8 - RB φ25 x 880
 - 16 - NUT M24 (1種)
 - 8 - NUT M24 (3種)
 - 8 - WASHER M24

アンカー部材料

- (製作数: 6)
- 4 - アンカーボルト M22 x 550 (SNR490B) (※1)
 - 16 - NUT M22 (※1)
 - 4 - WASHER M22 (※1)
 - 4 - 定着板 PL 70 x 12 x 70 (※1)

	H1	H2	製作数
Type-9	330	75	4
Type-10	321.2	83.8	1
Type-11	320.7	84.3	1

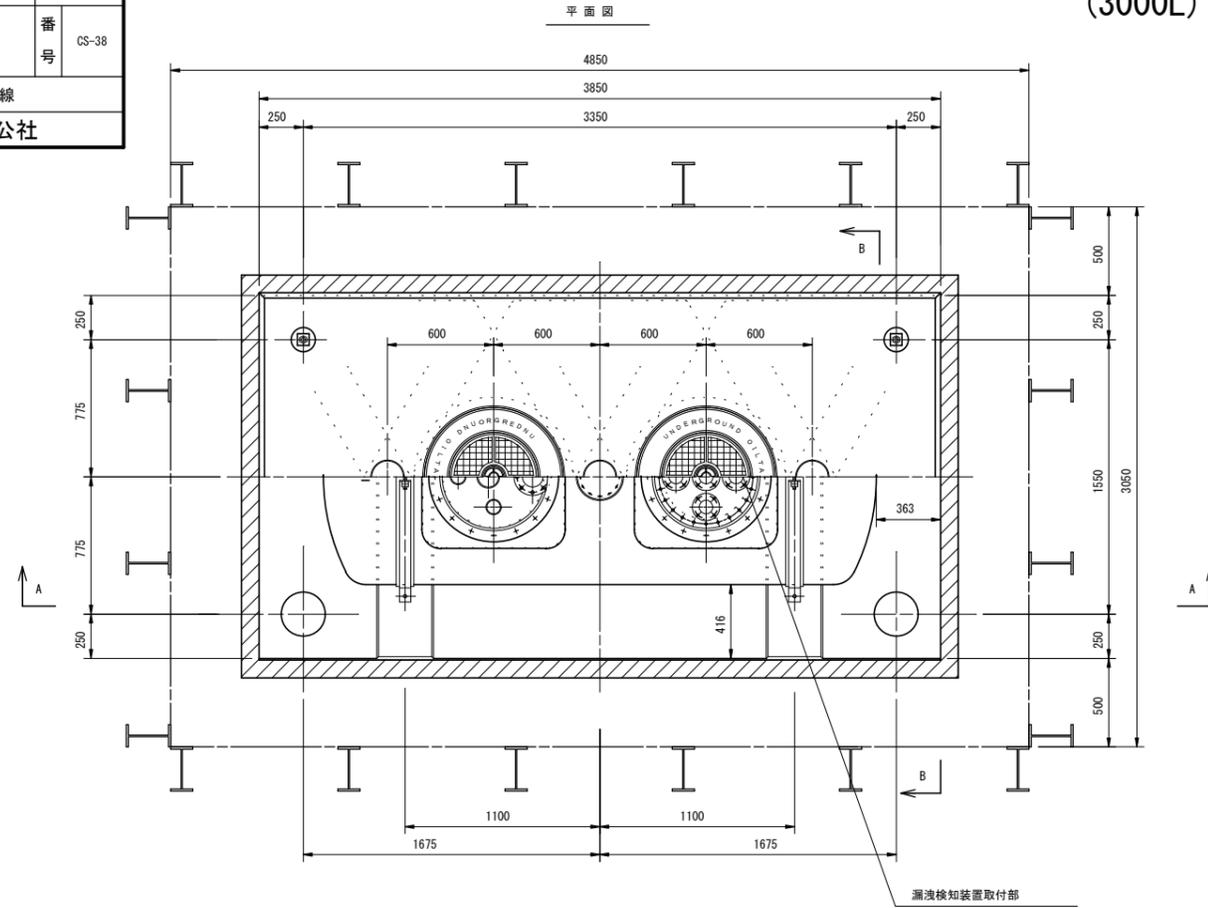
※1 アンカーボルトは日本構造協会規格JSS II 13-2004の
建築構造用転造ねじアンカーボルト (ABR490)・ナット・座金とする。
ナットは強度区分5又は8の並六角ナット1種、座金は
硬さ区分200Hの丸座金とする。

令和6年度			
工事名	広島高速5号線料金所等新築その他工事		
図面番号	縮尺	1:20	
図名	自家発電設備 地下タンク基礎躯体	番号	CS-38
路線名	高速5号線		
広島高速道路公社			

自家発電設備燃料地下タンク姿図

S=1:20

(3000L)



地下タンク(3000L)基礎材料表

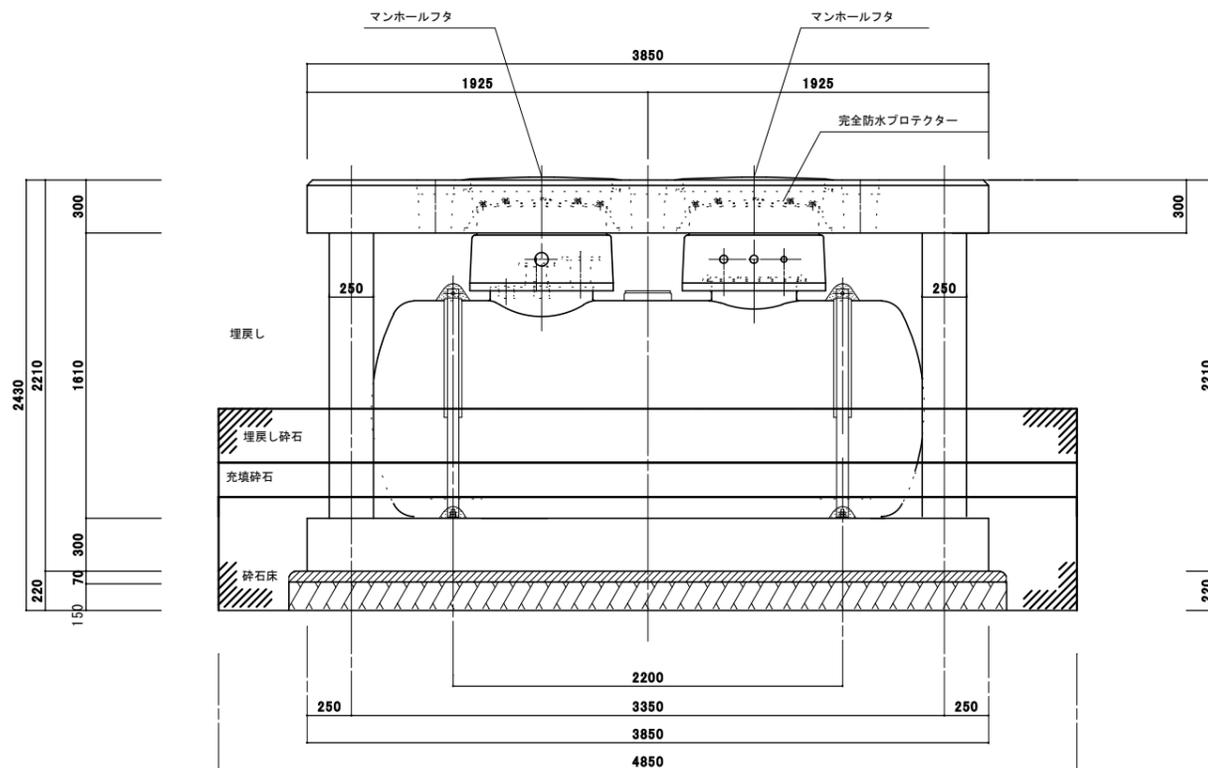
項目	規格	単位	数量	備考
タンク本体 (別途工事)	鋼製強化プラスチック製 二重殻タンク	式	1	別途工事
掘削		m ³	53.219	
埋戻し		m ³	35.315	
残土処理		m ³	17.904	
砕石(基礎下)	6号砕石/7号砕石/粒径3~20mmの砕石及び砂利	m ³	2.003	
埋戻し砕石	6号砕石/7号砕石/粒径3~20mmの砕石及び砂利	m ³	3.355	
充填砕石	6号砕石/7号砕石/粒径3~20mmの砕石及び砂利	m ³	3.548	
砕石床	6号砕石/7号砕石	m ³	4.926	
敷き均しコンクリート		m ³	0.401	
モルタル		m ³	0.401	
木矢板	t=30mm	m ²	49.780	
躯体工事	FC18 N/mm ²	式	1	
矢板補機材	I 250-125-5040L	本	20	

注: 6号砕石等とは、6号砕石/7号砕石/粒径3~20mmの砕石を示す。

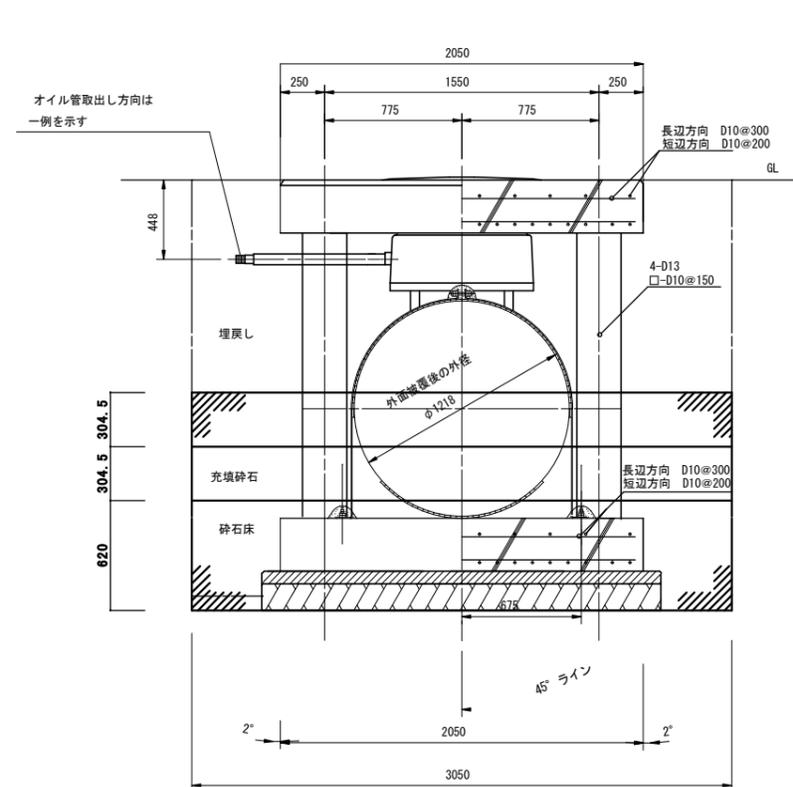
◆ その他施工に関しては平成8年10月18日付消防第127号通知、平成12年3月30日付消防第38号に準ずること。

SF二重殻タンク (タンク実容量 3000L 横置円筒型)		
タンク本体 (別途工事)	構造	内殻と外殻との間に間隙をもつ二重構造 形状等はタンク姿図による。
	内殻	SS400製 板厚 6.0mm
(外面保護)	外殻	(気相部) 告示第4条の48第1項4号 による、FRPを被覆する施工法
	(液相部)	告示第24条の2第3項による、 FRPを被覆する施工法
漏洩検知設備 (別途工事)		危規則第24条の2第4項による漏洩検知装置

A-A 断面図



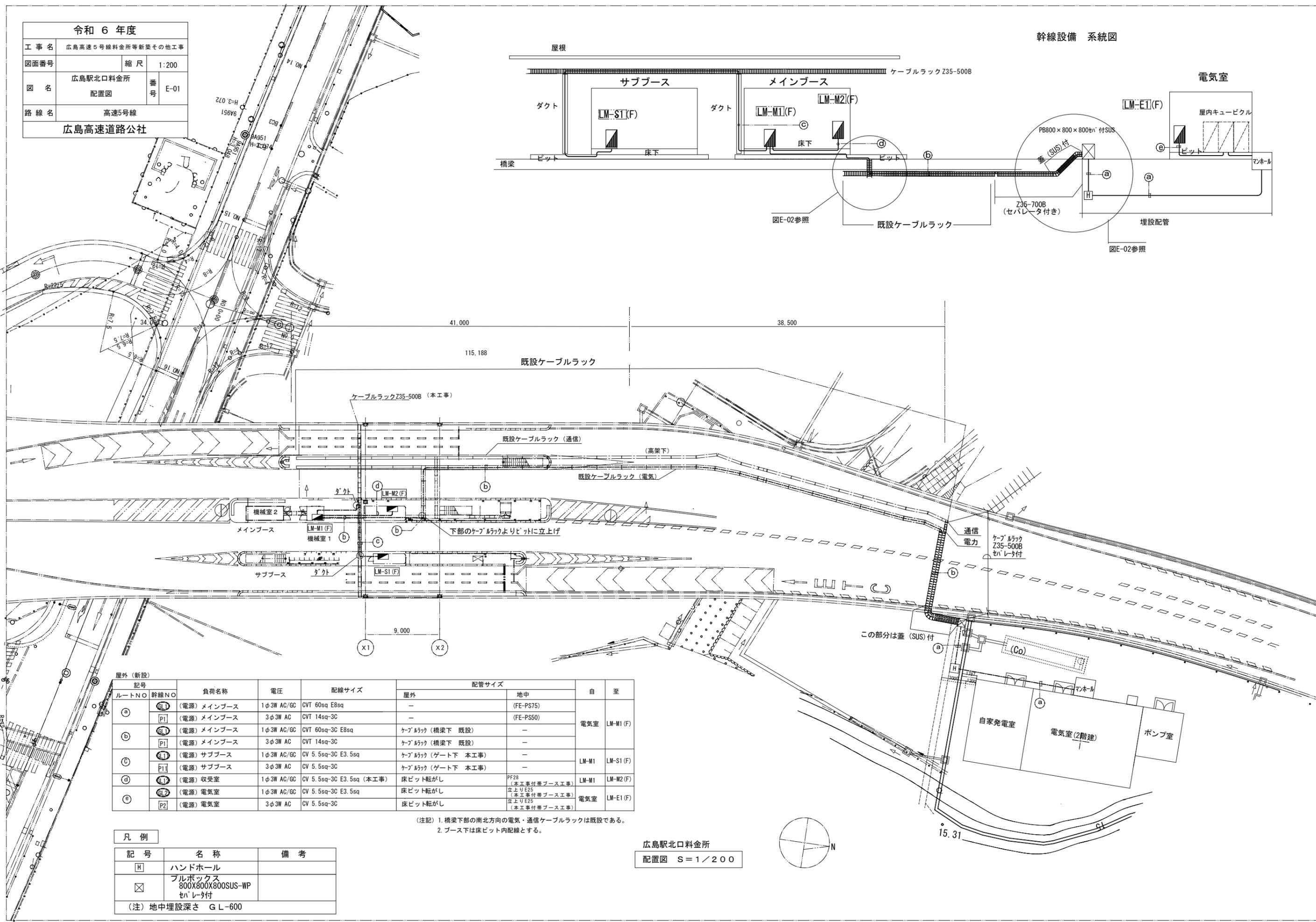
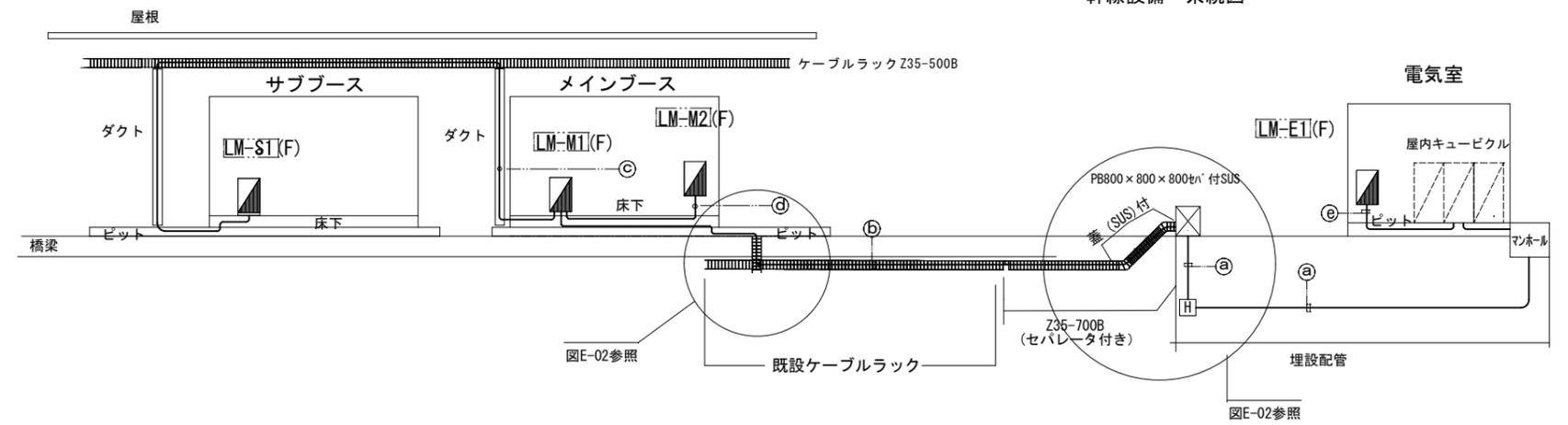
B-B 断面図



(注) 1. 形状及び寸法は参考とする。

令和 6 年度			
工事名	広島高速5号線料金所等新築その他工事		
図面番号	縮尺	1:200	
図名	広島駅北口料金所 配置図	番号	E-01
路線名	高速5号線		
広島高速道路公社			

幹線設備 系統図



記号	幹線NO	負荷名称	電圧	配線サイズ	配管サイズ		自	至
					屋外	地中		
a	GL1	(電源) メインブース	1φ3W AC/GC	CVT 60sq E8sq	-	(FE-PS75)	電気室	LM-M1 (F)
	PI1	(電源) メインブース	3φ3W AC	CVT 14sq-3C	-	(FE-PS50)		
b	GL1	(電源) メインブース	1φ3W AC/GC	CVT 60sq-3C E8sq	ケーブルラック (橋梁下 既設)	-	LM-M1	LM-S1 (F)
	PI1	(電源) メインブース	3φ3W AC	CVT 14sq-3C	ケーブルラック (橋梁下 既設)	-		
c	GL1	(電源) サブブース	1φ3W AC/GC	CV 5.5sq-3C E3.5sq	ケーブルラック (ゲート下 本工事)	-	LM-M1	LM-M2 (F)
	PI1	(電源) サブブース	3φ3W AC	CV 5.5sq-3C	ケーブルラック (ゲート下 本工事)	-		
d	GL1	(電源) 収受室	1φ3W AC/GC	CV 5.5sq-3C E3.5sq (本工事)	床ビット転がし	PF28 (本工事付サブブース工事)	LM-M1	LM-M2 (F)
	GL2	(電源) 電気室	1φ3W AC/GC	CV 5.5sq-3C E3.5sq	床ビット転がし	立上りE25 (本工事付サブブース工事)		
e	GL2	(電源) 電気室	1φ3W AC/GC	CV 5.5sq-3C E3.5sq	床ビット転がし	立上りE25 (本工事付サブブース工事)	電気室	LM-E1 (F)
	P2	(電源) 電気室	3φ3W AC	CV 5.5sq-3C	床ビット転がし	立上りE25 (本工事付サブブース工事)		

(注記) 1. 橋梁下部の南北方向の電気・通信ケーブルラックは既設である。
2. ブース下は床ビット内配線とする。

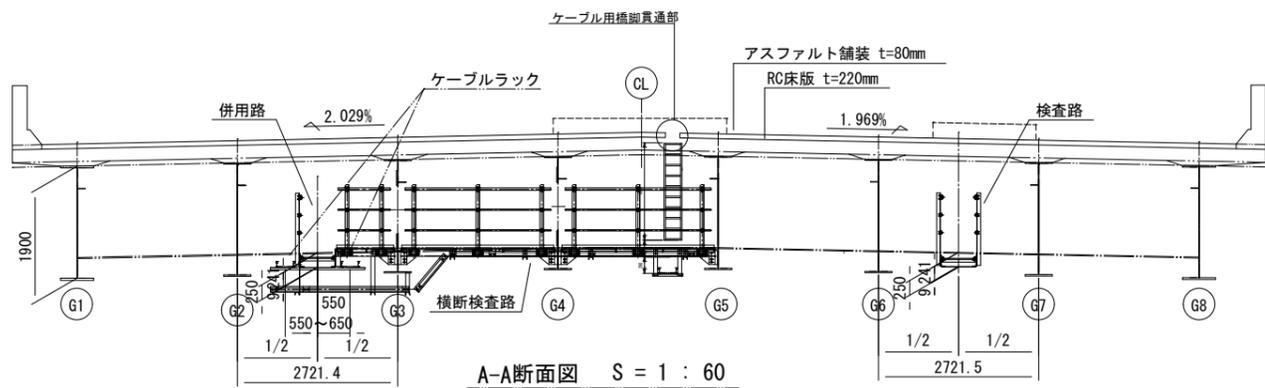
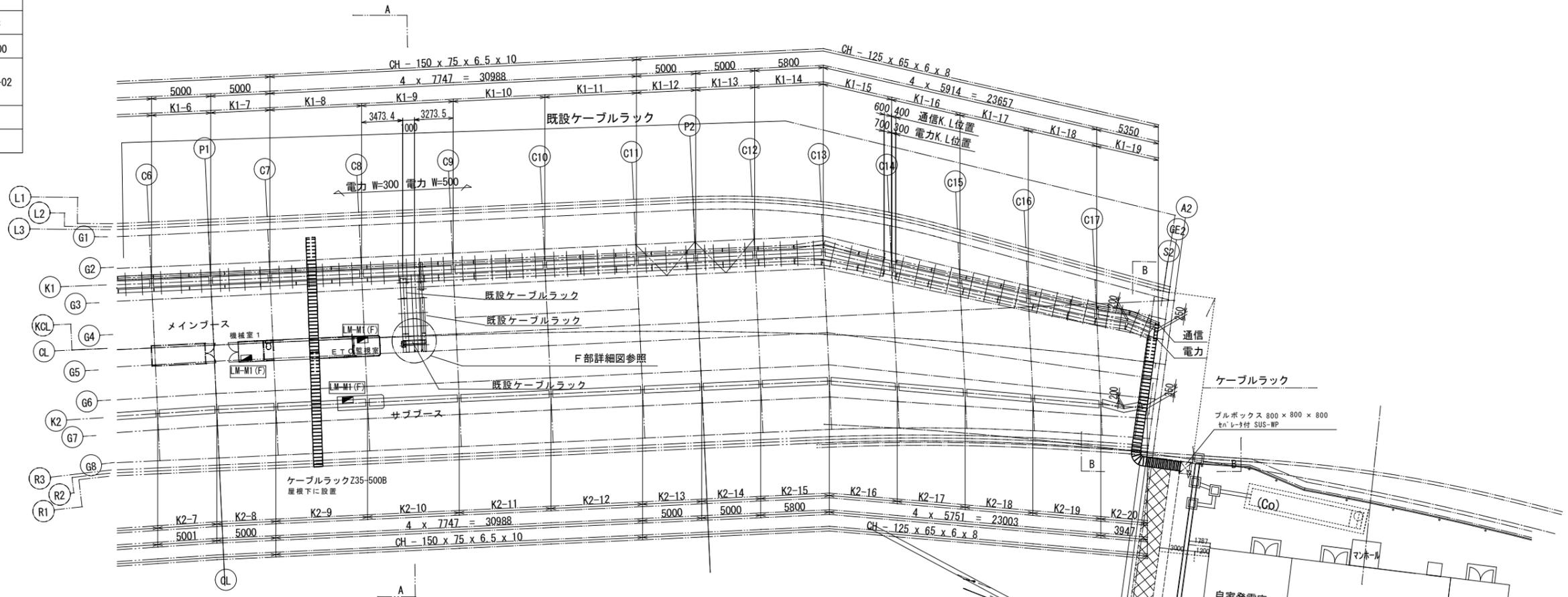
凡例		
記号	名称	備考
H	ハンドホール	
⊠	フルボックス 800X800X800SUS-WP セパレータ付	

(注) 地中埋設深さ GL-600

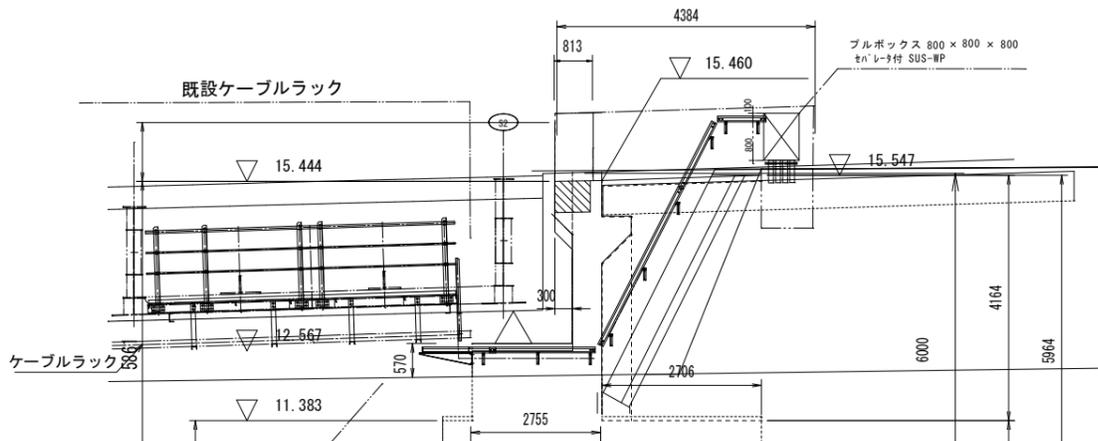
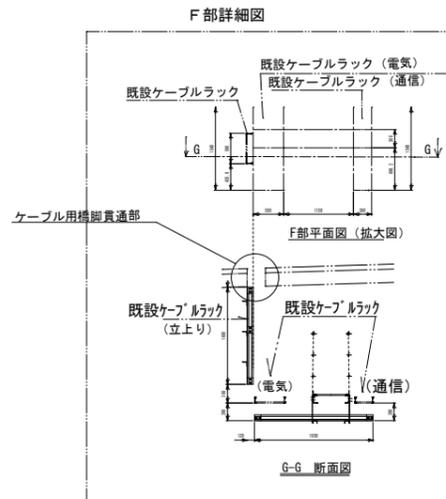
広島駅北口料金所
配置図 S=1/200



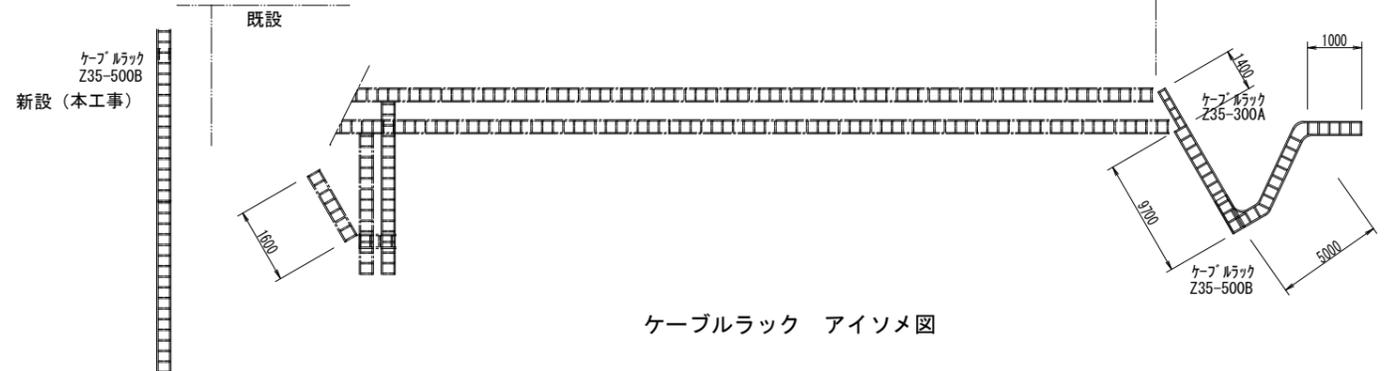
令和 6 年度			
工事名	広島高速5号線料金所等新築その他工事		
図面番号	縮尺	1:200	
図名	広島駅北口料金所 アイソメ図	番号	E-02
路線名	高速5号線		
広島高速道路公社			



A-A断面図 S = 1 : 60



B-B断面図 S = 1 : 60



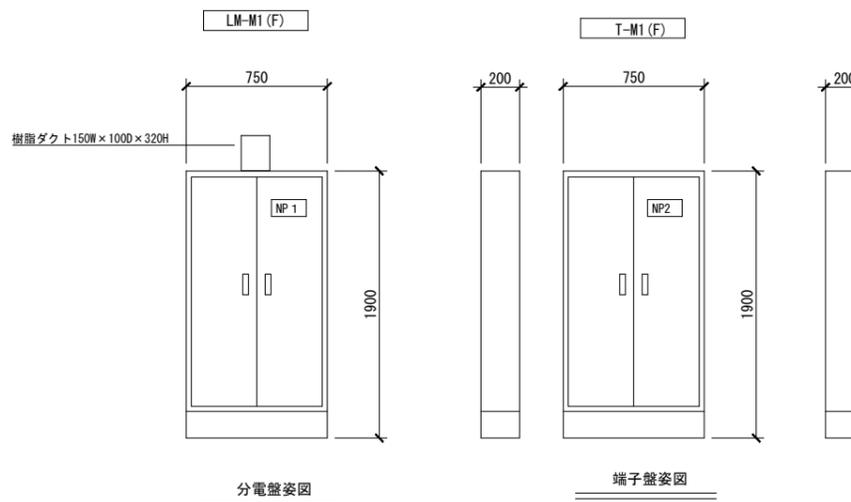
ケーブルラック アイソメ図

令和 6 年度			
工事名	広島高速 5 号線料金所等新築その他工事		
図面番号	縮尺	NON	
図名	広島駅北口料金所 分電盤結線図・照明姿図	番号	E-03
路線名	高速 5 号線		
広島高速道路公社			

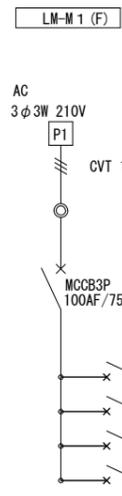
照明器具姿図										
A 1	LSS9-4-48	F	LBF3MP/RP-2-13							
A 2	LSS9-4-65									
A 3	LSS9MP/RP-2-14									
A 4	LSS9MP/RP-4-64									
B 1	LRS6-4-48	G	K1-LRS11-1 非常灯 埋込							
B 2	LRS6-4-65	非常灯評定番号: LALE-004								
器具取付高さ		2.1m	2.4m	2.6m	3.0m	3.2m	3.4m	3.6m	3.8m	4.0m
単体配置 A 1		3.8	4.0	4.0	2.8	-	-	-	-	-
直線配置 A 2		8.5	9.4	9.9	10.1	-	-	-	-	-
四角配置 A 4		6.9	7.6	8.1	8.9	-	-	-	-	-
C 1	LSS1-4-48	H	K1-LSS11-1 非常灯 直付							
C 2	LSS1-4-65	非常灯評定番号: LALE-007								
器具取付高さ		2.1m	2.4m	2.6m	3.0m	4.0m	5.0m	6.0m	7.0m	9.0m
単体配置 A 1		3.8	4.0	4.0	2.8	-	-	-	-	-
直線配置 A 2		8.5	9.4	9.9	10.1	-	-	-	-	-
四角配置 A 4		6.9	7.6	8.1	8.9	-	-	-	-	-
D	LRS1-08									
E 1	LEDブラケット (FL20形)									
E 2	LEDブラケット (Hf32形)									
昼白色 (5000K)、Ra 83 電圧 100V 拡散タイプ、天井直付型・壁直付型 カバー: プラスチック (乳白) 両面化粧タイプ										

分電盤名称	LM-M1 (F)		
キャビネット形式	T		
電気方式	種別	非常用回路	常用回路
	相線	1φ3W	3φ3W
	電圧	210/105V	210V
負荷容量 VA	15756	6.26kW	
主幹器具	定格電流	15.0A	
	定格遮断電流	2.5kA	-

屋内自立型 (鋼板製) 指定色塗装



盤名称	NP 1	LM-M1 (F)
	NP 2	通信端子盤

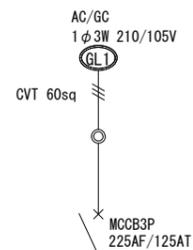


回路番号	負荷名称	負荷容量 kW	配線用遮断器
A	メインブース (ETC監視室) ACP-1	2.43	ELCB 3P 50AF/30AT
B	メインブース (機械室 1) AC-2	0.85	ELCB 3P 50AF/20AT
C	メインブース (機械室 2) AC-3	2.03	ELCB 3P 50AF/30AT
D	サブブース LM-S1	2.43	MCCB 3P 50AF/30AT

分電盤・端子盤仕様

面板	鋼板 1.6 t 以上
扉板	鋼板 1.6 t 以上
把手	平面フラットハンドル No. 200
塗装	メラミン焼付

- (注記)
1. 図中、寸法は参考とする。
2. 端子盤内は、木製基板 (15mm) 付とする。



負荷容量 VA	MCCB 定格電流 (A)	負荷名称	回路番号
955	3P 50AF/30AT	サブブース LM-S1	GL11
137	2P 50AF/20AT	機械室 (1) (2) 電灯	1
182	2P 50AF/20AT	安全通路 電灯	3
100	2P 50AF/20AT	機械室 (2) コンセント	5
400	2P 50AF/20AT	事務所モニター	7
100	2P 50AF/20AT	CCTV	9
2400	2P 50AF/30AT	軸重計	11
350	2P 50AF/20AT	ETCレーン 電動遮断器	13
350	2P 50AF/20AT	ETCレーン 電動遮断器	15
100	2P 50AF/20AT	CCTV	17
500	2P 50AF/20AT	予備	
5255	4.06		計
5661			

回路番号	負荷名称	MCCB 定格電流 (A)	負荷容量 VA
GL12	収入室 LM-M2	4P 50AF/30AT	225 3635
2	上層照明	ELCB 2P 50AF/20AT	1035
4	機械室 (1) コンセント	ELCB 2P 50AF/20AT	200
6	事務所アンプレインターホン	ELCB 2P 50AF/20AT	200
8	CCTV	ELCB 2P 50AF/20AT	100
10	軸重計	ELCB 2P 50AF/30AT	2400
12	ETCレーン 電動遮断器	ELCB 2P 50AF/20AT	350
14	ETCレーン 電動遮断器	ELCB 2P 50AF/20AT	350
16	通信機器収容架	ELCB 2P 50AF/20AT	1000
18	CCTV	ELCB 2P 50AF/20AT	100
	予備	ELCB 2P 50AF/20AT	500
計			1260 8835
			10095

注記

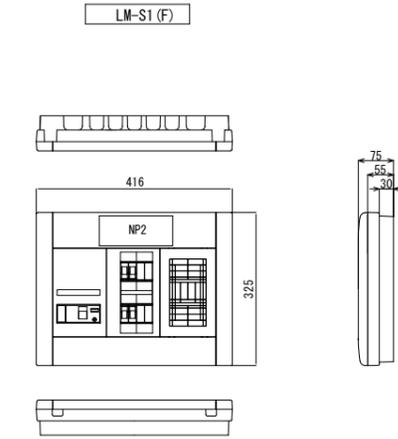
- 分岐用配線遮断器は2P (協約形1Pサイズ) とする。
- 分岐回路分の接地端子又は銅バーを設ける。
- 図中記入なきものは下記による。

20	単相100V回路 (2P1E)
2	単相200V回路 (2P2E)

令和 6 年度			
工事名	広島高速5号線料金所等新築その他工事		
図面番号	縮尺	NON	
図名	広島駅北口料金所サブブース分電盤結線図	番号	E-04
路線名	高速5号線		
広島高速道路公社			

分電盤名称	LM-S1(F)	
キャビネット形式	T	
電気方式	種別	常用回路
	相線	1φ3W
	電圧	210/105V
負荷容量 VA	1042	1.6KW
主幹器具	定格電流	-
	定格遮断電流	-

屋内壁掛型 (樹脂製)

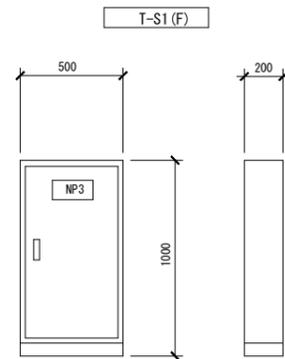
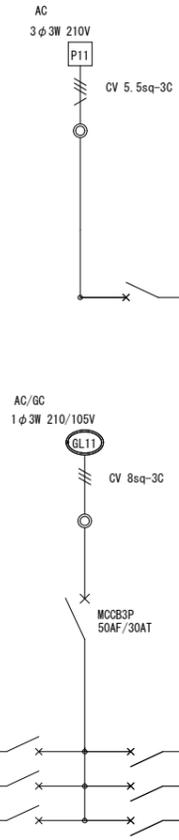


サブブース分電盤姿図

盤名称	NP2	LM-S1(F)
-----	-----	----------

負荷容量 VA		MCCB定格電流 (A)	負荷名称	回路番号
コンセント	電灯			
155		ELCB 2P 50AF/20AT	床ヒーター	①
300		ELCB 2P 50AF/20AT	サブブースコンセント	③
455				計
455				

回路番号	負荷名称	MCCB定格電流 (A)	負荷容量 VA	
			電灯	コンセント
②	電灯	50AF/20AT	87	
③	予備	ELCB 2P 50AF/20AT		500
計			87	500
			587	



端子盤姿図

盤名称	NP3	通信端子盤
-----	-----	-------

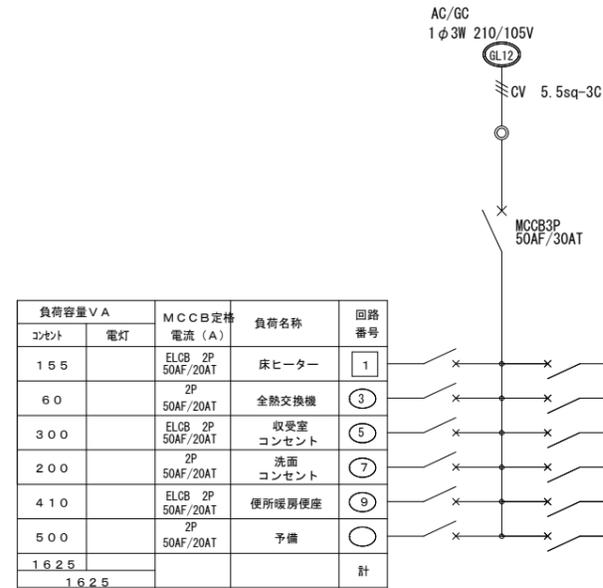
分端子盤仕様	
面板	鋼板 1.6t 以上
扉板	鋼板 1.6t 以上
把手	平面フラットハンドル No. 200
塗装	メラミン焼付

- (注記)
1. 図中、寸法・形状は参考とする。
2. 端子盤内は、木製基板 (15mm) 付とする。

- 注記
1. 分岐用配線遮断器は2P (協約計1Pサイズ) とする。
2. 分岐回路分の接地端子又は銅バーを設ける。
3. 図中記入なきものは下記による。
② 単相100V回路 (2P1E)
③ 単相200V回路 (2P2E)

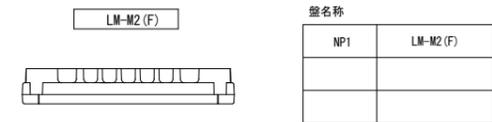
分電盤名称	LM-M2(F)	
キャビネット形式	T	
電気方式	種別	常用回路
	相線	1φ3W
	電圧	210/105V
負荷容量 VA	3860	
主幹器具	定格電流	-
	定格遮断電流	-

屋内壁掛型 (樹脂製)



負荷容量 VA		MCCB定格電流 (A)	負荷名称	回路番号
コンセント	電灯			
155		ELCB 2P 50AF/20AT	床ヒーター	①
60		50AF/20AT	全熱交換機	③
300		ELCB 2P 50AF/20AT	収入室コンセント	⑤
200		2P 50AF/20AT	洗面コンセント	⑦
410		ELCB 2P 50AF/20AT	便所暖房便座	⑨
500		50AF/20AT	予備	○
1625				計
1625				

回路番号	負荷名称	MCCB定格電流 (A)	負荷容量 VA	
			電灯	コンセント
②	メインブース空調機 AC-1	ELCB 2P 50AF/20AT		3730
④	メインブース電灯	2P 50AF/20AT	225	
⑥	休養準備室コンセント	2P 50AF/20AT		200
⑧	便所暖房便座	ELCB 2P 50AF/20AT		410
⑩	E T C 監視室コンセント	2P 50AF/20AT		200
○	予備			500
計			225	2600
			225	2825

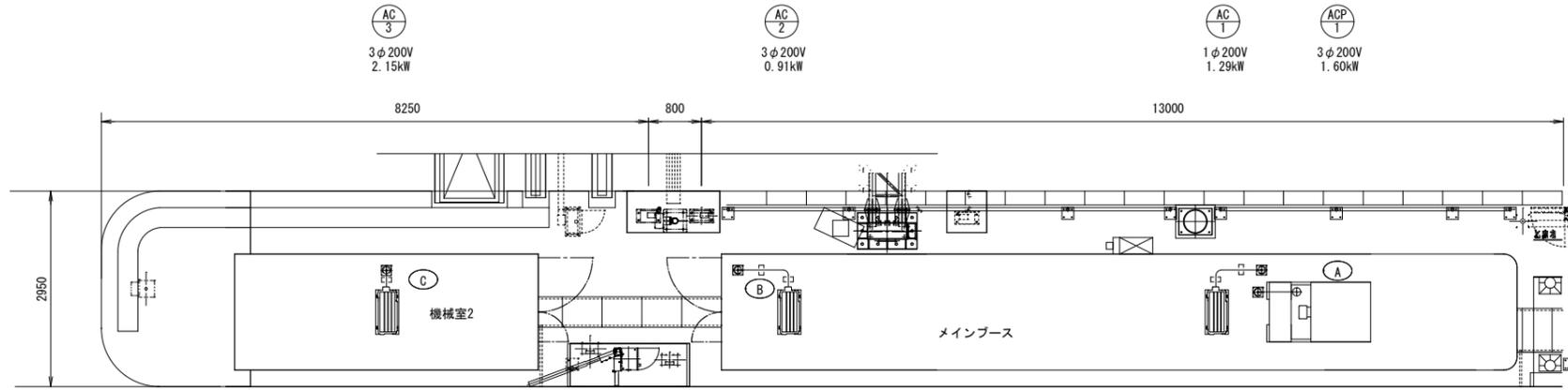


メインブース分電盤姿図

盤名称	NP1	LM-M2(F)
-----	-----	----------

- 注記
1. 分岐用配線遮断器は2P (協約計1Pサイズ) とする。
2. 分岐回路分の接地端子又は銅バーを設ける。
3. 図中記入なきものは下記による。
② 単相100V回路 (2P1E)
③ 単相200V回路 (2P2E)

令和 6 年度			
工事名	広島高速 5号線料金所等新築その他工事		
図面番号	縮尺	1:50	
図名	広島駅北口料金所 動力設備 1階、屋根平面図	番号	E-05
路線名	高速 5号線		
広島高速道路公社			



動力設備 屋根平面図

記号	名称	容量	配線サイズ	配管
A	空調機 (ACP-1)	1.60KW	CV 3.5sq-3C E2.0mm	PV24 露出
B	空調機 (AC-2)	0.85KW	CV 3.5sq-3C E2.0mm	PV24 露出
C	空調機 (AC-3)	2.03KW	CV 3.5sq-3C E2.0mm	PV24 露出
2	空調機 (AC-1)	0.74KW	VVF2.0-3C	コンセント

凡例		
記号	名称	備考
■	電灯動力盤	
□	LED照明	参考図 参照
○	LED照明	参考図 参照
●	非常用照明	電池内蔵型
●	タンプスイッチ	1P15A×1
●L	タンプスイッチ	1P15A×1確認表示灯付
●3	タンプスイッチ	3W15A×1
Ⓜ	コンセント	2P15A×1
Ⓜ ₂	コンセント	2P15A×2
Ⓜ _E	コンセント	2P15A×1 接地極付
Ⓜ _{ET}	コンセント	2P15A×1 接地端子付
Ⓜ _{2ET}	コンセント	2P15A×2 接地端子付
Ⓜ _{2EETWP}	防水コンセント	2P15A×2 接地極接地端子付
□	アウトレットボックス	
⊗	換気扇・パイプファン	本工事付帯機械設備工事
⋮	温度スイッチ	本工事付帯機械設備支給品 (取付本工事付帯電気工事)
⋮	空調リモコンスイッチ	本工事付帯機械設備工事
⋮	全熱交換機スイッチ	本工事付帯機械設備支給品 (取付本工事付帯電気工事)
—	端子盤	
AMP	アンプ	
Ⓜ	ダイナミックマイクロホン	

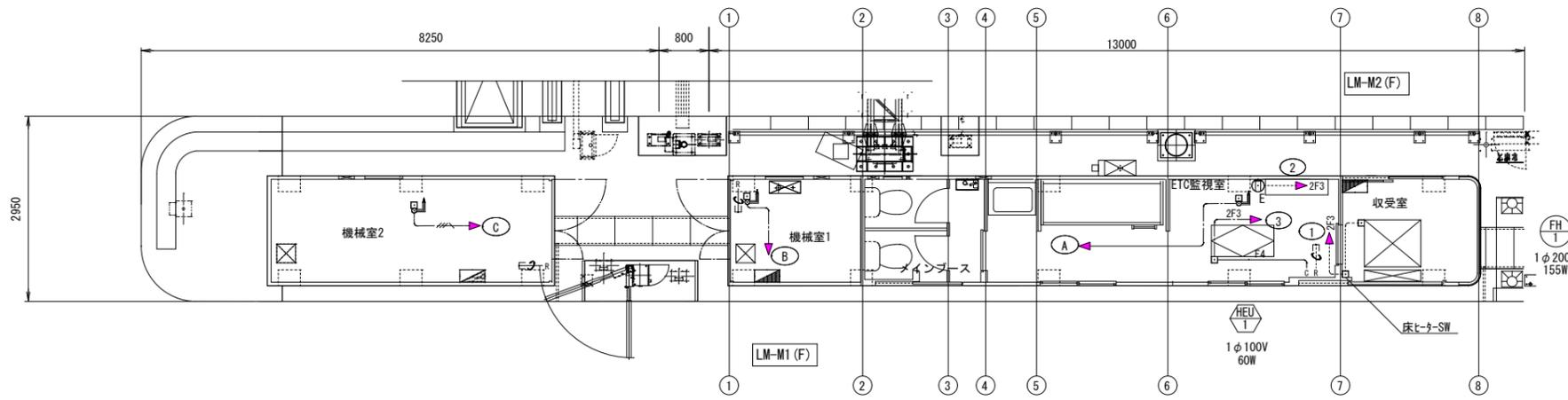
(注記)

1. 図中特記なき配管配線は下記とする。

- 天井隠ぺい
- 床下隠ぺい
- 露出

電灯・コンセント設備(床隠ぺいの例)

F2	VVF1.6-2C	(立上りPF16)
F3	VVF1.6-3C	(立上りPF16)
F4	VVF1.6-2C×2	(立上りPF22)
2F2	VVF2.0-2C	(立上りPF16)
2F3	VVF2.0-3C	(立上りPF22)
2F4	VVF2.0-2C×2	(立上りPF22)
////	IV2.0×2	(PF16)
-----	空配管	(PF22)
-----	CVV1.25-2C	
-----	AE1.2-2C×2	



動力設備 1階平面図

令和6年度			
工事名	広島高速5号線 料金所等新築その他工事		
図面番号	縮尺	1:50	
図名	広島駅北口料金所 電灯・コンセント設備 1階平面図	番号	E-06
路線名	高速5号線		
広島高速道路公社			

機械室 (2)	
A1	2
G	1

機械室 (1)	
A1	1
G	1

トイレ (1)	
D	1

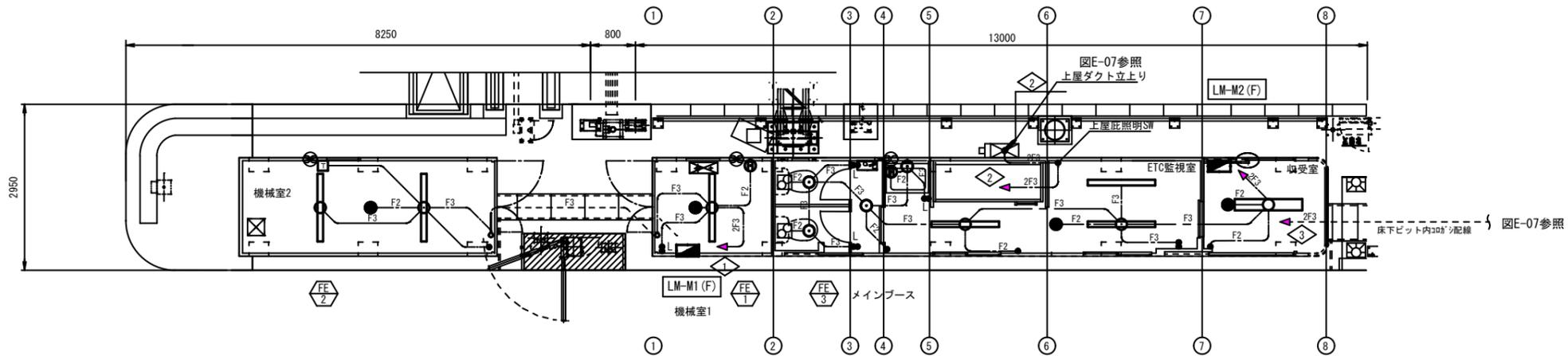
洗面・休憩室	
B1	1
E1	1

ETC監視室	
B1	2
G	1

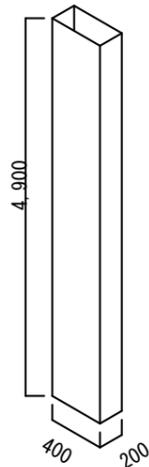
収受室	
B2	1
G	1

トイレ (2)	
D	1

トイレ前室	
D	1



配線ダクト S:NON
SUS304-WP



1. 本体は2分割、蓋は4分割とする
2. 内部にケーブル支持バーを取り付けること

電灯設備 平面図

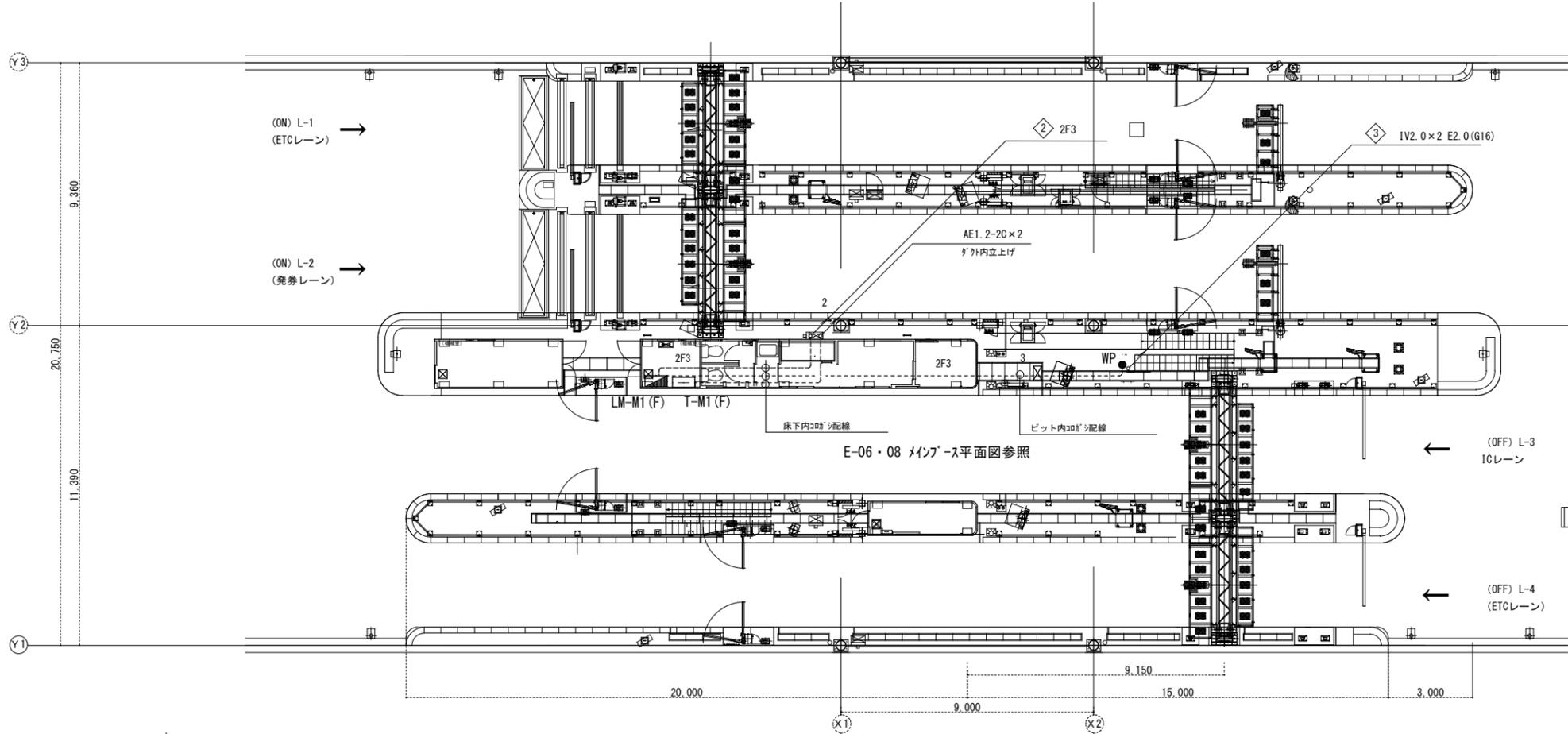
凡例		
記号	名称	備考
■	電灯動力盤	
□	LED照明	参考図参照
○	LED照明	参考図参照
●	非常用照明	電池内蔵型
●	タンブラスイッチ	1P15A×1
●L	タンブラスイッチ	1P15A×1確認表示灯付
●3	タンブラスイッチ	3W15A×1
Ⓜ	コンセント	2P15A×1
Ⓜ ₂	コンセント	2P15A×2
Ⓜ _E	コンセント	2P15A×1 接地極付
Ⓜ _{ET}	コンセント	2P15A×1 接地端子付
Ⓜ _{2ET}	コンセント	2P15A×2 接地端子付
Ⓜ _{2EETMP}	防水コンセント	2P15A×2 接地極接地端子付
□	アウトレットボックス	
⊕	換気扇・パイプファン	本工事付帯機械設備工事
⊖	温度スイッチ	本工事付帯機械設備支給品 (取付本工事付帯電気工事)
⊖	空調リモコンスイッチ	本工事付帯機械設備工事
⊖	全熱交換機スイッチ	本工事付帯機械設備支給品 (取付本工事付帯電気工事)
≡	端子盤	
AMP	アンプ	
Ⓜ	ダイナミックマイクロホン	

(注記)

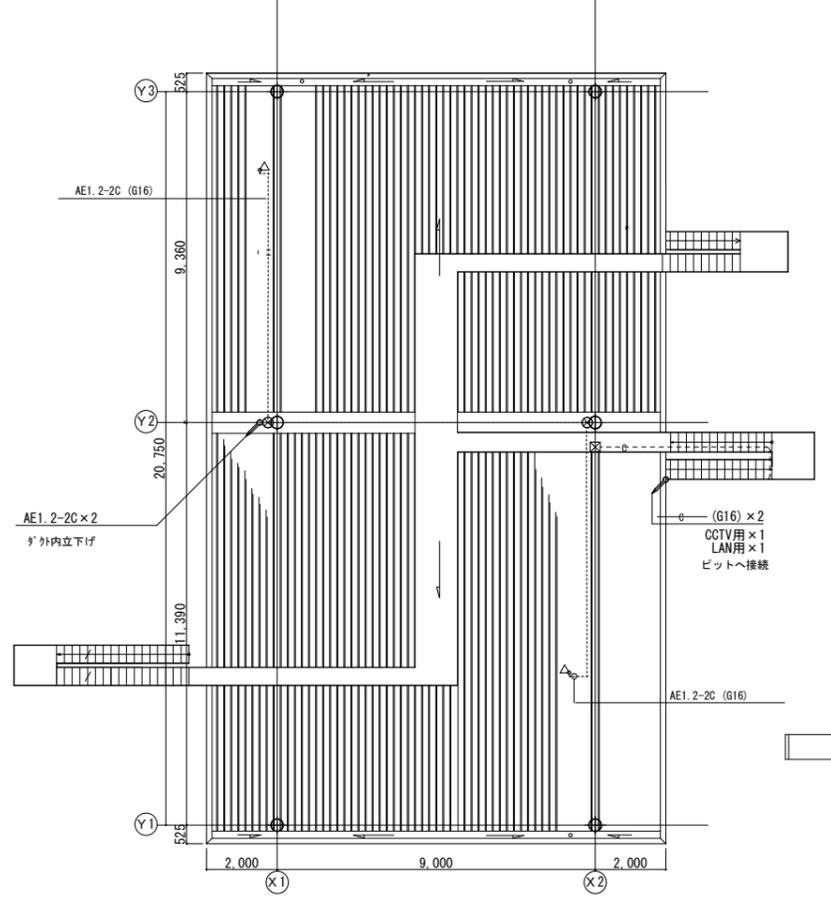
1. 図中特記なき配管配線は下記とする。

天井隠ぺい		
----- 床下隠ぺい		
----- 露出		
電灯・コンセント設備(床隠ぺいの例)		
--- F2 ---	VVF1.6-2C	(立上りPF16)
--- F3 ---	VVF1.6-3C	(立上りPF16)
--- F4 ---	VVF1.6-2C×2	(立上りPF22)
--- 2F2 ---	VVF2.0-2C	(立上りPF16)
--- 2F3 ---	VVF2.0-3C	(立上りPF22)
--- 2F4 ---	VVF2.0-2C×2	(立上りPF22)
--- // ---	IV2.0×2	(PF16)
--- ∅ ---	空配管	(PF22)
--- // ---	CWV1.25-2C	
--- // ---	AE1.2-2C×2	

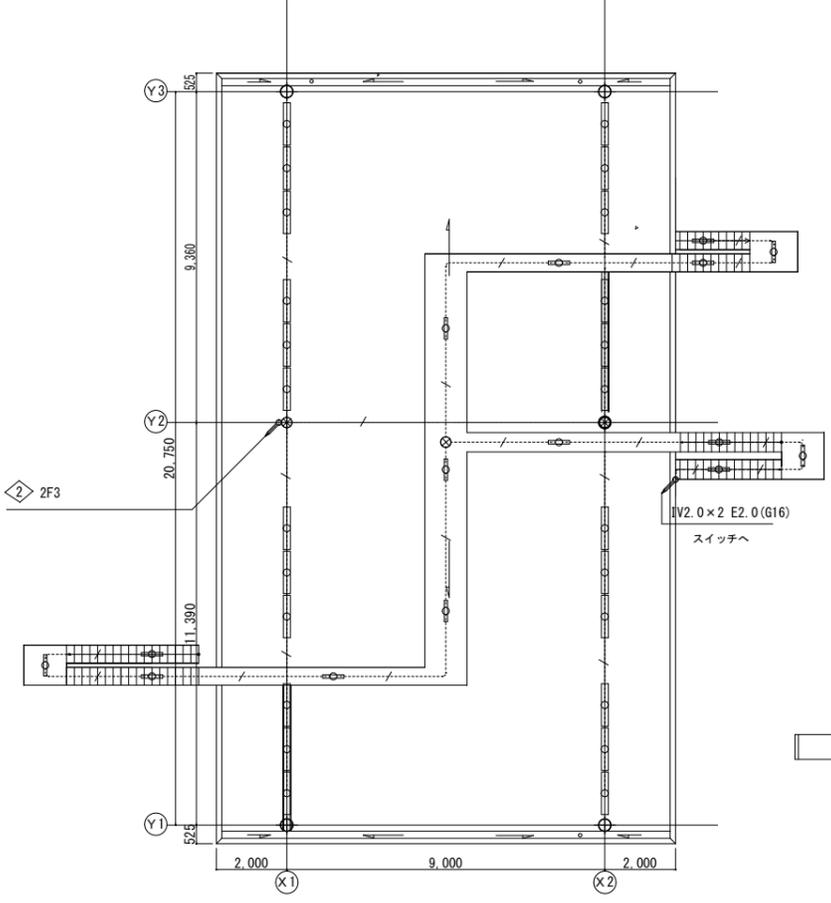
令和6年度			
工事名	広島高速5号線 料金所等新築その他工事		
図面番号	縮尺	1:100	
図名	広島駅北口料金所 電灯・弱電設備 屋根平面図	番号	E-07
路線名	高速5号線		
広島高速道路公社			



電灯設備 平面図



弱電設備 屋根平面図



電灯設備 屋根平面図

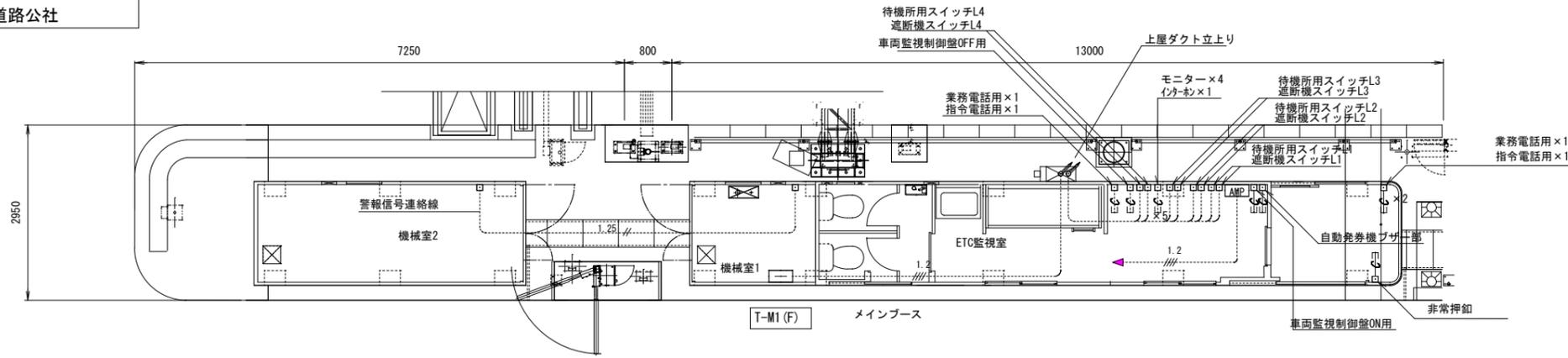
上屋 庇
A4 24

安全通路
A3 15

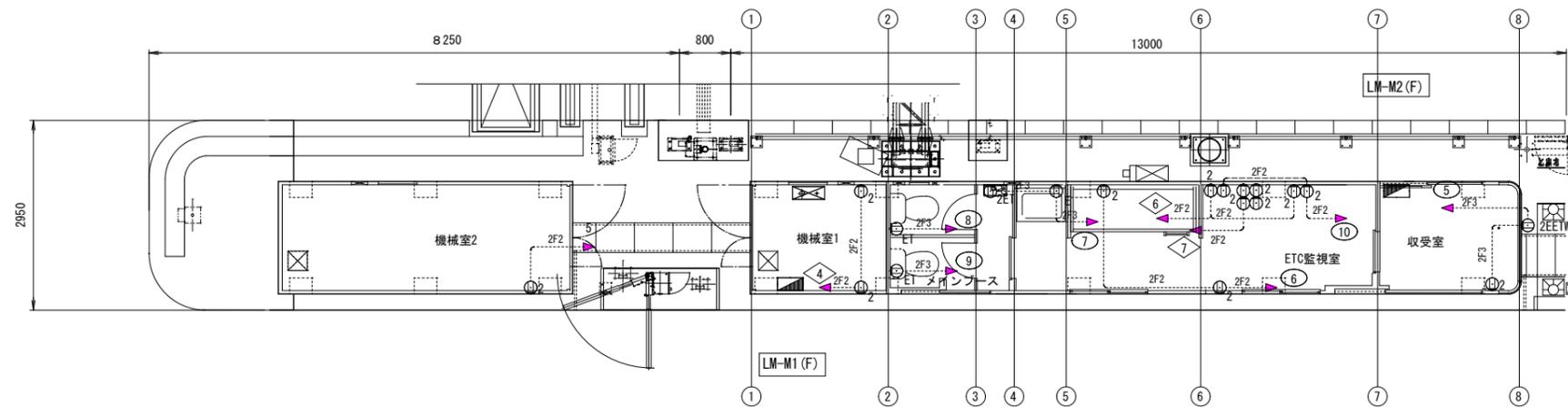
凡例		
記号	名称	備考
○	LED照明	参考図 参照
●	WP	タンブラスイッチ 1P15A x 1 防水型
⊗	丸型露出ボックス	
⊠	フルボックス	250 x 250 x 100
△	ホーンスピーカー	15W

(注記)		
1. 図中特記なき配管配線は下記とする。		
----	天井隠べい	
----	床下隠べい	
----	露出	
電灯・コンセント設備(床隠べいの例)		
----	WF1.6-2C	(立上りPF16)
----	F3	WF1.6-3C (立上りPF16)
----	F4	WF1.6-2C x 2 (立上りPF22)
----	2F2	WF2.0-2C (立上りPF16)
----	2F3	WF2.0-3C (立上りPF22)
----	2F4	WF2.0-2C x 2 (立上りPF22)
----	IV2.0 x 2	(PF16)
----	空配管	(PF22)
----	CW1.25-2C	
----	AE1.2-2C x 2	
----	IV1.6 x 2 E1.6 (G16)	

令和6年度			
工事名	広島高速5号線 料金所等新築その他工事		
図面番号	縮尺	1:50	
図名	広島駅北口料金所 コンセント・通信設備 1階平面図	番号	E-08
路線名	高速5号線		
広島高速道路公社			



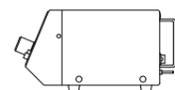
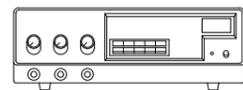
通信設備 平面図



コンセント設備 平面図

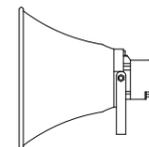
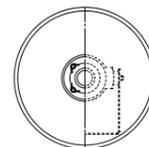
記号	名称	備考
☑	電灯動力盤	
□	LED照明	参考図 参照
○	LED照明	参考図 参照
●	非常用照明	電池内蔵型
●	タンブラスイッチ	1P15A×1
●L	タンブラスイッチ	1P15A×1確認表示灯付
●3	タンブラスイッチ	3W15A×1
⓪	コンセント	2P15A×1
⓪2	コンセント	2P15A×2
⓪E	コンセント	2P15A×1 接地極付
⓪ET	コンセント	2P15A×1 接地端子付
⓪2ET	コンセント	2P15A×2 接地端子付
⓪2EETWP	防水コンセント	2P15A×2 接地極接地端子付
□	アウトレットボックス	
⊙	換気扇・パイプファン	本工事付帯機械設備工事
⊘	温度スイッチ	本工事付帯機械設備支給品 (取付本工事付帯電気工事)
⊘	空調リモコンスイッチ	本工事付帯機械設備工事
⊘	全熱交換機スイッチ	本工事付帯機械設備支給品 (取付本工事付帯電気工事)
—	端子盤	
AMP	アンプ	

(注記)	
1. 図中特記なき配管配線は下記とする。	
———	天井隠ぺい
-----	床下隠ぺい
.....	露出
電灯・コンセント設備 (床隠ぺいの例)	
-----WF1.6-2C	(立上りPF16)
-----F3	WF1.6-3C (立上りPF16)
-----F4	WF1.6-2C×2 (立上りPF22)
-----2F2	WF2.0-2C (立上りPF16)
-----2F3	WF2.0-3C (立上りPF22)
-----2F4	WF2.0-2C×2 (立上りPF22)
-----IV2.0×2	(PF16)
-----	空配管 (PF22)
-----CW1.25-2C	
-----	AE1.2-2C×2



放送用アンプ仕様 (2台)

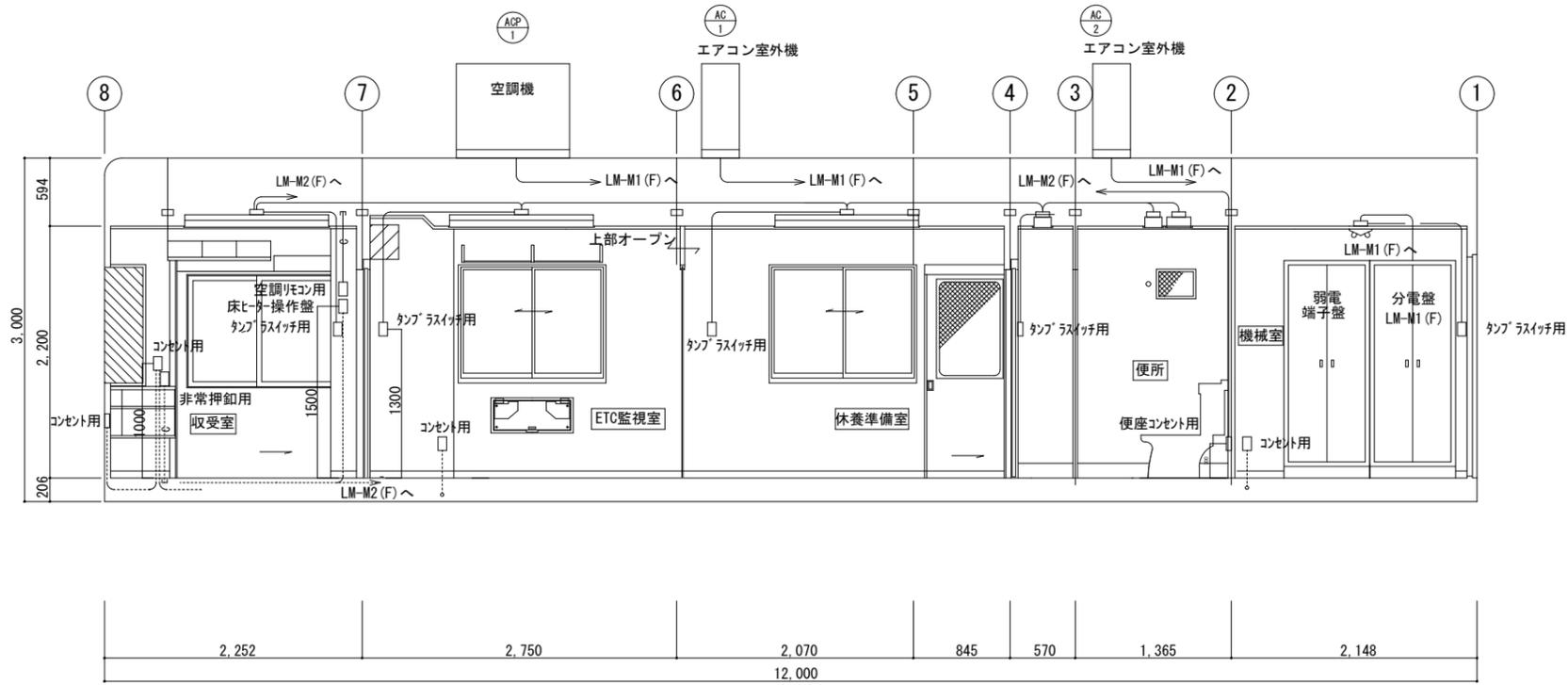
電源	AC100V 60Hz
定格出力	30W
周波数特性	50Hz~20kHz
スピーカー	5局+1齊
入力回路	マイク入力 2以上
出力回路	平衡: 300Ω (100系)



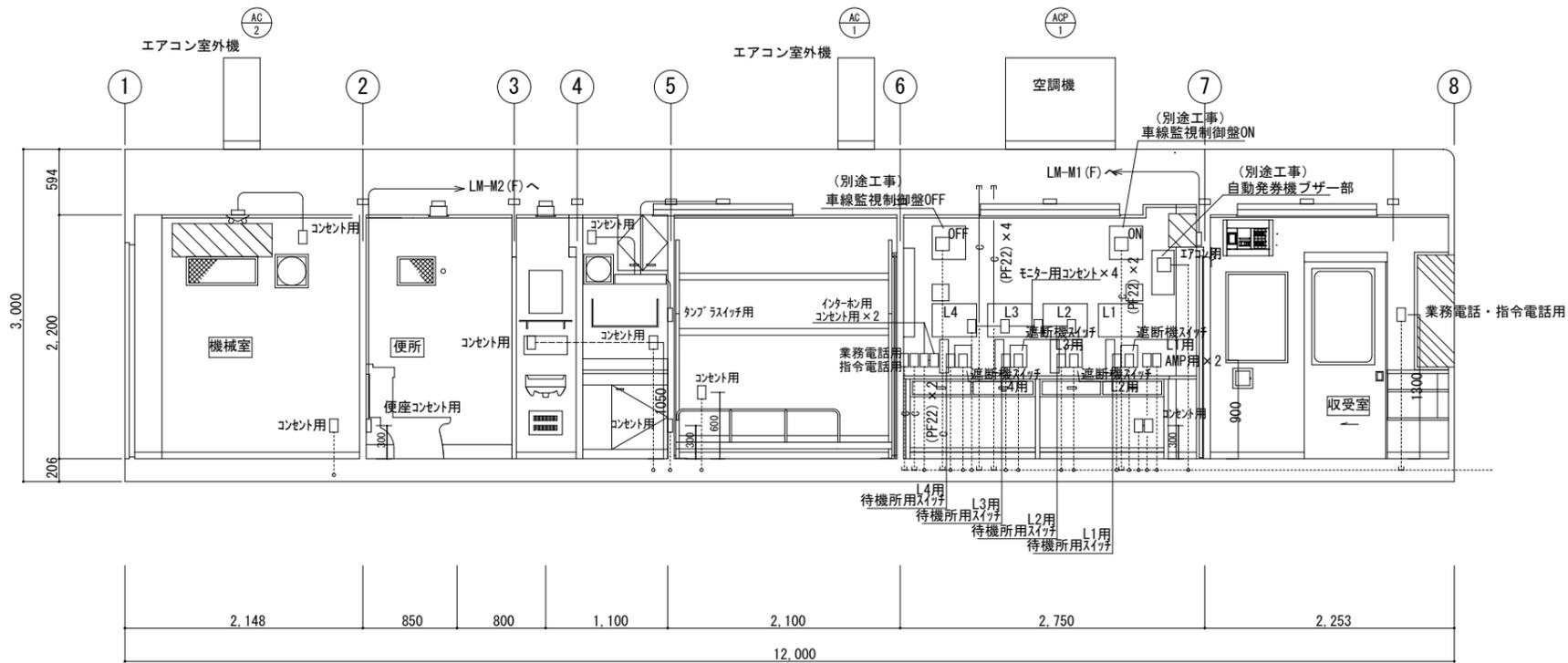
ホーンスピーカ仕様 (2台)

入力インピーダンス	670Ω (15W)
定格入力	15W
出力音圧レベル	99dB (1m/1W)
周波数特性	150Hz~15kHz

令和6年度			
工事名	広島高速5号線 料金所等新築その他工事		
図面番号	縮尺	1:30	
図名	広島駅北口料金所 電気設備 展開図メインブース)	番号	E-09
路線名	高速5号線		
広島高速道路公社			



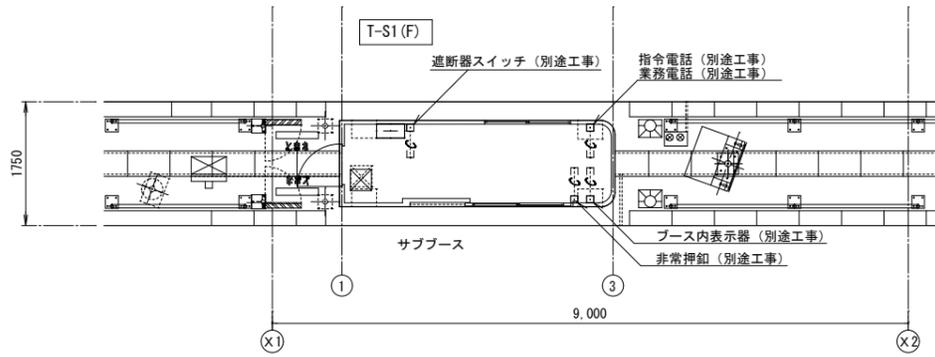
A通り内観図



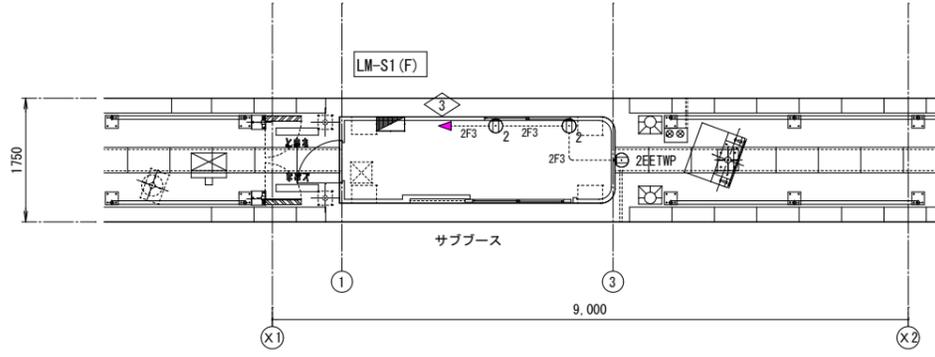
B通り内観図

(注記)		
1. 図中特記なき配管配線は下記とする。		
—————	天井隠ぺい	
-----	床下隠ぺい	
.....	露出	
電灯・コンセント設備(床隠ぺいの例)		
-----	VVF1.6-2C	(立上りPF16)
-----	F3	VVF1.6-3C (立上りPF16)
-----	F4	VVF1.6-2C×2 (立上りPF22)
-----	2F2	VVF2.0-2C (立上りPF16)
-----	2F3	VVF2.0-3C (立上りPF22)
-----	2F4	VVF2.0-2C×2 (立上りPF22)
-----	1V2.0×2	(PF16)
-----	0	空配管 (PF22)
-----	CVV1.25-2C	
-----	AE1.2-2C×2	

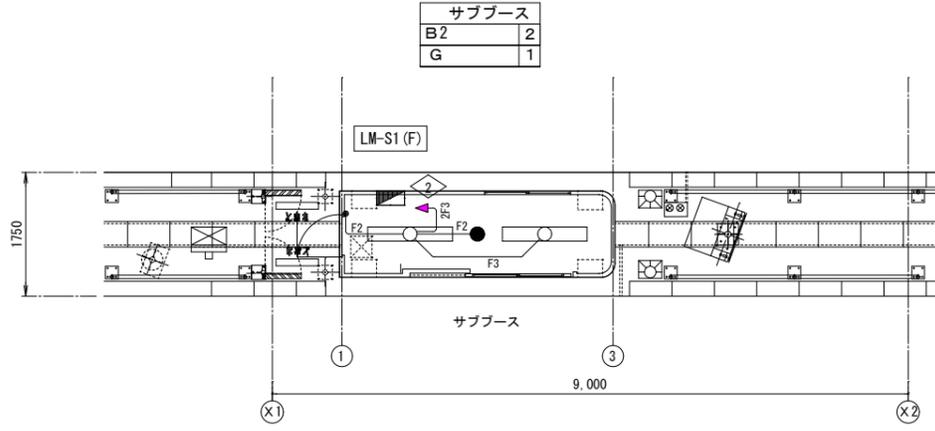
令和 6 年度			
工事名	広島高速5号線料金所等新築その他工事		
図面番号	縮尺	1:50	
図名	広島駅北口料金所 サブブース 動力・電灯・コンセント設備 1階・屋根 平面図	番号	E-10
路線名	高速5号線 広島高速道路公社		



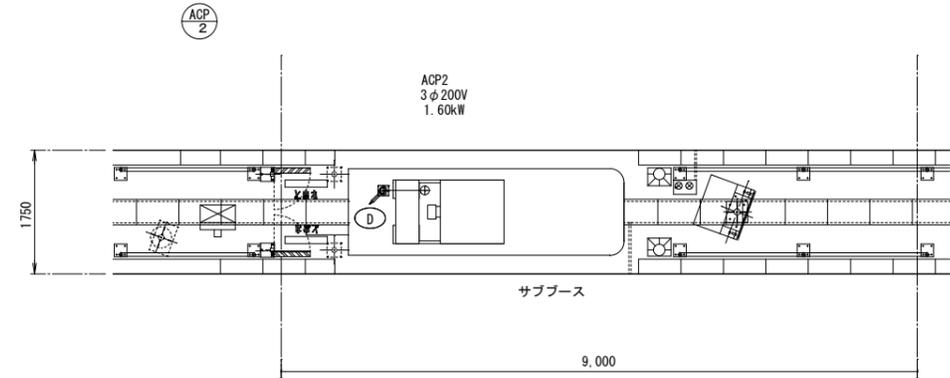
通信設備 1階平面図



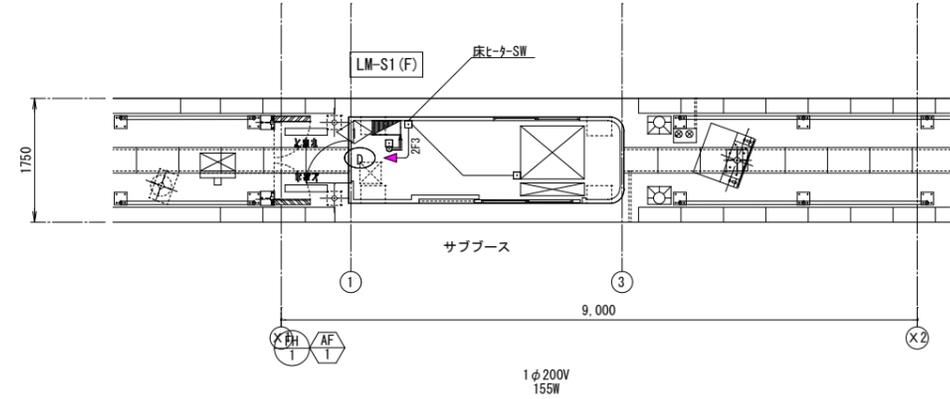
コンセント設備 1階平面図



電灯設備 1階平面図



動力設備 屋根伏図



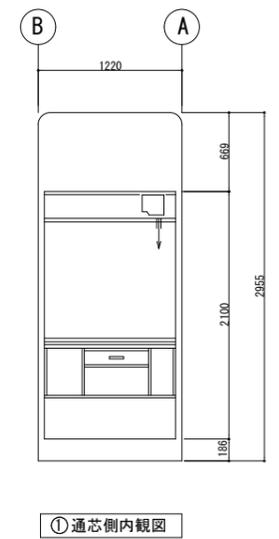
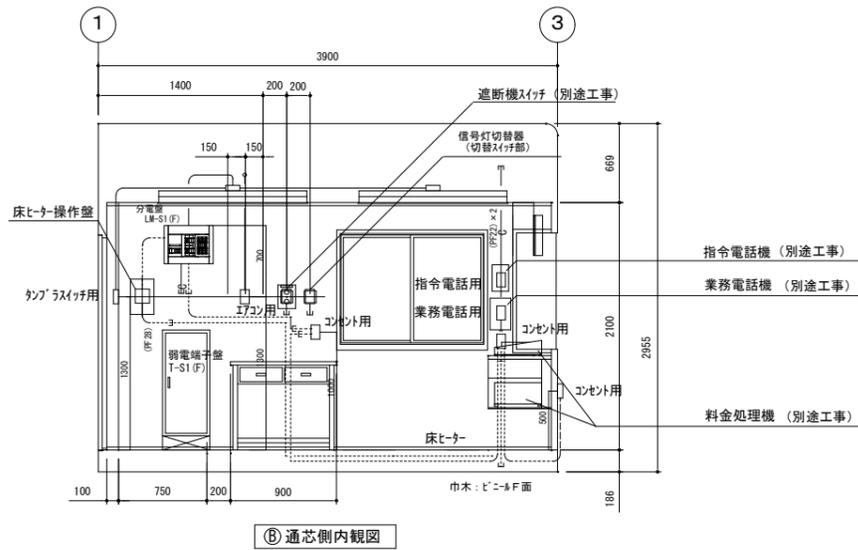
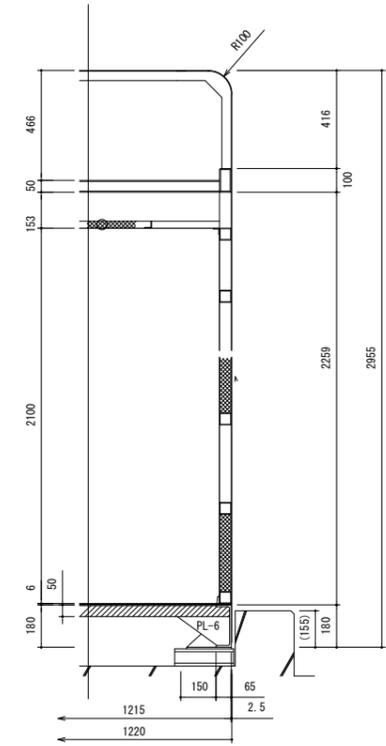
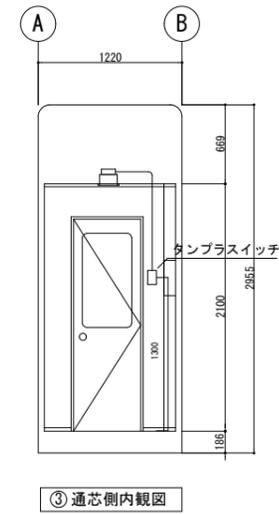
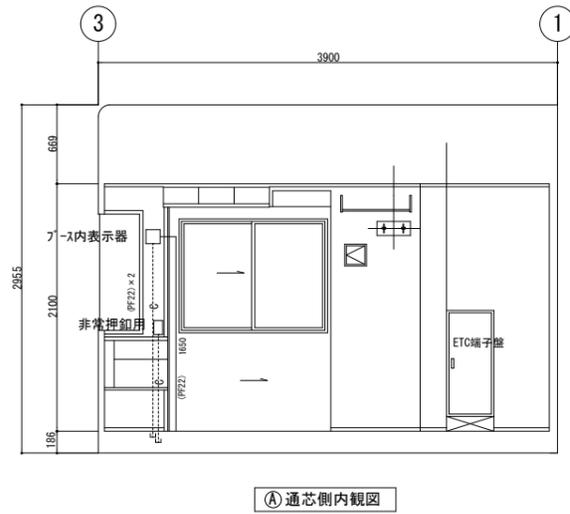
動力設備 1階平面図

凡例		
記号	名称	備考
■	電灯動力盤	
○	LED照明	参考図 参照
○	LED照明	参考図 参照
●	非常用照明	電池内蔵型
●	タンブラスイッチ	1P15A×1
●L	タンブラスイッチ	1P15A×1確認表示灯付
●3	タンブラスイッチ	3W15A×1
Ⓜ	コンセント	2P15A×1
Ⓜ ₂	コンセント	2P15A×2
Ⓜ _E	コンセント	2P15A×1 接地極付
Ⓜ _{ET}	コンセント	2P15A×1 接地端子付
Ⓜ _{2ET}	コンセント	2P15A×2 接地端子付
Ⓜ _{2EETWP}	防水コンセント	2P15A×2 接地極接地端子付
□	アウトレットボックス	
⊗	換気扇・パイプファン	本工事付帯機械設備工事
⋮	温度スイッチ	本工事付帯機械設備支給品 (取付本工事付帯電気工事)
⋮	空調リモコンスイッチ	本工事付帯機械設備工事
⋮	全熱交換機スイッチ	本工事付帯機械設備支給品 (取付本工事付帯電気工事)
—	端子盤	
AMP	アンプ	
Ⓜ	ダイナミックマイクロホン	

(注記)		
1. 図中特記なき配管配線は下記とする。		
———	天井隠ぺい	
-----	床下隠ぺい	
.....	露出	
電灯・コンセント設備(床隠ぺいの例)		
---F2---	VVF1.6-2C	(立上りPF16)
---F3---	VVF1.6-3C	(立上りPF16)
---F4---	VVF1.6-2C×2	(立上りPF22)
---2F2---	VVF2.0-2C	(立上りPF16)
---2F3---	VVF2.0-3C	(立上りPF22)
---2F4---	VVF2.0-2C×2	(立上りPF22)
---IV2.0×2---		(PF16)
---空配管---		(PF22)
---CW1.25-2C---		
---AE1.2-2C×2---		

サブブース	
B2	2
G	1

令和6年度			
工事名	広島高速5号線 料金所等新築その他工事		
図面番号	縮尺	1:30	
図名	広島駅北口料金所 サブブース 展開図	番号	E-11
路線名	高速5号線		
広島高速道路公社			

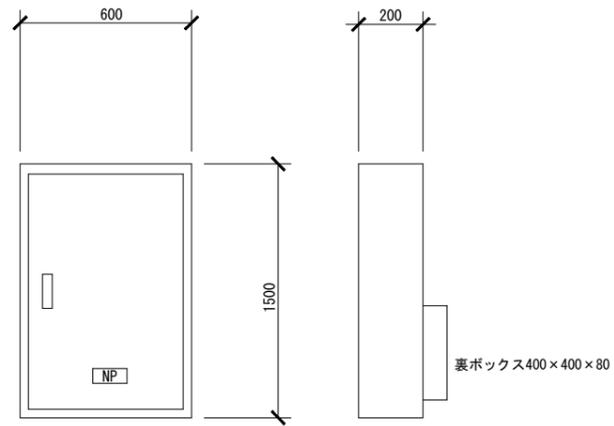
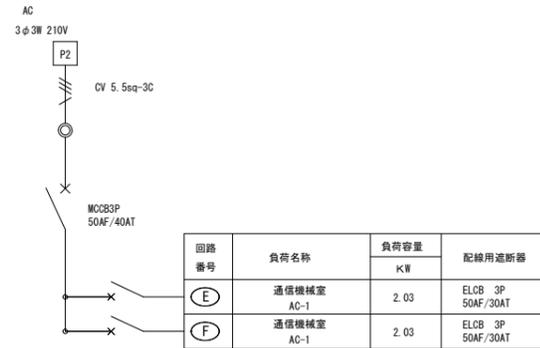


(注記)		
1. 図中特記なき配管配線は下記とする。		
—————	天井隠べい	
-----	床下隠べい	
.....	露出	
電灯・コンセント設備(床隠べいの例)		
-----	VVF1.6-2C	(立上りPF16)
-----	F3 VVF1.6-3C	(立上りPF16)
-----	F4 VVF1.6-2C×2	(立上りPF22)
-----	2F2 VWF2.0-2C	(立上りPF16)
-----	2F3 VWF2.0-3C	(立上りPF22)
-----	2F4 VWF2.0-2C×2	(立上りPF22)
-----	IV2.0×2	(PF16)
-----	空配管	(PF22)
-----	CWV1.25-2C	
-----	AE1.2-2C×2	

令和6年度			
工事名	広島高速5号線 料金所等新築その他工事		
図面番号	縮尺	NON	
図名	二葉の里電気室 分電盤結線図	番号	E-12
路線名	高速5号線		
広島高速道路公社			

分電盤名称	LM-E1(F)		
キャビネット形式	T		
電気方式	種別	非常用回路	常用回路
	相線	1φ3W	3φ3W
	電圧	210/105V	210V
負荷容量 VA	5981	6.5kW	
主幹器具	定格電流	100A	
	定格遮断電流	2.5kA	

屋内壁掛型(銅板製)指定色塗装

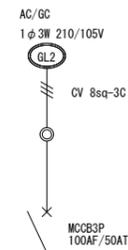


分電盤姿図

NP	LM-E1(F)
----	----------

注記

1. 分岐用配線遮断器は2P(協約計1Pサイズ)とする。
2. 分岐回路分の接地端子又は銅バーを設ける。
3. 図中記入なきものは下記による。



負荷容量VA		MCCB定格電流(A)	負荷名称	回路番号
コンセント	電灯			
	388	2P 50AF/20AT	1階電気室電灯	1
	530	2P 50AF/20AT	2階電気室電灯	3
	57	ELCB 2P 50AF/20AT	出入口電灯	5
	750	2P 50AF/20AT	1階電気室換気扇	7
	200	2P 50AF/20AT	1階電気室コンセント	9
	400	2P 50AF/20AT	1階発電機室コンセント	11
	200	2P 50AF/20AT	2階電気室コンセント	13
	500	2P 50AF/20AT	予備	15
2050	975			計
3025				

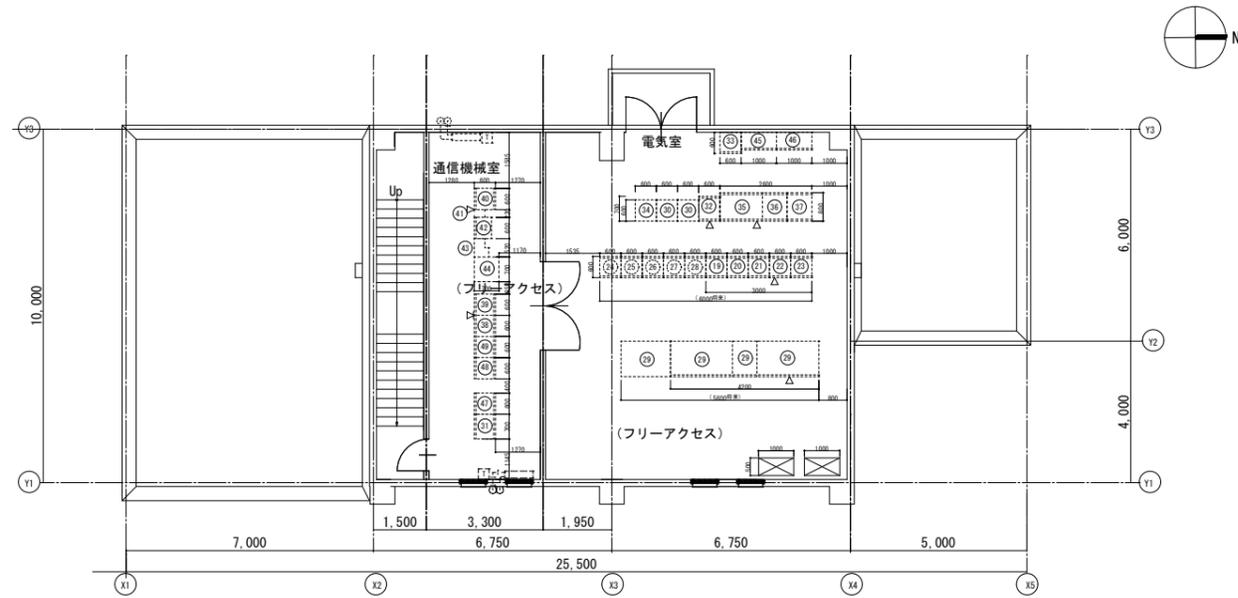
回路番号	負荷名称	MCCB定格電流(A)	負荷容量VA	
			電灯	コンセント
2	1階発電機室・エンジン電灯	2P 50AF/20AT	431	
4	2階通信機械室電灯	2P 50AF/20AT	275	
6	1階電気室換気扇	2P 50AF/20AT		750
8	1階電気室コンセント	2P 50AF/20AT		200
10	1階ポンプ室コンセント	2P 50AF/20AT		200
12	2階電気室コンセント	2P 50AF/20AT		200
14	2階通信機械室コンセント	2P 50AF/20AT		400
	予備	2P 50AF/20AT		500
計			706	2250
			2956	

分電盤・端子盤仕様

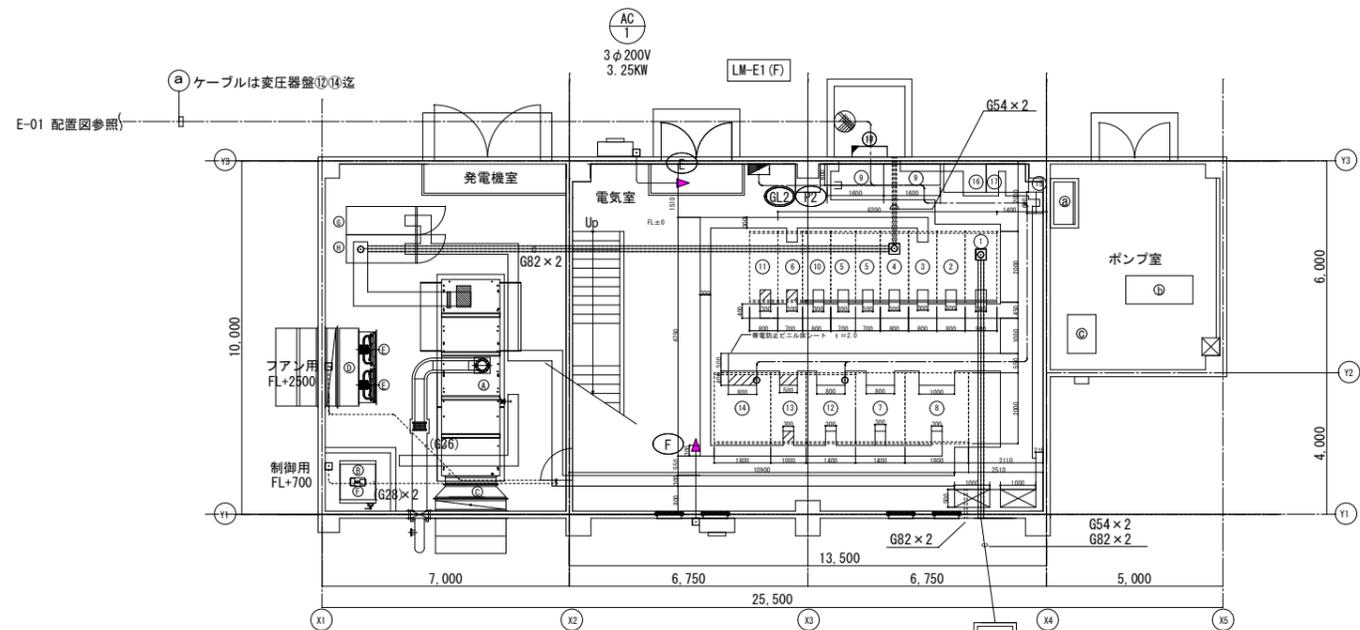
函板	銅板1.6t以上
扉板	銅板1.6t以上
把手	平面フラットハンドルNo.200
塗装	メラミン焼付

(注記) 図中、寸法は参考とする。

令和6年度			
工事名	広島高速5号線 料金所等新築その他工事		
図面番号	縮尺	1:100	
図名	二葉の里電気室 幹線・動力設備 1、2階平面図	番号	E-13
路線名	高速5号線		
広島高速道路公社			



幹線・動力設備 2階平面図



幹線・動力設備 1階平面図

凡例

記号	名称	備考
◻	電灯動力盤	
○	LED照明	参考図 参照
○	LED照明	参考図 参照
●	非常用照明	電池内蔵型
●	タンブラスイッチ	1P15A×1
●L	タンブラスイッチ	1P15A×1確認表示灯付
●3	タンブラスイッチ	3W15A×1
⓪	コンセント	2P15A×1
⓪2	コンセント	2P15A×2
□	アウトレットボックス	
⊗	換気扇	本工事付帯機械設備工事
⋮	温度スイッチ	本工事付帯機械設備支給品 (取付本工事付帯電気工事)
⋮	空調リモコンスイッチ	本工事付帯機械設備工事

記号	名称	電圧	配線サイズ	立上り	ビット
⓪L2	LM-E1	1φ3W	CV 5.5sq-3C E3.5sq	E25	30mm
⓪P2		3φ3W	CV 5.5sq-3C	E25	30mm

記号	名称	容量	配線サイズ	配管
E	空調機 (AC-1)	3.25KW	CV 3.5sq-3C E2.0mm	PF22
F	空調機 (AC-1)	3.25KW	CV 3.5sq-3C E2.0mm	PF22

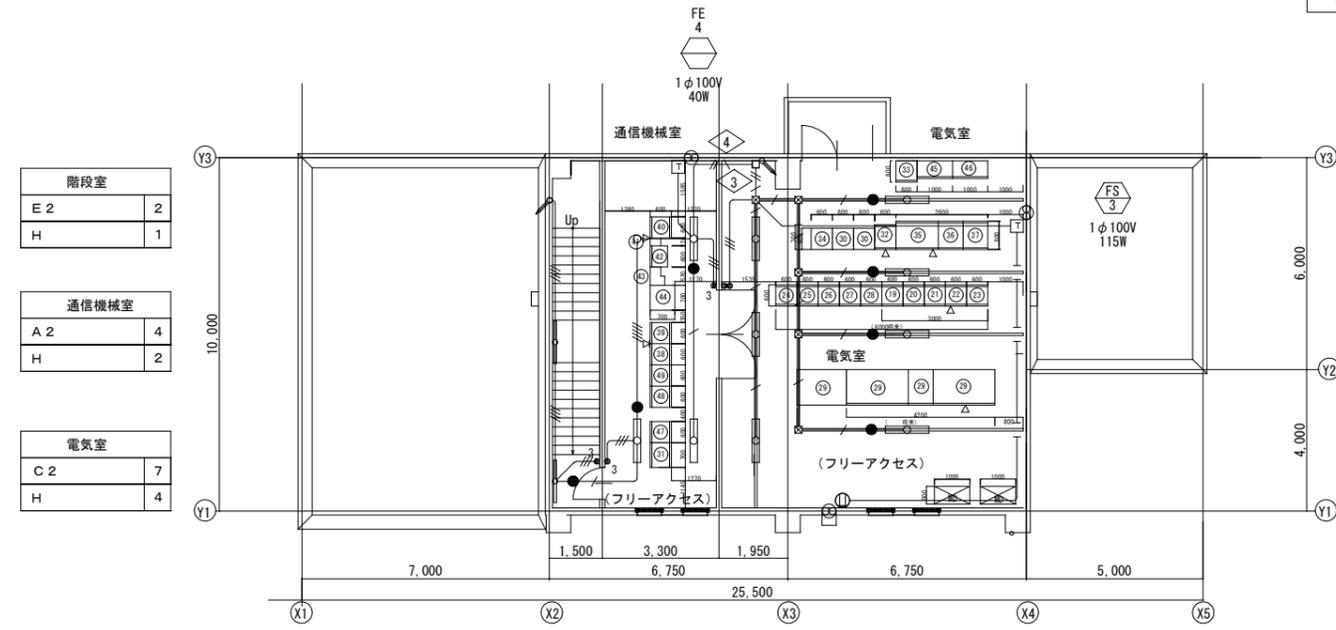
令和6年度			
工事名	高速5号線料金所等新築その他工事		
図面番号	縮尺	1:100	
図名	二葉の里電気室 電灯・コンセント設備 1、2階平面図	番号	E-14
路線名	高速5号線		
広島高速道路公社			

凡例

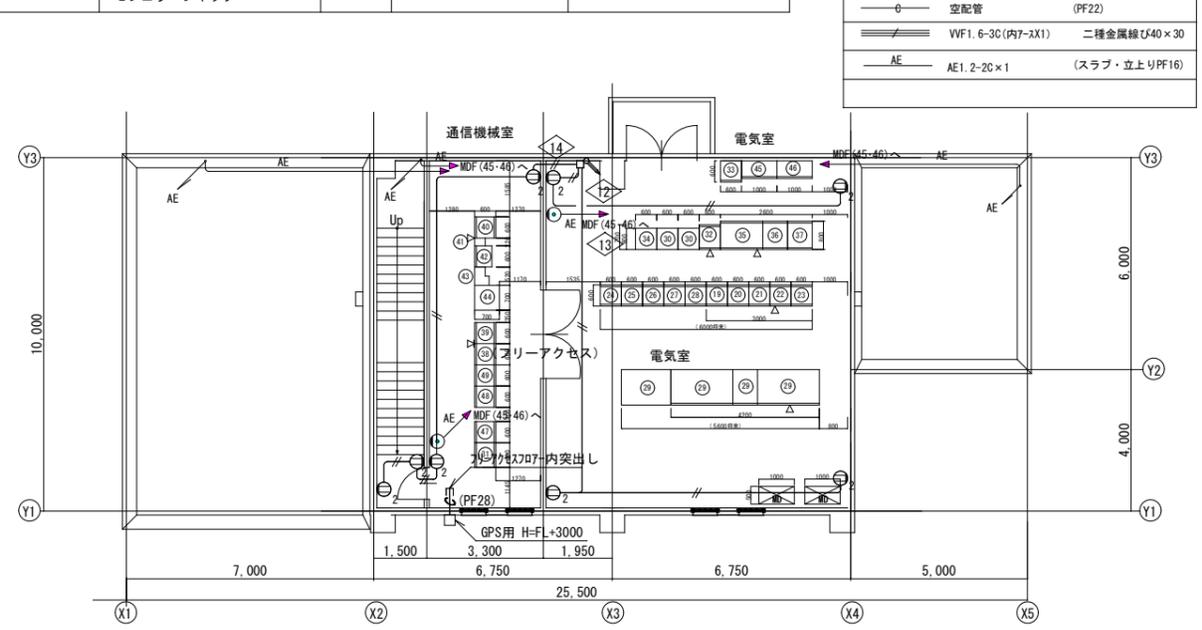
記号	名称	備考	記号	名称	備考
◻	電灯動力盤		□	アウトレットボックス	
○	LED照明	参考図 参照	⊙	換気扇	本工事付帯機械設備工事
○	LED照明	参考図 参照	⊞	温度スイッチ	本工事付帯機械設備支給品 (取付本工事付帯電気工事)
●	非常用照明	電池内蔵型	⊞	空調リモコンスイッチ	本工事付帯機械設備工事
●	タンブラスイッチ	1P15A×1	⊞	金属製配線ダクト	
●L	タンブラスイッチ	1P15A×1確認表示灯付			
●3	タンブラスイッチ	3W15A×1			
⊞	コンセント	2P15A×1			
⊞2	コンセント	2P15A×2			
⊞	電話用受口	モジュージャック			

(注記)

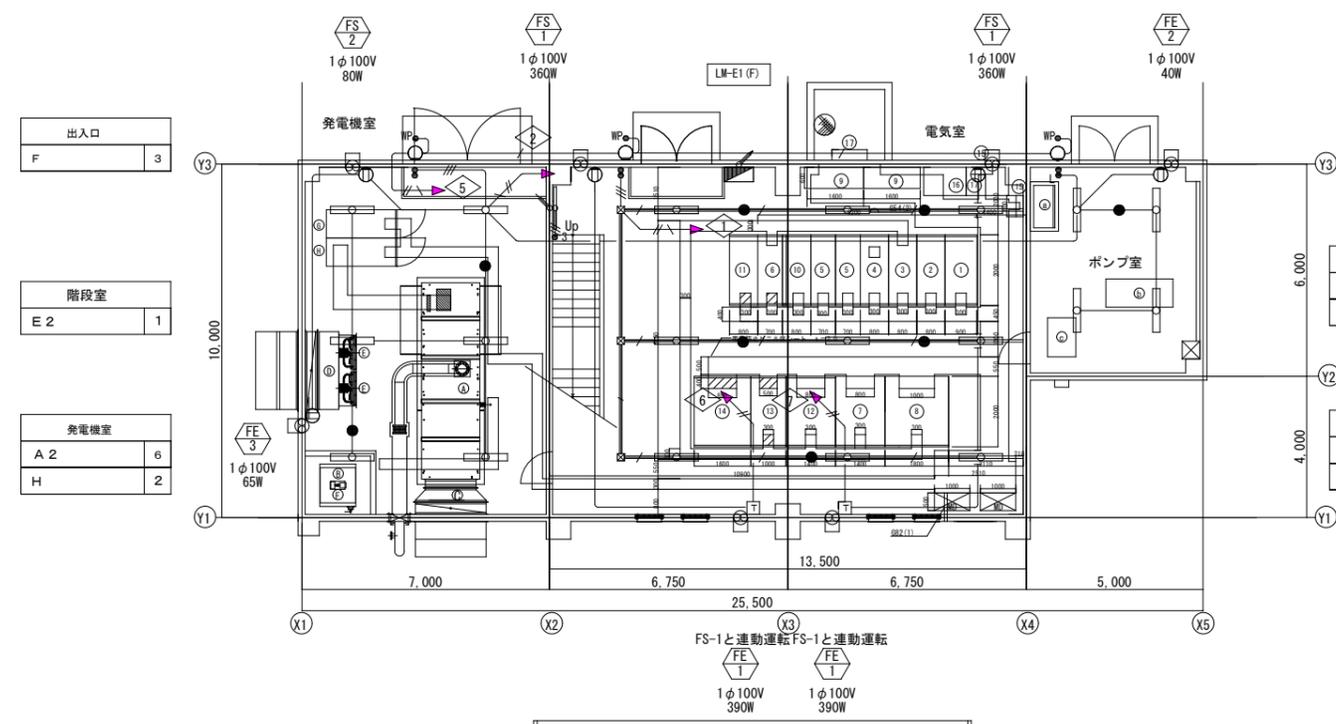
1. 図中特記なき配管配線は下記とする。
 ー 天井隠ぺい
 ー 床下隠ぺい
 - - - - - 露出
 1Fピット及び2Fフリーアクセス内はこがしとする。
 VF1. 6-2C (スラブ・立上りPF16)
 F3 VF1. 6-3C (スラブ・立上りPF16)
 F4 VF1. 6-2C×2 (スラブ・立上りPF22)
 2F2 VF2. 0-2C (スラブ・立上りPF16)
 2F3 VF2. 0-3C (スラブ・立上りPF22)
 2F4 VF2. 0-2C×2 (スラブ・立上りPF22)
 IV2. 0×2 (スラブ・PF16)
 ○ 空配管 (PF22)
 ≡ VF1. 6-3C(内7-X1) 二種金属線径φ40×30
 AE AE1. 2-2C×1 (スラブ・立上りPF16)



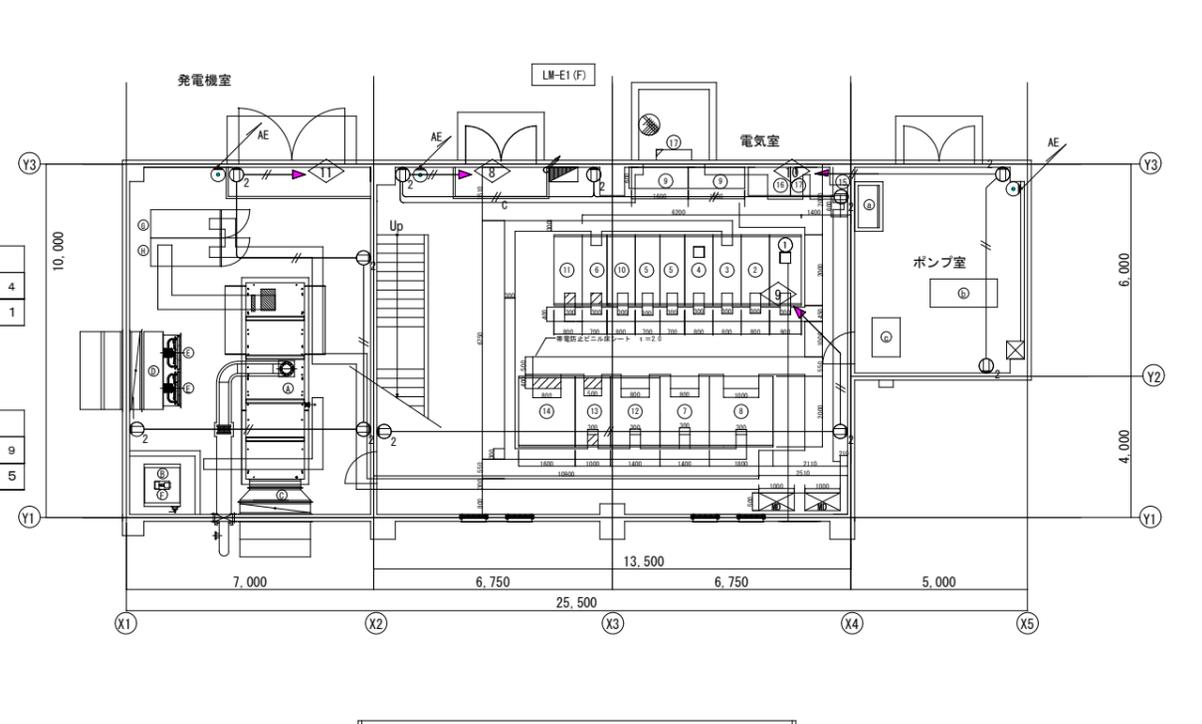
電灯設備 2階平面図



コンセント・通信設備 2階平面図

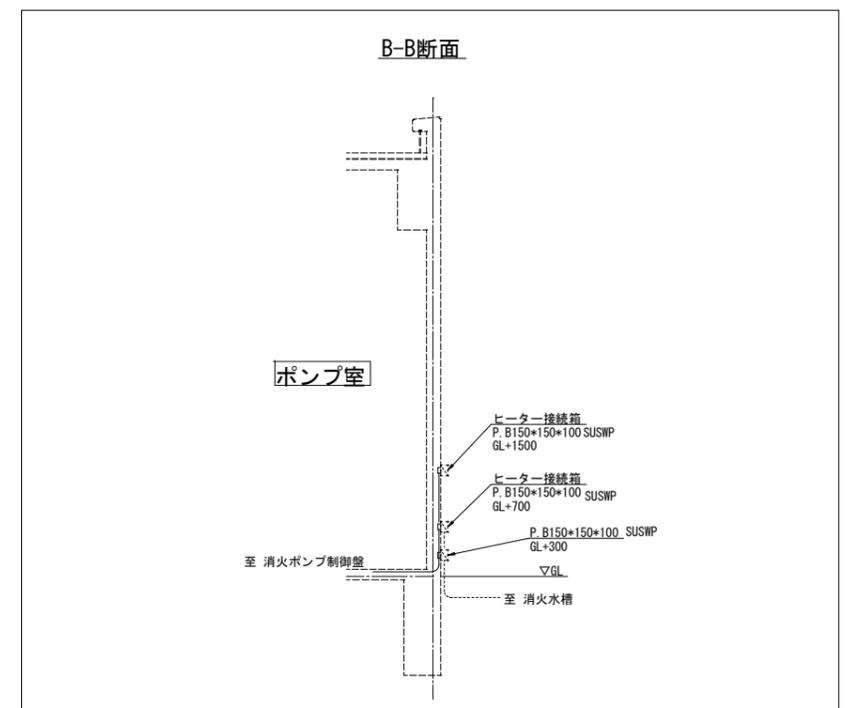
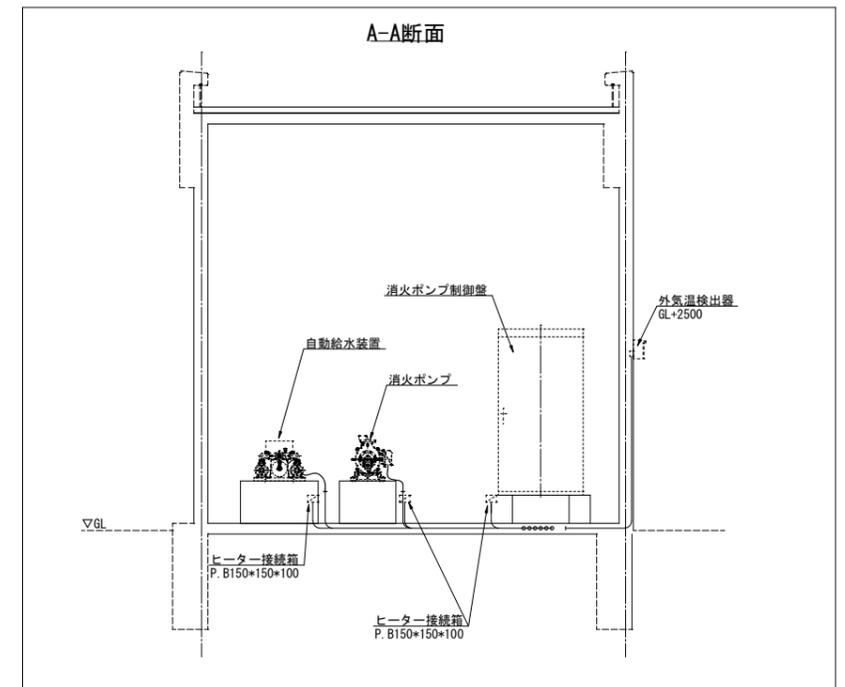
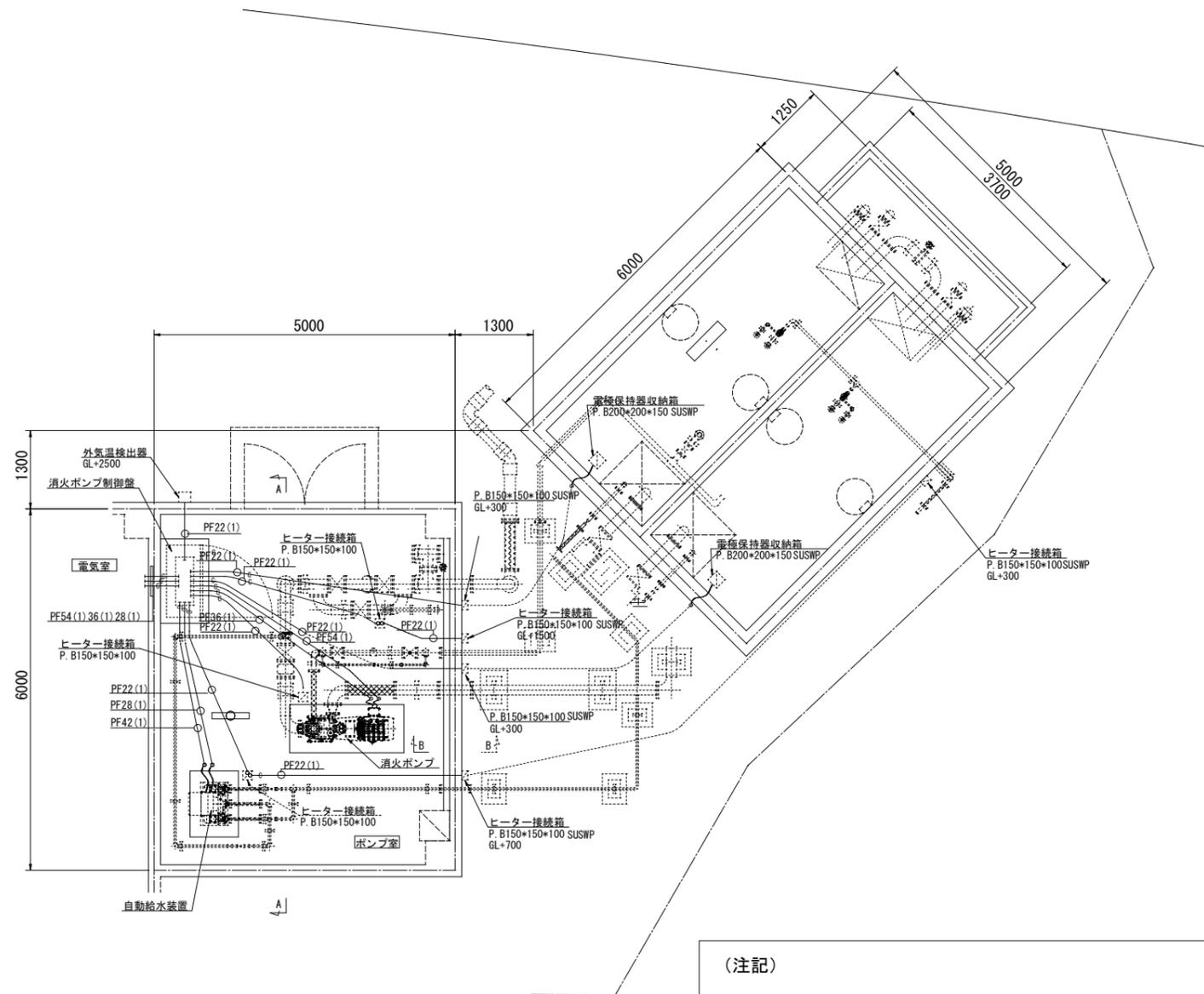


電灯設備 1階平面図



コンセント・通信設備 1階平面図

令和6年度			
工事名	広島高速5号線 料金所等新築その他工事		
図面番号	縮尺	1:50	
図名	二葉の里ポンプ室 消火ポンプ配管設備 1階平面図	番号	E-15
路線名	高速5号線		
広島高速道路公社			



(注記)

1. 消火ポンプ制御盤ピットから各P. B間の配管・BOXは本工事とする。
2. 破線部分は別途工事とする。
3. 消火ポンプ制御盤から各機器間の配線は別途工事とする。
4. 消火ポンプ制御盤及び各機器は別途工事とする。
5. 消火ポンプ制御盤ピット、消火ポンプ基礎、自動給水装置基礎は本工事とする。

令和 6 年度			
工事名	広島高速5号線料金所等新築その他工事		
図面番号	縮尺	NON	
図名	広島駅北口料金所 設備凡例	番号	M-01
路線名	高速5号線		
広島高速道路公社			

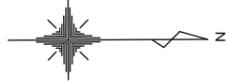
設備凡例 S=NON

凡例

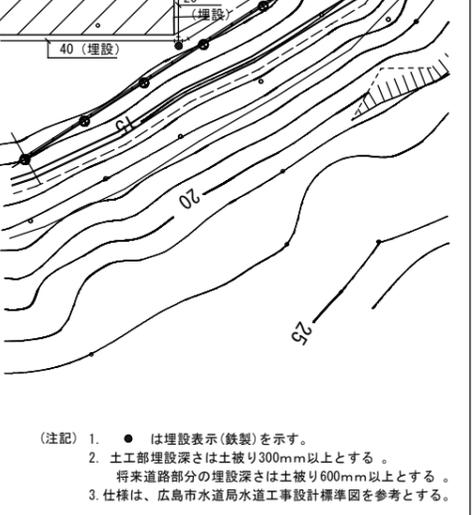
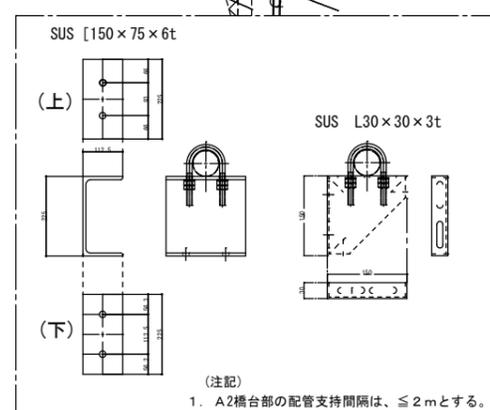
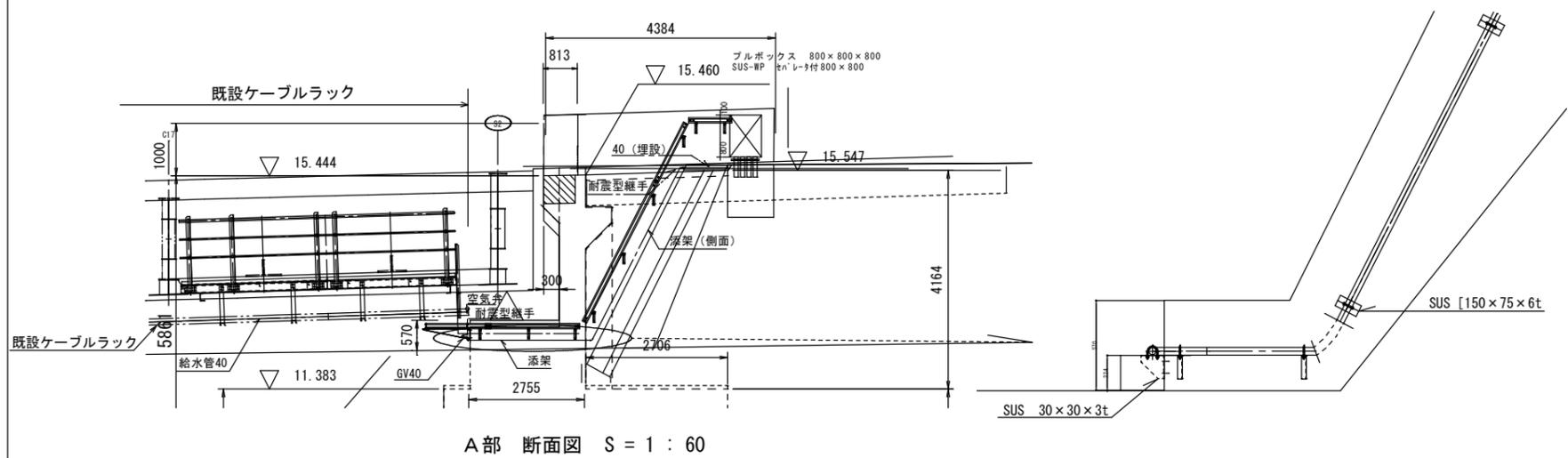
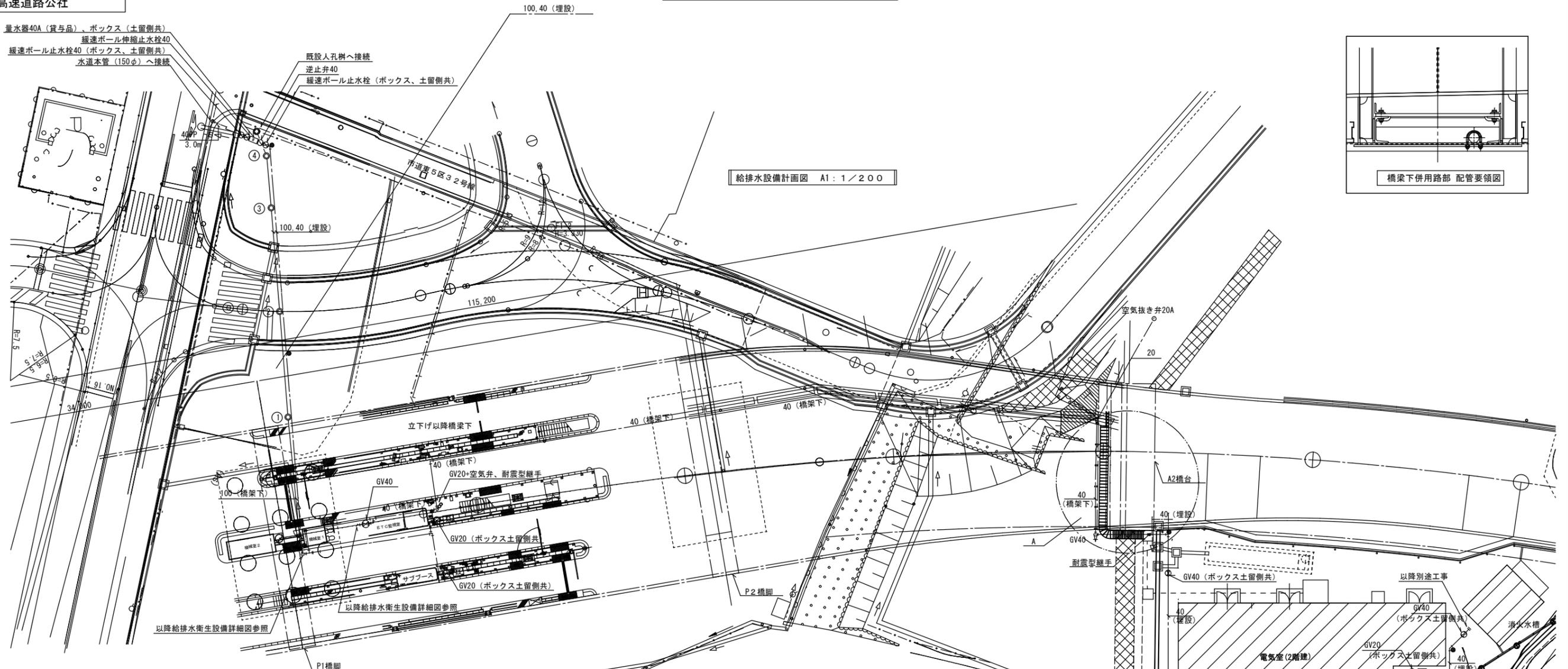
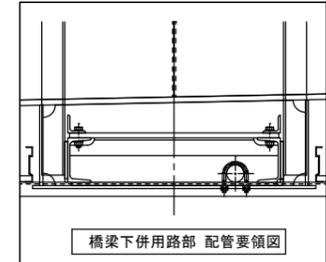
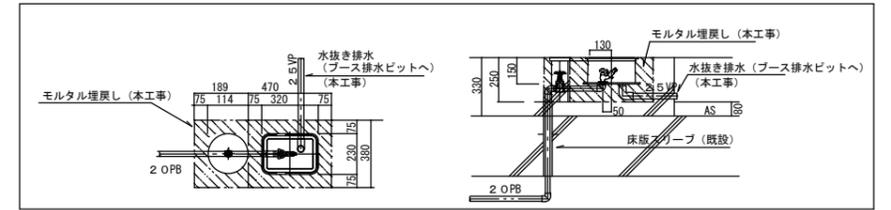
記号	名称	配管材料及びその他使用材料	備考
—R—	冷媒管	一般：冷媒用被覆銅管（室内外機渡り配線は本工事） JCDA 0009	※屋外露出部は樹脂製化粧カバーにて保護（メーカー仕様）
—D—	ドレン管	一般：硬質塩化ビニル管（VP） JIS K 6741	※隠ぺい部は保温チューブ巻きを行うこと。屋内露出部は保温チューブ+配管化粧カバー巻きを行うこと。
—SA—	給気ダクト	一般：スパイラルダクト、亜鉛鉄板	※屋内隠ぺい部は保温を行うこと、種別はI・(ロ)・XI とする。
—RA—	還気ダクト	一般：スパイラルダクト、亜鉛鉄板	
—OA—	外気ダクト	一般：スパイラルダクト、亜鉛鉄板	
—EA—	排気ダクト	一般：スパイラルダクト、亜鉛鉄板	
—  —	ペントキャップ	SUS製深型（指定色焼付塗装）	
	サーモスタッド		
— — — —	給水管	水道用ポリエチレン紛体ライニング鋼管（SGP-PB） JWWA K 132	屋内配管（屋外露出・桁内） 保温防露施工 屋外露出はe ₂ ・(ハ)・VII、天井内・PS内はc・(ハ)・VII、床下・ピット内はd・(ハ)・VIIとする。
		水道用ポリエチレン紛体ライニング鋼管（SGP-PD） JWWA K 132	土間配管
		水道用ポリエチレン管 1種2層管 JIS K 6762	屋外埋設（道路、歩道下）
— — — —	排水管	硬質塩化ビニル管（VP） JIS K 6741	屋内配管（桁内）、埋設配管（100φ以下）
		硬質塩化ビニル管（VU） JIS K 6741	埋設配管（150φ以上）
		排水用塩化ビニルライニング鋼管 WSP 042	屋外立管（屋外露出）、MD継手
-----	通気管	硬質ポリ塩化ビニル管（VP） JIS K 6741	

- (注記) 1. 本工事に使用する材料は下記仕様書による。
 ・公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）国土交通省監修
 上記に該当しない場合は承諾を得るものとする。
2. 本工事に使用するコンクリートアンカーについて特記なき場合は金属拡張おねじアンカーとする。
3. 本工事に使用する金属製弁類、継手類について特記なき場合は管端防食を行うこと。
4. 本工事に使用する電線類（電源線、操作線、接地線等）について特記なき場合はJCS規格による。
5. 床下、ピット内配管は、レベルバンド支持とする。
6. 給水設備は全て広島市水道局の指定品、指定工法とする。

令和 6 年度	
工事名	広島高速5号線料金所等新築その他工事
図面番号	縮尺 1:200
図名	広島駅北口料金所 給排水設備 配置図 番号 M-02
路線名	高速5号線
	広島高速道路公社



器具名	広島市機械設備工事機材標準図記号	数量	備考
散水栓	13-HF1	2	
散水栓ボックス	B-3	2	屋外埋設
仕切弁	GV-20 10k	3	ボックス共
仕切弁	GV-40 10k	2	ボックス共

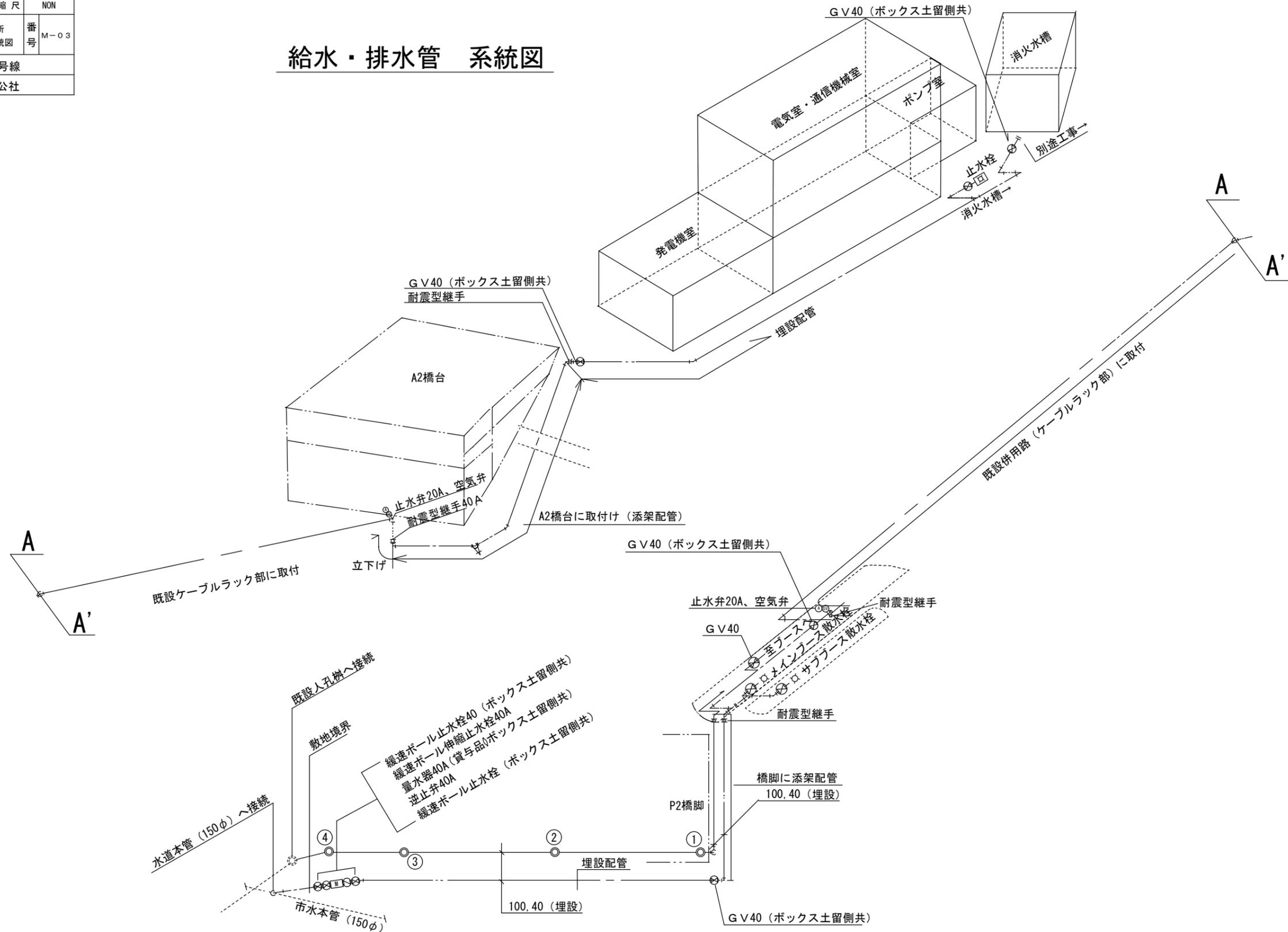


(注記) 1. ● は埋設表示 (鉄製) を示す。
 2. 土工部埋設深さは土被り300mm以上とする。
 将来道路部分の埋設深さは土被り600mm以上とする。
 3. 仕様は、広島市水道局水道工事設計標準図を参考とする。

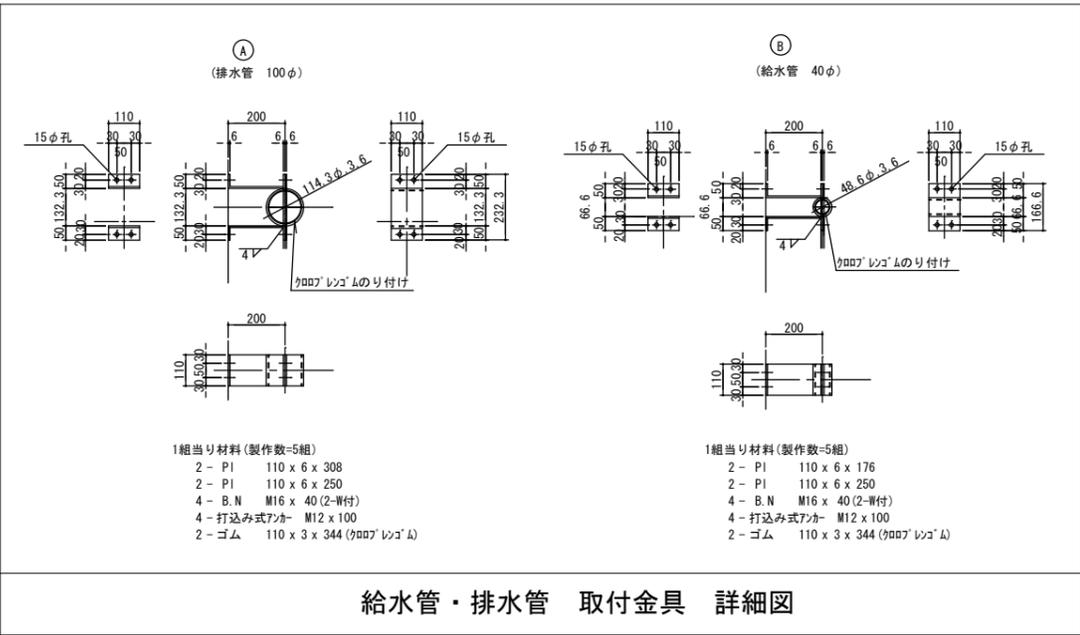
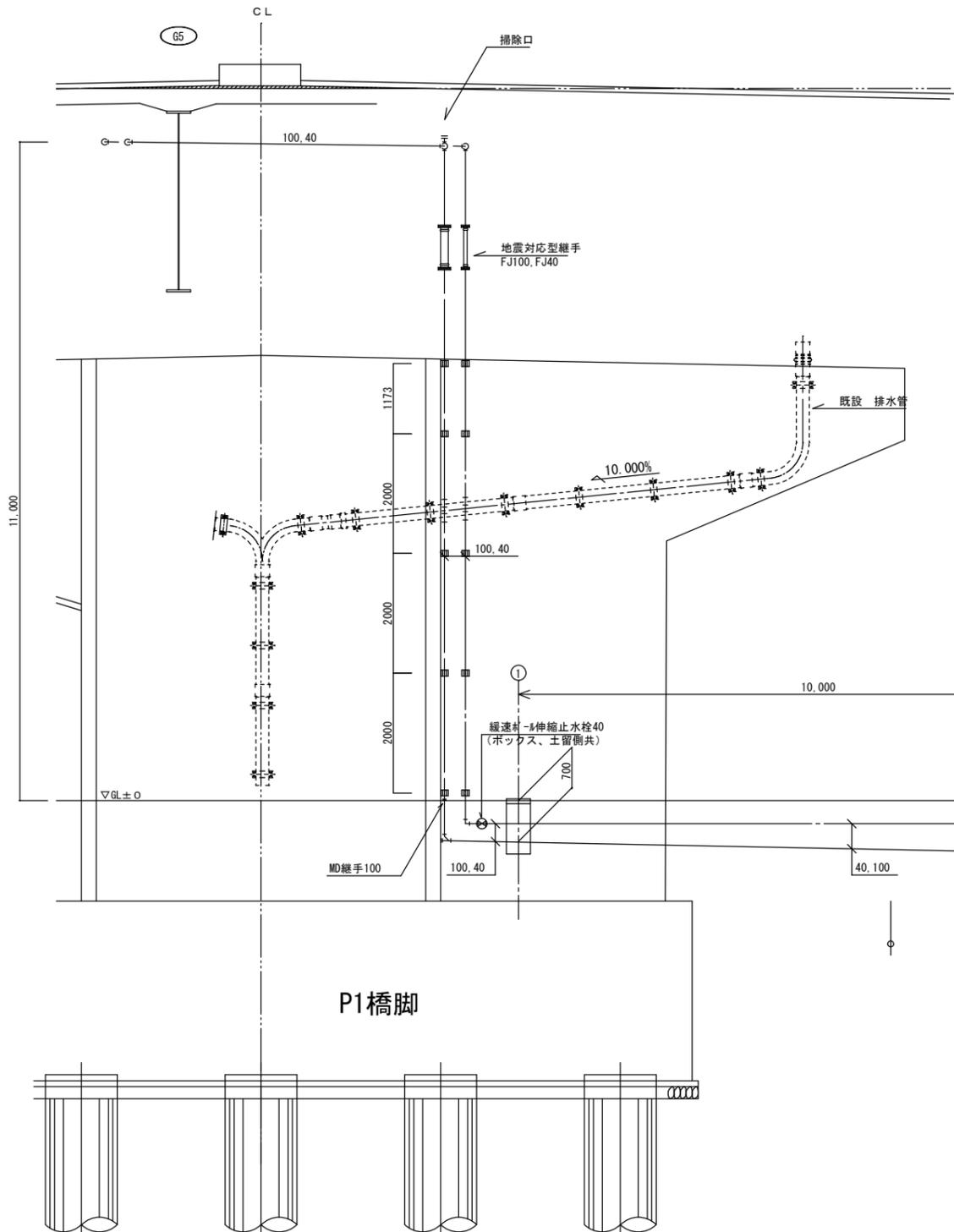
(注記) 1. A2橋台部の配管支持間隔は、≤2mとする。

令和 6 年度			
工事名	広島高速5号線料金所等新築その他工事		
図面番号	縮尺	NON	
図名	広島駅北口料金所 給水・排水管 系統図	番号	M-03
路線名	高速5号線		
広島高速道路公社			

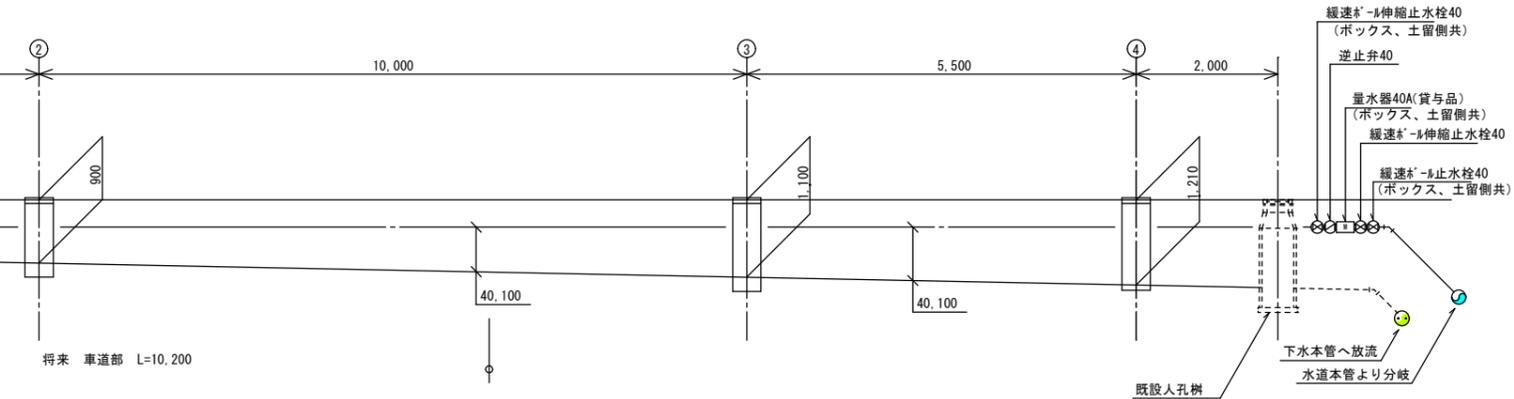
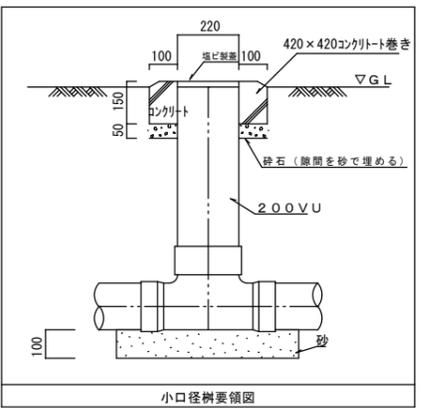
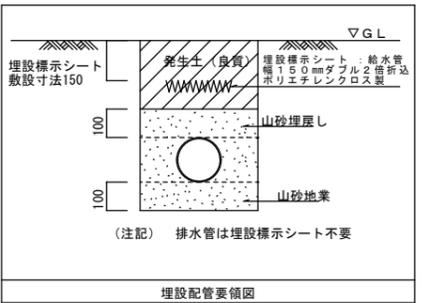
給水・排水管 系統図



令和 6 年度			
工事名	広島高速5号線料金所等新築その他工事		
図面番号	縮尺	1:50	
図名	広島駅北口料金所 給排水設備 縦断面	番号	M-04
路線名	高速5号線		
広島高速道路公社			



給水管・排水管 取付金具 詳細図



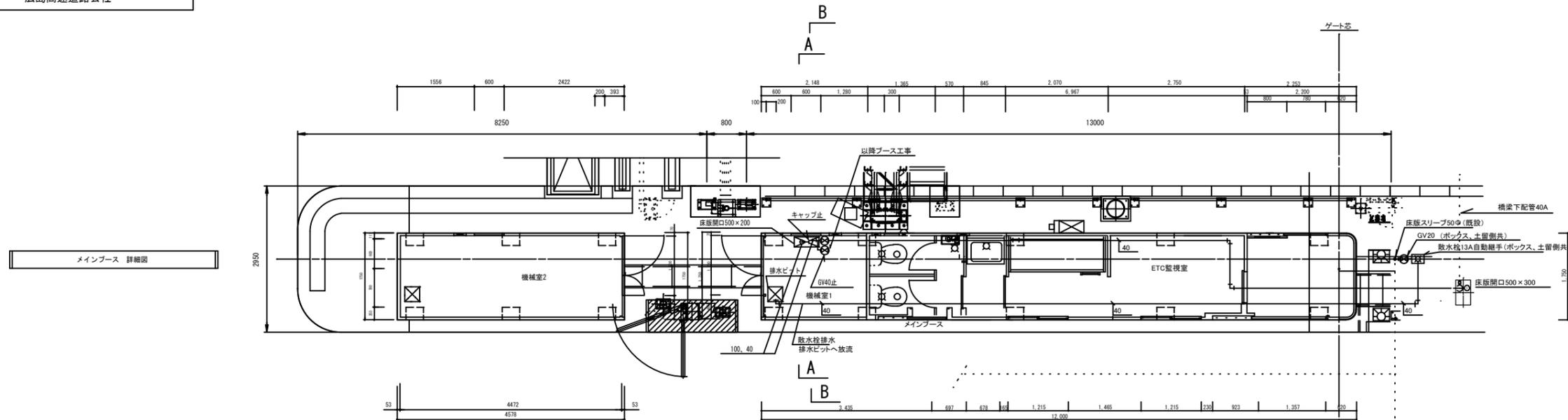
給排水設備縦断面図 S=1:50

排水樹リスト

番号	名称	種類	仕様	GL±0からの管底H (mm)	計画GLからの管底H (mm)	地盤高 (計画GL)	マンホール	備考
①	インバート樹	小口径樹	200 - 100 - ST	+700	+700	±0	鑄鉄製防護蓋 (T-8)	
②	インバート樹	小口径樹	200 - 100 - ST	+900	+900	±0	鑄鉄製防護蓋 (T-14)	
③	インバート樹	小口径樹	200 - 100 - ST	+1,100	+1,100	±0	鑄鉄製防護蓋 (T-8)	
④	インバート樹	小口径樹	200 - 100 - 45 L	+1,200	+1,200	±0	鑄鉄製防護蓋 (T-8)	

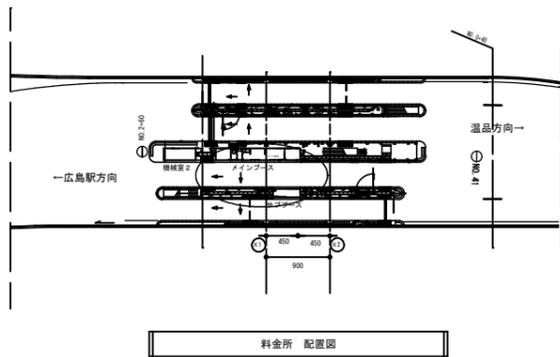
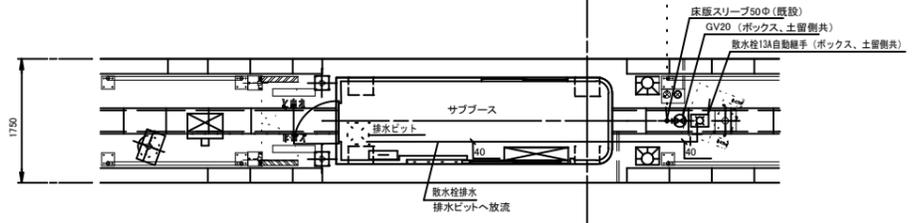
注記1. 排水管の勾配は原則1/50以上とする。
 2. 地盤高、会所深さは参考値とし、現場にて調整する。
 3. 将来車道部の埋設配管は土被り600mmを確保する。
 4. 屋外露出部の配管保温の種別は e₂・(ハ)・Ⅶとする。

令和 6 年度			
工事名	広島高速5号線料金所等新築その他工事		
図面番号	縮尺	1 : 50	
図名	広島駅北口料金所 給排水設備 配管詳細図	番号	M-05
路線名	高速5号線		
広島高速道路公社			



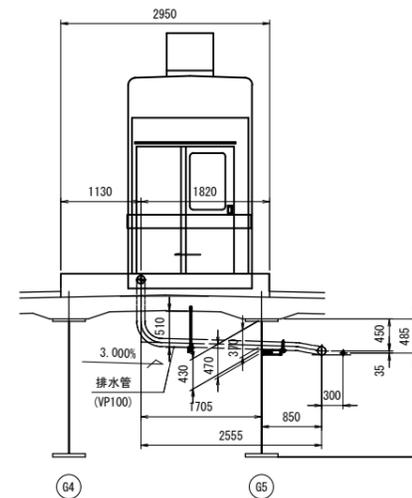
メインブース 詳細図

サブブース 詳細図

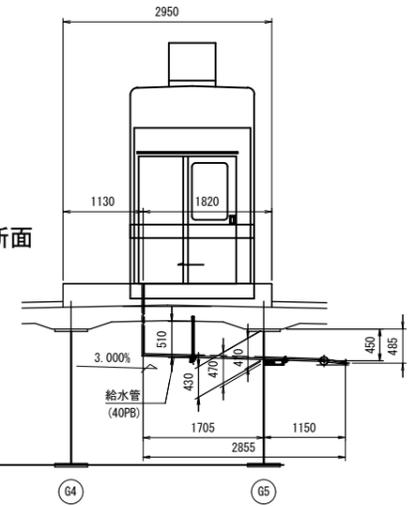


料金所 配置図

A - A 断面



B - B 断面



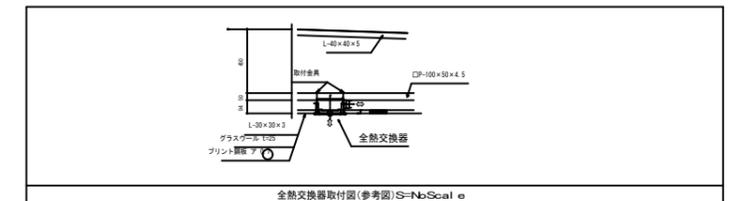
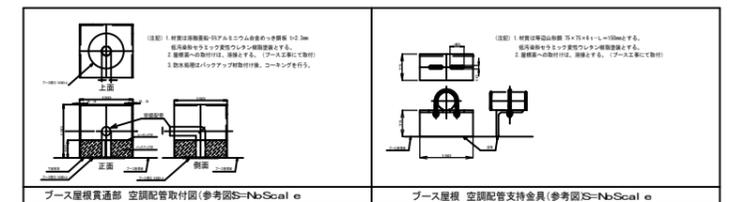
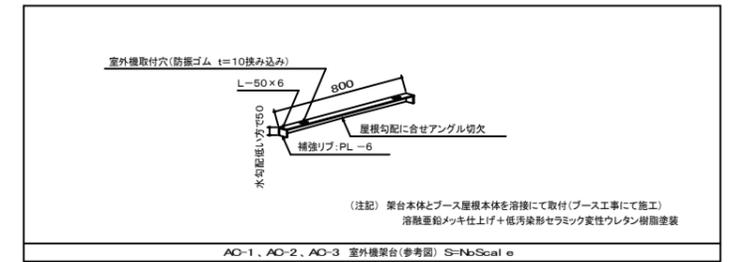
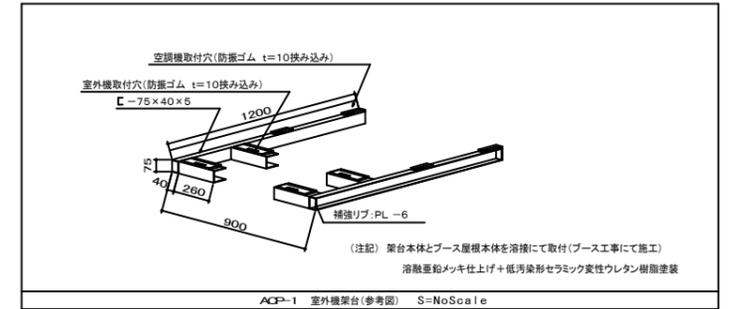
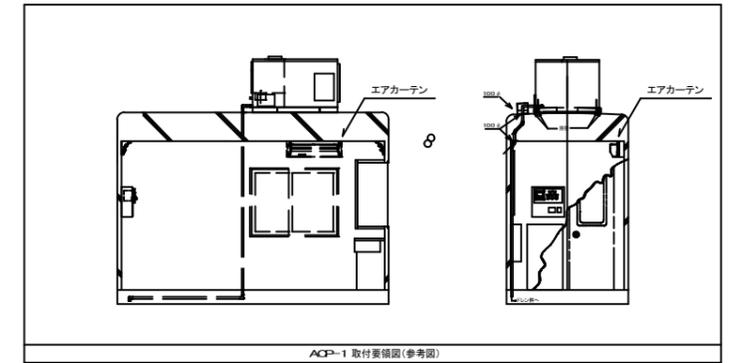
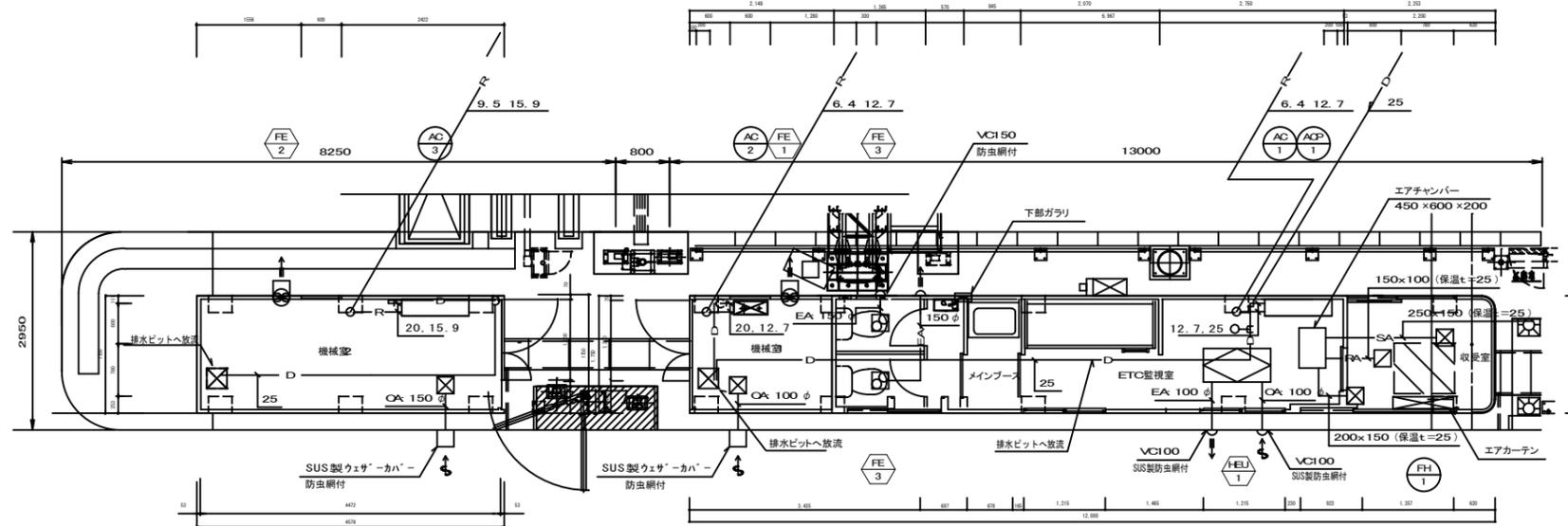
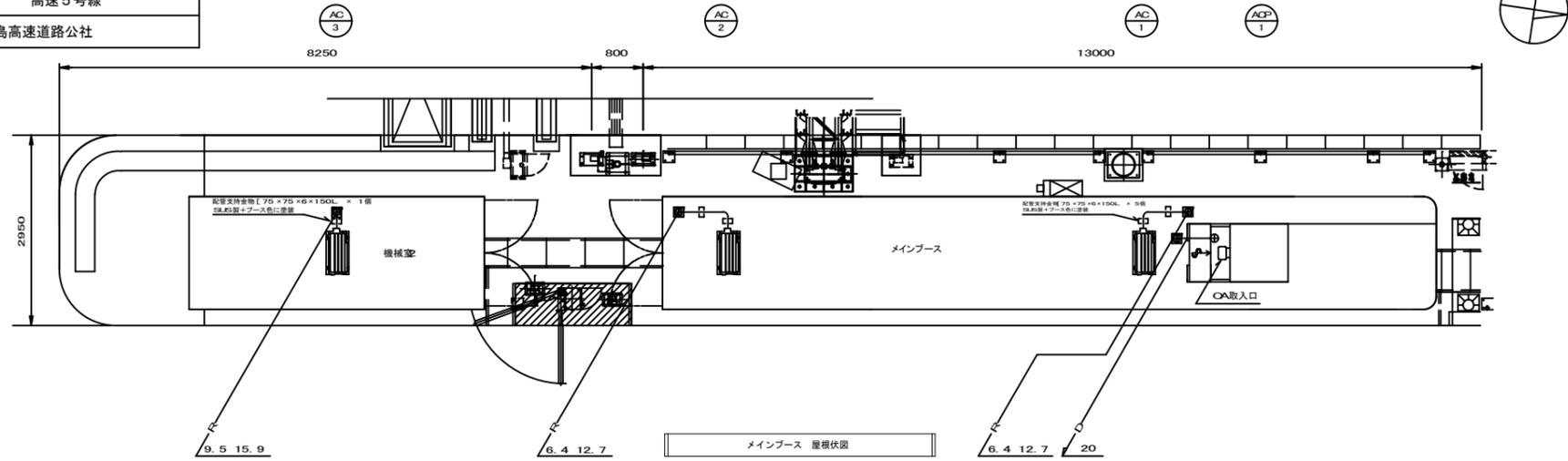
(注記) 1.ベントキャップは深型ステンレス製とし焼付指定色仕上げとする。

令和 6 年度			
工事名	広島高速5号線料金所等新築その他工事		
図面番号	縮尺	NON	
図名	広島駅北口料金所 空調換気設備 機器表	番号	M-06
路線名	高速5号線		
広島高速道路公社			

空調換気機器表

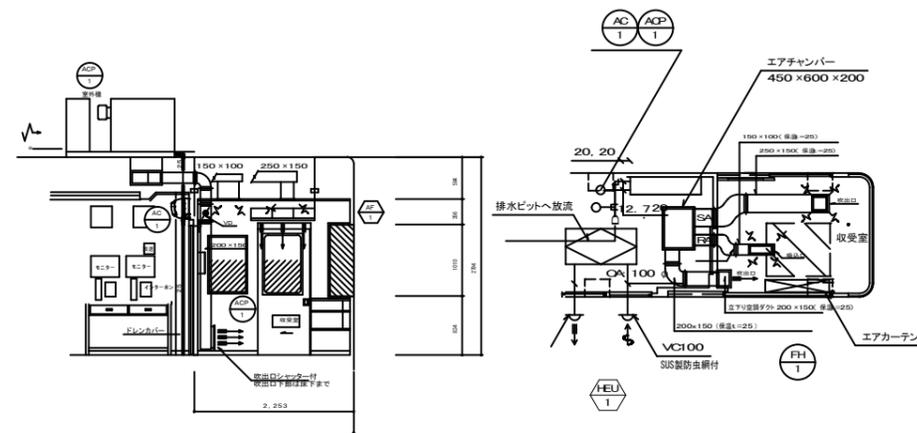
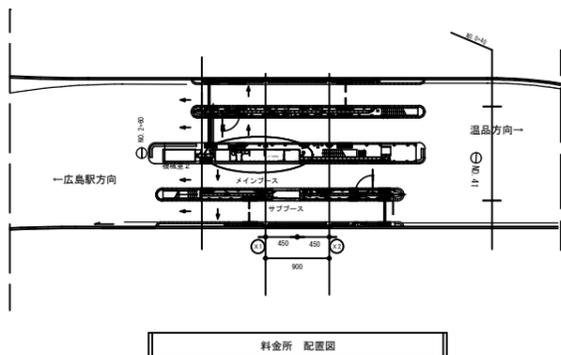
記号	名称	仕様	電源	台数	設置場所	備考
ACP 1	空冷式パッケージ エアコン	型式：空冷HP方式（ブース屋根上設置形ダクト式） 冷房能力：4.5kW（1.6～5.0kW） 暖房能力：5.0kW（2.0～6.3kW）ヒーター以外 補助ヒーター：2.0kW 圧縮機：1.1kW（インバータ式） 付属品：加圧・吸気ファン、補助ヒーター制御盤 ：防振ゴム、空調機架台、吸気管及び支持金物 ：コントロールボックス（ワイヤードリコン、リモコンケーブル）	3φ200V 冷房1.24kW 暖房1.60kW * エアカーテン0.83kW	1	1階 収受室	加圧：0A 5.0m3/min以上（300CMH）以上 吸気：循環 7.0m3/min（420CMH） 横型エアカーテン組込 型式：金属製貫流扇 能力：240m3/h以上 風速：3～6m/sec ヒーター：800W
AC 1	壁掛エアコン	型式：空冷HP式 壁掛形ルームエアコン 冷房能力：4.0kW 暖房能力：5.0kW 圧縮機：1.1kW（インバータ式） 付属品：リモコン、リモコンケーブル ：防振ゴム	1φ200V 冷房1.25kW 暖房1.29kW	1	1階 ETC監視室	
AC 2	空冷式パッケージ エアコン	型式：空冷HP式パッケージエアコン 壁掛型 冷房専用 冷房能力：3.6kW 圧縮機：0.59kW（インバータ式） 付属品：ワイヤードリコン、リモコンケーブル ：防振ゴム	3φ200V 冷房0.85kW	1	1階 機械室1	冷房専用機 停電後自動復帰装置付 異常警報用端子付
AC 3	空冷式パッケージ エアコン	型式：空冷HP式パッケージエアコン 壁掛型 冷房専用 冷房能力：7.1kW 圧縮機：1.29kW（インバータ式） 付属品：ワイヤードリコン、リモコンケーブル ：防振ゴム	3φ200V 冷房2.03kW	1	1階 機械室2	冷房専用機 停電後自動復帰装置付 異常警報用端子付
HEU 1	全熱交換器	型式：ダクト用全熱交換器（天井埋込形） 能力：100φ×60m3/h×100Pa 付属品：リモコン ：SUS製深型フード（防虫網10メッシュ付）	1φ100V 60W	1	1階 ETC監視室	
FE 1	有圧扇	型式：排気用 低騒音形 能力：200φ×50m3/h×30Pa 付属品：SUS製ザザ-ガード（防虫網10メッシュ付）、保護ガード、 ：取付枠（不燃材）、SUS製風圧センサー	1φ100V 19.5W	1	1階 機械室1	
FE 2	有圧扇	型式：排気用 低騒音形 能力：200φ×110m3/h×30Pa 付属品：SUS製ザザ-ガード（防虫網10メッシュ付）、保護ガード、 ：取付枠（不燃材）、SUS製風圧センサー	1φ100V 19.5W	1	1階 機械室2	
FE 3	天井扇	型式：低騒音形 能力：100φ×70m3/h×50Pa 付属品：SUS製深型フード（防虫網10メッシュ付）	1φ100V 15.5W	2	1階 便所	
FH 1	床ヒーター	型式：床置き式（荒床上） 直貼りフローリング用 ヒーター：155W、寸法：750×900×12 付属品：制御盤、サーミスタ	1φ200V 155W	1	1階 収受室	
	温度スイッチ	型式：埋込形（温度調整範囲0°～40°）	-	2	1階 機械室1 1階 機械室2	
<p>特記仕様</p> <p>1. 機器は製造者の標準仕様とする。</p> <p>2. 予備フィルターは100%とする。</p> <p>3. 空調機室外機及び架台等は指定色仕上げとする。</p> <p>4. 性能・電気特性および運転音はJIS B8616に基づく。</p> <p>5. 保温仕様 スパイラルダクト：屋内隠蔽・機械室内はN・（口）・XI とする。</p> <p>6. 保温仕様 長方形ダクト・チャンバー：屋内隠蔽はI・（口）・XI とする。</p> <p>7. 電気容量は参考値とする。</p>						

令和 6 年度			
工事名	広島高速 5号線料金所等新築その他工事		
図面番号	縮尺	1:50	
図名	広島駅北口料金所 空調換気設備詳細図 (メインブース)	番号	M-07
路線名	高速 5号線		
広島高速道路公社			

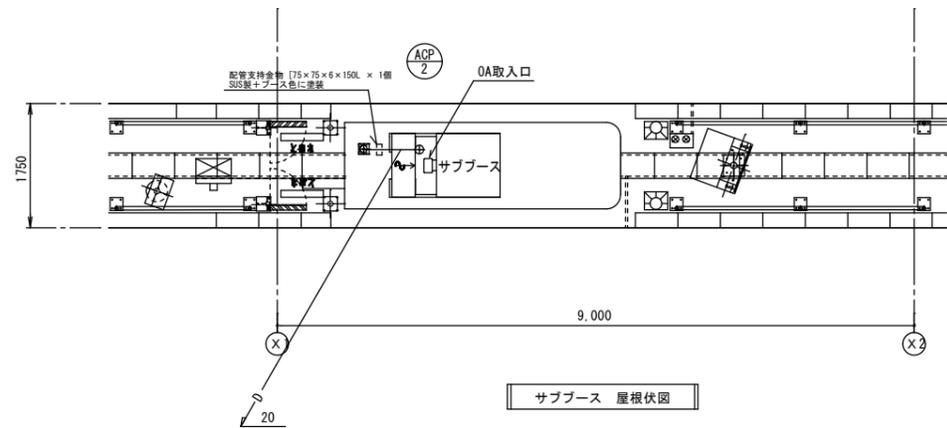


室名		系統	制気口					備	備考		
			寸法		ボックス						
			L	W	L	W	H	無	QV25t		
1階	收受室	空調給気	VHS	200	200	-	-	-	-	1	
1階	收受室	空調給気	VHS	100	300	-	-	-	-	1	
1階	收受室	空調送気	GS	150	250	-	-	-	-	1	
1階	機械室	外気	VHS	150	150	350	350	300	-	0	1
1階	機械室	外気	VHS	150	150	350	350	350	-	0	1

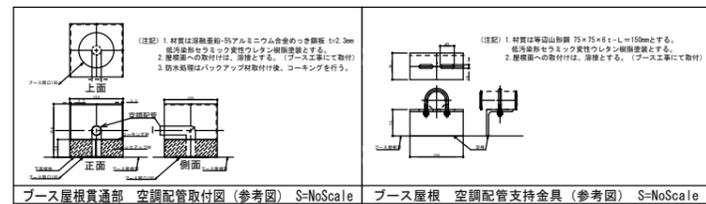
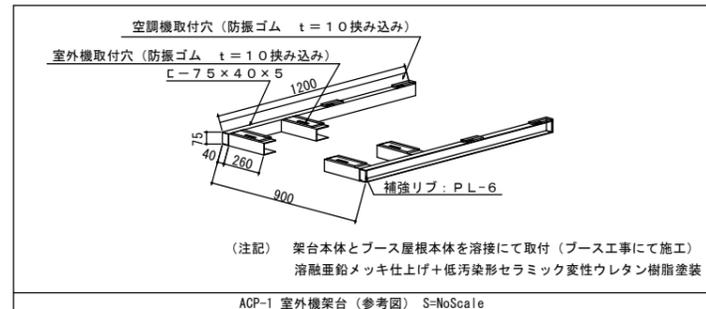
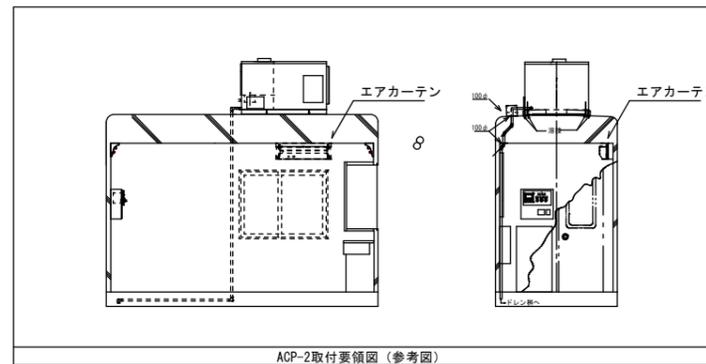
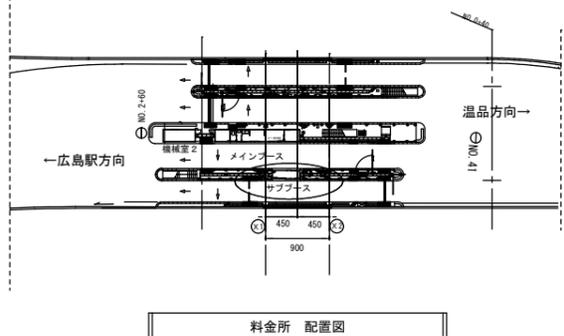
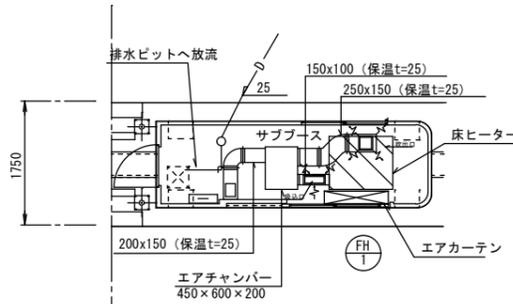
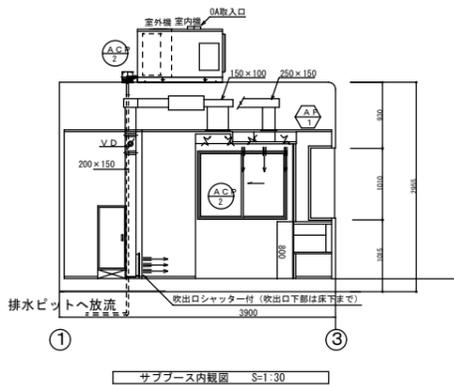
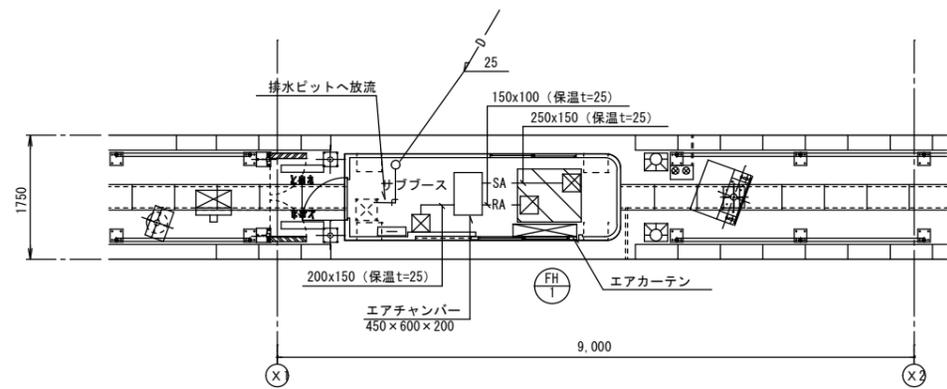
- (注) 1. エアコン屋内外機の連絡配線は本工事とし共巻きとする。
 2. 露出冷媒管の外装材は樹脂製化粧カバーとする。
 3. ベントキャップは深型ステンレス製とし機付指定色仕上げとする。
 4. 外気取入れダクトは防露(QV25mm)施工のこと。
 5. 排気ダクトは外壁より1mまで防露(QV25mm)施工のこと。
 6. 防虫網はOメッシュとする。
 7. 屋根・壁等の貫通部はコーキングにて防水処理とする。



令和 6 年度			
工事名	広島高速5号線料金所等新築その他工事		
図面番号	縮尺	1 : 5 0	
図名	広島駅北口料金所 空調換気設備詳細図・機器表 (サブプース)	番号	M-08
路線名	高速5号線		
広島高速道路公社			



サブプース 詳細図

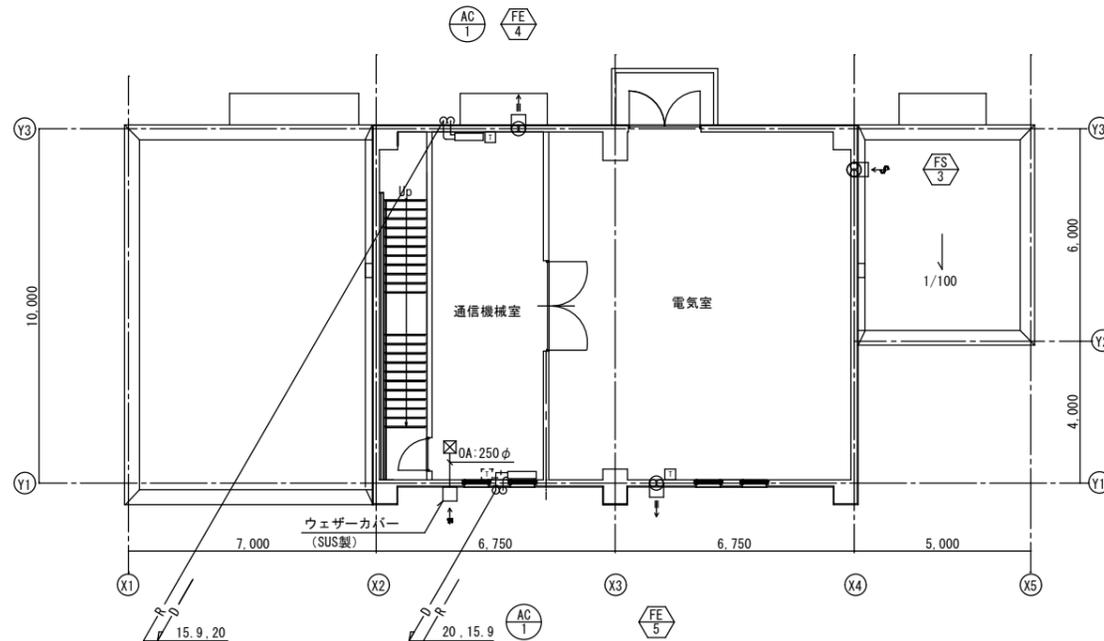


空調換気機器表						
記号	名称	仕様	電源	台数	設置場所	備考
ACP-2	空冷式パッケージエアコン	型式：空冷HP方式（ブース屋根上設置形ダクト式） 冷房能力：4.5kW (1.6~5.0kW) 暖房能力：5.0kW (2.0~6.3kW) ヒータ以外 補助ヒータ：2.0kW 圧縮機：1.1kW (インバータ式) 付属品：加圧・吸気ファン、補助ヒータ制御盤 ：防振ゴム、空調機架台、吸気管及び支持金物 ：コントロールボックス (7付ドリモコン、リモコンケーブル)	3φ200V 冷房1.24kW 暖房1.60kW + エアカーテン0.83kW	1	1階 收受室	OA 5.0m ³ /min以上 (300CMH) 以上 循環 7.0m ³ /min (420CMH) エアカーテン組込 型式：金属製貫流扇 能力：240m ³ /h以上 風速：3~6m/sec ヒータ：800W
FH-1	床ヒーター	型式：床置き式（荒床上） 直貼りフローリング用 ヒータ：155W、寸法：750×900×12 付属品：制御盤、サーミスタ	1φ200V 155W	1	1階 收受室	制御盤は電気工事で取付

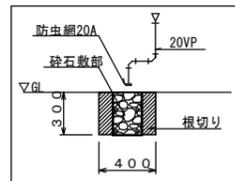
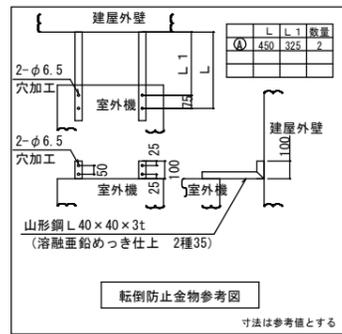
特記仕様
1. 機器は製造者の標準仕様とする。2. 電気容量は参考値とする。
2. 予備フィルターは100%とする。

制気口リスト									
室名	系統	制気口						個	備考
		種類	寸法			ボックス			
			L	W	L	W	H	無	GW25t
1階 サブプース	空調給気	VHS	200	200	-	-	-	-	1
1階 サブプース	空調給気	VHS	100	300	-	-	-	-	1
1階 サブプース	空調還気	GHS	150	250	-	-	-	-	1

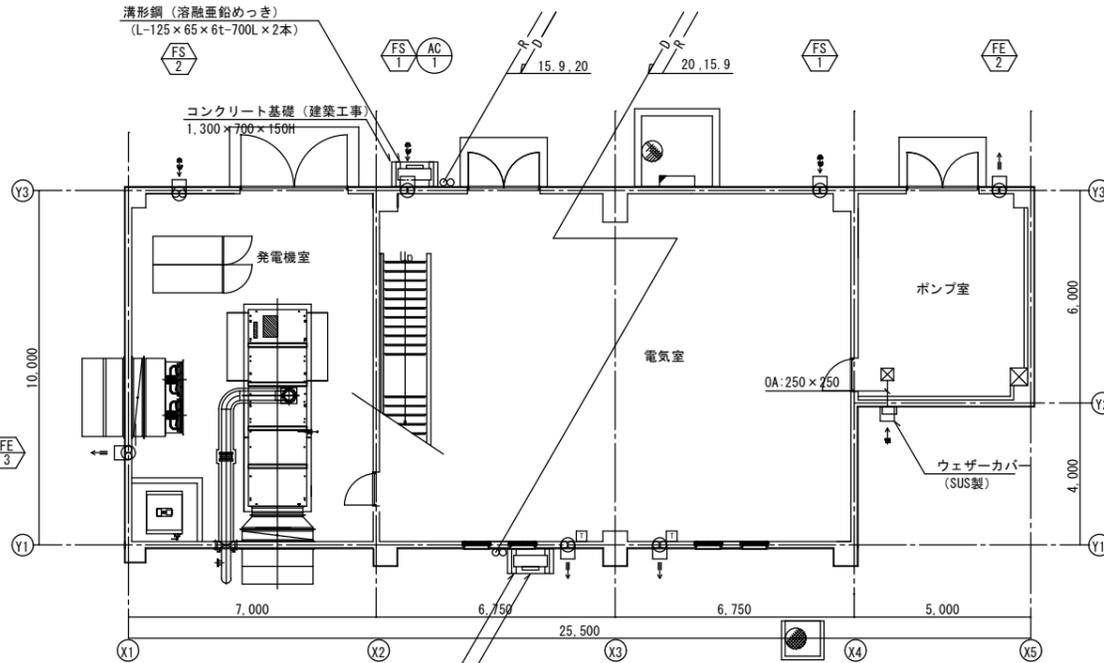
令和 6 年度			
工事名	広島高速 5号線料金所等新築その他工事		
図面番号	縮尺	1 : 100	
図名	二葉の里電気室 空調換気設備詳細図・機器表	番号	M-09
路線名	高速 5号線		
広島高速道路公社			



二葉の里電気室 空調・換気設備図 (2階)



ドレン管末処理要領図 S=1:50



二葉の里電気室 空調・換気設備図 (1階)

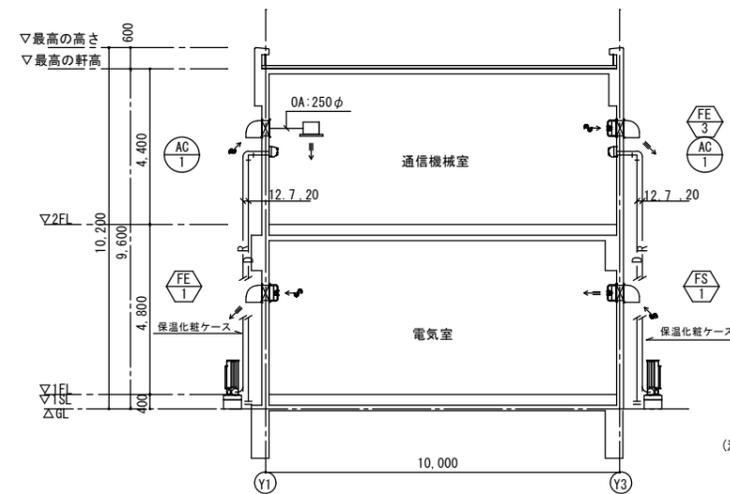
空調換気機器表

記号	名称	仕様	電源	台数	設置場所	備考
AC 1	空冷式パッケージエアコン	型式: 空冷式パッケージエアコン 壁掛型 冷房専用 冷房能力: 7.1kW 圧縮機: 1.29kW (インバータ式) 付属品: ワイヤードリモコン、リモコンケーブル、 防振ゴム、遠隔操作アダプター、サーモスタッド	3φ200V 冷房2.03kW	2	2階 通信機械室	異常警報用端子付 停電後自動復帰装置付 コンクリート基礎 (建築工事)
FE 1	有圧扇	型式: 排気用 低騒音形 能力: 450φ × 1,760m ³ /h × 30Pa 付属品: SUS製ケージ+カバー (防虫網付)、保護ガード、 取付枠 (不燃)、SUS製風圧シャッター、サーモスタッド	1φ100V 390W	2	1階 電気室	FS-1と連動運転
FE 2	有圧扇	型式: 排気用 低騒音形 能力: 250φ × 810m ³ /h × 30Pa 付属品: SUS製ケージ+カバー (防虫網付)、保護ガード、 取付枠 (不燃)、SUS製風圧シャッター	1φ100V 40W	1	1階 ポンプ室	
FE 3	有圧扇	型式: 排気用 低騒音形 能力: 300φ × 1,530m ³ /h × 30Pa 付属品: SUS製ケージ+カバー (防虫網付)、保護ガード、 取付枠 (不燃)、SUS製風圧シャッター	1φ100V 65W	1	1階 発電機室	FS-2と連動運転
FE 4	有圧扇	型式: 排気用 低騒音形 能力: 250φ × 700m ³ /h × 30Pa 付属品: SUS製ケージ+カバー (防虫網付)、保護ガード、 取付枠 (不燃)、SUS製風圧シャッター	1φ100V 40W	1	2階 通信機械室	
FE 5	有圧扇	型式: 排気用 低騒音形 能力: 350φ × 1,830m ³ /h × 30Pa 付属品: SUS製ケージ+カバー (防虫網付)、保護ガード、 取付枠 (不燃)、SUS製風圧シャッター、サーモスタッド	1φ100V 113W	1	2階 電気室	FS-3と連動運転
FS 1	有圧扇	型式: 給気用 低騒音形 能力: 450φ × 1,760m ³ /h × 30Pa 付属品: SUS製ケージ+カバー (防虫網付)、保護ガード、 取付枠 (不燃)、SUS製風圧シャッター	1φ100V 360W	2	1階 電気室	FE-1と連動運転
FS 2	有圧扇	型式: 給気用 低騒音形 能力: 300φ × 1,530m ³ /h × 30Pa 付属品: SUS製ケージ+カバー (防虫網付)、保護ガード、 取付枠 (不燃)、SUS製風圧シャッター	1φ100V 80W	1	1階 発電機室	FE-3と連動運転
FS 3	有圧扇	型式: 給気用 低騒音形 能力: 350φ × 1,830m ³ /h × 30Pa 付属品: SUS製ケージ+カバー (防虫網付)、保護ガード、 取付枠 (不燃)、SUS製風圧シャッター	1φ100V 115W	1	2階 電気室	FE-5と連動運転
	温度スイッチ	型式: 埋込形 (温度調整範囲0° ~ 40°)	-	5	1階 電気室 × 2 2階 通信機械室 × 2 2階 電気室 × 1	電気工事で施工

- 特記仕様
- 機器は製造者の標準仕様とする。
 - 機器基礎は建築工事とする。
 - 予備フィルターは100%とする。
 - 電力容量は参考値とする。

制気口リスト

室名	系統	風量				種類	制気口					備考		
		SA m ³ /h	RA m ³ /h	OA m ³ /h	EA m ³ /h		ボックス							
						寸法								
						L	W	L	W	H	ボックス内貼	ボックス内貼	個	
1階 ポンプ室	外気	-	-	810	-	VHS	350	350	550	550	450	-	○	1
2階 通信機械室	外気	-	-	700	-	VHS	350	350	550	550	450	-	○	1



B-B断面図 S=1/100

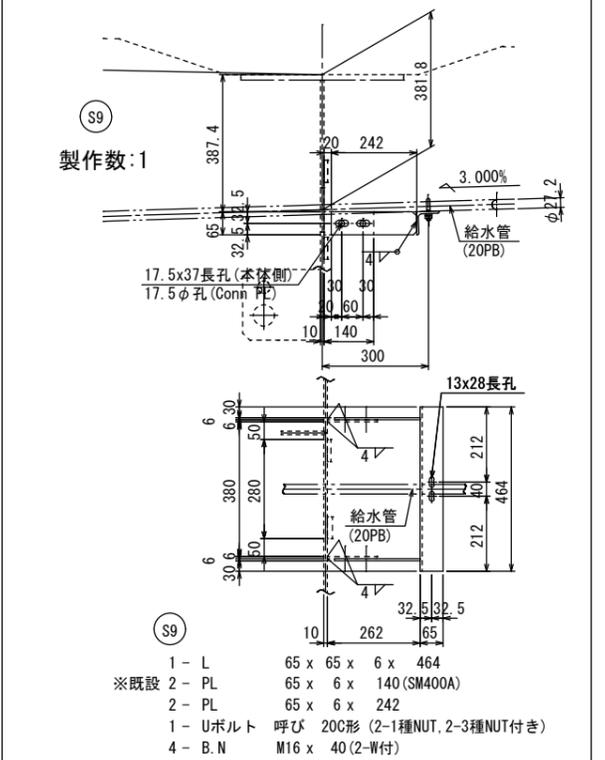
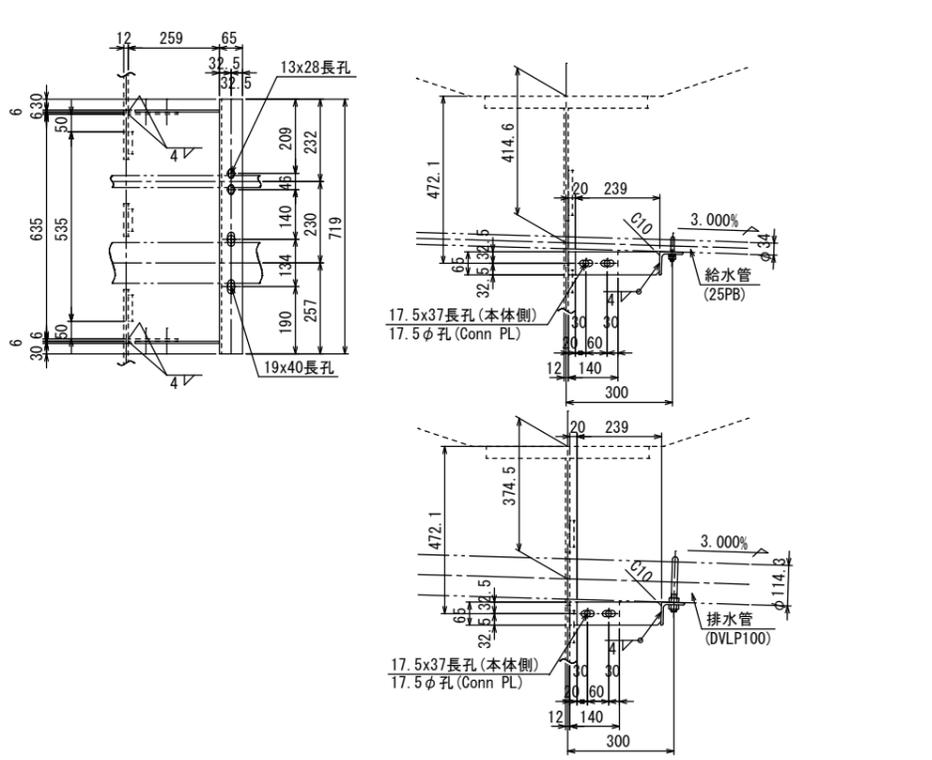
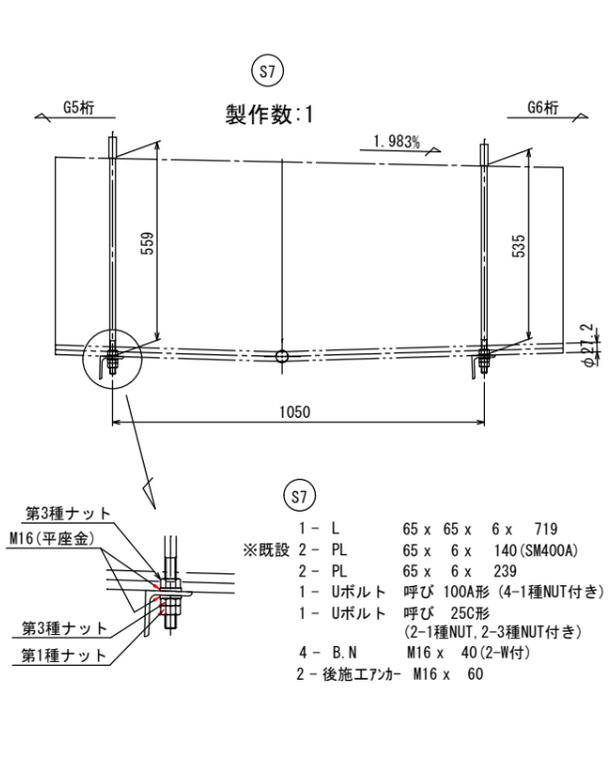
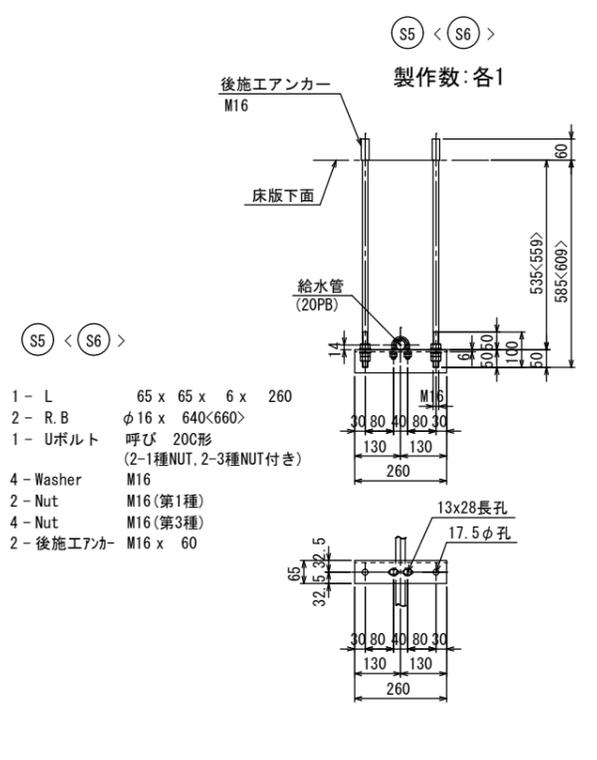
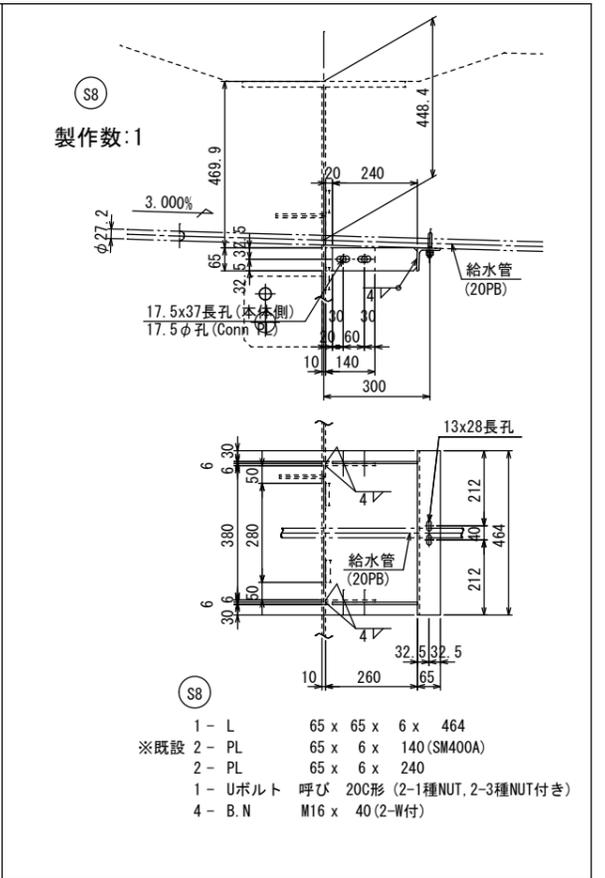
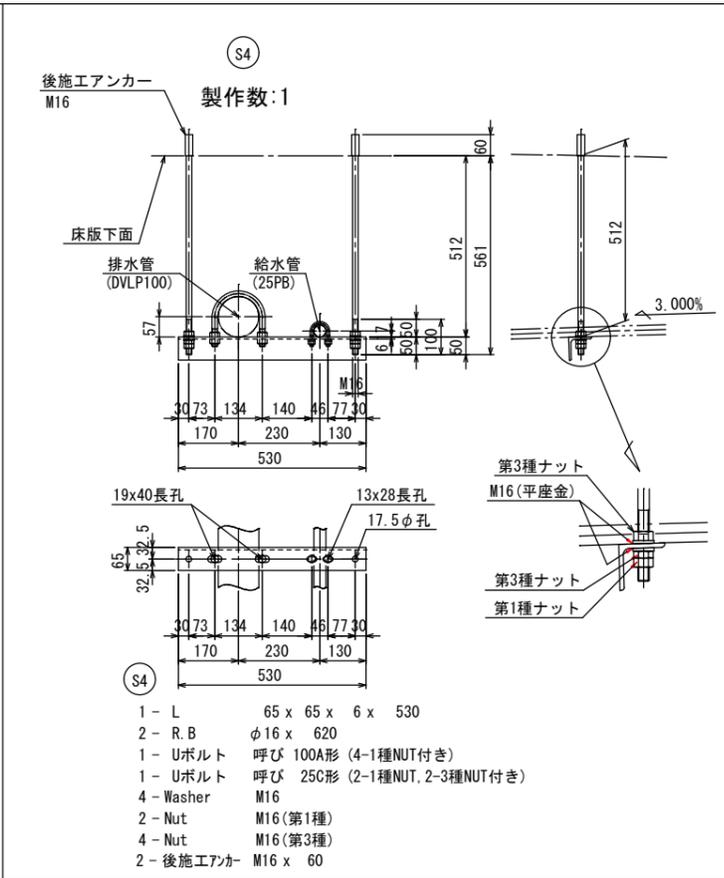
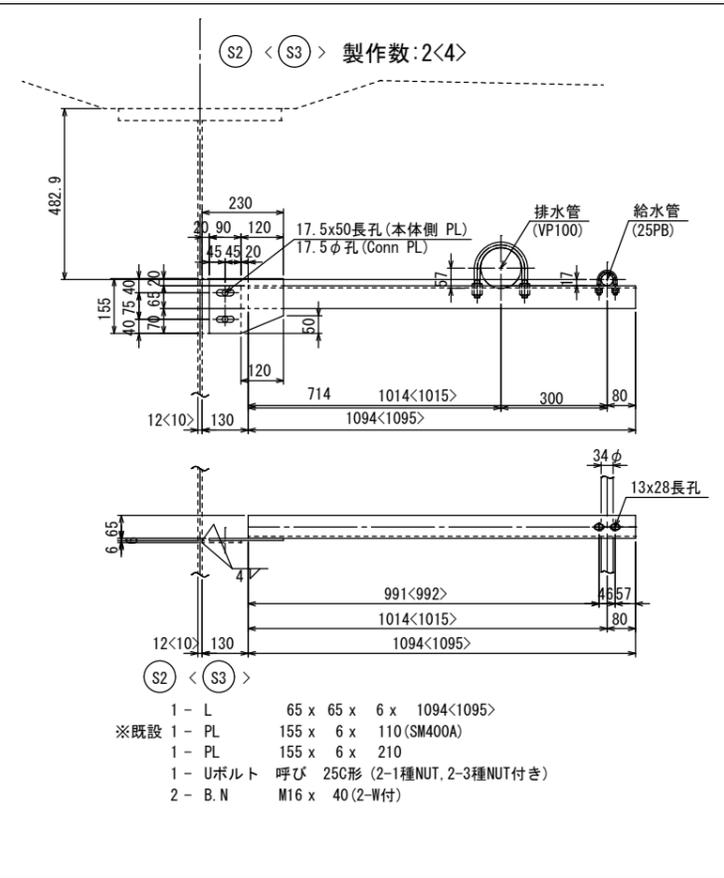
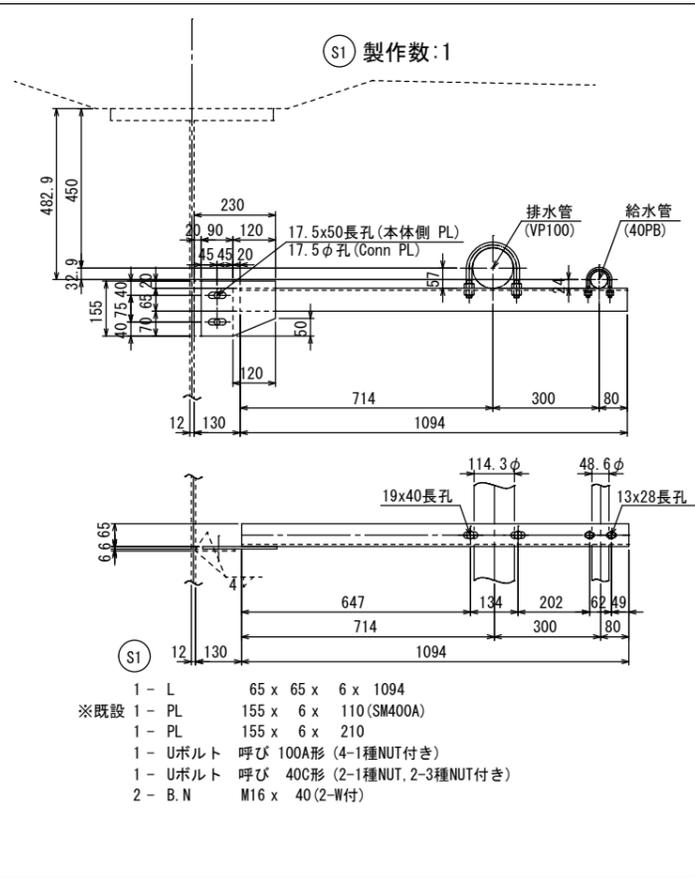
- (注記)
- エアコン屋内外機の連絡配線は本工事とし共巻きとする。
 - 露出冷媒管の外装材は樹脂製化粧カバーとする。
 - 外気取入れダクトは防露 (GW25mm) 施工のこと。
 - 排気ダクトは外壁より1mまで防露 (GW25mm) 施工のこと。

令和 6 年度		
工事名	広島高速5号線料金所等新築その他工事	
図面番号	縮尺	1 : 10
図名	二葉の里地区橋梁 配管支持金具参考図	番号 M-10
路線名	高速5号線	
広島高速道路公社		

支持金具詳細 S = 1 : 10

- (注記) 1. 橋梁上部及び※印は既設とし、他は本工事とする。
 2. 特記なき材質は全てSS400とする。
 3. 部材は溶融亜鉛メッキとする。(JIS H8641 HDZ55)
 但し、ボルト・ナット・ワッシャーはJIS H8641 HDZ35同等以上とする。
 4. ボルトナットは弛み止めのものを使用する。

種別	S1	S2	S3	S4	S5	S6	S7	S8	S9
数量	1	2	4	1	1	1	1	1	1

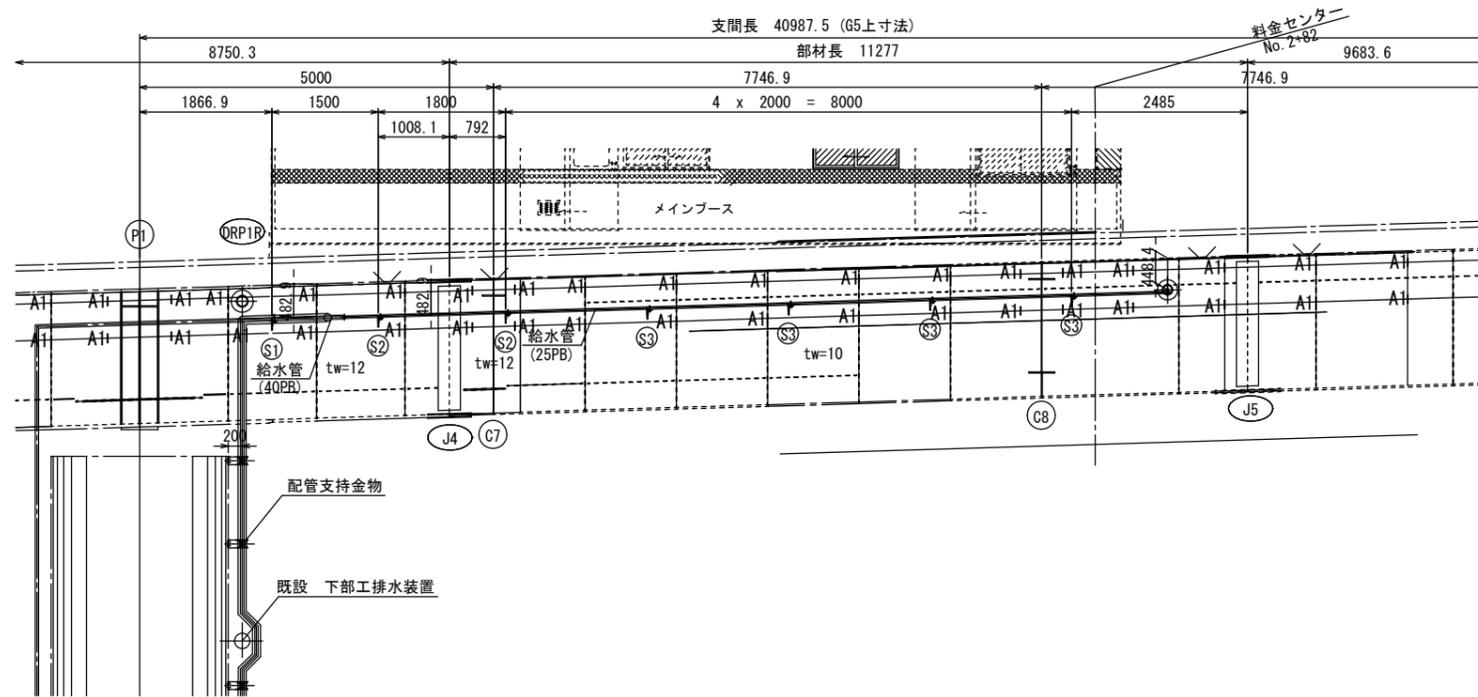


令和 6 年度			
工事名	広島高速5号線料金所等新築その他工事		
図面番号	縮尺	1 : 50	
図名	二葉の里地区橋梁 給水・排水設備 立面図・平面図・断面図	番号	M-11
路線名	高速5号線		
広島高速道路公社			

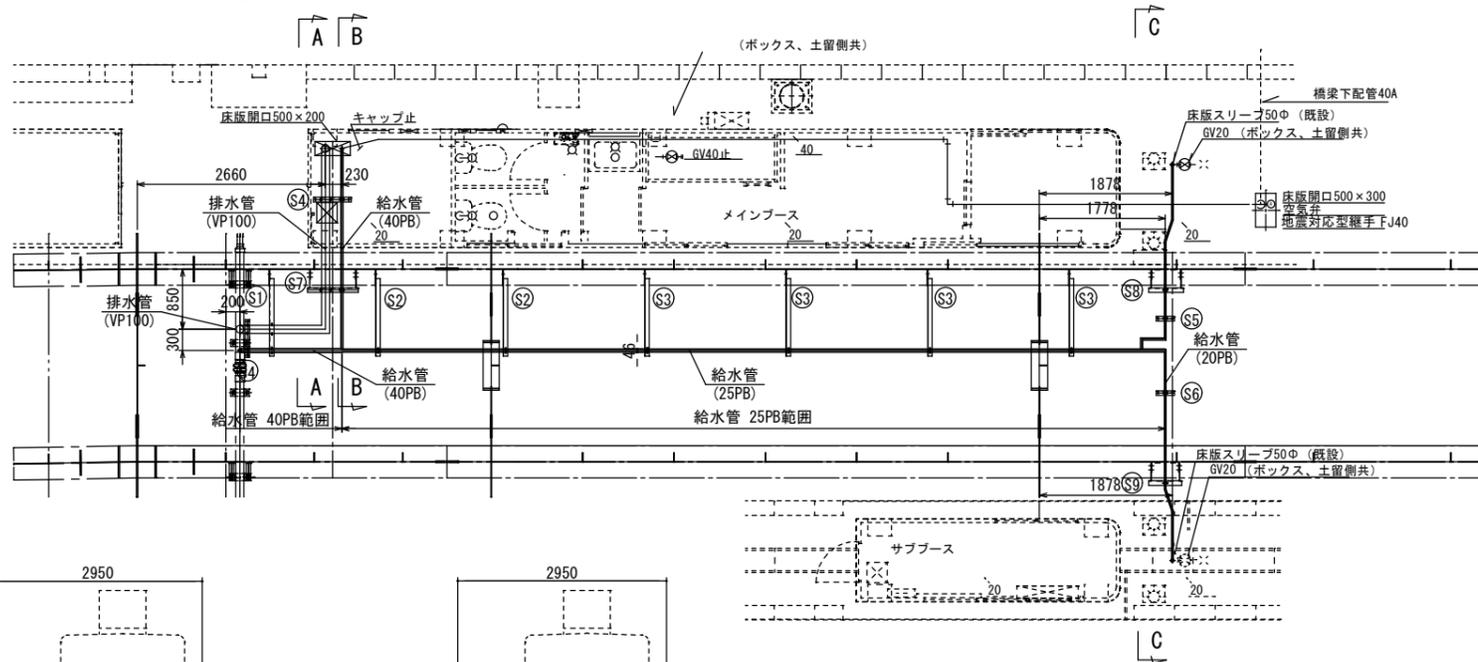
料金所給水・排水設備

S = 1 : 50

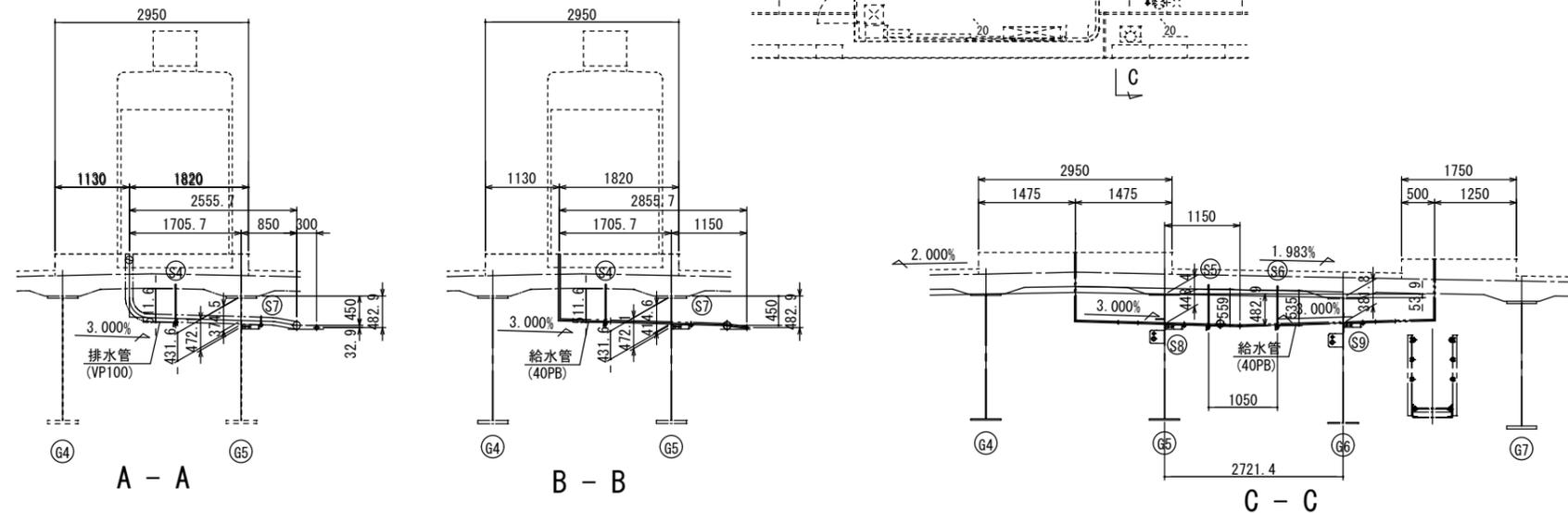
立面図



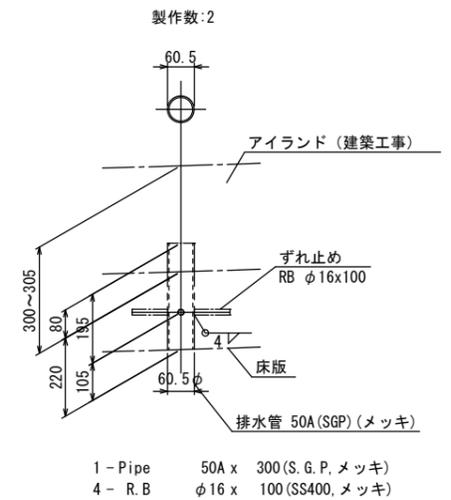
平面図



断面図



給水管 床版貫通部詳細図 (参考図)

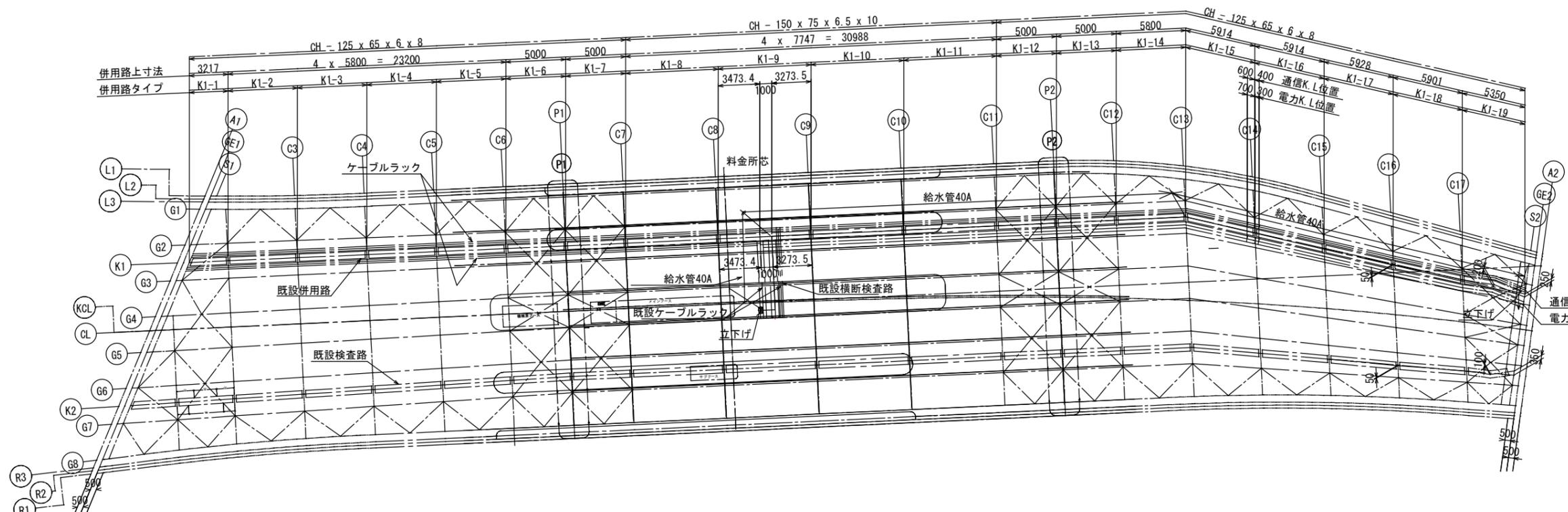


- 1 - Pipe 50A x 300 (S. G. P. メッキ)
- 4 - R. B φ16 x 100 (SS400, メッキ)

令和 6 年度			
工事名	広島高速5号線料金所等新築その他工事		
図面番号	縮尺	1 : 200	
図名	二葉の里地区橋梁 上部工検査路 配管図	番号	M-12
路線名	高速5号線		
広島高速道路公社			

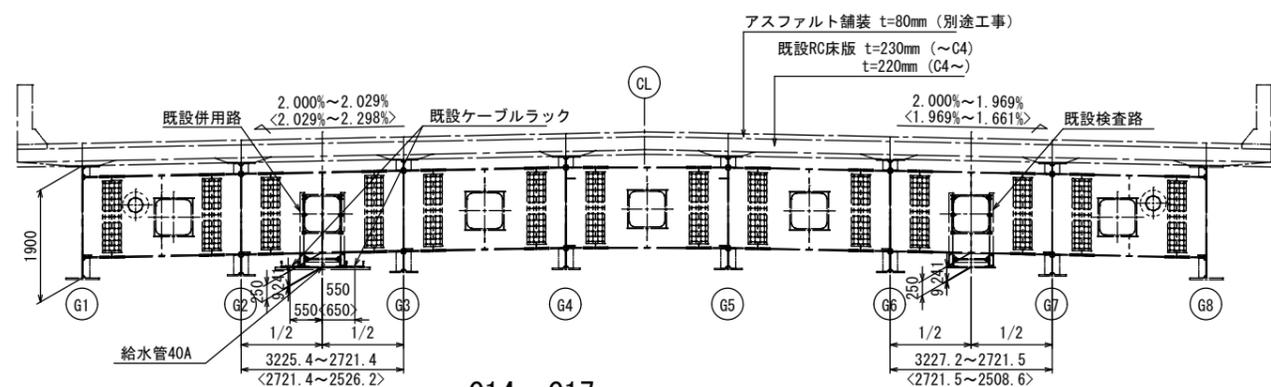
上部工検査路 配管図 S = 1 : 200

平面図

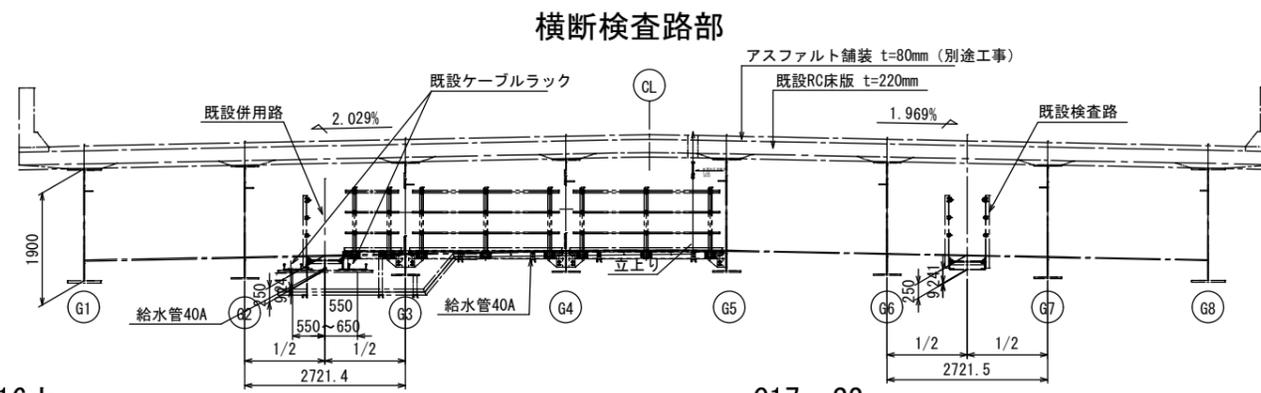


C9~横断検査路<横断検査路~C14>

標準断面図 S = 1 : 60

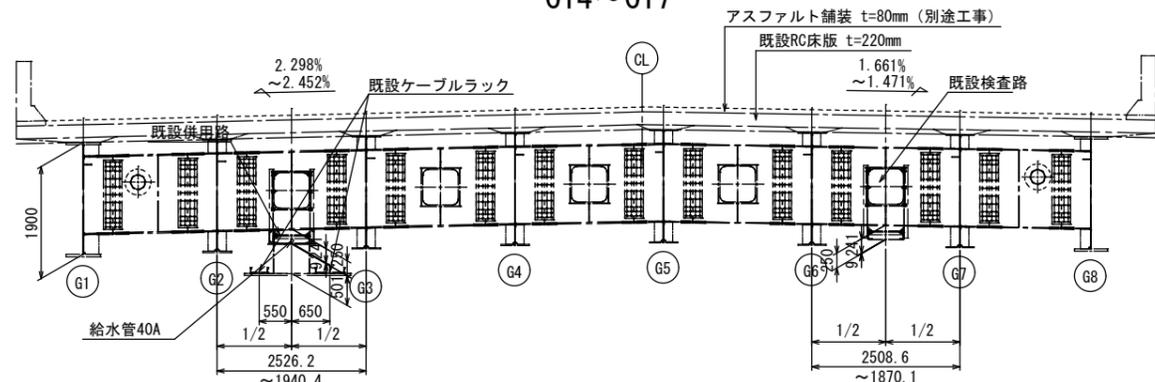


C14~C17

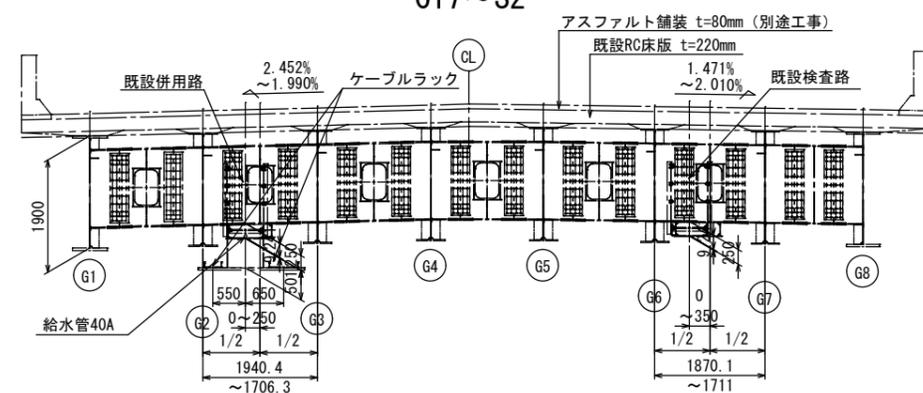
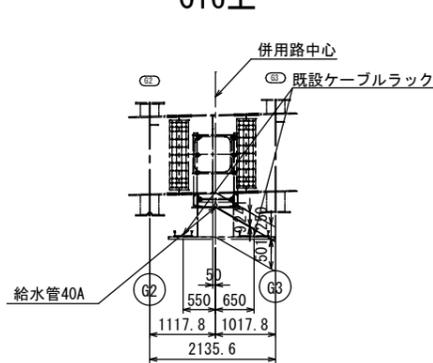


C16上

横断検査路部



C17~S2

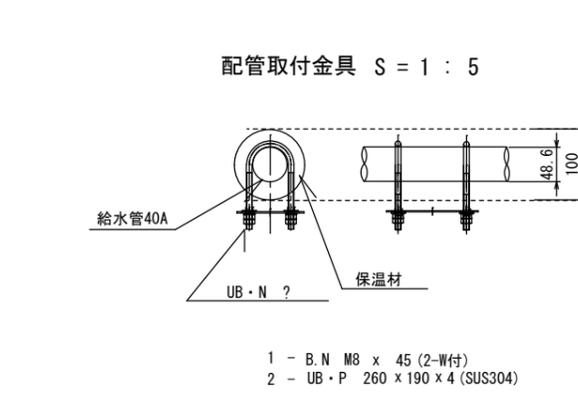
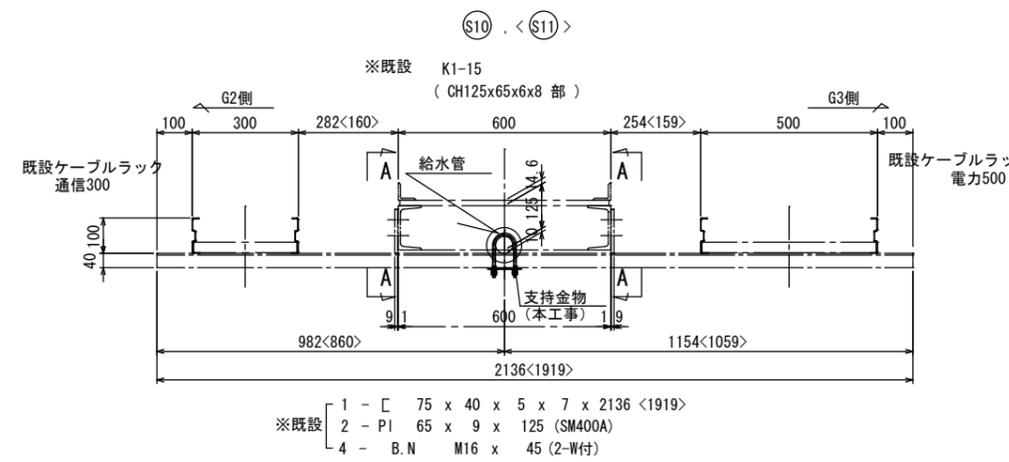
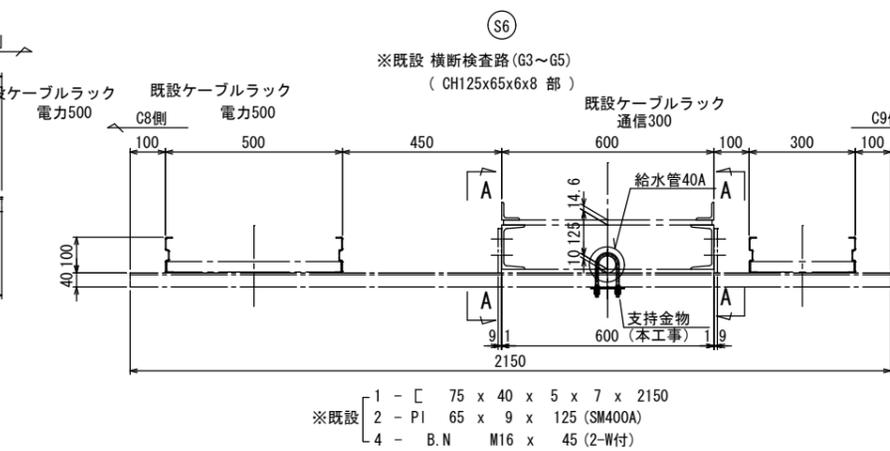
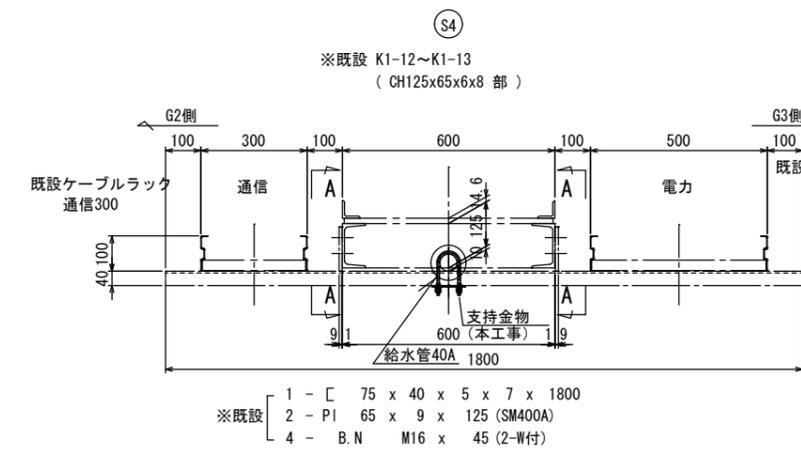
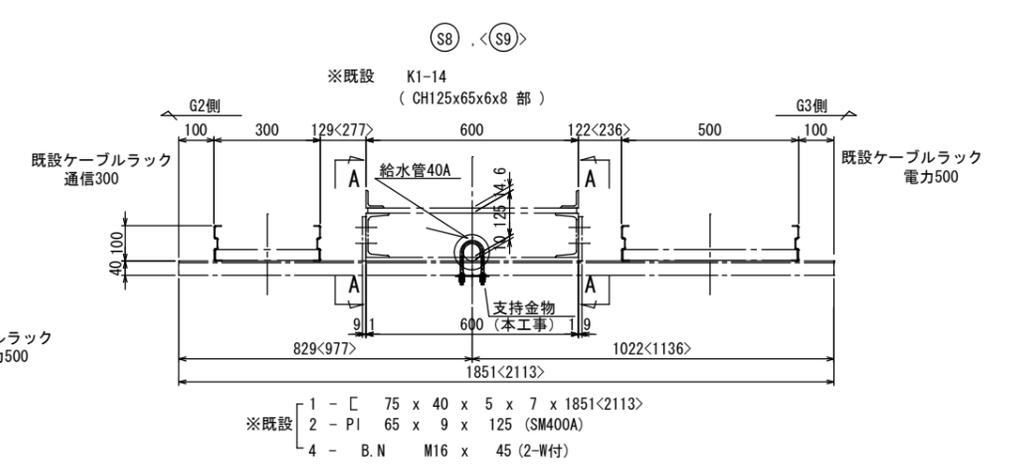
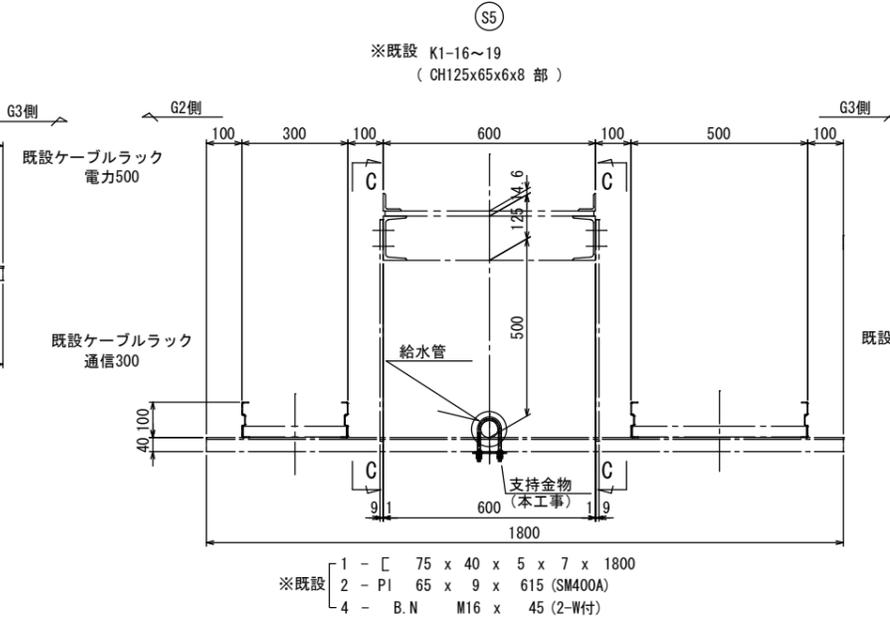
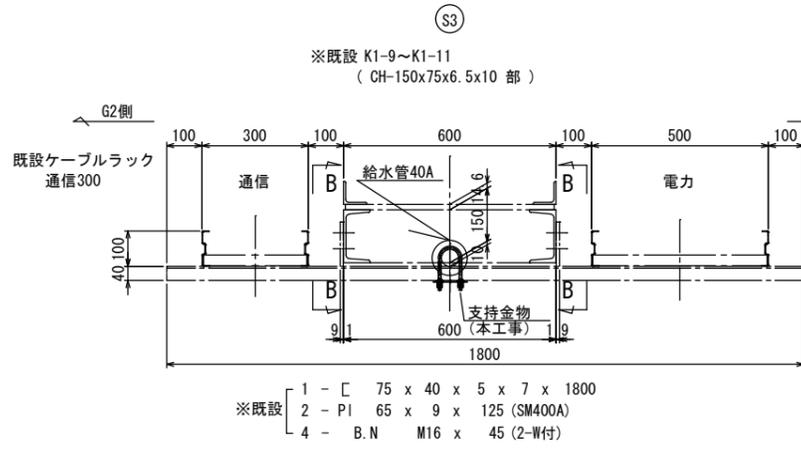


令和 6 年度			
工事名	広島高速5号線料金所等新築その他工事		
図面番号	縮尺	1 : 10	
図名	二葉の里地区橋梁 配管詳細図	番号	M-13
路線名	高速5号線		
広島高速道路公社			

注記

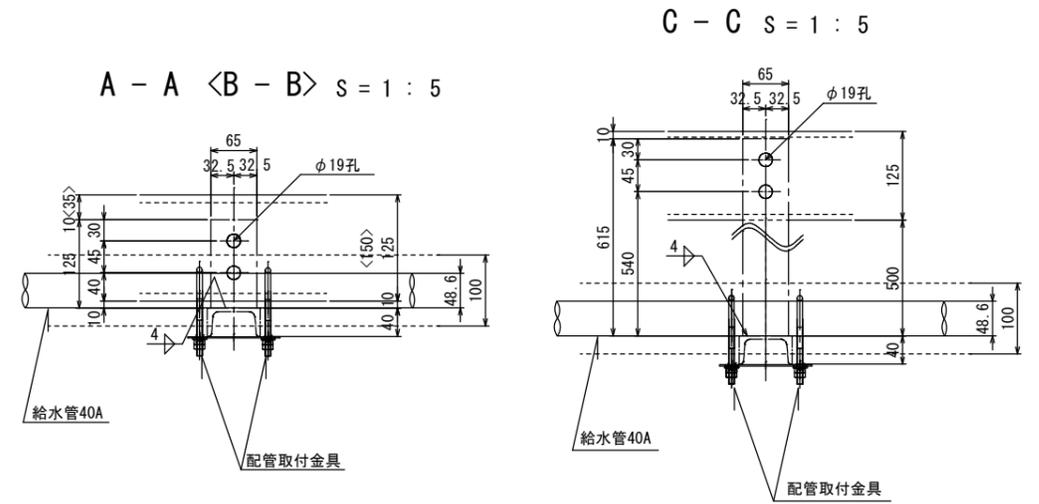
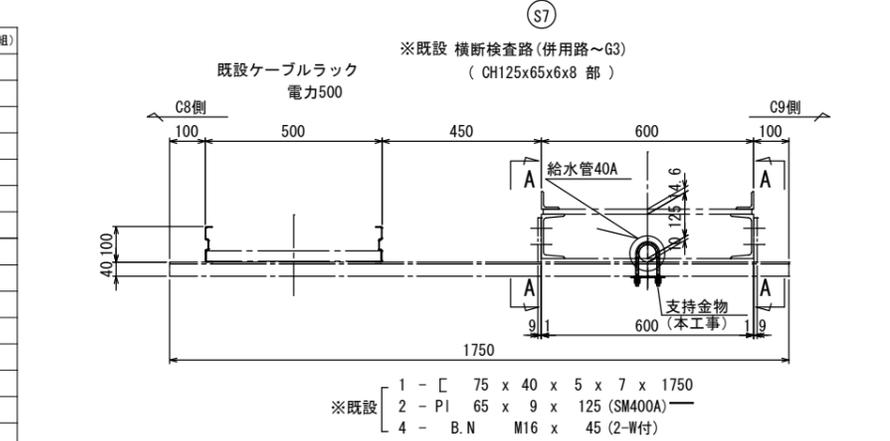
1. 特記なき材質は、全てSUS304とする。
2. ボルト・ナットは全て弛み止めのものを使用する。

配管詳細図



配管支持金物

区間	数量 (組)
K1-9	3
K1-10	1
K1-11	1
K1-12	1
K1-13	-
K1-14	1
K1-15	1
K1-16	1
K1-17	-
K1-18	1
K1-19	3
合計	13

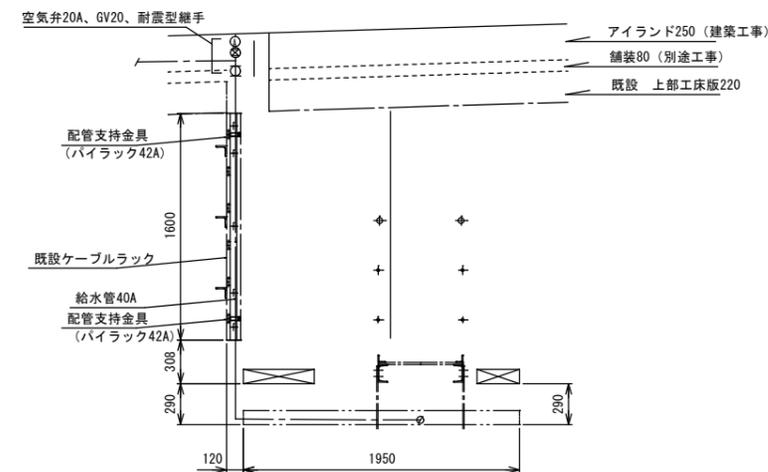
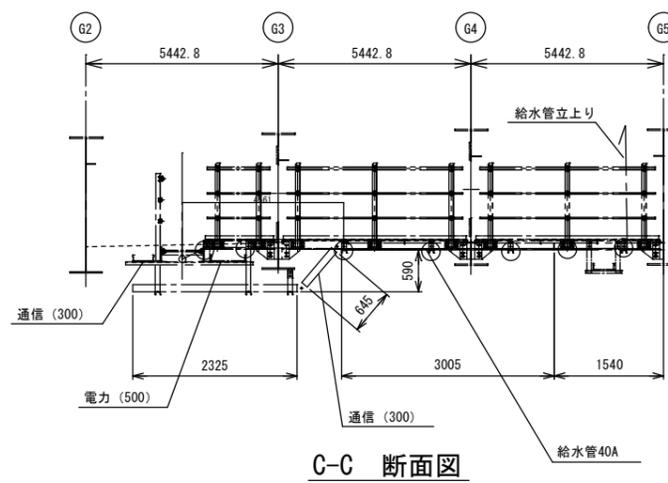
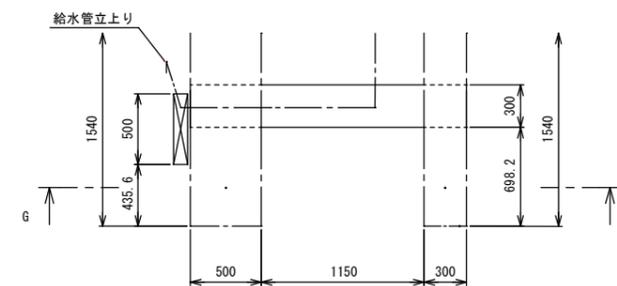
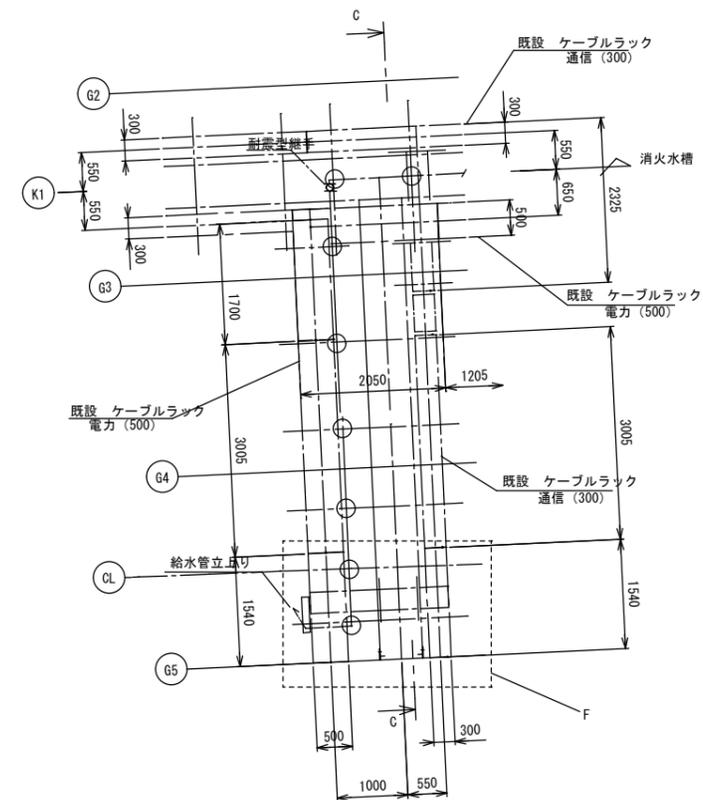
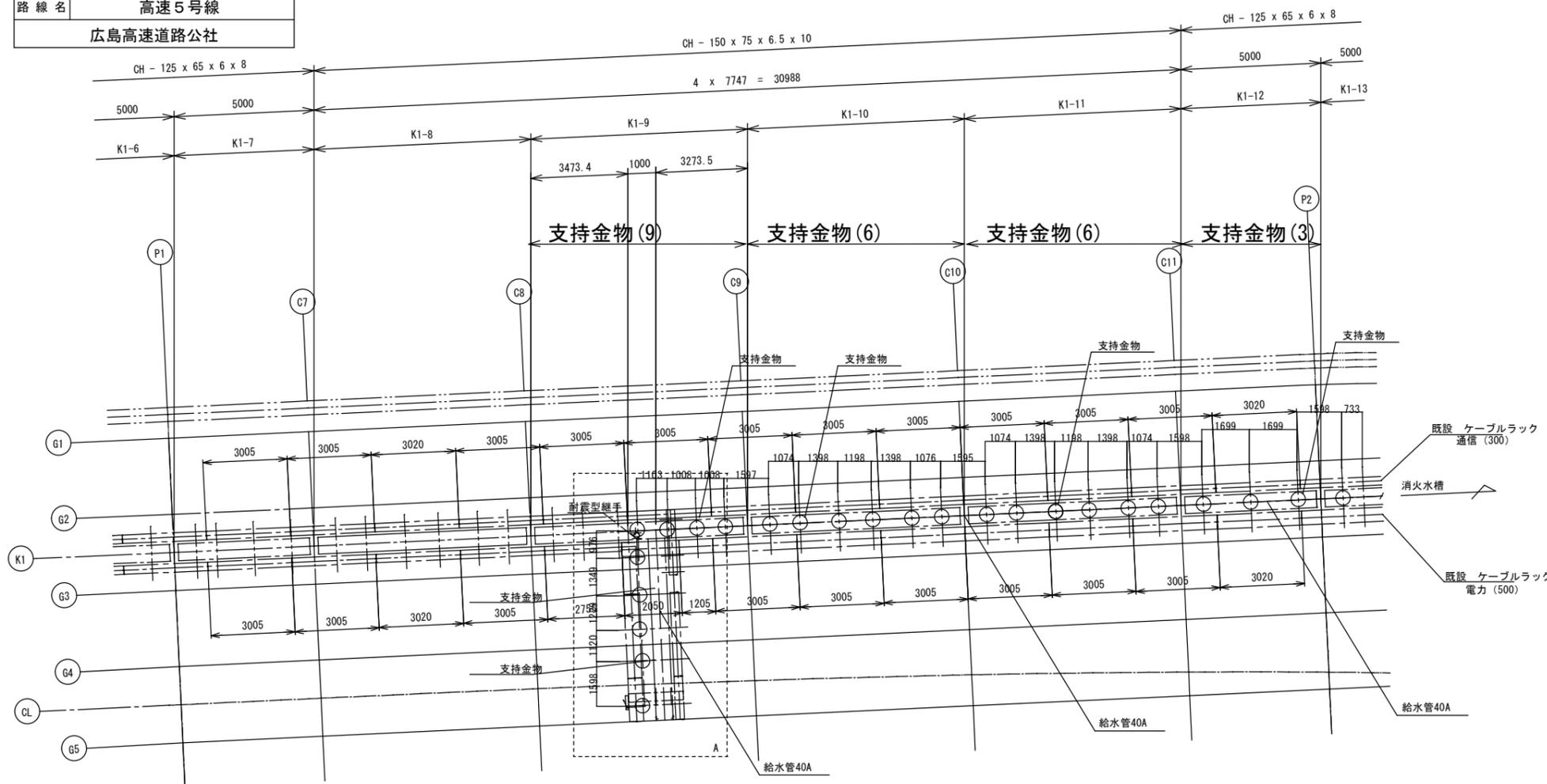


令和 6 年度			
工事名	広島高速5号線料金所等新築その他工事		
図面番号	縮尺	1 : 100	
図名	二葉の里地区橋梁	番号	M-14
路線名	高速5号線		
広島高速道路公社			

給水管敷設図 (ケーブルラック(1))

S = 1 : 100

平面図



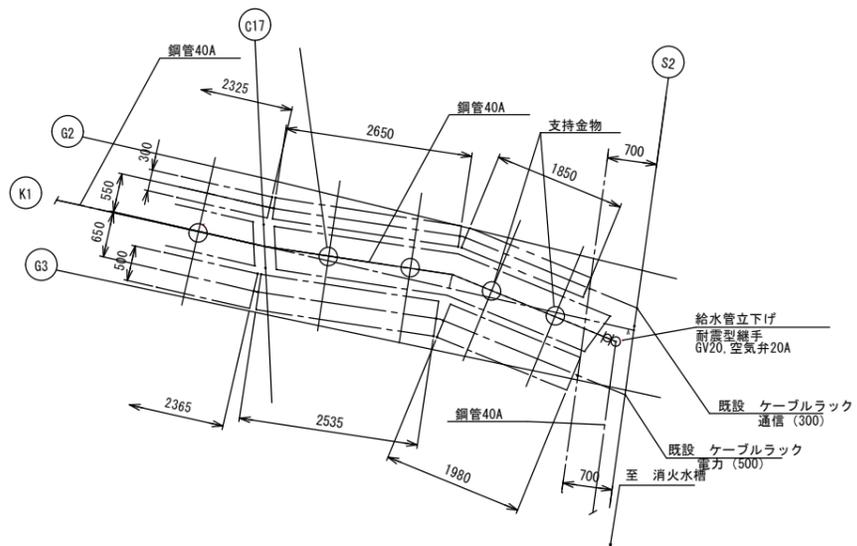
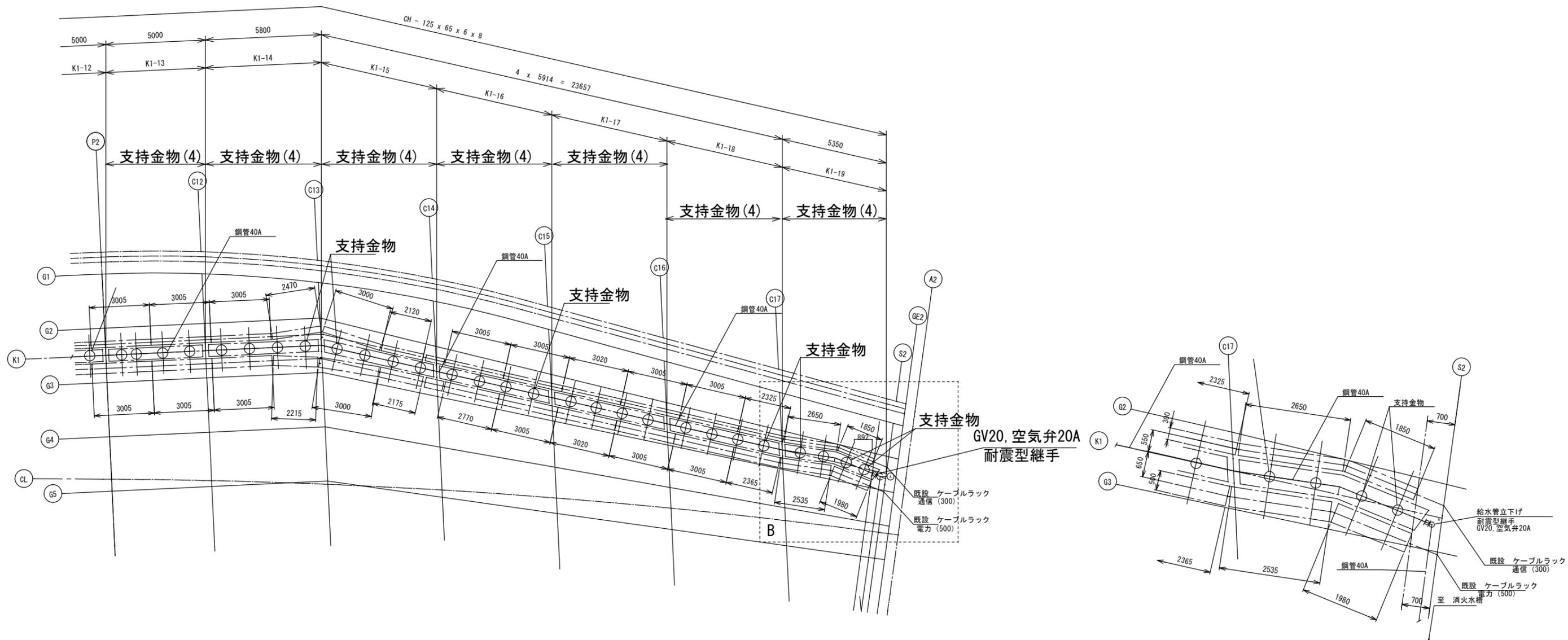
配管支持金物 数量表

区 間	数 量 (組)
K1-9	9
K1-10	6
K1-11	6
K1-12	3
K1-13	4
K1-14	4
K1-15	4
K1-16	4
K1-17	4
K1-18	4
K1-19	4
合 計	52

令和 6 年度			
工事名	広島高速5号線料金所等新築その他工事		
図面番号	縮尺	1 : 100	
図名	二葉の里地区橋梁 給水管敷設図 ケーブルラック (2)	番号	M-15
路線名	高速5号線		
広島高速道路公社			

ケーブルラック (その2)

平面図



B部 拡大図

令和 6 年度			
工事名	広島高速5号線料金所等新築その他工事		
図面番号	縮尺	1:50	
図名	参考図	番号	M-16
路線名	高速5号線		
広島高速道路公社			

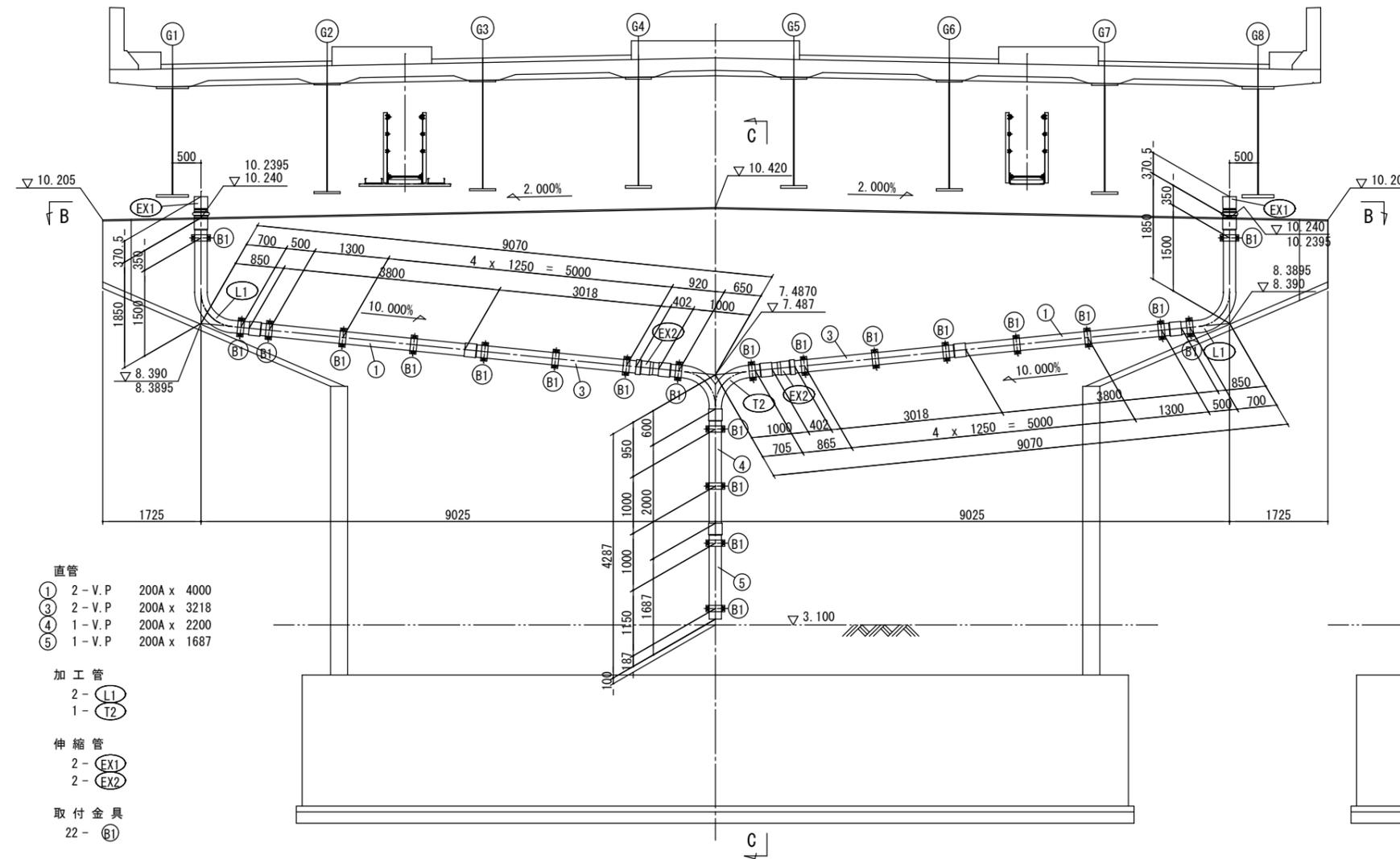
下部工排水装置 P1橋脚

S = 1 : 50

注記

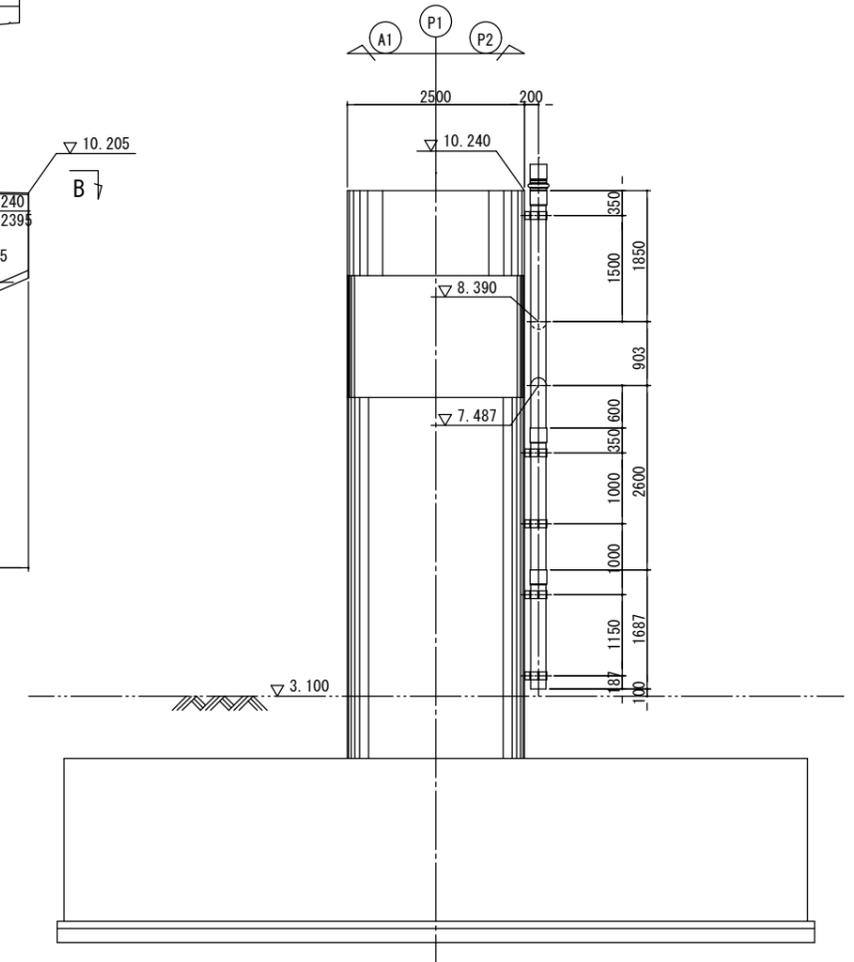
1. 特記なき材質は、全てSS400とする。
2. ※印部材以外は、全て溶融亜鉛めっきを施す。
溶融亜鉛めっきは、JIS H 8641 HDZ55 (550g/m²)とする。
但し、ハイボルト・ナット・ワッシャーはHDZ35 (350g/m²)とする。
3. ボルト・ナットは全てゆるみ止めのものを使用する。

A - A

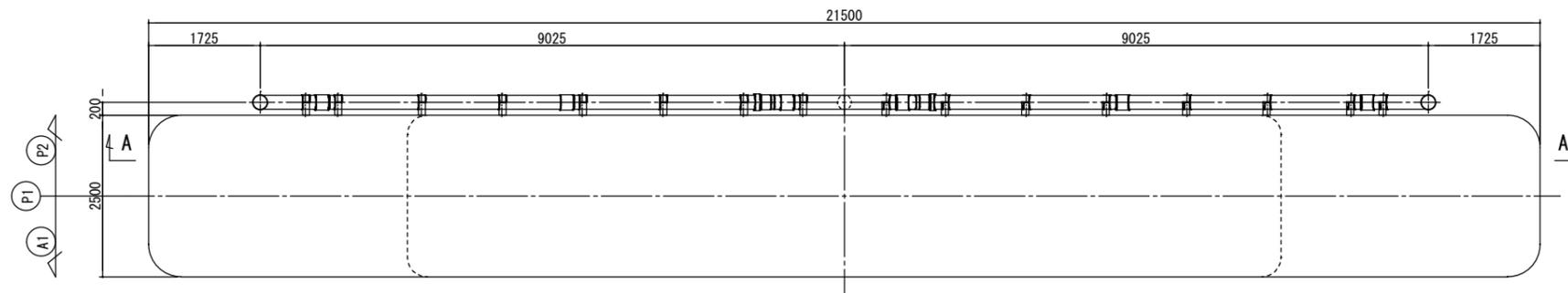


- 直管
- ① 2 - V.P 200A x 4000
 - ③ 2 - V.P 200A x 3218
 - ④ 1 - V.P 200A x 2200
 - ⑤ 1 - V.P 200A x 1687
- 加工管
- 2 - L1
 - 1 - T2
- 伸縮管
- 2 - EX1
 - 2 - EX2
- 取付金具
- 22 - B1

C - C



B - B



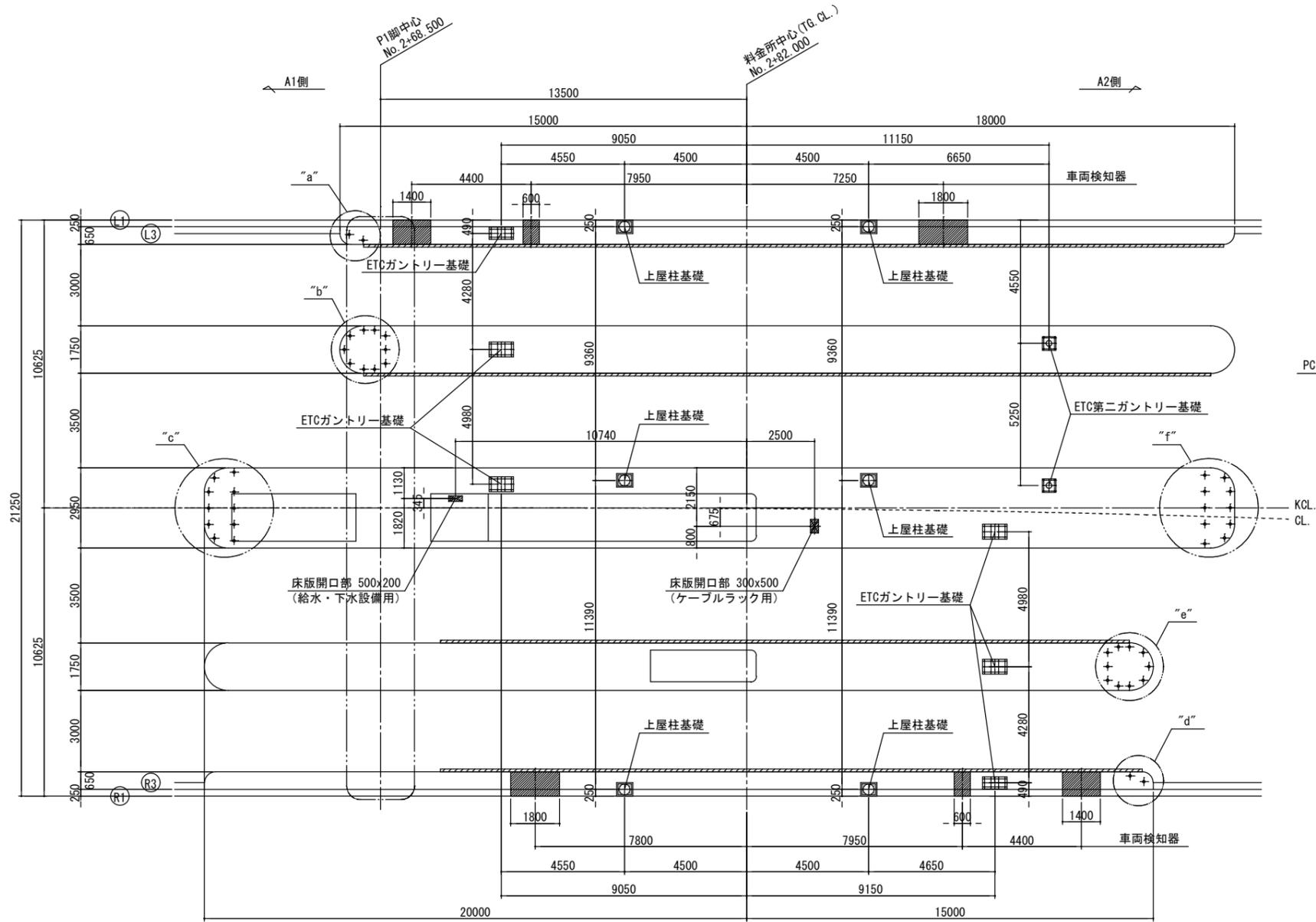
令和 6 年度			
工事名	広島高速 5 号線料金所等新築その他工事		
図面番号	縮尺	1:40	
図名	参考図	番号	M-17
路線名	高速 5 号線		
広島高速道路公社			

床版配筋図

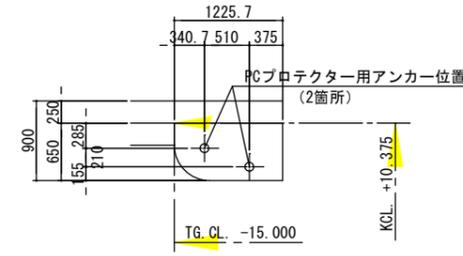
PCプロテクター用アンカー詳細

S = 1 : 40

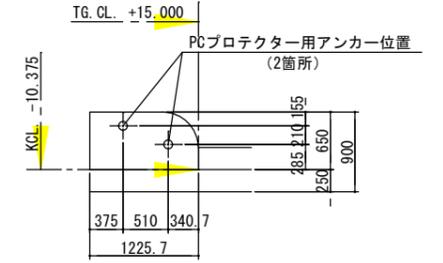
平面図 S = 1 : 100



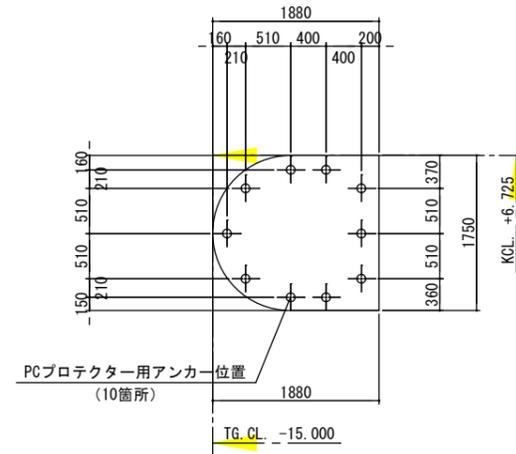
"a"部詳細



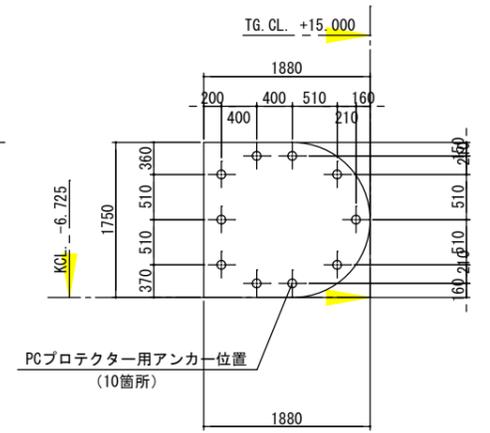
"d"部詳細



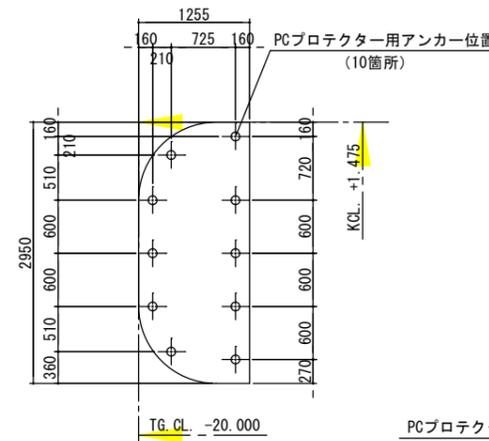
"b"部詳細



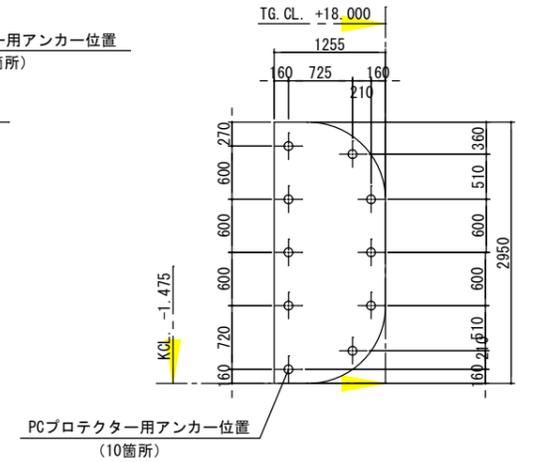
"e"部詳細



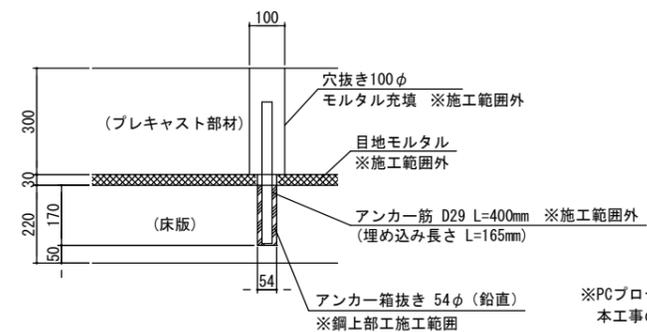
"c"部詳細



"f"部詳細



PCプロテクター固定部詳細図 S = 1 : 10



※PCプロテクター固定部は、床版への箱抜き(54φ)のみ、本工事の施工範囲とする。